
ADVANTEST[®]

株式会社アドバンテスト

R4870

無線機テスタ

取扱説明書

MANUAL NUMBER FOJ-8440041E00

本器を安全に取り扱うための注意事項

本器の機能を十分にご理解いただき、より効果的にご利用いただくために、必ずご使用前に取扱説明書をお読み下さい。また、本器の誤った使用、不適切な使用等に起因する運用結果につきましては、当社は責任を負いかねますのでご了承下さい。

本器の操作・保守等の作業を行う場合、誤った方法で使用すると本器の保護機能がそこなわれることがあります。常に安全に心がけてご使用頂くようお願い致します。

■危険警告ラベル

アドバンテストの製品には、特有の危険が存在する場所に危険警告ラベルが貼られています。取り扱いには十分注意して下さい。また、これらのラベルを破いたり、傷つけたりしないで下さい。また、日本国内で製品を購入し海外で使用する場合は、必要に応じて英語版の危険警告ラベルをお貼り下さい。危険警告ラベルについてのお問い合わせは、当社の最寄りの営業所までお願いします。所在地および電話番号は巻末に記載してあります。

危険警告ラベルのシグナル・ワードとその定義は、以下のとおりです。

- 危険： 死または重度の障害が差し迫っている。
- 警告： 死または重度の障害が起こる可能性がある。
- 注意： 軽度の人身障害あるいは物損が起こる可能性がある。

■基本的注意事項

火災、火傷、感電、怪我などの防止のため、以下の注意事項をお守り下さい。

- 電源電圧に応じた電源ケーブルを使用して下さい。ただし、海外で使用する場合は、それぞれの国の安全規格に適合した電源ケーブルを使用して下さい。また、電源ケーブルの上には重いものをのせないで下さい。
- 電源プラグをコンセントに差し込むときは、電源スイッチを OFF にしてから奥までしっかり差し込んで下さい。
- 電源プラグをコンセントから抜くときは、電源スイッチを OFF にしてから、電源ケーブルを引っぱらずにプラグを持って抜いて下さい。このとき、濡れた手で抜かないで下さい。
- 電源投入前に、本器の電源電圧が供給電源電圧と一致していることを確認して下さい。
- 電源ケーブルは、保護導体端子を備えた電源コンセントに接続して下さい。保護導体端子を備えていない延長コードを使用すると、保護接地が無効になります。
- 3ピン-2ピン変換アダプタ（弊社の製品には添付していません）を使用する場合は、アダプタから出ている接地ピンをコンセントのアース端子に接続し、大地接地して下さい。また、アダプタの接地ピンの短絡に注意して下さい。
- 電源電圧に適合した規格のヒューズを使用して下さい。
- ケースを開けたままで本器を使用しないで下さい。

本器を安全に取り扱うための注意事項

- 規定の周囲環境で本器を使用して下さい。
- 製品の上に物をのせたり、製品の上から力を加えたりしないで下さい。また、花瓶や薬品などの液体の入った容器を製品のそばに置かないで下さい。
- 通気孔のある製品については、通気孔に金属類や燃えやすい物などを差し込んだり、落としたりしないで下さい。
- 台車に載せて使用する場合は、ベルト等によって落下防止を行って下さい。
- 周辺機器を接続する場合は、本器の電源を切ってから接続して下さい。





■取扱説明書中の注意表記

取扱説明書中で使用している注意事項に関するシグナル・ワードとその定義は以下のとおりです。

- 危険： 重度の人身障害（死亡や重傷）の恐れがある注意事項
警告： 人身の安全／健康に関する注意事項
注意： 製品／設備の損傷に関する注意事項または使用上の制限事項

■製品上の安全マーク

アドバンテストの製品には、以下の安全マークが付いています。

- ： 取扱い注意を示しています。人体および製品を保護するため、取扱説明書を参照する必要がある場所に付いています。
- ： アース記号を示しています。感電防止のため機器を使用する前に、接地が必要なフィールド・ワイヤリング端子を示しています。
- ： 高電圧危険を示しています。1000V以上の電圧が入力または出力される場所に付いています。
- ： 感電注意を示しています。

■寿命部品の交換について

計測器に使用されている主な寿命部品は以下のとおりです。
製品の性能、機能を維持するために、寿命を目安に早めに交換して下さい。
ただし、製品の使用環境、使用頻度および保存環境により記載の寿命より交換時期が早くなる場合がありますので、ご了承下さい。
なお、ユーザによる交換はできません。交換が必要な場合は、当社または代理店へご連絡下さい。

製品ごとに個別の寿命部品を使用している場合があります。
本書、寿命部品に関する記載項を参照して下さい。

主な寿命部品と寿命

部品名称	寿命
ユニット電源	5年
ファン・モータ	5年
電解コンデンサ	5年
液晶ディスプレイ	6年
液晶ディスプレイ用バックライト	2.5年
フロッピー・ディスク・ドライブ	5年
メモリ・バックアップ用電池	5年

■ハード・ディスク搭載製品について

使用上の留意事項を以下に示します。

- 本器は、電源が入った状態で持ち運んだり、衝撃や振動を与えないで下さい。
ハード・ディスクの内部は、情報を記録するディスクが高速に回転しながら、情報の読み書きを行っているため、非常にデリケートです。
- 本器は、以下の条件に合う場所で使用および保管をして下さい。
 極端な温度変化のない場所
 衝撃や振動のない場所
 湿気や埃・粉塵の少ない場所
 磁石や強い磁界の発生する装置から離れた場所
- 重要なデータは、必ずバックアップを取っておいて下さい。
 取扱方法によっては、ディスク内のデータが破壊される場合があります。また、使用条件によりますが、ハード・ディスクには、その構造上、寿命があります。
 なお、消失したデータ等の保証は、いたしかねますのでご了承下さい。

■本器の廃棄時の注意

製品を廃棄する場合、有害物質は、その国の法律に従って適正に処理して下さい。

- 有害物質： (1) PCB (ポリ塩化ビフェニール)
 (2) 水銀
 (3) Ni-Cd (ニッケル-カドミウム)
 (4) その他

シアン、有機リン、六価クロムを有する物およびカドミウム、鉛、砒素を溶出する恐れのある物（半田付けの鉛は除く）

例： 蛍光管、バッテリー

■使用環境

本器は、以下の条件に合う場所に設置して下さい。

- 腐食性ガスの発生しない場所
- 直射日光の当たらない場所
- 埃の少ない場所
- 振動のない場所
- 最大高度 2000 m

本器を安全に取り扱うための注意事項

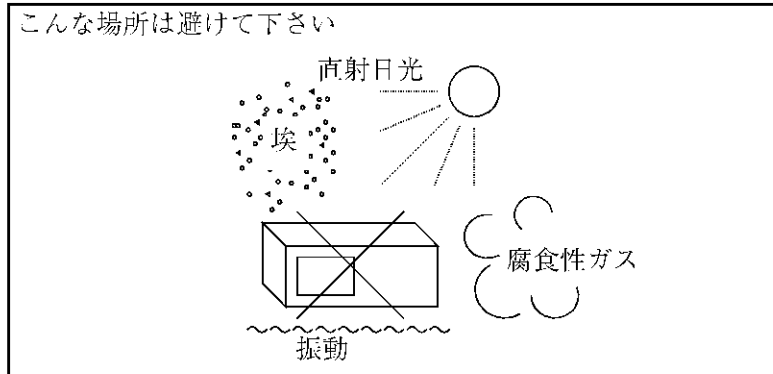


図-1 使用環境

●設置姿勢

本器は、必ず水平状態で使用して下さい。
本器は内部温度上昇をおさえるため、強制空冷用のファンを搭載しております。
ファンの吐き出し口、通気孔をふさがらないで下さい。



図-2 設置

●保管姿勢

本器は、なるべく水平状態で保管して下さい。
本器を立てた状態で保管する場合、または運搬時、一時的に立てた状態で置く場合、
転倒しないよう注意して下さい。衝撃・振動により転倒する恐れがあります。

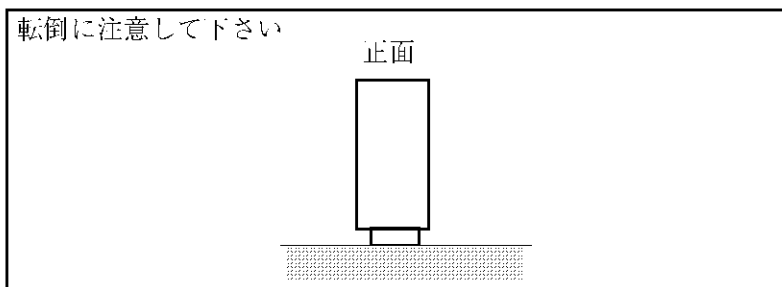
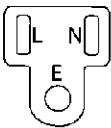

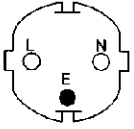
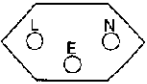

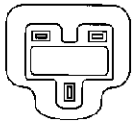
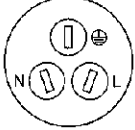


図-3 保管

- IEC61010-1 で定義される、主電源に典型的に存在する過渡過電圧および汚染度の分類は、以下のとおりです。
IEC60364-4-443 の耐インパルス（過電圧）カテゴリ II
汚染度 2

■電源ケーブルの種類

「電源ケーブルの種類」の記述が本文中にある場合には、以下の表に置き替えてお読み下さい。

プラグ	適用規格	定格・色・長さ	型名 (オプション No.)
	PSE: 日本 電気用品安全法	125V/7A 黒、2m	ストレート・タイプ A01402 アングル・タイプ A01412
	UL: アメリカ CSA: カナダ	125V/7A 黒、2m	ストレート・タイプ A01403 (オプション 95) アングル・タイプ A01413
	CEE: ヨーロッパ DEMKO: デンマーク NEMKO: ノルウェー VDE: ドイツ KEMA: オランダ CEBEC: ベルギー OVE: オーストリア FIMKO: フィンランド SEMKO: スウェーデン	250V/6A 灰、2m	ストレート・タイプ A01404 (オプション 96) アングル・タイプ A01414
	SEV: スイス	250V/6A 灰、2m	ストレート・タイプ A01405 (オプション 97) アングル・タイプ A01415
	SAA: オーストラリア ニュージーランド	250V/6A 灰、2m	ストレート・タイプ A01406 (オプション 98) アングル・タイプ ---
	BS: イギリス	250V/6A 黒、2m	ストレート・タイプ A01407 (オプション 99) アングル・タイプ A01417
	CCC: 中国	250V/10A 黒、2m	ストレート・タイプ A114009 (オプション 94) アングル・タイプ A114109

R4870 の注意事項

1. テスト結果取り扱い

- テスト結果はディスプレイに表示されます。
- テスト結果とは、テスト・データと「PASS」または「FAIL」の判定です。
ただし、テスト後（判定が表示されている画面）に「テストに関するパラメータ」を変更すると、その変更した情報はテスト・データのみには反映されません。
テスト・データと判定は合致しません。
したがって、その時点でのテスト結果（テスト・データおよび判定）は無効となります。
- テスト・データは、「6. 性能諸元」に記載された測定確度による誤差を含んでいます。
また、認証機関の測定器と異なるため誤差が発生する場合がありますので、ご注意下さい。

2. 本器を安定してお使い頂くために

本器は Microsoft 社製 Windows NT Embedded を搭載しています。

Windows アプリケーションによってテスト機能を実現していますので、本書で記述した以外の目的や方法により、Windows 環境の変更は行わないで下さい。

また、本器は情報処理装置ではありません。本書で記述した以外の操作は行わないで下さい。

1. 変更および削除を禁止する項目

- アプリケーション・プログラムのインストールを行うこと
- コントロール・パネル内に変更および削除を行うこと（ただし、本書の「A.4 ネットワークの設定」は除く）
- C ドライブの既存ファイルの起動およびファイル操作を行うこと
- テスト中に、他のアプリケーションの起動およびファイル操作を行うこと
- Windows オペレーティング・システムのアップ・デートを行うこと
- お客様がアプリケーションをインストールした結果、本器が正常に動作しなくなった場合、本器に付属しているリカバリ・ディスクをインストールして、システムの再構築をお勧めします。

リカバリ方法は本書の「A.3 R4870 システム・リカバリ手順」を参照して下さい。

2. コンピュータ・ウィルス対策について

使用方法や環境によって、コンピュータ・ウィルスに感染する可能性があります。

安心してご使用頂くために、以下のウィルス対策をお勧めします。

- 本器に読み込むファイルや使用するメディアは、事前にウィルスチェックを行う。
- ネットワークに接続する場合は、ウィルスに対し安全対策が施されたネットワークに接続する。
- ウィルスに感染した場合の対策

D ドライブのすべてのファイルを削除した後に、本器に付属しているリカバリ・ディスクをインストールして、システムの再構築をお勧めします。

リカバリ方法は本書の「A.3 R4870 システム・リカバリ手順」を参照して下さい。

3. アプリケーション・ソフトについて

本器でアプリケーション・ソフトを実行する場合、Windows 環境によって動作が異なる場合があります。

本器では Windows NT Embedded (英語) を採用していますので、アプリケーション・ソフトの作成は同様な英語環境で実施して下さい。

4. 本器は、背面の冷却用ファンが何らかの要因で停止した場合にブザーが鳴り続けます。ブザーが鳴りましたら、ただちにファン動作の阻害要因の有無を確認し、あればそれを取り除いてブザーが鳴り止むことを確認して下さい。それでもファン動作が回復しない場合は、速やかに通常の終了方法で電源を OFF にして、当社または代理店に連絡して下さい。

5. トリガ出力について

トリガ設定機能はありません。測定項目の状況によりタイミングが異なります。

3. Windows NT の使用条件

END-USER LICENSE AGREEMENT FOR MICROSOFT SOFTWARE

- **IMPORTANT-READ CAREFULLY:**
 - ❖ You have acquired a device ("INSTRUMENT") that includes software licensed by [ADVANTEST] from Microsoft Licensing Inc. or its affiliates ("MS"). Those installed software products of MS origin, as well as associated media, printed materials, and "online" or electronic documentation ("SOFTWARE") are protected by international intellectual property laws and treaties. The SOFTWARE is licensed, not sold. All rights reserved.
- **IF YOU DO NOT AGREE TO THIS END USER LICENSE AGREEMENT ("EULA"), DO NOT USE THE INSTRUMENT OR COPY THE SOFTWARE. INSTEAD, PROMPTLY CONTACT [ADVANTEST] FOR INSTRUCTIONS ON RETURN OF THE UNUSED "INSTRUMENT (S)" FOR A REFUND. ANY USE OF THE SOFTWARE, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO USE ON THE INSTRUMENT, WILL CONSTITUTE YOUR AGREEMENT TO THIS EULA (OR RATIFICATION OF ANY PREVIOUS CONSENT).**
- **GRANT OF SOFTWARE LICENSE.** This EULA grants you the following license:
 - You may use the SOFTWARE only on the INSTRUMENT.
 - **NOT FAULT TOLERANT.** THE SOFTWARE IS NOT FAULT TOLERANT. [ADVANTEST] HAS INDEPENDENTLY DETERMINED HOW TO USE THE SOFTWARE IN THE INSTRUMENT, AND "MS" HAS RELIED UPON [ADVANTEST] TO CONDUCT SUFFICIENT TESTING TO DETERMINE THAT THE SOFTWARE IS SUITABLE FOR SUCH USE.
 - **NO WARRANTIES FOR THE SOFTWARE. THE SOFTWARE is provided "AS IS" and with all faults. THE ENTIRE RISK AS TO SATISFACTORY QUALITY, PERFORMANCE, ACCURACY, AND EFFORT (INCLUDING LACK OF NEGLIGENCE) IS WITH YOU. ALSO, THERE IS NO WARRANTY AGAINST INTERFERENCE WITH YOUR ENJOYMENT OF THE SOFTWARE OR AGAINST INFRINGEMENT. IF YOU HAVE RECEIVED ANY WARRANTIES REGARDING THE INSTRUMENT OR THE SOFTWARE, THOSE WARRANTIES DO NOT ORIGINATE FROM, AND ARE NOT BINDING ON, "MS".**
 - **Note on Java Support.** The SOFTWARE may contain support for programs written in Java. Java technology is not fault tolerant and is not designed, manufactured, or intended for use or resale as online control equipment in hazardous environments requiring fail-safe performance, such as in the operation of nuclear facilities, aircraft navigation or communication systems, air traffic control, direct life support machines, or weapons systems, in which the failure of Java technology could lead directly to death, personal injury, or severe physical or environmental damage. Sun Microsystems, Inc. has contractually obligated MS to make this disclaimer.
 - **No Liability for Certain Damages. EXCEPT AS PROHIBITED BY LAW, MS SHALL HAVE NO LIABILITY FOR ANY INDIRECT, SPECIAL, CONSEQUENTIAL OR INCIDENTAL DAMAGES ARISING FROM OR IN CONNECTION WITH THE USE OR PERFORMANCE OF THE SOFTWARE. THIS LIMITATION SHALL APPLY EVEN IF ANY REMEDY FAILS OF ITS ESSENTIAL PURPOSE. IN NO EVENT SHALL MS BE LIABLE FOR ANY AMOUNT IN EXCESS OF U.S. TWO HUNDRED FIFTY DOLLARS (U.S.\$250.00).**
 - **Limitations on Reverse Engineering, Decompilation, and Disassembly.** You may not reverse engineer, decompile, or disassemble the SOFTWARE, except and only to the extent that such activity is expressly permitted by applicable law notwithstanding this limitation.
 - **SOFTWARE TRANSFER ALLOWED BUT WITH RESTRICTIONS.** You may permanently transfer rights under this EULA only as part of a permanent sale or transfer of the INSTRUMENT, and only if the recipient agrees to this EULA. If the SOFTWARE is an upgrade, any transfer must also include all prior versions of the SOFTWARE.
 - **EXPORT RESTRICTIONS.** You acknowledge that SOFTWARE is of US-origin. You agree to comply with all applicable international and national laws that apply to the SOFTWARE, including the U.S. Export Administration Regulations, as well as end-user, end-use and country destination restrictions issued by U.S. and other governments. For additional information on exporting the SOFTWARE, see <http://www.microsoft.com/exporting/>.
 - If you use the INSTRUMENT to access or utilize the services or functionality of Microsoft Windows NT Server 4.0 (all editions) or Microsoft Windows 2000 Server (all editions), or use the INSTRUMENT to permit workstation or computing devices to access or utilize the services or functionality of Microsoft Windows NT Server 4.0 or Microsoft Windows 2000 Server, you may be required to obtain a Client Access License for the INSTRUMENT and/or each such workstation or computing device. Please refer to the end user license agreement for Microsoft Windows NT Server 4.0 or Microsoft Windows 2000 Server for additional information.

緒言

本書は、R4870 無線機テストの操作方法、機能について説明します。

1. 本書の章構成は、以下のとおりです。

本器を安全に取り扱うための注意事項	本器を安全に使用するため、使用開始の前に必ずお読み下さい。
R4870 の注意事項	
1. はじめに	本器の付属品や使用環境を説明します。 また、本器が正常に動作するかをチェックする方法を説明します。
2. 操作	パネル面の各部名称とその機能、表示画面を説明します。 基本操作とテスト例で本器の使い方を習得することができます。
3. 各機能の使い方	本器の操作キーの一覧を示し、その機能を説明します。
4. テスト方法	本器でテストしている項目の設定状態とテスト結果項目を説明します。
5. リモート制御	本器を外部 PC による制御方法について説明します。
6. 性能諸元	本器の仕様を示します。
付録 A.1 困ったときに	困ったときにお読み下さい。
A.2 エラー・メッセージ	本器の操作中にエラーが発生すると、画面にエラー番号とエラー・メッセージが表示されます。 この内容を説明します。
A.3 R4870 システム・リカバリ手順	必要に応じてお読み下さい。
A.4 ネットワークの設定	
A.5 用語解説	
外形寸法図	本器の外形寸法を示します。
本製品に含まれるソフトウェアのご使用について	本器を使用開始の前に必ずお読み下さい。
保証について	

2. 本書内での表記ルール

- 本書ではパネル・キーとソフト・キーを以下のように表記してあります。ソフト・キーには、メイン・メニュー、ドロップダウン・メニュー、サイド・メニュー、タブが含まれます。

パネル・キーの表記 例：**A1** **POWER**

ソフト・キーの表記 例：**SIG RF** **Mode**

- 操作手順で、キーを連続操作する場合、キーとキーの間は → で区切っています。

3. 商標について

- Bluetooth™ は Bluetooth SIG, Inc. が所有する商標です。
- Windows NT は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
- VisualBasic6.0 は Microsoft 社の登録商標です。
- VisualC++6.0 は Microsoft 社の登録商標です。

目次

1.	はじめに	1-1
1.1	製品概要	1-1
1.2	付属品	1-2
1.3	使用環境	1-4
1.3.1	環境条件	1-4
1.3.2	電源仕様	1-5
1.3.3	電源ヒューズ	1-5
1.3.4	電源ケーブル	1-7
1.4	使用上の注意	1-8
1.5	動作チェック	1-11
1.6	本器の清掃、保管および輸送方法	1-13
1.6.1	清掃	1-13
1.6.2	保管	1-13
1.6.3	輸送	1-13
1.7	ウォームアップについて	1-14
1.8	校正について	1-14
1.9	寿命部品について	1-14
2.	操作	2-1
2.1	パネル面の説明	2-1
2.1.1	正面パネル	2-1
2.1.1.1	エントリ・キー・ブロック	2-3
2.1.1.1.1	エントリ・キーとキーボードの対応	2-4
2.1.1.2	I/F コネクタ・ブロック	2-5
2.1.1.3	テストポート・ブロック	2-6
2.1.2	背面パネル	2-7
2.2	画面の説明	2-8
2.2.1	操作メニュー	2-8
2.3	基本操作例	2-10
2.3.1	電源の投入	2-10
2.3.2	メイン・メニューとドロップダウン・メニューの設定	2-11
2.3.3	サイド・メニューの設定	2-12
2.3.4	タブによる画面の切り替え	2-13
2.3.5	チェック・ボックスの設定	2-15
2.3.6	オプション・ボタンの設定	2-17
2.3.7	データのセーブ、ロード、デリート	2-18
2.3.7.1	データのセーブ	2-18
2.3.7.2	データのロード	2-20
2.3.7.3	データのデリート	2-22
2.3.8	プリセット	2-24
2.3.9	本器の終了	2-25
2.3.10	システム・クロック設定	2-26
2.3.11	Explorer の表示	2-27
2.4	テスト条件の設定方法	2-28
2.4.1	RS-232 設定 (HCI 制御時)	2-28
2.4.2	IUT Information 設定	2-30
2.4.3	System Configuration 設定	2-32
2.4.4	Comment Edit 設定	2-35

目次

2.4.5	Test Parameter の変更	2-36
2.4.5.1	Modulation Characteristics	2-37
2.4.5.2	Initial Carrier Frequency Tolerance/Carrier Frequency Drift	2-38
2.4.5.3	Receiver Test (BER, PER)	2-39
2.4.5.4	Sensitivity - single/multi	2-40
2.4.5.5	Maximum Input Level	2-41
2.4.6	LMP_test_control	2-42
2.4.7	Remote Loopback (SCO) 評価	2-43
2.4.7.1	Remote Loopback (Loopback ON) 評価の設定	2-43
2.4.7.2	Remote Loopback 評価実行例	2-47
2.4.8	RF Measurement	2-48
2.4.8.1	RF Measurement の特長	2-48
2.4.8.2	RF Measurement 設定	2-48
2.4.8.2.1	RF Measurement 画面への移行	2-48
2.4.8.2.2	各測定項目の設定	2-49
2.4.8.2.3	FM Deviation の PASS/FAIL Limit 設定	2-50
2.4.8.2.4	FM Deviation の Test Parameter 設定	2-50
2.4.8.2.5	BER の PASS/FAIL Limit 設定	2-52
2.4.8.2.6	BER の Test Parameter 設定	2-52
2.4.8.3	RF Measurement の評価実行例	2-54
2.5	テスト例	2-57
2.5.1	SIG RF テスト	2-57
2.5.2	コミュニケーション・テスト	2-68
3.	各機能の使い方	3-1
3.1	メニュー・インデックス	3-1
3.2	メニュー・マップ	3-4
3.2.1	メイン・メニューとドロップダウン・メニュー	3-4
3.2.2	サイド・メニュー	3-5
3.2.3	タブ	3-11
3.2.3.1	SIG RF	3-11
3.2.3.2	RF Measurement	3-17
3.3	機能説明	3-18
3.3.1	メイン・メニューの説明	3-18
3.3.2	サイド・メニューの説明	3-19
3.4	Bluetooth SIG RF test 項目と判定値の範囲	3-27
4.	テスト方法	4-1
4.1	Output Power	4-1
4.2	Modulation Characteristics	4-2
4.3	Initial Carrier frequency Tolerance	4-3
4.4	Carrier Frequency Drift	4-3
4.5	Sensitivity (single slot packets)	4-4
4.6	Sensitivity (multi-slot packets)	4-5
4.7	Maximum Input Level	4-6
4.8	FM Deviation	4-7
4.9	BER	4-8
5.	リモート制御	5-1

5.1	制御方法および準備	5-1
5.2	マクロ定義	5-3
5.3	エラー・コード一覧	5-3
5.4	通信制御基本関数	5-4
5.4.1	通信制御基本関数一覧	5-4
5.4.2	WmtOpenPacket	5-4
5.4.3	WmtGetIpStr	5-5
5.4.4	WmtClosePacket	5-5
5.5	測定アプリケーションのプログラミング方法	5-6
5.6	プログラミング例	5-7
5.7	関数仕様	5-12
5.7.1	SYSTEM サブシステム	5-21
5.7.1.1	WmtSysPres	5-21
5.7.1.2	QrySysIden	5-21
5.7.1.3	QrySysVers	5-21
5.7.1.4	QrySysInfoOpt	5-22
5.7.1.5	QrySysErr	5-22
5.7.2	STATus サブシステム	5-23
5.7.2.1	QryStatMeas	5-23
5.7.3	SIGNaling サブシステム	5-24
5.7.3.1	WmtProcSignConn	5-24
5.7.3.2	WmtProcSignDisc	5-24
5.7.4	MMEMory サブシステム	5-25
5.7.4.1	WmtMmemStor	5-25
5.7.4.2	WmtMmemLoad	5-25
5.7.4.3	WmtMmemDel	5-25
5.7.5	CONFigure サブシステム - SYSTEM	5-26
5.7.5.1	WmtConfHopMode	5-26
5.7.5.2	QryConfHopMode	5-26
5.7.5.3	WmtConfInpTypeFreq	5-26
5.7.5.4	QryConfInpTypeFreq	5-27
5.7.5.5	WmtConfOperFreq	5-27
5.7.5.6	QryConfOperFreq	5-28
5.7.5.7	WmtConfOperCH	5-28
5.7.5.8	QryConfOperCH	5-29
5.7.5.9	WmtConfBdAddrSU	5-29
5.7.5.10	QryConfBdAddrSU	5-29
5.7.5.11	WmtConfRFCablLoss	5-30
5.7.5.12	QryConfRFCablLoss	5-30
5.7.5.13	WmtSensRoscExtEnab	5-30
5.7.5.14	QrySensRoscExtEnab	5-31
5.7.5.15	QrySensRoscExtStat	5-31
5.7.5.16	WmtConfUnitName	5-31
5.7.5.17	QryConfUnitName	5-32
5.7.5.18	WmtConfLotNumb	5-32
5.7.5.19	QryConfLotNumb	5-32
5.7.5.20	WmtConfDevNumb	5-33
5.7.5.21	QryConfDevNumb	5-33
5.7.5.22	WmtConfDevNumbIncr	5-33
5.7.5.23	QryConfDevNumbIncr	5-34
5.7.5.24	WmtConfUserInfoItem	5-34

目次

5.7.5.25	QryConfUserInfoItem	5-34
5.7.5.26	WmtConfUserInfoComm	5-35
5.7.5.27	QryConfUserInfoComm	5-35
5.7.5.28	WmtConfIUTContMod	5-35
5.7.5.29	QryConfIUTContMod	5-36
5.7.5.30	WmtConfPowClasIUT	5-36
5.7.5.31	QryConfPowClasIUT	5-36
5.7.5.32	WmtConfTxPowLev	5-37
5.7.5.33	QryConfTxPowLev	5-37
5.7.5.34	WmtConfTxModIdx	5-37
5.7.5.35	QryConfTxModIdx	5-38
5.7.5.36	WmtConfHciRs232	5-38
5.7.5.37	QryConfHciRs232	5-38
5.7.5.38	WmtConfUseIUTPara	5-39
5.7.5.39	QryConfUseIUTPara	5-39
5.7.5.40	WmtConfBdAddrIUT	5-39
5.7.5.41	QryConfBdAddrIUT	5-40
5.7.5.42	WmtConfSuppPackType	5-40
5.7.5.43	QryConfSuppPackType	5-40
5.7.5.44	WmtConfRfPort	5-41
5.7.5.45	QryConfRfPort	5-41
5.7.5.46	WmtConfPaneLock	5-41
5.7.5.47	QryConfPaneLock	5-42
5.7.6	CONFigure サブシステム - SIG RF	5-43
5.7.6.1	WmtConfSigOutpPow	5-43
5.7.6.2	QryConfSigOutpPow	5-43
5.7.6.3	WmtConfSigModChar	5-44
5.7.6.4	QryConfSigModChar	5-44
5.7.6.5	WmtConfSigFreqTole	5-45
5.7.6.6	QryConfSigFreqTole	5-45
5.7.6.7	WmtConfSigFreqDrif	5-46
5.7.6.8	QryConfSigFreqDrif	5-46
5.7.6.9	WmtConfSigSensSing	5-47
5.7.6.10	QryConfSigSensSing	5-47
5.7.6.11	WmtConfSigSensMult	5-48
5.7.6.12	QryConfSigSensMult	5-48
5.7.6.13	WmtConfSigMaxInp	5-49
5.7.6.14	QryConfSigMaxInp	5-49
5.7.6.15	WmtConfSigSensSingTestType	5-49
5.7.6.16	QryConfSigSensSingTestType	5-50
5.7.6.17	WmtConfSigSensMultTestType	5-50
5.7.6.18	QryConfSigSensMultTestType	5-50
5.7.6.19	WmtConfSigMaxInpTestType	5-51
5.7.6.20	QryConfSigMaxInpTestType	5-51
5.7.6.21	WmtConfSigBERbitsHspd	5-51
5.7.6.22	QryConfSigBERbitsHspd	5-52
5.7.6.23	WmtConfSigBERbitsStd	5-52
5.7.6.24	QryConfSigBERbitsStd	5-52
5.7.6.25	WmtConfSigOutpPowClas1AvgUp	5-53
5.7.6.26	QryConfSigOutpPowClas1AvgUp	5-53
5.7.6.27	WmtConfSigOutpPowClas1AvgLo	5-53

5.7.6.28	QryConfSigOutpPowClas1AvgLo	5-54
5.7.6.29	WmtConfSigOutpPowClas2AvgUp	5-54
5.7.6.30	QryConfSigOutpPowClas2AvgUp	5-54
5.7.6.31	WmtConfSigOutpPowClas2AvgLo	5-55
5.7.6.32	QryConfSigOutpPowClas2AvgLo	5-55
5.7.6.33	WmtConfSigOutpPowClas3AvgUp	5-55
5.7.6.34	QryConfSigOutpPowClas3AvgUp	5-56
5.7.6.35	WmtConfSigOutpPowPeakUp	5-56
5.7.6.36	QryConfSigOutpPowPeakUp	5-56
5.7.6.37	WmtConfSigModCharF1avgUp	5-57
5.7.6.38	QryConfSigModCharF1avgUp	5-57
5.7.6.39	WmtConfSigModCharF1avgLo	5-57
5.7.6.40	QryConfSigModCharF1avgLo	5-58
5.7.6.41	WmtConfSigModCharF2maxUp	5-58
5.7.6.42	QryConfSigModCharF2maxUp	5-58
5.7.6.43	WmtConfSigModCharF2F1Up	5-59
5.7.6.44	QryConfSigModCharF2F1Up	5-59
5.7.6.45	WmtConfSigModCharSampNum	5-59
5.7.6.46	QryConfSigModCharSampNum	5-60
5.7.6.47	WmtConfSigFreqToleFreqUp	5-60
5.7.6.48	QryConfSigFreqToleFreqUp	5-60
5.7.6.49	WmtConfSigFreqDrifDH1DrifUp	5-61
5.7.6.50	QryConfSigFreqDrifDH1DrifUp	5-61
5.7.6.51	WmtConfSigFreqDrifDH3DrifUp	5-61
5.7.6.52	QryConfSigFreqDrifDH3DrifUp	5-62
5.7.6.53	WmtConfSigFreqDrifDH5DrifUp	5-62
5.7.6.54	QryConfSigFreqDrifDH5DrifUp	5-62
5.7.6.55	WmtConfSigFreqDrifRateUp	5-63
5.7.6.56	QryConfSigFreqDrifRateUp	5-63
5.7.6.57	WmtConfSigSensSingBerUp	5-63
5.7.6.58	QryConfSigSensSingBerUp	5-64
5.7.6.59	WmtConfSigSensMultBerUp	5-64
5.7.6.60	QryConfSigSensMultBerUp	5-64
5.7.6.61	WmtConfSigMaxInpBerUp	5-65
5.7.6.62	QryConfSigMaxInpBerUp	5-65
5.7.6.63	WmtConfSigTxDirt	5-65
5.7.6.64	QryConfSigTxDirt	5-65
5.7.6.65	WmtConfSigSensTxLev	5-66
5.7.6.66	QryConfSigSensTxLev	5-66
5.7.6.67	WmtConfSigFreqToleSampNum	5-66
5.7.6.68	QryConfSigFreqToleSampNum	5-67
5.7.6.69	WmtConfSigFreqToleHopOn	5-67
5.7.6.70	QryConfSigFreqToleHopOn	5-67
5.7.6.71	WmtConfSigFreqToleHopOf	5-68
5.7.6.72	QryConfSigFreqToleHopOf	5-68
5.7.6.73	WmtConfSigFreqDrifSampNum	5-68
5.7.6.74	QryConfSigFreqDrifSampNum	5-69
5.7.6.75	WmtConfSigFreqDrifHopOn	5-69
5.7.6.76	QryConfSigFreqDrifHopOn	5-69
5.7.6.77	WmtConfSigFreqDrifHopOf	5-70
5.7.6.78	QryConfSigFreqDrifHopOf	5-70

目次

5.7.6.79	WmtConfSigMaxInpTxLev	5-70
5.7.6.80	QryConfSigMaxInpTxLev	5-71
5.7.6.81	WmtConfSigModCharF2PassLo	5-71
5.7.6.82	QryConfSigModCharF2PassLo	5-71
5.7.6.83	WmtConfSigAvgFreqCalc	5-72
5.7.6.84	QryConfSigAvgFreqCalc	5-72
5.7.6.85	WmtConfSigPerCalcSele	5-72
5.7.6.86	QryConfSigPerCalcSele	5-73
5.7.6.87	WmtConfSigTestScen	5-73
5.7.6.88	QryConfSigTestScen	5-73
5.7.6.89	WmtConfSigOutpPowTestPack	5-74
5.7.6.90	QryConfSigOutpPowTestPack	5-74
5.7.6.91	WmtConfSigModCharTestPack	5-74
5.7.6.92	QryConfSigModCharTestPack	5-75
5.7.6.93	WmtConfSigFreqToleTestPack	5-75
5.7.6.94	QryConfSigFreqToleTestPack	5-75
5.7.6.95	WmtConfSigFreqDrifTestPack	5-76
5.7.6.96	QryConfSigFreqDrifTestPack	5-76
5.7.6.97	WmtConfSigSensSingTestPack	5-76
5.7.6.98	QryConfSigSensSingTestPack	5-77
5.7.6.99	WmtConfSigSensMultTestPack	5-77
5.7.6.100	QryConfSigSensMultTestPack	5-77
5.7.6.101	WmtConfSigMaxInpTestPack	5-78
5.7.6.102	QryConfSigMaxInpTestPack	5-78
5.7.6.103	WmtConfInteDevF1Gain	5-78
5.7.6.104	QryConfInteDevF1Gain	5-79
5.7.6.105	WmtConfInteDevF2Gain	5-79
5.7.6.106	QryConfInteDevF2Gain	5-79
5.7.6.107	WmtConfPeakDevF1Gain	5-80
5.7.6.108	QryConfPeakDevF1Gain	5-80
5.7.6.109	WmtConfPeakDevF2Gain	5-80
5.7.6.110	QryConfPeakDevF2Gain	5-81
5.7.6.111	WmtConfSigModCharF1	5-81
5.7.6.112	QryConfSigModCharF1	5-81
5.7.6.113	WmtConfSigModCharF2	5-82
5.7.6.114	QryConfSigModCharF2	5-82
5.7.6.115	WmtConfSigPollPeri	5-82
5.7.6.116	QryConfSigPollPeri	5-82
5.7.7	CONFigure サブシステム - Communication Test	5-83
5.7.7.1	WmtConfButcInq	5-83
5.7.7.2	QryConfButcInq	5-83
5.7.7.3	WmtConfButcInqInqLeng	5-83
5.7.7.4	QryConfButcInqInqLeng	5-84
5.7.7.5	WmtConfButcSinq	5-84
5.7.7.6	QryConfButcSinq	5-84
5.7.7.7	WmtConfButcSinqInqLeng	5-85
5.7.7.8	QryConfButcSinqInqLeng	5-85
5.7.7.9	WmtConfButcMpag	5-85
5.7.7.10	QryConfButcMpag	5-86
5.7.7.11	WmtConfButcMpagPageScanRepMode	5-86
5.7.7.12	QryConfButcMpagPageScanRepMode	5-86

5.7.7.13	WmtConfButcSpag	5-87
5.7.7.14	QryConfButcSpag	5-87
5.7.7.15	WmtConfButcSpagPageScanRepMode	5-87
5.7.7.16	QryConfButcSpagPageScanRepMode	5-88
5.7.7.17	WmtConfButcAcl	5-88
5.7.7.18	QryConfButcAcl	5-88
5.7.7.19	WmtConfButcAclPackTypeIUTSupp	5-89
5.7.7.20	QryConfButcAclPackTypeIUTSupp	5-89
5.7.7.21	WmtConfButcAclPaylBody	5-89
5.7.7.22	QryConfButcAclPaylBody	5-90
5.7.7.23	WmtConfButcSlin	5-90
5.7.7.24	QryConfButcSlin	5-90
5.7.7.25	WmtConfButcSlinLinkSupeTout	5-91
5.7.7.26	QryConfButcSlinLinkSupeTout	5-91
5.7.7.27	WmtConfButcMlin	5-91
5.7.7.28	QryConfButcMlin	5-92
5.7.7.29	WmtConfButcMlinLinkSupeTout	5-92
5.7.7.30	QryConfButcMlinLinkSupeTout	5-92
5.7.7.31	WmtConfButcSaut	5-93
5.7.7.32	QryConfButcSaut	5-93
5.7.7.33	WmtConfButcSautPageScanRepMode	5-93
5.7.7.34	QryConfButcSautPageScanRepMode	5-94
5.7.7.35	WmtConfButcMaut	5-94
5.7.7.36	QryConfButcMaut	5-94
5.7.7.37	WmtConfButcMautPageScanRepMode	5-95
5.7.7.38	QryConfButcMautPageScanRepMode	5-95
5.7.7.39	WmtConfButcPair	5-95
5.7.7.40	QryConfButcPair	5-96
5.7.7.41	WmtConfButcPairPageScanRepMode	5-96
5.7.7.42	QryConfButcPairPageScanRepMode	5-96
5.7.7.43	WmtConfButcPairPinCode	5-97
5.7.7.44	QryConfButcPairPinCode	5-97
5.7.7.45	WmtConfButcSsco	5-97
5.7.7.46	QryConfButcSsco	5-98
5.7.7.47	WmtConfButcSscoPackTypeSco	5-98
5.7.7.48	QryConfButcSscoPackTypeSco	5-98
5.7.7.49	WmtConfButcMsco	5-99
5.7.7.50	QryConfButcMsco	5-99
5.7.7.51	WmtConfButcMscoPackTypeSco	5-99
5.7.7.52	QryConfButcMscoPackTypeSco	5-100
5.7.8	CONFigure サブシステム - Remote Loopback	5-101
5.7.8.1	WmtConfLoopSsco	5-101
5.7.8.2	QryConfLoopSsco	5-101
5.7.8.3	WmtConfLoopMsco	5-101
5.7.8.4	QryConfLoopMsco	5-102
5.7.8.5	WmtConfLoopScoVoicSett	5-102
5.7.8.6	QryConfLoopScoVoicSett	5-102
5.7.8.7	WmtConfLoopScoPackTypeSco	5-103
5.7.8.8	QryConfLoopScoPackTypeSco	5-103
5.7.8.9	WmtConfLoopScoPinCode	5-103
5.7.8.10	QryConfLoopScoPinCode	5-104

目次

5.7.8.11	WmtConfLoopSscoLoopOnOff	5-104
5.7.8.12	QryConfLoopSscoLoopOnOff	5-104
5.7.8.13	WmtConfLoopMscoLoopOnOff	5-105
5.7.8.14	QryConfLoopMscoLoopOnOff	5-105
5.7.9	CONFigure サブシステム - RF Measurement	5-106
5.7.9.1	WmtConfRfFmDevPowAvgUp	5-106
5.7.9.2	QryConfRfFmDevPowAvgUp	5-106
5.7.9.3	WmtConfRfFmDevPowAvgLo	5-106
5.7.9.4	QryConfRfFmDevPowAvgLo	5-107
5.7.9.5	WmtConfRfFmDevPowPeakUp	5-107
5.7.9.6	QryConfRfFmDevPowPeakUp	5-107
5.7.9.7	WmtConfRfFmDevF1avgUp	5-107
5.7.9.8	QryConfRfFmDevF1avgUp	5-108
5.7.9.9	WmtConfRfFmDevF1avgLo	5-108
5.7.9.10	QryConfRfFmDevF1avgLo	5-108
5.7.9.11	WmtConfRfFmDevF2maxUp	5-108
5.7.9.12	QryConfRfFmDevF2maxUp	5-109
5.7.9.13	WmtConfRfFmDevF2F1Up	5-109
5.7.9.14	QryConfRfFmDevF2F1Up	5-109
5.7.9.15	WmtConfRfFmDevF2PassLo	5-109
5.7.9.16	QryConfRfFmDevF2PassLo	5-110
5.7.9.17	WmtConfRfFmDevFreqToleUp	5-110
5.7.9.18	QryConfRfFmDevFreqToleUp	5-110
5.7.9.19	WmtConfRfFmDevFreqDrifUp	5-110
5.7.9.20	QryConfRfFmDevFreqDrifUp	5-111
5.7.9.21	WmtConfRfFmDevDrifRateUp	5-111
5.7.9.22	QryConfRfFmDevDrifRateUp	5-111
5.7.9.23	WmtConfRfFmDevTestFreq	5-112
5.7.9.24	QryConfRfFmDevTestFreq	5-112
5.7.9.25	WmtConfRfFmDevConfFreq	5-112
5.7.9.26	QryConfRfFmDevConfFreq	5-113
5.7.9.27	WmtConfRfFmDevTestCH	5-113
5.7.9.28	QryConfRfFmDevTestCH	5-113
5.7.9.29	WmtConfRfFmDevConfCH	5-113
5.7.9.30	QryConfRfFmDevConfCH	5-114
5.7.9.31	WmtConfRfFmDevTestPack	5-114
5.7.9.32	QryConfRfFmDevTestPack	5-114
5.7.9.33	WmtConfRfFmDevSampPack	5-115
5.7.9.34	QryConfRfFmDevSampPack	5-115
5.7.9.35	WmtConfRfFmDevAvgFreqCalc	5-115
5.7.9.36	QryConfRfFmDevAvgFreqCalc	5-116
5.7.9.37	WmtConfRfFmDevInteF1Gain	5-116
5.7.9.38	QryConfRfFmDevInteF1Gain	5-116
5.7.9.39	WmtConfRfFmDevInteF2Gain	5-117
5.7.9.40	QryConfRfFmDevInteF2Gain	5-117
5.7.9.41	WmtConfRfFmDevPeakF1Gain	5-117
5.7.9.42	QryConfRfFmDevPeakF1Gain	5-118
5.7.9.43	WmtConfRfFmDevPeakF2Gain	5-118
5.7.9.44	QryConfRfFmDevPeakF2Gain	5-118
5.7.9.45	WmtConfRfBerBerUp	5-119
5.7.9.46	QryConfRfBerBerUp	5-119

5.7.9.47	WmtConfRfBerTestFreq	5-119
5.7.9.48	QryConfRfBerTestFreq	5-120
5.7.9.49	WmtConfRfBerConfFreq	5-120
5.7.9.50	QryConfRfBerConfFreq	5-120
5.7.9.51	WmtConfRfBerTestCH	5-120
5.7.9.52	QryConfRfBerTestCH	5-121
5.7.9.53	WmtConfRfBerConfCH	5-121
5.7.9.54	QryConfRfBerConfCH	5-121
5.7.9.55	WmtConfRfBerTestPack	5-122
5.7.9.56	QryConfRfBerTestPack	5-122
5.7.9.57	WmtConfRfBerHop	5-122
5.7.9.58	QryConfRfBerHop	5-123
5.7.9.59	WmtConfRfBerTestBits	5-123
5.7.9.60	QryConfRfBerTestBits	5-123
5.7.9.61	WmtConfRfBerTxLev	5-124
5.7.9.62	QryConfRfBerTxLev	5-124
5.7.9.63	WmtConfRfBerTxDirt	5-124
5.7.9.64	QryConfRfBerTxDirt	5-125
5.7.9.65	WmtConfRfBerPerCalc	5-125
5.7.9.66	QryConfRfBerPerCalc	5-125
5.7.10	FETCh サブシステム - SIG RF	5-126
5.7.10.1	QryFetcSigOutPowAvg	5-126
5.7.10.2	QryFetcSigOutPowPk	5-126
5.7.10.3	QryFetcSigModCharF2Id	5-127
5.7.10.4	QryFetcSigModCharF2max_min	5-127
5.7.10.5	QryFetcSigModCharF2avg	5-127
5.7.10.6	QryFetcSigModCharF2max_max	5-128
5.7.10.7	QryFetcSigModCharF2stddev	5-128
5.7.10.8	QryFetcSigModCharF1max_max	5-128
5.7.10.9	QryFetcSigModCharF1avg	5-129
5.7.10.10	QryFetcSigModCharF1max_min	5-129
5.7.10.11	QryFetcSigModCharF1stddev	5-129
5.7.10.12	QryFetcSigFreqToleHopOffMax	5-130
5.7.10.13	QryFetcSigFreqToleHopOnMax	5-130
5.7.10.14	QryFetcSigFreqToleHopOffAvg	5-130
5.7.10.15	QryFetcSigFreqToleHopOnAvg	5-131
5.7.10.16	QryFetcSigFreqToleHopOffMin	5-131
5.7.10.17	QryFetcSigFreqToleHopOnMin	5-131
5.7.10.18	QryFetcSigFreqToleHopOffStddev	5-132
5.7.10.19	QryFetcSigFreqToleHopOnStddev	5-132
5.7.10.20	QryFetcSigFreqDrifHopOffDrifMax	5-133
5.7.10.21	QryFetcSigFreqDrifHopOffDrifAvg	5-133
5.7.10.22	QryFetcSigFreqDrifHopOffDrifStddev	5-134
5.7.10.23	QryFetcSigFreqDrifHopOffRateMax	5-134
5.7.10.24	QryFetcSigFreqDrifHopOffRateAvg	5-135
5.7.10.25	QryFetcSigFreqDrifHopOffRateStddev	5-135
5.7.10.26	QryFetcSigFreqDrifHopOnDrifMax	5-136
5.7.10.27	QryFetcSigFreqDrifHopOnDrifAvg	5-136
5.7.10.28	QryFetcSigFreqDrifHopOnDrifStddev	5-137
5.7.10.29	QryFetcSigFreqDrifHopOnRateMax	5-137
5.7.10.30	QryFetcSigFreqDrifHopOnRateAvg	5-138

目次

5.7.10.31	QryFetcSigFreqDrifHopOnRateStddev	5-138
5.7.10.32	QryFetcSigSensSingBer	5-139
5.7.10.33	QryFetcSigSensSingPer	5-139
5.7.10.34	QryFetcSigSensMultBer	5-139
5.7.10.35	QryFetcSigSensMultPer	5-140
5.7.10.36	QryFetcSigMaxInpBer	5-140
5.7.10.37	QryFetcSigMaxInpPer	5-140
5.7.10.38	QryFetcSigOutpPowPack	5-141
5.7.10.39	QryFetcSigModCharPack	5-141
5.7.10.40	QryFetcSigFreqTolePack	5-141
5.7.10.41	QryFetcSigFreqDrifPack	5-141
5.7.10.42	QryFetcSigSensSingPack	5-142
5.7.10.43	QryFetcSigSensMultiPack	5-142
5.7.10.44	QryFetcSigMaxInpPack	5-142
5.7.11	FETCh サブシステム - Communication Test	5-143
5.7.11.1	QryFetcButcInqErrStat	5-143
5.7.11.2	QryFetcButcSinqErrStat	5-143
5.7.11.3	QryFetcButcMpagErrStat	5-143
5.7.11.4	QryFetcButcSpagErrStat	5-144
5.7.11.5	QryFetcButcAcIErrStat	5-144
5.7.11.6	QryFetcButcSlinErrStat	5-144
5.7.11.7	QryFetcButcMlinErrStat	5-145
5.7.11.8	QryFetcButcSautErrStat	5-145
5.7.11.9	QryFetcButcMautErrStat	5-145
5.7.11.10	QryFetcButcPairErrStat	5-146
5.7.11.11	QryFetcButcSscoErrStat	5-146
5.7.11.12	QryFetcButcMscoErrStat	5-146
5.7.12	FETCh サブシステム - Remote Loopback	5-147
5.7.12.1	QryFetcLoopSscoErrStat	5-147
5.7.12.2	QryFetcLoopMscoErrStat	5-147
5.7.13	FETCh サブシステム - RF Measurement	5-148
5.7.13.1	QryFetcRfFmDevPowAvg	5-148
5.7.13.2	QryFetcRfFmDevPowPk	5-148
5.7.13.3	QryFetcRfFmDevF2Id	5-148
5.7.13.4	QryFetcRfFmDevF2max_min	5-149
5.7.13.5	QryFetcRfFmDevF2avg	5-149
5.7.13.6	QryFetcRfFmDevF2max_max	5-149
5.7.13.7	QryFetcRfFmDevF2stddev	5-150
5.7.13.8	QryFetcRfFmDevF1max_max	5-150
5.7.13.9	QryFetcRfFmDevF1avg	5-150
5.7.13.10	QryFetcRfFmDevF1max_min	5-151
5.7.13.11	QryFetcRfFmDevF1stddev	5-151
5.7.13.12	QryFetcRfFmDevFreqToleMax	5-151
5.7.13.13	QryFetcRfFmDevFreqToleAvg	5-152
5.7.13.14	QryFetcRfFmDevFreqToleMin	5-152
5.7.13.15	QryFetcRfFmDevFreqToleStddev	5-152
5.7.13.16	QryFetcRfFmDevFreqDrifMax	5-153
5.7.13.17	QryFetcRfFmDevFreqDrifAvg	5-153
5.7.13.18	QryFetcRfFmDevFreqDrifStddev	5-153
5.7.13.19	QryFetcRfFmDevDrifRateMax	5-154
5.7.13.20	QryFetcRfFmDevDrifRateAvg	5-154

5.7.13.21	QryFetcRfFmDevDrifRateStddev	5-154
5.7.13.22	QryFetcRfBerBer	5-155
5.7.13.23	QryFetcRfBerPer	5-155
5.7.14	FETCh サブシステム - Waveform	5-156
5.7.14.1	QryFetcWaveFormCoun	5-156
5.7.14.2	QryFetcWaveFormInfo	5-156
5.7.14.3	QryFetcWaveFormData	5-157
5.7.15	PROCEDURE サブシステム - SYSTEM	5-158
5.7.15.1	WmtProcStar	5-158
5.7.15.2	WmtProcSing	5-158
5.7.15.3	WmtProcAbor	5-158
5.7.15.4	WmtCalSUAuto	5-158
5.7.16	PROCEDURE サブシステム - SIG RF	5-159
5.7.16.1	WmtProcSigOutpPow	5-159
5.7.16.2	WmtProcSigModChar	5-159
5.7.16.3	WmtProcSigFreqTole	5-160
5.7.16.4	WmtProcSigFreqDrif	5-160
5.7.16.5	WmtProcSigSensSing	5-160
5.7.16.6	WmtProcSigSensMult	5-161
5.7.16.7	WmtProcSigMaxInp	5-161
5.7.16.8	WmtProcSigAll	5-161
5.7.17	PROCEDURE サブシステム - Communication Test	5-162
5.7.17.1	WmtProcButeInq	5-162
5.7.17.2	WmtProcButeSinq	5-162
5.7.17.3	WmtProcButeMpag	5-162
5.7.17.4	WmtProcButeSpag	5-162
5.7.17.5	WmtProcButeAcl	5-163
5.7.17.6	WmtProcButeSlin	5-163
5.7.17.7	WmtProcButeMlin	5-163
5.7.17.8	WmtProcButeSaut	5-163
5.7.17.9	WmtProcButeMaut	5-164
5.7.17.10	WmtProcButePair	5-164
5.7.17.11	WmtProcButeSsco	5-164
5.7.17.12	WmtProcButeMsco	5-164
5.7.18	PROCEDURE サブシステム - Remote Loopback	5-165
5.7.18.1	WmtProcLoopSsco	5-165
5.7.18.2	WmtProcLoopMsco	5-165
5.7.18.3	WmtProcLoopSscoDisc	5-165
5.7.18.4	WmtProcLoopMscoDisc	5-165
5.7.19	PROCEDURE サブシステム - RF Measurement	5-166
5.7.19.1	WmtProcRfFmDev	5-166
5.7.19.2	WmtProcRfBer	5-166
5.7.19.3	WmtProcRfConn	5-166
5.7.19.4	WmtProcRfDisc	5-166
5.8	サンプル・プログラム	5-167
6.	性能諸元	6-1
6.1	送信機テスト	6-1
6.2	受信機テスト	6-3
6.3	Reference OSC	6-5

目次

6.4	表示	6-6
6.5	外部機器との接続	6-6
6.6	一般仕様	6-7
付録		A-1
A.1	困ったときに	A-1
A.2	エラー・メッセージ	A-2
A.3	R4870 システム・リカバリ手順	A-8
A.4	ネットワークの設定	A-9
A.5	用語解説	A-12
外形寸法図		EXT-1
索引		I-1

目 次

図番号	名 称	ページ
1-1	使用周囲環境	1-4
1-2	ヒューズ・ホルダの位置	1-6
1-3	電源ヒューズの交換	1-6
1-4	ヒューズ・ホルダ	1-6
1-5	電源ケーブル	1-7
1-6	パネル脱着時の注意	1-9
1-7	人体の静電気対策	1-10
1-8	作業場の床の静電気対策	1-10
1-9	作業台の静電気対策	1-10
1-10	電源ケーブルの接続	1-11
1-11	スタートアップ画面	1-12
2-1	正面パネル	2-1
2-2	エントリ・キー・ブロック	2-3
2-3	I/F コネクタ・ブロック	2-5
2-4	テストポート・ブロック	2-6
2-5	背面パネル	2-7
2-6	画面の表示例 1	2-8
2-7	画面の表示例 2	2-8
2-8	スタートアップ画面例 (Measure 画面)	2-10
2-9	メイン・メニューからのドロップダウン・メニューの選択	2-11
2-10	サイド・メニューによる項目の選択	2-12
2-11	タブによる画面の切り替え表示例 1	2-13
2-12	タブによる画面の切り替え表示例 2	2-14
2-13	すべてのチェックの一括 OFF	2-15
2-14	すべてのチェックの一括 ON	2-16
2-15	オプション・ボタンの設定	2-17
2-16	Save ダイアログ・ボックス	2-18
2-17	Browse for Folder ダイアログ・ボックス	2-19
2-18	データの保存	2-19
2-19	Load ダイアログ・ボックス	2-20
2-20	Browse for Folder ダイアログ・ボックス	2-21
2-21	データのロード	2-21
2-22	Delete ダイアログ・ボックス	2-22
2-23	Browse for Folder ダイアログ・ボックス	2-23
2-24	データの削除	2-23
2-25	Delete 確認のメッセージ	2-23
2-26	PRESET ダイアログ・ボックス	2-24
2-27	本器の終了	2-25
2-28	Date/Time Properties ダイアログ・ボックス	2-26
2-29	Explorer ダイアログ・ボックス	2-27
2-30	Explorer エラー・メッセージ	2-27
2-31	RS-232 Port の選択	2-28
2-32	RS-232 Port - HCI-1 の設定	2-29
2-33	IUT Information	2-30
2-34	System Configuration 設定	2-32

図一覧

図番号	名 称	ページ
2-35	Comment Edit 設定	2-35
2-36	Modulation Characteristics 設定	2-37
2-37	Frequency Tolerance の設定	2-38
2-38	BER Sample Bits 設定	2-39
2-39	Dirty/TX Level 設定	2-40
2-40	Maximum Input Level の設定	2-41
2-41	LMP_test_control の設定	2-42
2-42	リモート・ループバック評価	2-43
2-43	Loopback 評価用画面	2-44
2-44	Remote LoopBack - Setup 画面 (デフォルト設定)	2-44
2-45	Remote Loopback 評価実行	2-47
2-46	RF Measurement への移行方法	2-48
2-47	Connection 画面	2-49
2-48	PASS/FAIL Limit 設定画面	2-50
2-49	FM Deviation Test Parameter 設定画面	2-51
2-50	BER PASS/FAIL Limit 設定画面	2-52
2-51	BER Test Parameter 設定画面	2-52
2-52	Connection 画面	2-54
2-53	IUT との接続完了画面	2-54
2-54	測定画面 (FM Deviation)	2-55
2-55	FM Deviation 測定結果表示	2-55
2-56	測定画面 (BER)	2-56
2-57	BER 測定結果表示	2-56
2-58	スタートアップ画面例 (Measure 画面)	2-58
2-59	PRESET 画面	2-59
2-60	IUT と本器の接続	2-59
2-61	SIG RF 選択画面	2-60
2-62	SIG Item Select 画面	2-60
2-63	Measurement Item ALL OFF 画面	2-61
2-64	Mid Ch. ALL OFF 画面	2-61
2-65	Limit 値の設定 - Output Power	2-62
2-66	Limit 値の設定 - Sensitivity - single slot packets	2-63
2-67	基本パラメータの設定 - Receiver Test:(BER, PER)	2-64
2-68	基本パラメータの設定 - Sensitivity - single/multi:Dirty ON/OFF,TX Level	2-64
2-69	SIG RF - Measure 画面	2-65
2-70	Output Power のテスト結果	2-66
2-71	Sensitivity - single slot packets のテスト結果	2-67
2-72	スタートアップ画面例 (Measure 画面)	2-69
2-73	PRESET 画面	2-69
2-74	IUT と本器の接続	2-70
2-75	Communication Test の選択	2-70
2-76	Item ALL OFF 画面	2-71
2-77	Communication Test - Setup 画面	2-72
2-78	Communication Test - Measure 画面	2-72
2-79	Inquiry、Inquiry Scan のテスト結果	2-73
A-1	Identification Changes ダイアログ・ボックス	A-9
A-2	TCP/IP Properties ダイアログ・ボックス	A-10

図番号	名 称	ページ
A-3	...Ethernet Adapter Settings ダイアログ・ボックス	A-11

表一覽

表番号	名 称	ページ
1-1	標準付属品一覽	1-2
1-2	電源ケーブルの種類	1-3
1-3	電源仕様	1-5
2-1	エントリ・キーとキーボードの対応	2-4
3-1	Bluetooth SIG RF test 項目と判定値の範囲 CH1	3-27
3-2	Bluetooth SIG RF test 項目と判定値の範囲 CH2	3-28
6-1	Dirty Transmitter slot packets	6-5
A-1	困ったときに	A-1
A-2	エラー・メッセージ	A-2

1. はじめに

この章では、以下の項目について説明します。

- 製品概要
- 付属品
- 使用環境
- 使用上の注意
- 動作チェック
- 本器の清掃、保管および輸送方法
- ウォームアップについて
- 校正について
- 寿命部品について

1.1 製品概要

R4870 無線機テストは Bluetooth™ SIG* Core に準拠した IUT(Implementation Under Test) や 製品の RF 性能評価・接続試験評価を実現するテストです。

本器の特長を以下に示します。

- RF の主要項目の評価
 - 送信機評価
 - Output Power
 - Modulation Characteristics
 - Initial Carrier Frequency Tolerance
 - Carrier Frequency Drift
 - 受信機評価
 - Sensitivity (single slot & multi slot packets)
 - Maximum input Level
- 接続試験評価
 - Blue unit Test cases と同等な接続試験
- Remote Loopback 評価

1.2 付属品

1.2 付属品

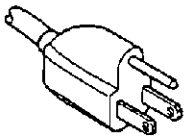
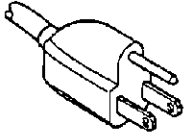
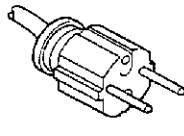
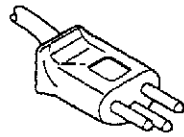
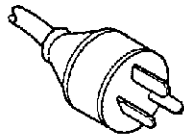
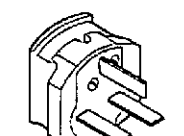
本器の標準付属品一覧を以下に示します。もし、破損または欠品がある場合は当社または代理店へ連絡して下さい。ご注文は、型名でご川命下さい。

表 1-1 標準付属品 一覧

名称	型名	数量	備考
電源ケーブル	A01412	1	*1
入力ケーブル	A01002	1	
フロント・カバー	MME-100328A001A-1	1	
タッチ・ペン	AHN-STPEN-1	1	
System Recovery Disk	WPU-DRVIMG4+RSTR	1	フロッピー・ディスク
R4870 取扱説明書	JR4870	1	

*1: 電源ケーブルは、購入時にオプション指定によって変更することができます（表 1-2 を参照）。

表 1-2 電源ケーブルの種類

プラグ	適用規格	定格・色・長さ	型名 (オプション No.)
	JIS: 日本 電気用品取締法	125V/7A 黒、2m	ストレート・タイプ A01402 アングル・タイプ A01412
	UL: アメリカ CSA: カナダ	125V/7A 黒、2m	ストレート・タイプ A01403 (オプション 95) アングル・タイプ A01413
	CEE: ヨーロッパ DEMKO: デンマーク NEMKO: ノルウェー VDE: ドイツ KEMA: オランダ CEBEC: ベルギー OVE: オーストリア FIMKO: フィンランド SEMKO: スウェーデン	250V/6A 灰、2m	ストレート・タイプ A01404 (オプション 96) アングル・タイプ A01414
	SEV: スイス	250V/6A 灰、2m	ストレート・タイプ A01405 (オプション 97) アングル・タイプ A01415
	SAA: オーストラリア ニュージーランド	250V/6A 灰、2m	ストレート・タイプ A01406 (オプション 98) アングル・タイプ ----
	BS: イギリス	250V/6A 黒、2m	ストレート・タイプ A01407 (オプション 99) アングル・タイプ A01417

1.3 使用環境

1.3 使用環境

ここでは、本器を使用するために必要な環境条件、電源条件などを説明します。

1.3.1 環境条件

- 周囲温度 +5°C ~ +40°C
- 相対湿度 80% 以下（結露しないこと）
- 腐食性ガスの発生しない場所
- 直射日光の当たらない場所
- 埃の少ない場所
- 振動のない場所
- ノイズの少ない場所

本器は、AC 電源ラインのノイズに対して、十分に考慮した設計がなされていますが、できるかぎりノイズの少ない環境で使用して下さい。

- ノイズが避けられない場合は、ノイズ除去フィルタなどを使用して下さい。
- 設置姿勢

背面パネルには吐き出しタイプの冷却ファンがあり、側面および下面前方には通気孔があります。このファンや通気孔をふさがらないで下さい。背面は壁から 10cm 以上離して下さい。また、背面パネルを下にして、立てて使用しないで下さい。

- 本器の排気を妨げると内部温度が上昇して、動作に支障をきたす場合があります。

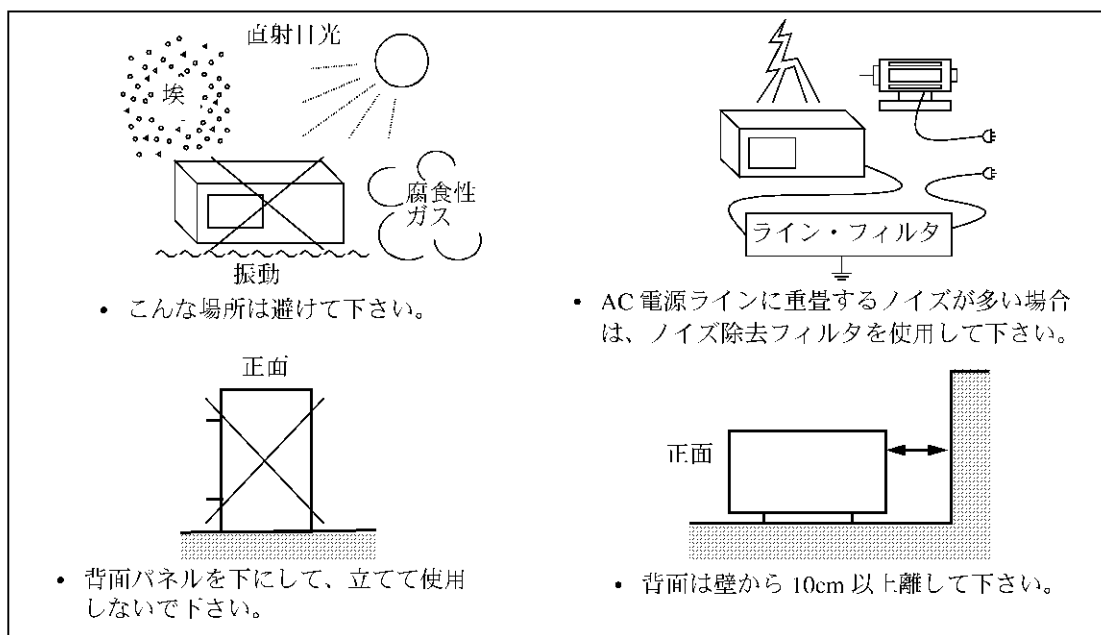


図 1-1 使用周囲環境

1.3.2 電源仕様

本器の電源仕様を表 1-3 に示します。

表 1-3 電源仕様

	AC100V 系動作時	AC200V 系動作時	備考
入力電圧範囲	90V-132V	198V-250V	AC100V 系/ AC200V 系は 自動切り替え
周波数範囲	48Hz-66Hz		
消費電力	200VA 以下		

注意 破損防止のため、本器には指定範囲を超えた入力電圧または周波数を加えないで下さい。

1.3.3 電源ヒューズ

注意

1. 電源ヒューズが溶断した場合、本器に異常が発生したと考えられます。当社または代理店に修理を依頼して下さい。
2. 電源ヒューズは、火災防止のため、同一定格・型式のヒューズを使用して下さい。

電源ヒューズは、背面パネルにあるヒューズ・ホルダの中にあります。
電源ヒューズの確認または交換は、以下の手順で行います。

1. 電源が OFF になっていることを確認します。

注 製品が動作状態にあるときは、画面メニューの **Power Off** ボタンで電源を OFF にします。

2. 電源ケーブルを AC 電源コンセントから外します。
3. 背面パネルにあるヒューズ・ホルダをマイナス・ドライバを使用して外します（図 1-2 ~ 図 1-4 参照）。
4. ヒューズを確認または交換して、元に戻します。

1.3.3 電源ヒューズ

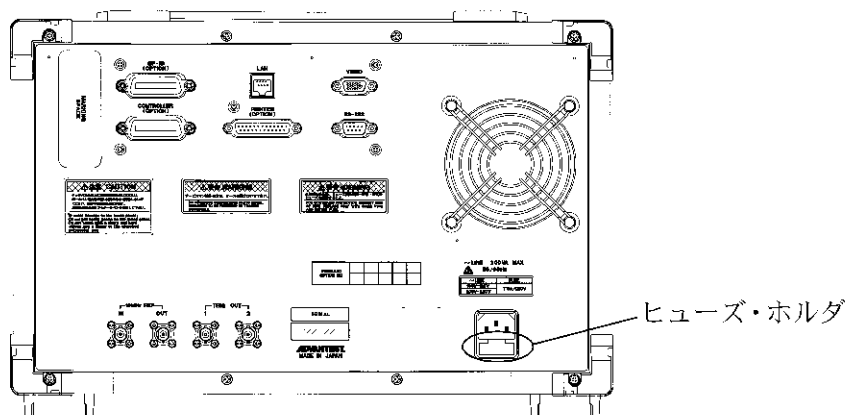


図 1-2 ヒューズ・ホルダの位置

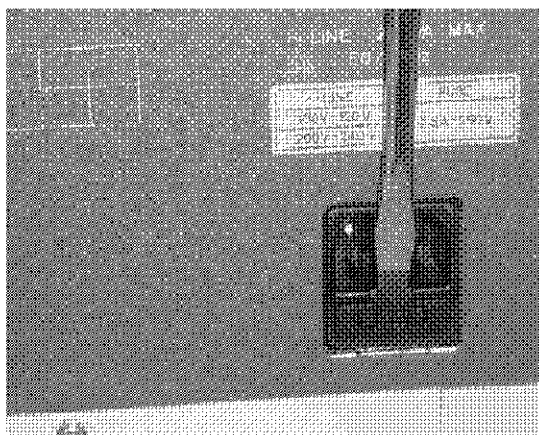


図 1-3 電源ヒューズの交換

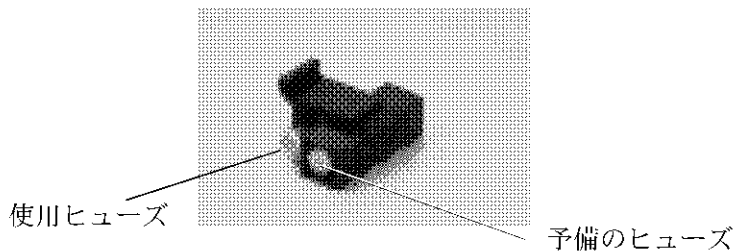


図 1-4 ヒューズ・ホルダ

1.3.4 電源ケーブル

注意

1. 電源電圧に応じた電源ケーブルを使用して下さい。ただし、海外で使用する場合は、それぞれの国の安全規格に適合した電源ケーブルを使用して下さい（表 1-4 参照）。
2. 電源ケーブルは、感電からの保護のため、保護接地端子を備えたコンセントに接続して下さい。保護接地端子を備えていない延長コードを使用すると、保護接地が無効になります。
3. AC アダプタ（3 ピン - 2 ピン変換アダプタ）を使用する場合、アダプタから出ている接地ピンをコンセントのアース端子に接地して下さい。また、アダプタの接地ピンの短絡に注意して下さい。
4. 電源ケーブルの接続は、正面パネルにある **POWER** スイッチを OFF にしてから行って下さい。製品が動作状態にあるときは、画面メニューの **Power Off** ボタンで電源を OFF にします。

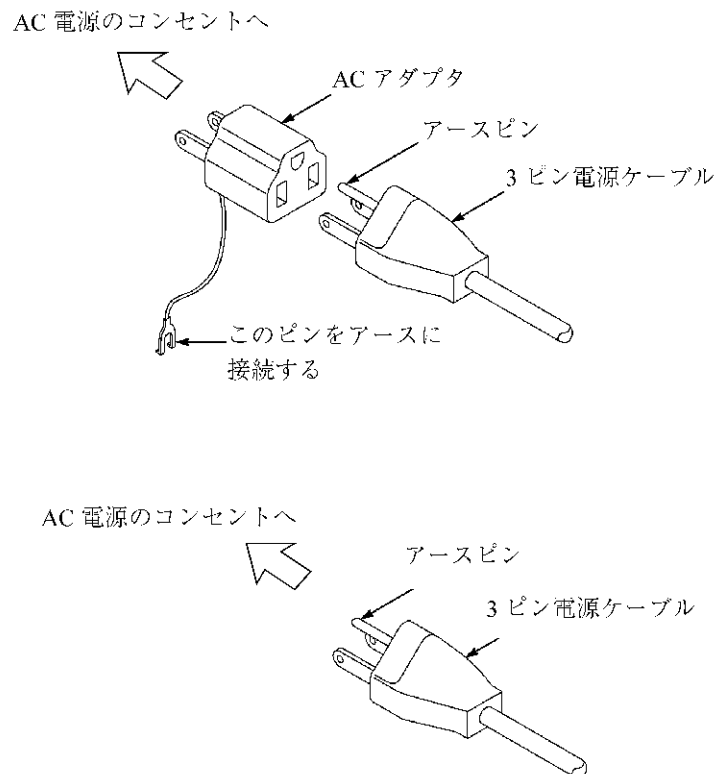


図 1-5 電源ケーブル

1.4 使用上の注意

1.4 使用上の注意

1. テスト開始の前に
 - 電源投入時は、被測定物を接続しないで下さい。
 - テスト開始の前に、本器の出力パワーを確認して下さい。
 - 正面パネルに接続されている各種ケーブルは外して下さい。
2. ケースの取り外しについて
当社のサービス・エンジニア以外の方は、ケースを開けないで下さい。本器内部には、高温部および高電圧部があります。
3. 異常が発生した場合
本器から煙が出たり、異臭・異音を感じたときは、**POWER**スイッチを OFF にして、電源ケーブルをコンセントから引き抜き、当社または代理店へ連絡して下さい。
4. パネル・キーが効かない場合
 - Explorer や Network Config を閉じた後、パネル・キーが効かなくなることがあります。そのようなときは、一度画面を触って下さい。
 - Auto Calibration 実行中（本器の確度を保証するために、一定時間ごとに行われる）は、パネル・キーおよびタッチ・スクリーンの入力を受け付けません。
5. タッチ・スクリーン
本器の表示装置はタッチ・スクリーンを使用しています。タッチ・スクリーンはガラスを含みます。強い衝撃を加えると割れる恐れがありますので、無理な力を加えないで使用して下さい。操作時は、必ず付属のタッチ・ペンをご利用下さい。シャープペンシルやボールペン等の先端の硬い材質のもので絶対に入力しないで下さい。動作不良の原因になります。
6. パネル脱着時の注意
本器はパネル部を外し、測定部と離して使用することができます。
パネルを外す際には以下のことに注意して作業を行って下さい。

注 パネルを外して使用する場合には、別売の接続ケーブルが必要です。

- 電源が入っている場合は、電源を OFF にして電源ケーブルを抜き、動作が停止していることを確認して下さい。
- パネル脱着の際には、指をはさまないように注意して下さい。
- パネル脱着は水平で安定した台で行って下さい。
- 製品前部側面に露出している4カ所のネジを外して下さい。
- ネジを外す際、パネルに手を添え、不意にパネルが落下することのないようにして下さい。
- 4カ所のネジすべてを外した後、パネル部を前方に引き出して下さい。
- パネルと本体を接続するケーブルを外して下さい。
- 使用条件に合った接続ケーブルに交換の上、使用して下さい。

- ネジ紛失のときは、下記ネジを使用して下さい。
 キー側の 2 本 サラネジ M4X35 (鉄製またはステンレス製)
 液晶側の 2 本 サラネジ M4X14 (鉄製またはステンレス製)

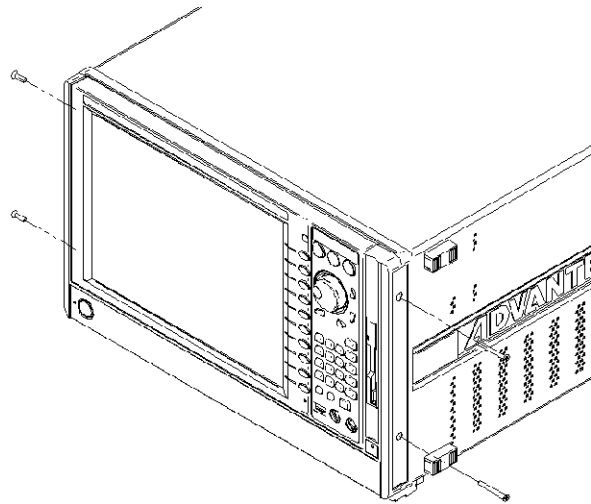


図 1-6 パネル脱着時の注意

7. 電波障害について

本器を使用すると、テレビやラジオ等に電波障害が発生することがあります。本器が電波障害の原因であるかは、本器の電源を OFF にしたときに、その障害が解消されることによって判断できます。

以下の方法を試みて、本器による電波障害を解消して下さい。

- 障害が発生しない方向に、テレビ／ラジオのアンテナの向きを変える。
- テレビ／ラジオ等の反対側に、本器を設置する。
- テレビ／ラジオ等から離れた場所に、本器を設置する。
- 本器の電源は、テレビ／ラジオ等とは別の電源供給路にあるコンセントを使用する。

8. 静電気対策

静電気放電 (ESD) による半導体部品のダメージおよび破壊を防止するため、以下の対策を行って下さい。それぞれ単独での使用では完全とは言えず、併用することを推奨します。

(静電気は人の衣服などの絶縁物の摩擦により簡単に発生します。)

対策例

人体： リスト・ストラップの装着 (図 1-7 を参照)

作業場の床： 導電マットの設置と導電靴の着用、および接地 (図 1-8 を参照)

作業台： 導電マットの設置、および接地 (図 1-9 を参照)

1.4 使用上の注意

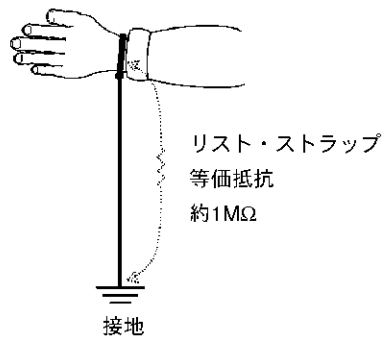


図 1-7 人体の静電気対策

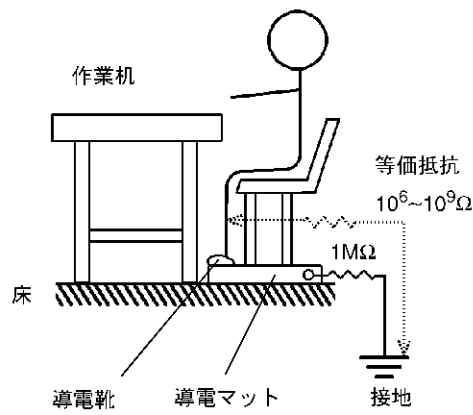


図 1-8 作業場の床の静電気対策

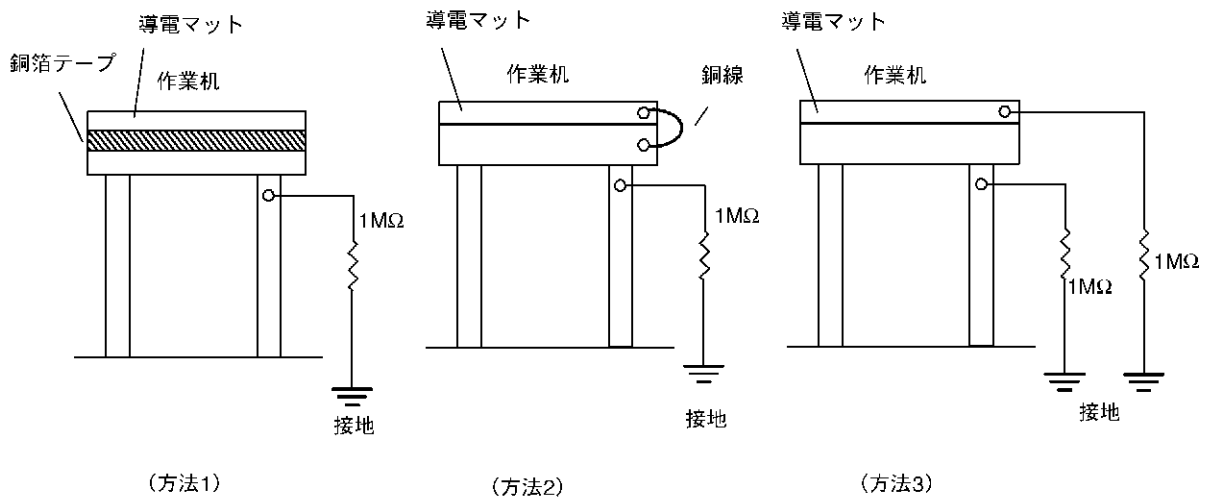


図 1-9 作業台の静電気対策

1.5 動作チェック

本器をはじめて使用するとき、以下の操作を行い、本器が正常に動作することを確認して下さい。

1. 電源が OFF になっていることを確認します。
2. 背面パネルにある AC 電源用コネクタに付属の電源ケーブルを接続します。

注意 破損防止のため、本器には指定範囲を超えた入力電圧または周波数を加えないで下さい。

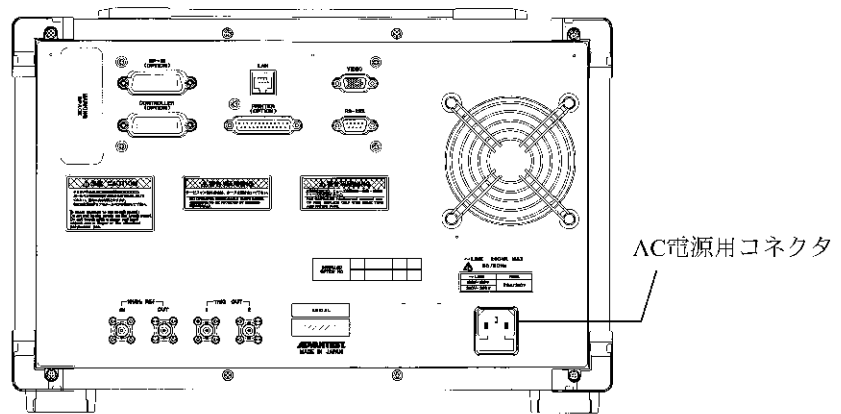


図 1-10 電源ケーブルの接続

3. 電源ケーブルをコンセントに接続します。
4. 正面パネルにある **POWER** スイッチを ON にします。

本器はイニシャル・テストを行い、次にプログラムをロードします (処理時間: 約 120 秒)。

正常に終了すると、図 1-11 のようなスタートアップ画面が表示されます。

注意 異常が発生すると、画面にエラー・メッセージが表示されます。エラー・メッセージ一覧を参照し、対処して下さい。

1.5 動作チェック

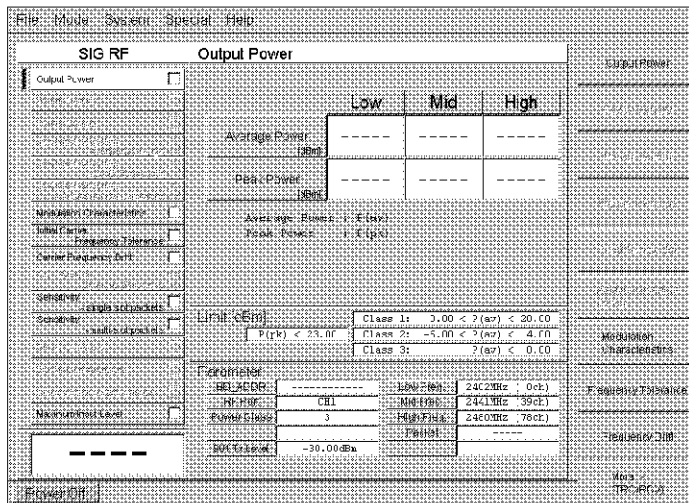


図 1-11 スタートアップ画面

注 本器のバックアップ機能により、本器を一度使用すると、前回、電源を OFF にした直前の状態と同一の設定条件を反映した Measure 画面で本器は立ち上がります。

1.6 本器の清掃、保管および輸送方法

1.6.1 清掃

本器の汚れは、柔らかい布または小さなブラシで適宜拭き取って下さい。ブラシは、正面パネルのキー周りの清掃に使用して下さい。取れにくい汚れは、中性洗剤を混ぜた水に浸した布で拭き取って下さい。

注意

1. 水が本器の内部に入らないようにして下さい。
2. ベンゼン、トルエン、キシレン、アセトン等の有機溶剤は、使用しないで下さい。プラスチック類を変質させる原因となります。
3. クレンザは使用しないで下さい。

1.6.2 保管

本器は、 -20°C ~ $+60^{\circ}\text{C}$ の温度範囲で保存して下さい。本器を長期間（90 日以上）使用しない場合は、乾燥剤とともに防湿の袋に入れて保存して下さい。また、埃のない、直射日光の当たらない場所に保管して下さい。

1.6.3 輸送

本器を輸送する場合は、最初に本器をお届けした段ボール箱を使用して下さい。もし、最初の段ボール箱がない場合は、以下の要領で梱包して下さい。

梱包手順

1. 緩衝材を入れるため、内部寸法が本器の外形寸法より 15cm 以上大きい段ボール箱を用意します。
2. 本器に保護シートを被せます。
3. 緩衝材をダンボール箱の内側に入れて、本器のすべての面を緩衝材でくるみます。
4. ダンボール箱を工業用ホッチキスで止めるか、梱包用テープで止めます。

本器を修理のために当社または代理店へ送る場合は、以下の項目を記入した荷札を付けて下さい。

- 貴社名および住所
- 担当者名
- シリアル番号（背面パネルにあります）
- サービス要求の内容

1.7 ウォームアップについて

1.7 ウォームアップについて

本器が室温になじんでから、**POWER** スイッチを ON にして 30 分以上のウォームアップをして下さい。

注 本体表面が結露している場合、完全に乾ききるまで、本器の電源を ON にしないで下さい。

1.8 校正について

校正作業は当社への引上げ作業となります。
本器の校正については、当社または代理店へお問い合わせ下さい。

推奨校正期間	1 年
--------	-----

1.9 寿命部品について

本器では、「本器を安全に取り扱うための注意事項」で記載した寿命部品のほかに以下の寿命部品を使用しています。
以下の交換時期を目安に交換して下さい。

部品名称	寿命
パネル・キー・スイッチ	50 万回動作（参考値）
液晶ディスプレイ・バックライト	40,000 時間動作（参考値）
ロータリ・エンコーダ	250 万回動作（参考値）

2. 操作

この章では、以下の項目について説明します。

- パネル面の説明
- 画面の説明
- 基本操作例
- テスト例

2.1 パネル面の説明

2.1.1 正面パネル

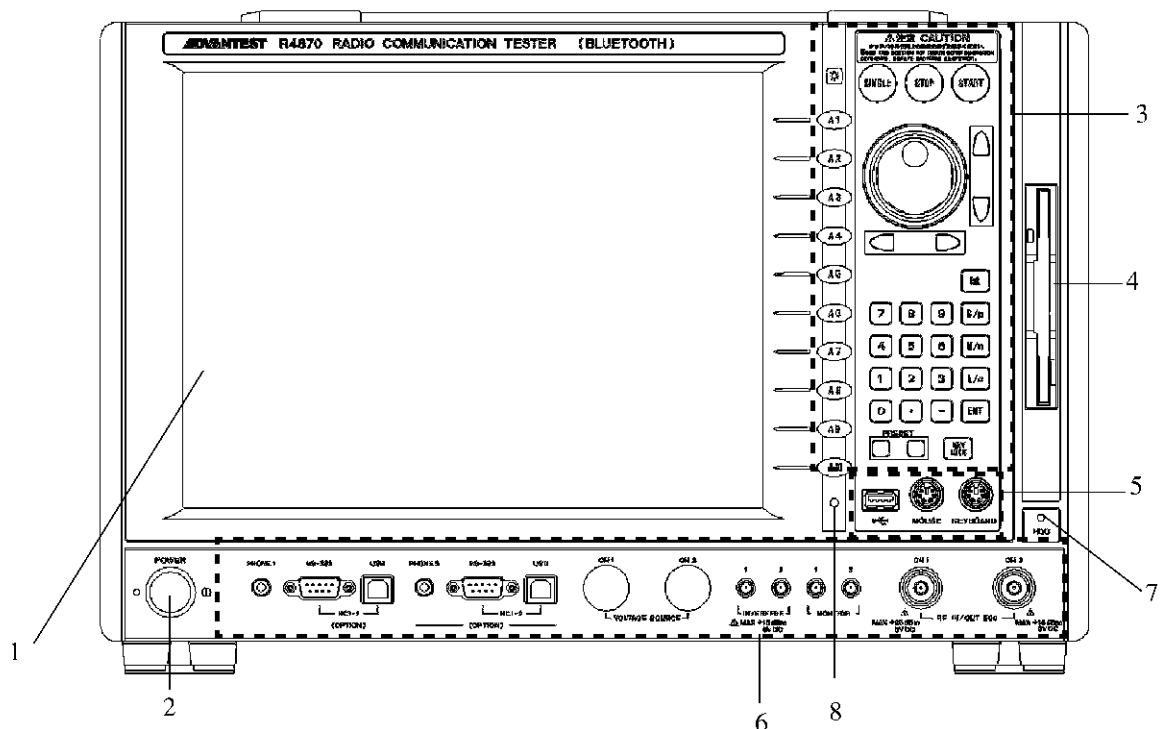


図 2-1 正面パネル

- | | |
|-----------------|---|
| 1. タッチ・スクリーン | テスト・データ、設定条件、その他の情報を表示します。表示のみでなく、設定条件の変更も行えます。 |
| 2. POWER スイッチ | 電源を ON にします。非常時のみ、電源を OFF にするときに使用します。 |
| 3. エントリ・キー・ブロック | 設定変更用のキー・スイッチ・ボタンのブロックです (2.1.1.1 項を参照)。 |

2.1.1 正面パネル

- | | |
|--------------------|--|
| 4. フロッピー・ディスク・ドライブ | 3.5 インチ・フロッピー・ディスク・ドライブです。 |
| 5. I/F コネクタ・ブロック | キーボード、マウス、USB 用の I/F コネクタ・ブロックです (2.1.1.2 項を参照)。 |
| 6. テストポート・ブロック | テスト用のテストポート・コネクタ・ブロックです (2.1.1.3 項を参照)。 |
| 7. HDD アクセス・ランプ | HDD (ハードディスク) へのアクセス時に点灯します。 |
| 8. パワー・ランプ | 電源 ON のときに点灯します。 |

2.1.1.1 エントリ・キー・ブロック

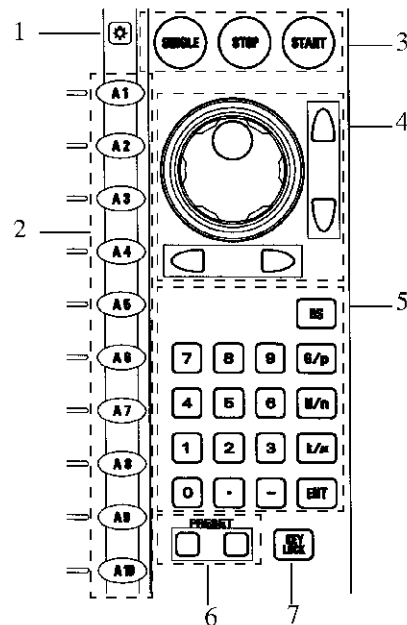


図 2-2 エントリ・キー・ブロック

- | | | |
|----|-------------------|--|
| 1. | バックライト・スイッチ | タッチ・スクリーンのバックライトを ON/OFF します。 |
| 2. | アプリケーション・ボタン | タッチ・スクリーンのサイド・メニューを選択します。 |
| 3. | プログラム・ボタン | テストを制御します。
SINGLE: 選択した 1 項目のテストを実行します。
STOP: テストを中断します。
START: 選択した複数項目のテストを開始します。 |
| 4. | データ・ノブ、アップ・ダウン・キー | データ・ノブとアップ・ダウン・キーです。
データ・ノブ:
左右に回し、数値入力 of 微調整をします。
アップ・ダウン・キー:
△ ▽ テキスト・ボックス間をステップ移動します。
◀ ▶ 数値入力の際、テキスト・ボックス内のカーソルを移動します。 |
| 5. | 数値入力キー | 数値を入力するキーです。
BS: バック・スペース・キー
G/p: 周波数の場合は GHz、時間情報の場合は psec の単位キーになります。
M/n: 周波数の場合は MHz、時間情報の場合は nsec の単位キーになります。 |

2.1.1 正面パネル

- k/ μ : 周波数の場合は kHz、時間情報の場合は μ sec の単位キーになります。
- ENT: 基本単位キー、周波数は Hz、時間は sec です。
6. PRESET ボタン
本器を初期化します。右側を押したまま、左側キーを押すと有効になります。
7. KEY LOCK ボタン
キー入力をロックします。
タッチ・スクリーン等はロックされません。

2.1.1.1 エントリ・キーとキーボードの対応

ここでは、エントリ・キーとキーボードの対応を示します。ただし、一部、エントリ・キー以外の操作を含みます。

表 2-1 エントリ・キーとキーボードの対応

エントリ・キー		キーボード
アプリケーション・ボタン	A1 ~ A10	F1 ~ F10
プログラム・ボタン	SINGLE	Shift + F2
	STOP	Shift + F3
	START	Shift + F4
データ・ノブ、アップ・ダウン・キー	◀ ▶	←、→
	△	Page Up
	▽	Page Down
	データ・ノブ	↑、↓
数値入力キー	0 ~ 9	0 ~ 9
	. (小数点)	.
	- (マイナス)	-
	k/ μ	Shift + F7
	M/n	Shift + F6
	G/p	Shift + F5
	BS	Back space
	ENT	Enter
PRESET ボタン (右側、左側)		Shift + F8
タッチ・スクリーン上でのチェック・ボックス ON/OFF		Shift + space

2.1.1.2 I/F コネクタ・ブロック

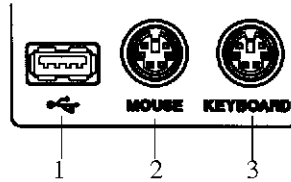


図 2-3 I/F コネクタ・ブロック

1. USB コネクタ： アクセサリ用のコネクタです。
2. MOUSE コネクタ： マウス用のコネクタです。マウスを使用する場合は、電源投入前にマウスを接続して下さい。

注 電源投入後にマウスを接続するとマウスは使用できません。

3. KEYBOARD コネクタ： キーボード用のコネクタです。キーボードは電源投入後に接続しても使用できます。

注 キーボードが機能しない場合には、タッチ・スクリーンまたはマウスによる操作で、一度電源を OFF にして下さい。電源投入前にキーボードを接続してから、再度電源を ON にすると、キーボードは機能します。

2.1.1 正面パネル

2.1.1.3 テストポート・ブロック

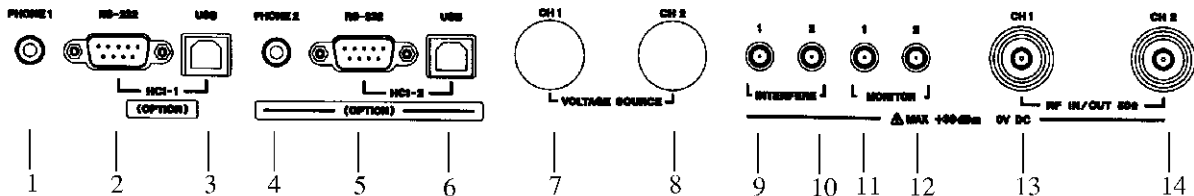


図 2-4 テストポート・ブロック

- | | |
|------------------------|--------------------------------|
| 1. PHONE 1 コネクタ | 音声信号をモニタします。 |
| 2. RS-232 (HCI-1) コネクタ | 未使用 (オプションが必要です) |
| 3. USB (HCI-1) コネクタ | 未使用 (オプションが必要です) |
| 4. PHONE 2 コネクタ | 未使用 (オプションが必要です) |
| 5. RS-232 (HCI-2) コネクタ | 未使用 (オプションが必要です) |
| 6. USB (HCI-2) コネクタ | 未使用 (オプションが必要です) |
| 7. VOLTAGE SOURCE CH 1 | 未使用 (オプションが必要です) |
| 8. VOLTAGE SOURCE CH 2 | 未使用 (オプションが必要です) |
| 9. INTERFERE 1 コネクタ | 外部妨害波信号をテストの信号に合成、入力します。 |
| 10. INTERFERE 2 コネクタ | 外部妨害波信号をテストの信号に合成、入力します。 |
| 11. MONITOR 1 コネクタ | 基本信号 (IUT* 出力信号) からの信号をモニタします。 |
| 12. MONITOR 2 コネクタ | 基本信号 (IUT 出力信号) からの信号をモニタします。 |
| 13. CH 1 コネクタ | CH1 の信号を入出力します。 |
| 14. CH 2 コネクタ | CH2 の信号を入出力します。 |

* IUT: Implementation Under Test

注意 INTERFERE 1、INTERFERE 2、MONITOR 1、MONITOR 2、CH2 の 5 つのターミナルを他の測定器に接続しない場合には、付属の 50 Ω 終端器で必ず終端して下さい。開放 (または短絡) したままで使用すると、CH1 の周波数特性が乱れて、テスト結果に悪影響が出ますのでご注意下さい。

2.1.2 背面パネル

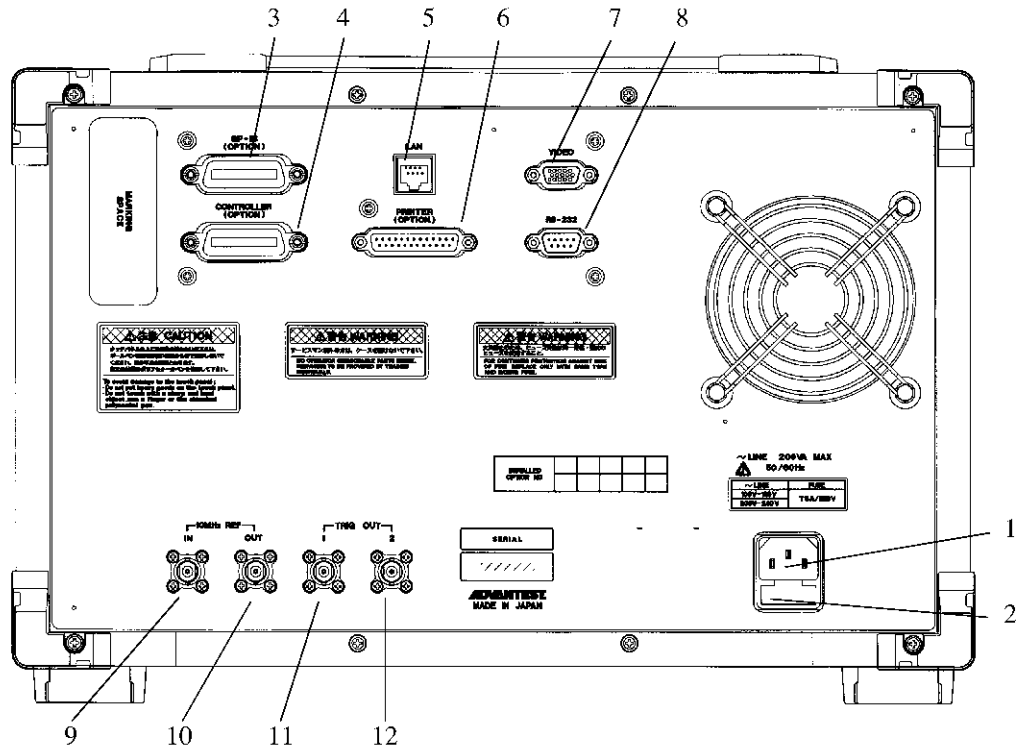


図 2-5 背面パネル

- | | |
|------------------------|---|
| 1. AC 電源用コネクタ | 3ピン構造で、中央上のピンがアース用端子です。 |
| 2. ヒューズ・ホルダ | 内蔵のヒューズ・ホルダにヒューズが収納されています。予備のヒューズも1個あります。 |
| 3. GP-IB コネクタ | 未使用（オプションが必要です） |
| 4. CONTROLLER コネクタ | 未使用（オプションが必要です） |
| 5. LAN コネクタ | 10BaseT 用の LAN コネクタです。 |
| 6. PRINTER コネクタ | 未使用（オプションが必要です） |
| 7. VIDEO コネクタ | VIDEO VGA 出力コネクタです。 |
| 8. RS-232 コネクタ | HCI* 用のコネクタです。 |
| 9. 10MHz REF IN コネクタ | 外部 10MHz リファレンスの入力コネクタです。 |
| 10. 10MHz REF OUT コネクタ | 10MHz リファレンスの出力コネクタです。 |
| 11. TRIG OUT 1 コネクタ | 内部 Bluetooth ユニットのトリガ出力コネクタです。 |
| 12. TRIG OUT 2 コネクタ | 未使用（オプションが必要です） |

* HCI: Host Control Interface

2.2 画面の説明

2.2 画面の説明

2.2.1 操作メニュー

画面には、情報画面の周りに操作メニューが表示されます。メニューはタッチ・ペンまたはマウスを使用して操作します。

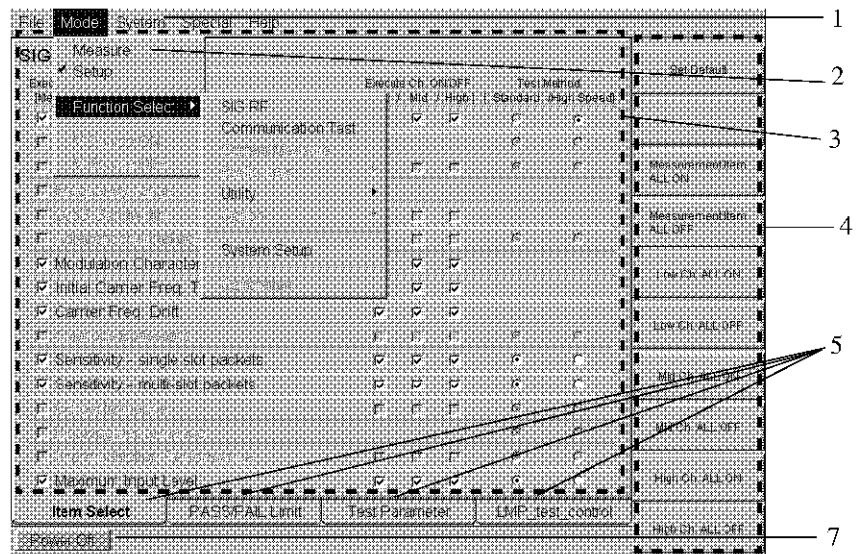


図 2-6 画面の表示例 1

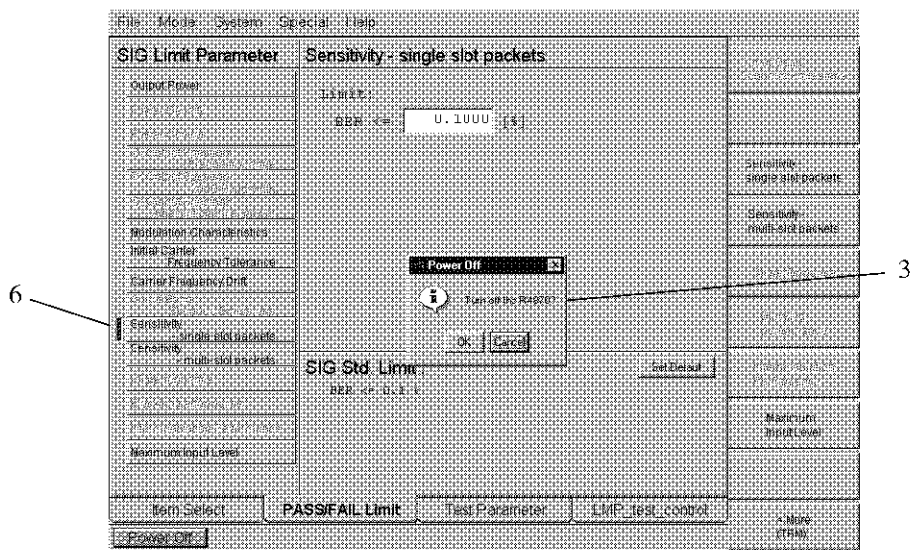


図 2-7 画面の表示例 2

1. メイン・メニュー
このメニューから、テストの実行モード、テスト条件モードおよび機能の選択モードを切り替えます。メニューをクリックするとドロップダウン・メニューが表示されます。
2. ドロップダウン・メニュー
メイン・メニューにのみ、ドロップダウン・メニューがあります。メイン・メニューをクリックするとドロップダウン・メニューが表示されます。
3. ダイアログ・ボックス
テストのための各種設定を行うためのウィンドウです。また、システムの動作に関わる内容のダイアログ・ボックスの場合は、画面中央に表示されます。
4. サイド・メニュー
スタートアップ画面やテスト条件の設定時の画面など、画面の内容にあった項目がサイド・メニューとして表示されます。
サイド・メニューはアプリケーション・ボタン (A1 ~ A10) から操作できます。
5. タブ
テスト条件画面を3パターンに分けて表示します。タブをクリックするとそれぞれの条件画面に切り替わります。
6. テスト項目インジケータ
すべてのテスト項目が表示されます。青いバーは、現在操作中の項目であることを示しています。
7. Power Off ボタン
電源を OFF にするときに使用します。

2.3 基本操作例

2.3 基本操作例

ここでは、本器の基本的な操作を理解するための操作方法を説明します。

2.3.1 電源の投入

1. 本器の電源が OFF になっていることを確認します。
2. 背面パネルにある AC 電源用コネクタに付属の電源ケーブルを接続します。
3. 電源ケーブルをコンセントに接続します。
4. 正面パネルにある **POWER** スイッチを ON にします。

注意 フロッピー・ディスクを挿入した状態で **POWER** スイッチを ON にしないで下さい。

イニシャル・テストが終了すると次にプログラムをロードします（処理時間：約 120 秒）。

正常に終了すると、たとえば図 2-8 のような Measure 画面が表示されます。

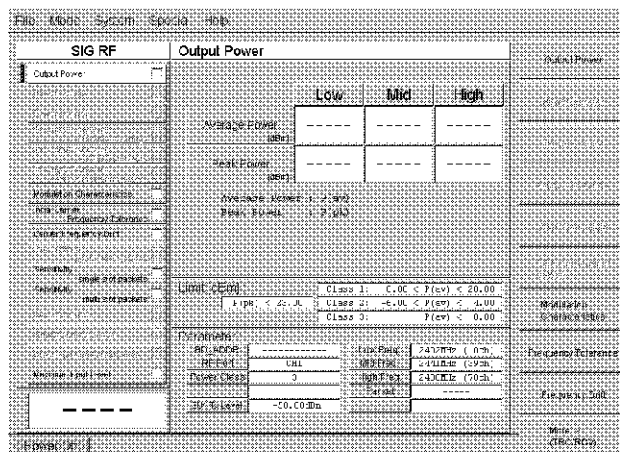


図 2-8 スタートアップ画面例（Measure 画面）

注

1. 本器のバックアップ機能により、本器を一度使用すると、前回に電源を OFF にした直前の状態と同一の設定条件を反映した Measure 画面で本器は立ち上がります。
2. テスト項目がグレーアウトになっている項目は、本器でサポートしていません。また、テスト項目が表示されていても、判定枠がグレーになっている項目はテスト項目として選択されていません。

2.3.2 メイン・メニューとドロップダウン・メニューの設定

メイン・メニューから File、Mode、System、Special、Help のドロップダウン・メニューを選択することができます。

メイン・メニューからのドロップダウン・メニューの選択

たとえば、Measure 画面（図 2-8）を元にメニューを選択します。

1. メイン・メニューの **Mode** をクリックして、ドロップダウン・メニューの **Function Select** → **Communication Test** と選択します。

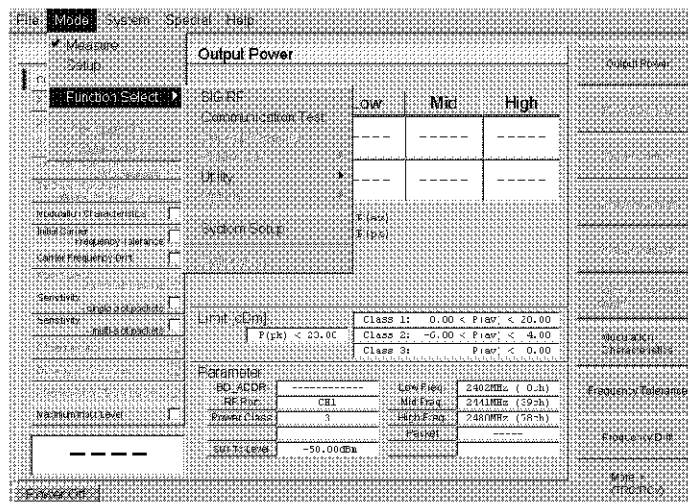


図 2-9 メイン・メニューからのドロップダウン・メニューの選択

注 ドロップダウン・メニューの Function Select は、機能にかかわるすべてのメニューを選択できます。詳細は、3.2.1 および 3.3.1 を参照して下さい。

2.3.3 サイド・メニューの設定

2.3.3 サイド・メニューの設定

ドロップダウン・メニューを選択すると選択したメニューに対応したサイド・メニューが表示されます。

サイド・メニューの選択

たとえば、SIG Item Select 画面を元に Measurement Item のすべての設定を初期設定に戻します。

1. メイン・メニューの **Mode** をクリックして、ドロップダウン・メニューの **Setup** を選択します。
SIG Item Select 画面が表示されます。

注 上記の設定で図 2-10 が表示されない場合は、さらにメイン・メニューの **Mode** をクリックして、ドロップダウン・メニューの **Function Select** → **SIG RF** と選択します。

Exp. Measure	Parabolic Curve	Time Delay	Time Spread	Measurement Item
<input checked="" type="checkbox"/> Channel Power	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	Measurement Item ALL ON
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	Measurement Item ALL OFF
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	Measurement Item ALL OFF
<input checked="" type="checkbox"/> Modulation Characteristics	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	Modulation ALL ON
<input checked="" type="checkbox"/> Signal Quality Error Features	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	Signal Quality ALL OFF
<input checked="" type="checkbox"/> Channel Frequency Error	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	Channel ALL OFF
<input checked="" type="checkbox"/> Sensitivity - Single Tone Modulation	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	Modulation ALL OFF
<input checked="" type="checkbox"/> Sensitivity - Modulation Bandwidth	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	Modulation ALL OFF
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	Modulation ALL OFF
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	Modulation ALL OFF
<input checked="" type="checkbox"/> Measurement Item Level	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	Modulation ALL OFF
Item Select:	PARABOLIC CURVE	Test Parameters	TIME DELAY	MEASUREMENT ITEM ALL OFF

図 2-10 サイド・メニューによる項目の選択

2. サイド・メニューの **Set Default** をクリックします。
すべての設定が初期設定に戻ります。

注 **Set Default** をクリックする代わりにアプリケーション・ボタンの **A1** を押すことでも、初期設定に戻ります。
A1 ~ **A10** のアプリケーション・ボタンは、サイド・メニューに対応しています。ただし、アプリケーション・ボタンを押しても、サイド・メニューをクリックしたときに出るタッチ音は鳴りません。

2.3.4 タブによる画面の切り替え

タブを使用することにより、以下の4つのテスト条件画面を容易に切り替えられます。

1. Item Select
テスト項目の選択メニューを表示します。
2. PASS/FAIL Limit
テストの判定値の設定メニューを表示します。
3. Test Parameter
テストのための Parameter の設定メニューを表示します。
4. LMP_test_control
テスト中の通信条件の設定メニューを表示します。

タブによる画面の切り替え

たとえば、SIG Limit Parameter 画面から SIG Item Select 画面に切り替えます。

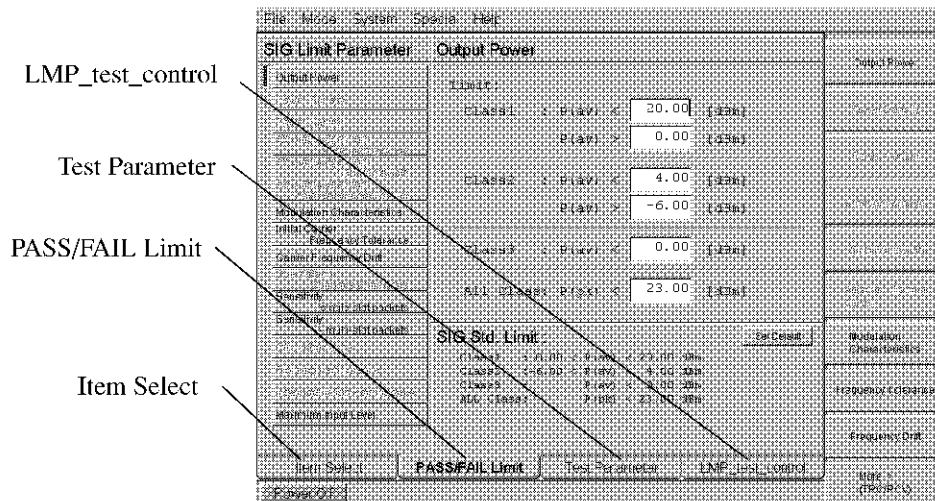


図 2-11 タブによる画面の切り替え表示例 1

1. 図 2-11 の **Item Select** タブをクリックします。
SIG Item Select 画面に切り替わります (図 2-12 参照)。
SIG のテスト項目を選択できます。

2.3.4 タブによる画面の切り替え

File Mode System Special Help					Setup
SIG Item Select					
<input type="checkbox"/> Error Message	<input type="checkbox"/> Pass/Fail	<input type="checkbox"/> Error	<input type="checkbox"/> Error	<input type="checkbox"/> Error	
<input checked="" type="checkbox"/> Error Message	<input checked="" type="checkbox"/> Pass/Fail	<input checked="" type="checkbox"/> Error	<input checked="" type="checkbox"/> Error	<input checked="" type="checkbox"/> Error	
<input type="checkbox"/> Error Message	<input type="checkbox"/> Pass/Fail	<input type="checkbox"/> Error	<input type="checkbox"/> Error	<input type="checkbox"/> Error	Measurement ALL OFF
<input type="checkbox"/> Error Message	<input type="checkbox"/> Pass/Fail	<input type="checkbox"/> Error	<input type="checkbox"/> Error	<input type="checkbox"/> Error	Measurement ALL OFF
<input checked="" type="checkbox"/> Modulation Characteristic	<input checked="" type="checkbox"/> Pass/Fail	<input checked="" type="checkbox"/> Error	<input checked="" type="checkbox"/> Error	<input checked="" type="checkbox"/> Error	Measurement ALL ON
<input checked="" type="checkbox"/> Initial Carrier Freq. Tolerance	<input checked="" type="checkbox"/> Pass/Fail	<input checked="" type="checkbox"/> Error	<input checked="" type="checkbox"/> Error	<input checked="" type="checkbox"/> Error	Measurement ALL ON
<input checked="" type="checkbox"/> Carrier Freq. Drift	<input checked="" type="checkbox"/> Pass/Fail	<input checked="" type="checkbox"/> Error	<input checked="" type="checkbox"/> Error	<input checked="" type="checkbox"/> Error	Measurement ALL OFF
<input type="checkbox"/> Error Message	<input type="checkbox"/> Pass/Fail	<input type="checkbox"/> Error	<input type="checkbox"/> Error	<input type="checkbox"/> Error	Measurement ALL OFF
<input checked="" type="checkbox"/> Sensitivity - single slot (cc-dis)	<input checked="" type="checkbox"/> Pass/Fail	<input checked="" type="checkbox"/> Error	<input checked="" type="checkbox"/> Error	<input checked="" type="checkbox"/> Error	Measurement ALL ON
<input checked="" type="checkbox"/> Sensitivity - m-B-slot (cc-dis)	<input checked="" type="checkbox"/> Pass/Fail	<input checked="" type="checkbox"/> Error	<input checked="" type="checkbox"/> Error	<input checked="" type="checkbox"/> Error	Measurement ALL ON
<input type="checkbox"/> Error Message	<input type="checkbox"/> Pass/Fail	<input type="checkbox"/> Error	<input type="checkbox"/> Error	<input type="checkbox"/> Error	Measurement ALL OFF
<input type="checkbox"/> Error Message	<input type="checkbox"/> Pass/Fail	<input type="checkbox"/> Error	<input type="checkbox"/> Error	<input type="checkbox"/> Error	Measurement ALL OFF
<input checked="" type="checkbox"/> Maximum Mask Level	<input checked="" type="checkbox"/> Pass/Fail	<input checked="" type="checkbox"/> Error	<input checked="" type="checkbox"/> Error	<input checked="" type="checkbox"/> Error	Measurement ALL ON
Item Select	PASS/ALL FAIL	Test/Stop	IMP. test control		Measurement ALL OFF

図 2-12 タブによる画面の切り替え表示例 2

注 Bluetooth™ SIG RF Test Specification のテストを行うときのみ、Setup モードの場合に表示されます。

2.3.5 チェック・ボックスの設定

チェック・ボックスの設定により、テスト項目、テスト条件などを設定できます。

チェックの外し方

1. チェックのあるチェック・ボックスをクリックします。
チェックが外れます。
2. 複数のチェックを外す場合、1を繰り返します。

チェックのつけ方

1. チェックのついていないチェック・ボックスをクリックします。
チェックが付きます。
2. 複数のチェックをつける場合、1を繰り返します。

チェックを一括で外すとき

たとえば、SIG Item Select 画面で、すべての Measurement Item のチェックを一括で外します。

1. サイド・メニューの **Measurement Item ALL OFF** を押します。
すべての Measurement Item のチェックが一括で外せます。

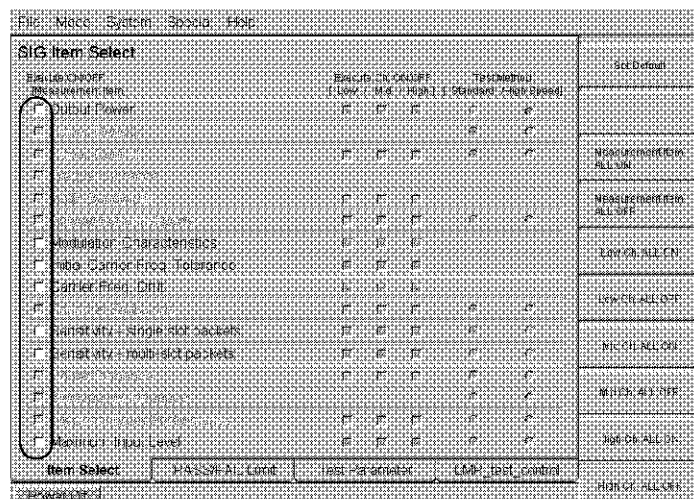


図 2-13 すべてのチェックの一括 OFF

2.3.5 チェック・ボックスの設定

チェックを一括でつけるとき

たとえば、SIG Item Select 画面で、すべての Execute Channel の Middle のチェックを一括でつけます。

1. サイド・メニューの **Mid Ch. ALL ON** を押します。
すべての Execute Ch. Mid のチェックが一括でつきます。

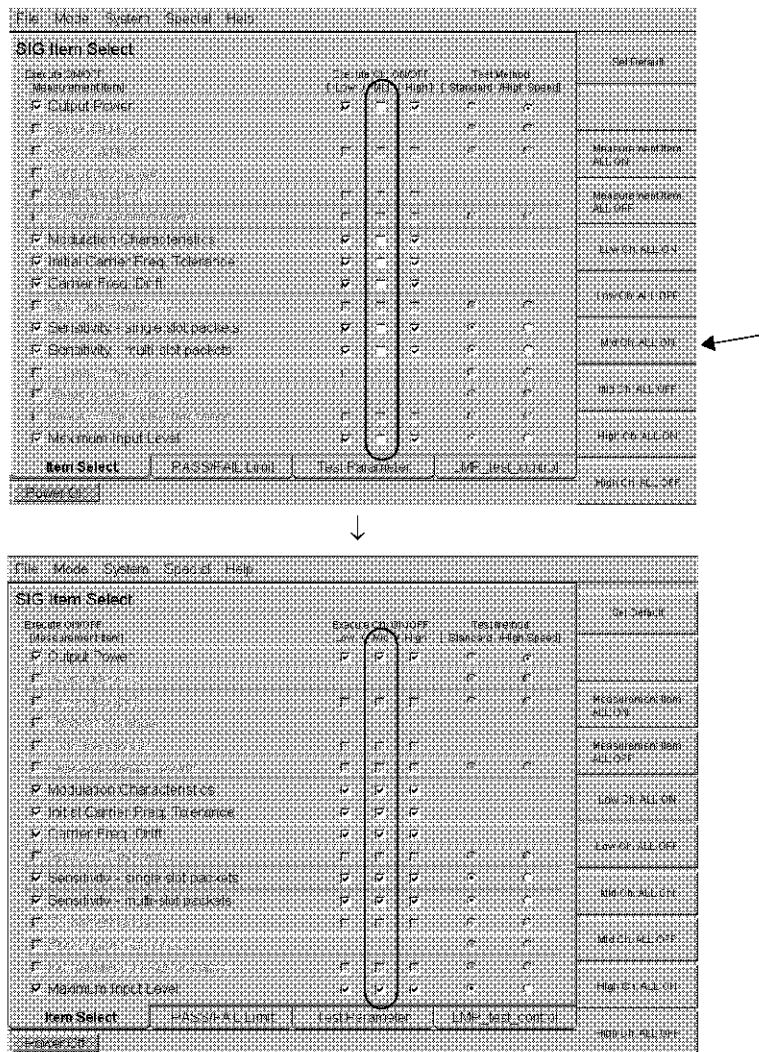


図 2-14 すべてのチェックの一括 ON

2.3.6 オプション・ボタンの設定

オプション・ボタンの設定により、2者のどちらかを単一的に選択できます。

たとえば、SIG Item Select 画面で、Test Method の Standard/High Speed を切り替えます。

1. Standard が選択されている項目 (Sensitivity-single slot packets) の High Speed 側のオプション・ボタンをクリックします。

High Speed に切り替わります。

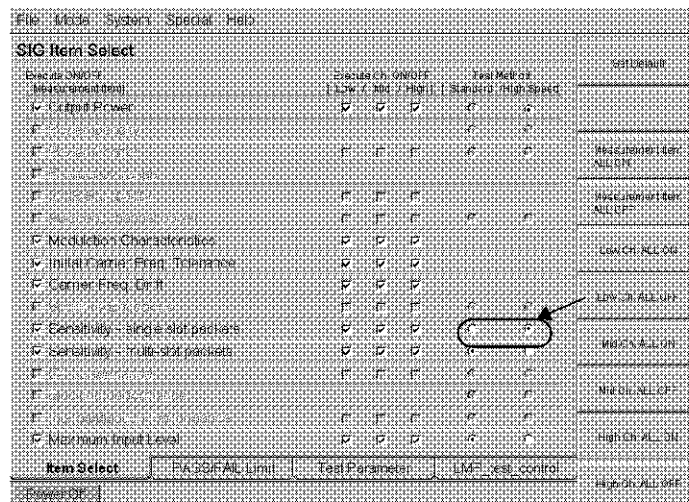
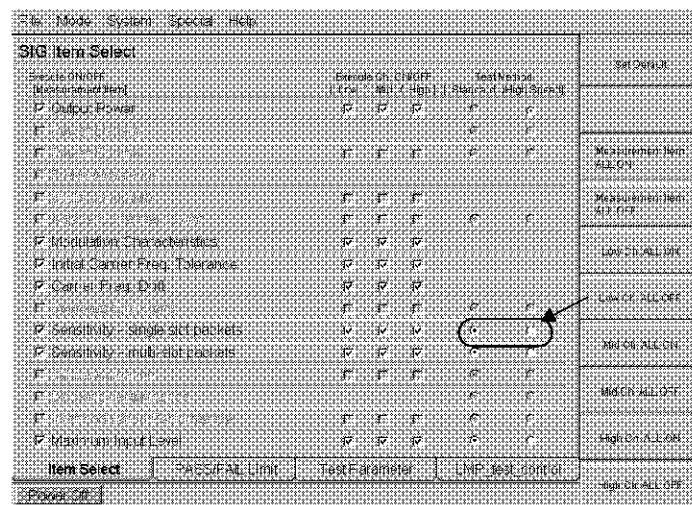


図 2-15 オプション・ボタンの設定

2.3.7 データのセーブ、ロード、デリート

2.3.7.1 データのセーブ

本器のフロッピー・ディスクおよびハード・ディスク・ドライブは、以下のデータをセーブ（保存）することができます。

- テスト条件および PASS/FAIL 判定条件
- テスト結果および PASS/FAIL 判定結果

ファイル形式には、本器専用フォーマット・ファイル以外に外部 PC で利用可能なテキスト・ファイル（拡張子:TXT）および CSV ファイル（拡張子:CSV）があり、上記のデータをセーブする際に同時に作成されます。

必要に応じて外部アプリケーションに読み込んで利用して下さい。

ハード・ディスクへのデータの保存

1. メイン・メニューの **File** をクリックして、ドロップダウン・メニューの **Save...** を選択します。
Save ダイアログ・ボックスが表示されます（図 2-16 参照）。

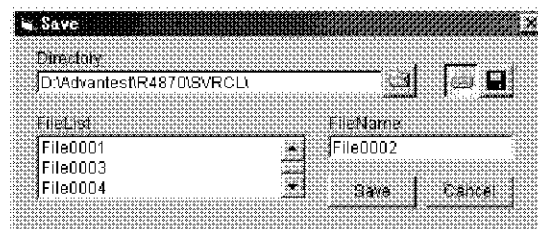



図 2-16 Save ダイアログ・ボックス

2. HDD ボタン  をクリックします。

注 フロッピー・ディスクにデータを保存する場合は、 をクリックします。

3. ディレクトリ参照ボタン  をクリックします。
Browse for Folder ダイアログ・ボックスが表示されます。

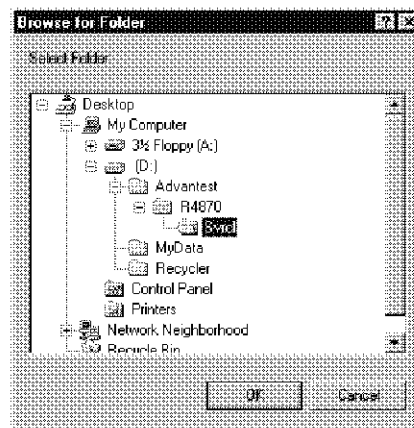


図 2-17 Browse for Folder ダイアログ・ボックス

4. 保存先のフォルダを確認し、**OK** をクリックします。
Browse for Folder ダイアログ・ボックスが閉じます。

変更する場合は、ディレクトリ名を入力します。

5. Directory テキスト・ボックス内にディレクトリ名を入力します。
\
を入力すると、ディレクトリが確定します。

注意 作成したファイルは、D ドライブに保存します。C ドライブに保存しないで下さい。本器の動作に支障をきたす場合があります。

File Name テキスト・ボックスにファイル名を入力します。

6. あらかじめ保存されているファイル名が File List 表示ボックスにリスト表示されているので、確認してからファイル名を入力します (図 2-18 参照)。
たとえば、"Test1" と入力します。

注 ファイル名には自動的に拡張子が付くため、拡張子以外の部分だけを入力します。

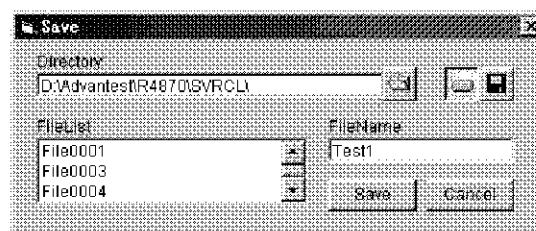


図 2-18 データの保存

2.3.7 データのセーブ、ロード、デリート

注

1. 保存されているファイルへの上書きの場合、File List 表示ボックスにあるファイルを選択すると、File Name テキスト・ボックスに選択したファイルが表示され、上書きされます。
2. 保存されているファイルを読み出して、別のファイル名を付けて保存する場合、ステップ 6 と同様、File Name に別のファイル名を入力します。

7. **Save** をクリックします。
データが指定したディレクトリに保存されます。

2.3.7.2 データのロード

本器は、フロッピー・ディスクおよびハード・ディスク・ドライブから以下のデータをロード（読み出し）することができます。

- テスト条件および PASS/FAIL 判定条件
- テスト結果および PASS/FAIL 判定結果

データの読み出し

1. メイン・メニューの **File** をクリックして、ドロップダウン・メニューの **Load...** と選択します。
Load ダイアログ・ボックスが表示されます（図 2-19 参照）。

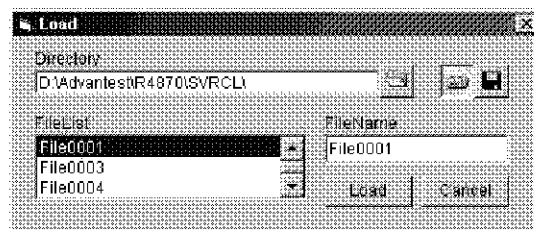




図 2-19 Load ダイアログ・ボックス

2. HDD ボタン  をクリックします。

注 フロッピー・ディスクからデータを読み出す場合は、 をクリックします。

3. ディレクトリ参照ボタン  をクリックします。
Browse for Folder ダイアログ・ボックスが表示されます。

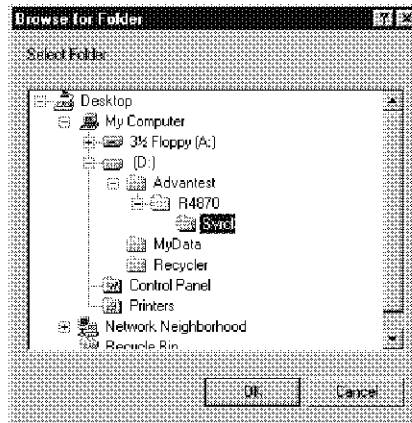


図 2-20 Browse for Folder ダイアログ・ボックス

4. 読み出すファイルのあるディレクトリを確認し、**OK** をクリックします。
Browse for Folder ダイアログ・ボックスが閉じます。

読み出し可能なファイル名が File List 表示ボックスにリスト表示されるので、その中からファイルを選択します。

5. File0004 を選択します。
File Name テキスト・ボックスに選択したファイル名が表示されます。

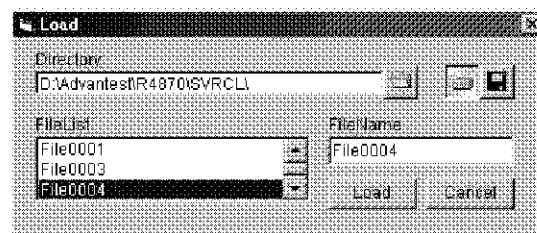


図 2-21 データのロード

6. **Load** をクリックします。
指定したファイルが読み出されます。

2.3.7 データのセーブ、ロード、デリート

2.3.7.3 データのデリート

本器は、フロッピー・ディスクおよびハード・ディスク・ドライブから以下のデータのあるファイルをデリート（削除）することができます。

- テスト条件および PASS/FAIL 判定条件
- テスト結果および PASS/FAIL 判定結果

このとき、セーブ時に作成されたテキスト・ファイル（拡張子：TXT）および CSV ファイル（拡張子：CSV）は、同時にデリート（削除）されます。

データの削除

1. メイン・メニューの **File** をクリックして、ドロップダウン・メニューの **Delete...** と選択します。

Delete ダイアログ・ボックスが表示されます（図 2-22 参照）。

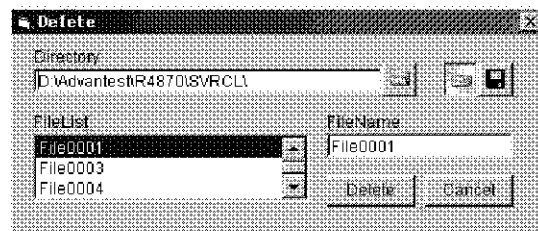



図 2-22 Delete ダイアログ・ボックス

2. HDD ボタン  をクリックします。

注 フロッピー・ディスクからデータを削除する場合は、 をクリックします。

3. ディレクトリ参照ボタン  をクリックします。
Browse for Folder ダイアログ・ボックスが表示されます。

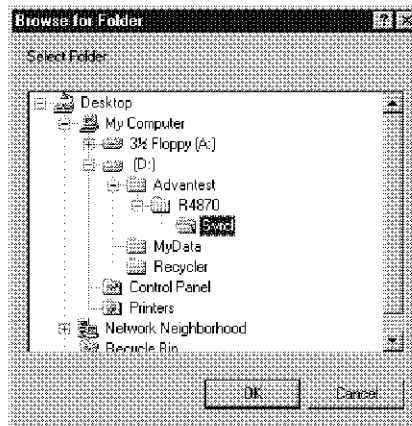


図 2-23 Browse for Folder ダイアログ・ボックス

4. デリートするファイルのあるディレクトリを確認し、**OK** をクリックします。

Browse for Folder ダイアログ・ボックスが閉じます。

5. ファイル名が File List 表示ボックスにリスト表示されるので、その中からファイルを選択します。

File Name テキスト・ボックスに選択したファイル名が表示されます。

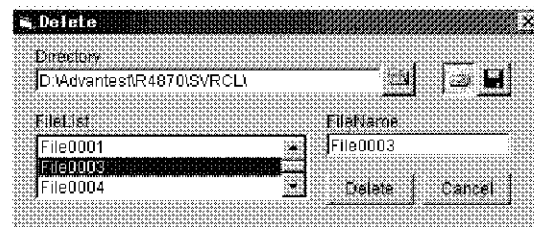


図 2-24 データの削除

6. **Delete** をクリックします。

Delete を確認するメッセージが表示されます。

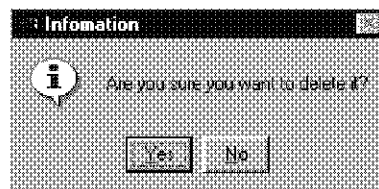


図 2-25 Delete 確認のメッセージ

7. **Yes** をクリックします。

指定したファイルが削除されます。

2.3.8 プリセット

エントリ・キー・ブロック内の **PRESET** ボタンの右側を押しながら左側のボタンを押すと、PRESET ダイアログ・ボックスが表示されます。

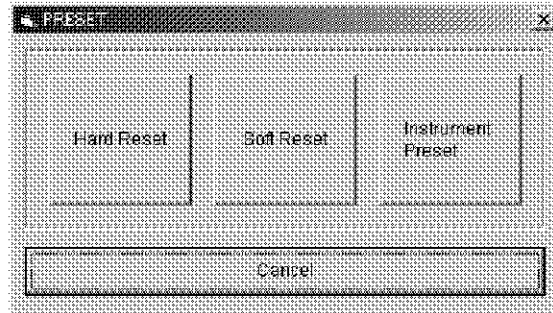


図 2-26 PRESET ダイアログ・ボックス

1. **Hard Reset**
本器のリセットおよび周波数測定確度を保証するためのキャリブレーションを行います (設定パラメータは変更されません)。
2. **Soft Reset**
本器のリセットを行い、電源投入直後の設定パラメータに戻します。
3. **Instrument Preset**
本器のリセットを行い、製品出荷時の設定パラメータに戻します。

2.3.9 本器の終了

本器を正常に終了する場合には、タッチ・スクリーン上の **Power Off** ボタンを使用します。このとき、本器は、電源を OFF にした直前の各設定（設定項目・設定パラメータ）およびテスト・メニューをバックアップします。

注意 フロッピー・ディスクを挿入した状態で、本器を終了しないで下さい。

1. **Power Off** ボタンを押します。
Power Down ダイアログ・ボックスが表示されます。

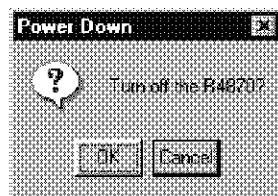


図 2-27 本器の終了

2. **OK** をクリックします。

注意 非常時または上記の操作で本器を終了できない場合、**POWER** スイッチで電源を OFF にすることがあります。このとき、動作中のデータは、失われる場合があります。

2.3.10 システム・クロック設定

Time Zone、Date、Time の変更、または修正が必要な場合に、以下のダイアログ・ボックスを開いて行います。

システム・クロックの設定

1. メイン・メニューの **System** をクリックして、ドロップダウン・メニューの **Time Adjust** を選択します。
Date/Time Properties ダイアログ・ボックスが表示されます。

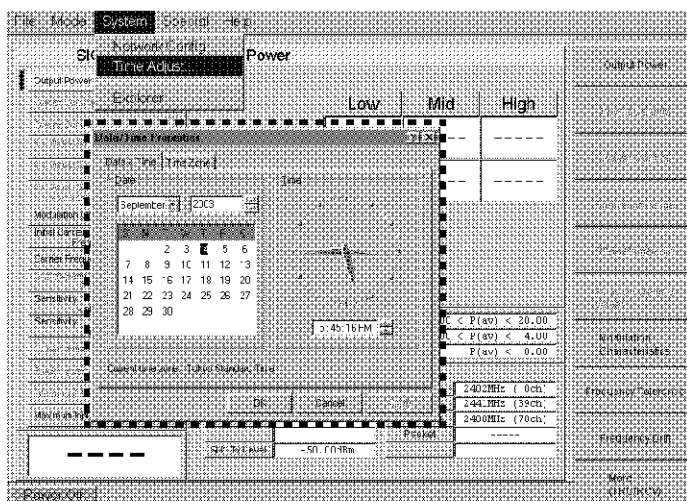


図 2-28 Date/Time Properties ダイアログ・ボックス

注意

1. Date/Time Properties での日付と時刻がテスト・ファイルのタイム・スタンプとして書き込まれます。設定に誤りのないことを確認して下さい。
2. 長期間の使用においては、時刻にずれが生じてきますので、使用開始時等に表示時刻を確認して下さい。
3. 時刻を修正しても、本体の電源を OFF にすると元に戻ってしまう場合は、本器に内蔵されている CPU のバックアップ電池が消耗している場合が考えられます。そのような場合には、最寄りのアドバンテスト営業所または代理店にお問い合わせ下さい。

2.3.11 Explorer の表示

Explorer を表示すると、本器に内蔵された記憶装置内のファイル操作やネットワーク経由で他のパソコンとのファイルをアクセスすることができます。

1. メイン・メニューの **System** をクリックして、ドロップダウン・メニューの **Explorer** を選択します。

Explorer ダイアログ・ボックスが表示されます。

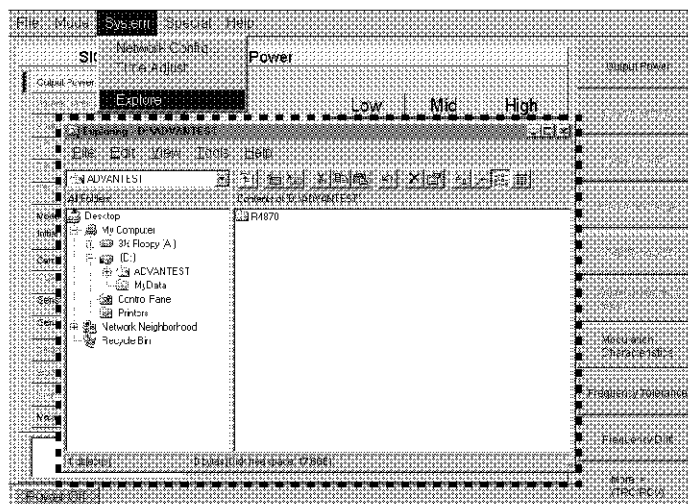


図 2-29 Explorer ダイアログ・ボックス

注意

1. ドライブ "D" での「D: Advantest」のディレクトリ、およびその下にあるディレクトリの削除や名前変更等は行わないで下さい。
「D: Advantest....」のディレクトリを誤って削除したあと、ドロップダウン・メニューの操作を行っても、図 2-30 のエラー・メッセージが現れ、エクスプローラは表示されません。



図 2-30 Explorer エラー・メッセージ

2. 誤って「D: Advantest....」のディレクトリの削除、または名前の変更をしてしまった場合には、本器の電源をいったん OFF にして、再度電源を ON にすることでディレクトリが作成されます。ただし、削除してしまった場合は、それまでにこれらのディレクトリに作成したファイルやリモート制御による測定アプリケーション作成用に用意されたファイルも削除されてしまいます。

2.4 テスト条件の設定方法

2.4.1 RS-232 設定 (HCI 制御時)

HCI 制御の場合は、ボー・レート設定を間違えると IUT がまったく応答しません。そこで、テストするデバイスに合わせた本器の RS-232 設定が必要になります。

RS-232 Port の選択

1. メイン・メニューの **Mode** をクリックして、ドロップダウン・メニューの **Function Select** → **System Setup** と選択します。

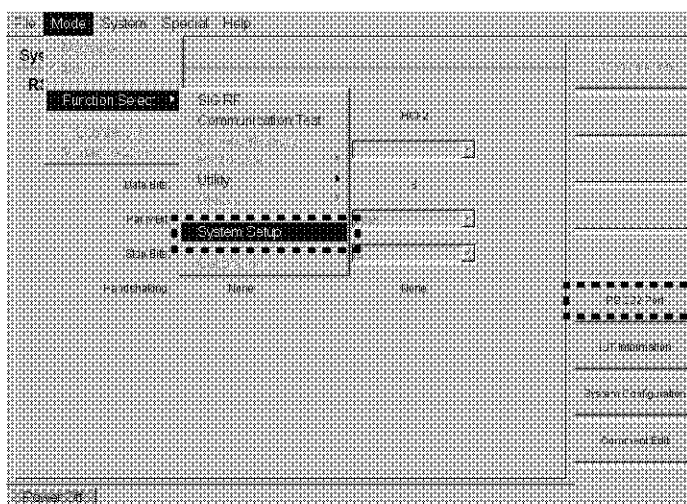


図 2-31 RS-232 Port の選択

2. サイド・メニューの **RS-232 Port** をクリックします。

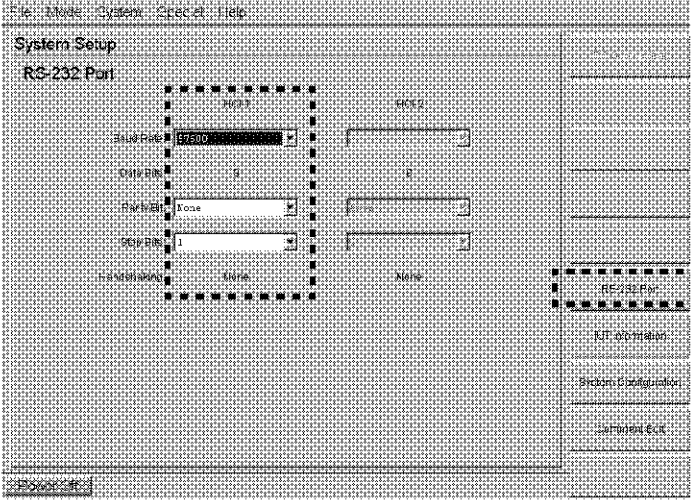


図 2-32 RS-232 Port - HCI-1 の設定

HCI-1 の設定

- 3. Baud Rate、Parity Bit および Stop Bits を IUT に合わせて設定します。

項目	設定値
Baud Rate	1200/2400/4800/9600/14400/19200/38400/57600/115200
Parity Bit	Even/Odd/None
Stop Bits	1/1.5/2

2.4.2 IUT Information 設定

2.4.2 IUT Information 設定

IUT Information (図 2-33 (1) ~ (5)) で、IUT に合った設定を行います。

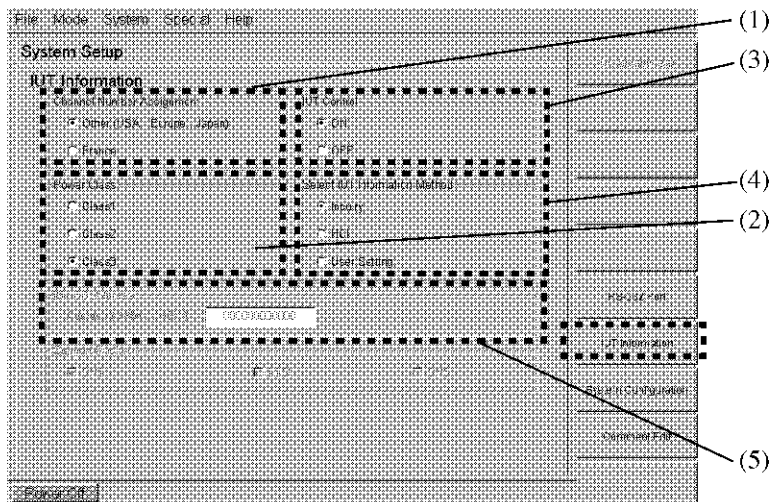


図 2-33 IUT Information

Channel Number Assignment

ホッピング・チャンネルにより、2 項に分かれています。

1. 79 チャンネル、23 チャンネルのうち、どちらかを選択します (図 2-33 (1) 参照)。

Other (USA, Europe, Japan): 79 チャンネル

France: 23 チャンネル

Power Class

2. SIG で定義されている RF 送信電力の最大出力クラスを選択します (図 2-33 (2) 参照)。

Class 1: 100 mW (Max) ~ 1 mW (Min)

Class 2: 2.5 mW (Max) ~ 1 mW ~ 0.25 mW (Min)

Class 3: 1 mW (Max)

IUT Control

3. 本器背面パネルの RS-232 ポートで被測定物の制御方法を選択します (図 2-33 (3) 参照)。

ON: HCI による IUT 制御可能
(4) の HCI チェック・ボックスが有効になります)

OFF: HCI による IUT 制御不可になるとともに Communication Test が実行できなくなります。
(4) の HCI チェック・ボックスが無効になります)

Select IUT Information Method

4. 被測定物のボード・アドレスやサポート・パケットの情報設定を自動／手動で行うかを選択します (図 2-33 (4) 参照)。
Inquiry: Inquiry (RF 通信) で IUT の固有情報を得る
HCI: HCI (有線) で IUT の固有情報を得る
User Setting: 本器側であらかじめ IUT の固有情報を設定する (ステップ 5 参照)

IUT BD Address

5. ステップ 4 で、User Setting を選択した場合に、被測定物のボード・アドレスを直接入力します (図 2-33 (5) 参照)。

Support Packet

6. ステップ 4 で、User Setting を選択した場合に、DH1、DH3、および DH5 のパケット・タイプを複数個、任意に選択できます (図 2-33 (5) 参照)。

2.4.3 System Configuration 設定

System Configuration での各設定項目（図 2-34 (1)～(6)）を説明します。

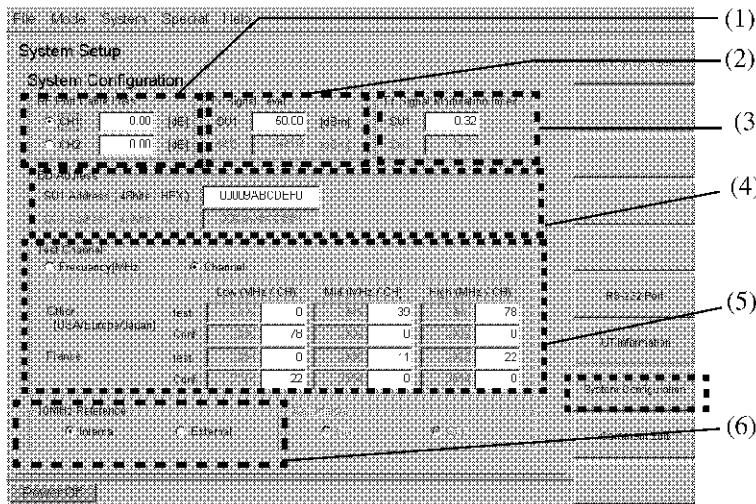


図 2-34 System Configuration 設定

RF Port Cable Loss

本器には RF IN/OUT Port が 2 チャンネルあります。

CH1: SIG/TELEC 等の規格試験用ポート

CH2: 内蔵ユニットと IUT 間損失を低く抑えたポート

1. CH1, CH2 に IUT を繋ぐケーブルの損失を入力します(図 2-34 (1) 参照)。
ケーブル損失の入力範囲: 0 ~ 30 [dB]

RF の送信電力テスト結果にケーブル損失分を補った値が表示されます。

このとき、(2) の最大出力レベルについては、入力されたケーブル損失分に対して送信電力レベルを 1 [dB] 分解能で補正します。

最大出力 = -13 dBm - ケーブル損失 (1 dB ステップ)

注 Port Cable Loss は、RX および TX に関して、以下のように取り扱われます。

- Output Power 測定
測定結果にケーブル損失分が加算された値で、画面に表示されます。
- Tx Signal Level 設定
設定値の少数点以下第 1 位の桁を四捨五入した値が実際の出力値になります。したがって、少数点以下の四捨五入による誤差が発生するため、製品の設定確度を超える場合があります。

Tx Signal Level

2. 本器の RF 送信出力レベルを設定します (図 2-34 (2) 参照)。
出力レベル範囲: -15 ~ -85 [dBm] (1 dB ステップ)

ステップ 1 で設定されたケーブル損失分だけ最大出力レベルの設定値は低くなります。

Tx Signal Modulation Index

3. 本器の組込通信ユニットの変調指数を設定します (図 2-34 (3) 参照)。
変調指数: 0.2 ~ 0.4 (0.01 ステップ)

BD Address

4. 本器の組込通信ユニットの BD Address を設定します (図 2-34 (4) 参照)。
入力には外部キーボードを使用します (図 2-34 (3) 参照)。

BD Address: 000000000000 ~ FFFFFFFF (h)

Test Channel

5. RF 通信試験時の周波数またはチャンネル条件を設定します。(図 2-34 (5) 参照)。

設定のテキスト・ボックスは周波数帯ごとに、Other (USA/Europe/Japan) 2 項目と France 2 項目の計 4 項目に分かれています。

Test では、IUT を試験時の周波数またはチャンネルに設定します。

Conf. では、Loopback Mode 設定時のみ、対向周波数 (またはチャンネル) を設定します。(TX Mode 設定時には周波数またはチャンネル条件を設定できません。)

つまり、送信機試験を行ったときの IUT の受信周波数、および受信機試験を行ったときの IUT の送信周波数を設定します。

試験周波数またはチャンネルの設定範囲は以下のとおりです。

Other (USA/Europe/Japan):

2402 ~ 2480 [MHz]

0 ~ 78 [ch]

France: 2454 ~ 2476 [MHz]

0 ~ 22 [ch]

2.4.3 System Configuration 設定

10 MHz Reference

6. 基準周波数源 (10 MHz) を選択します (図 2-34 (6) 参照)。
- Internal: R4870 内蔵の基準源
(10 MHz REF OUT は R4870 基準信号を出力)
- External: 外部からの基準源
(10 MHz REF OUT は外部基準信号を出力)

注 外部基準信号の入力範囲は、「性能諸元」を参照して下さい。

2.4.4 Comment Edit 設定

本器はテスト・データにコメントを付けて記憶装置に記録できます。

コメントの入力

1. 各テキスト・ボックスごとに外部キーボードから英数字入力を行い、入力が完了したら **ENTER** を押して下さい。

各テキスト・ボックスの入力仕様

Unit Name/Lot Number: 20 文字

Device Number: 20 文字

Device Number Auto Increment: ON/OFF

注 Device Number Auto Increment が ON になっていると、ファイル保存ごとに Device Number が "+1" 自動加算されます。

User Comment - Item: 20 文字 × 8 項目

User Comment - Comment: 40 文字 × 8 項目

The screenshot shows the 'System Setup' menu with the following settings:

- Unit Name: R4870
- Lot Number: 12345
- Device Number: 120456709
- Device Number Auto Increment:

Below the settings is a table for 'User Comment' with 8 columns labeled 'Sample' and 'Comment'. The first row has 'TEST1' in the 'Sample' column. The table is followed by several menu options: 'PS-255 Raw', 'UT Memory', 'Device Number Auto Increment', and 'Selected File'.

図 2-35 Comment Edit 設定

2.4.5 Test Parameter の変更

本器のテストでは、以下の設定パラメータの変更ができます。

- 変調特性測定 の Sample Packets, Gain of Frequency Deviation, Average Frequency Calculation
- 周波数トレランス試験 の Sample Packets と Select Hopping Mode
- キャリア周波数ドリフト試験 の Sample Packets と Select Hopping Mode
- Receiver Test (BER, PER) の BER Sample Bit と PER Calculation
- Sensitivity-single/muliti の Dirty ON/OFF, TX Level
- Maximum Input Level の TX Level

2.4.5.1 Modulation Characteristics

変調特性の測定では、サンプル・パケット数、周波数偏移率および平均周波数の算出方法を設定します。

- Sample Packets
測定パケット数: 1 ~ 200 (デフォルト値: 10)
- Integration Average, Peak Average
Δf1 gain: 11110000bit pattern の deviation 結果を求めるための Gain を設定します。(0.001 ~ 2.000: 初期値 1.000)
Δf2 gain: 10101010bit pattern の deviation 結果を求めるための Gain を設定します。(0.001 ~ 2.000: 初期値 1.000)
- Select Pattern
Δf1 (11110000) と Δf2 (10101010) の各測定項目の ON/OFF を設定します。

注 Δf1 と Δf2 は双方同時に OFF にできませんが、Item Select で Modulation Characteristics を OFF に設定した場合も同様の画面になります。
この場合は、画面左側のテスト項目のボックスが灰色 (Item Select で OFF)、または白 (Select Pattern で OFF) で判断できます。

- Average Frequency Calculation
平均周波数の算出方法を選択します。
Integration Average: SIG 規格に準拠した平均周波数を算出
Peak Average: 連続した 8 bit の最大値と最小値からの半値をもとに算出 (Δf2 max のみ適応)

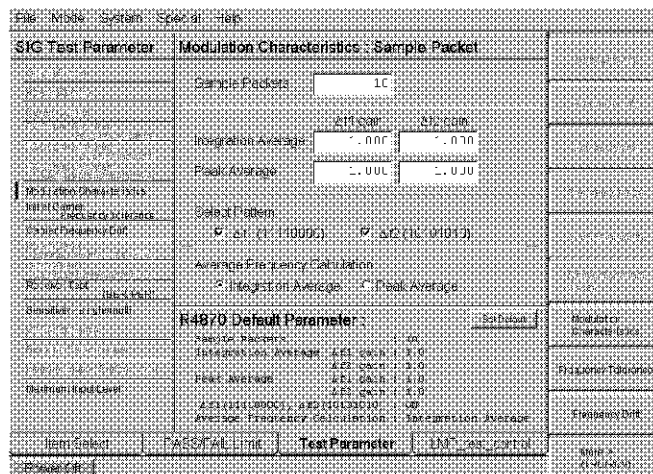


図 2-36 Modulation Characteristics 設定

2.4.5 Test Parameter の変更

2.4.5.2 Initial Carrier Frequency Tolerance/Carrier Frequency Drift

周波数トレランスおよびキャリア周波数ドリフト試験のパラメータの設定を行います。それぞれのパラメータは、同一内容となっています（図 2-37 参照）。

- Sample Packets
取得パケット数： 1 ~ 200（デフォルト値：10）
- Select Hopping Mode
周波数ホッピング動作の ON と OFF を選択します。
各設定における動作内容を下表に示します。

タイプ	ON	OFF	動作内容
1	✓	✓	SIG 規格対応の設定でテスト
2	✓	-	測定項目をホッピング動作でテスト
3	-	✓	測定項目を単一周波数でテスト
4	-	-	測定は実行されない

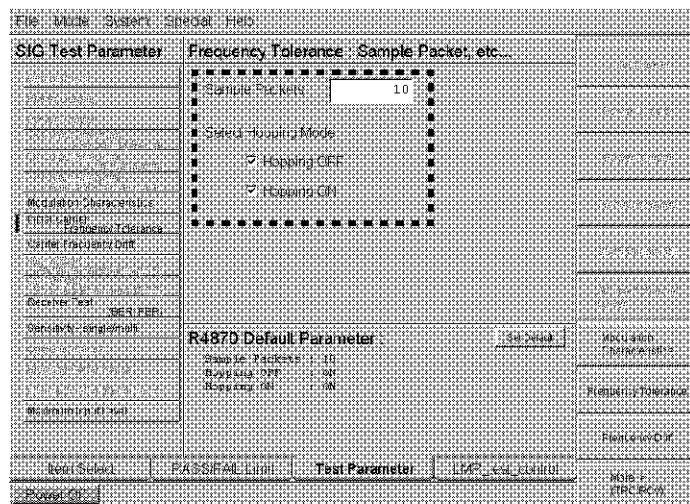


図 2-37 Frequency Tolerance の設定

2.4.5.3 Receiver Test (BER, PER)

- Standard/High Speed

IUT の受信特性試験では、BER (Bit Error Rate) には、Standard と High Speed のそれぞれの取得ビット数を入力します。
入力可能な設定範囲は以下のとおりです。

Standard: SIG 規格準拠
1,600,000 ~ 9,999,999

High Speed: 高速測定
1 ~ 1,600,000

- PER Calculation

PER Calculation (Packet Error Rate Calculation) では、測定の際に、HEC and Access Code と HEC, Access Code and include Data payload error packets の 2 種類のモードが選択できます。

HEC and Access Code: パケット喪失のみを計上する

HEC, Access Code and include Data payload error packets:

ペイロード内のデータにエラーが存在した場合もパケット・エラーとして計上する

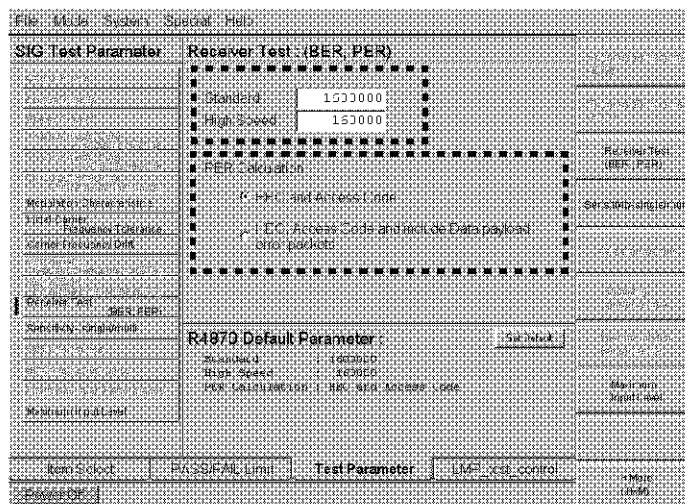


図 2-38 BER Sample Bits 設定

2.4.5 Test Parameter の変更

2.4.5.4 Sensitivity - single/multi

- Dirty (TX Signal)
 Dirty (TX Signal) は、IUT の受信感度試験の際に、SIG 規格に準拠した Dirty Transmitter 信号 (表 6-1 参照) の ON または OFF を選択する機能です。
- TX Level (IUT Input Level)
 TX Level (IUT Input Level) には、本器から IUT への送信出力レベルを設定します。
 デフォルト値 : -70 [dBm]
 TX Level: -15 ~ -85 [dBm] (1 dB ステップ)

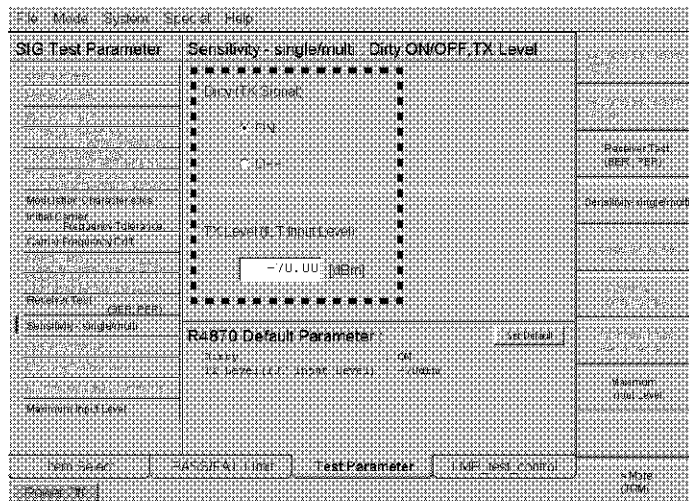


図 2-39 Dirty/TX Level 設定

2.4.5.5 Maximum Input Level

Maximum Input Level 試験では、本器から IUT への RF 信号の最大入力レベルを設定します。

デフォルト値: -20 [dBm] (SIG 規格で定義)

TX Level (IUT Input Level): -15 ~ -85 [dBm] (1 dB ステップ)

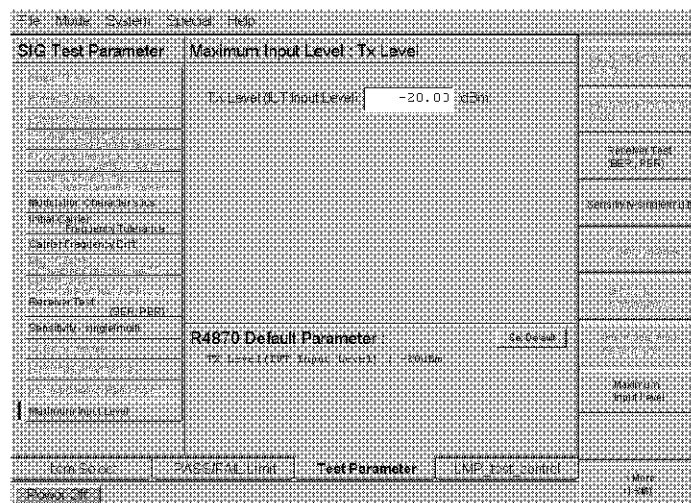


図 2-40 Maximum Input Level の設定

2.4.6 LMP_test_control

本器のテストでは、以下の Test Control のパラメータを変更することができます。

- Packets
IUT の送信パケット・タイプ、DH1, DH3, DH5 のいずれかを選択して測定します。ただし、Carrier Frequency Drift の試験では測定したい Packet をすべて選択して測定することが可能です（図 2-41 (1) 参照）。
- Test scenario
送信機試験時の RF の通信状態を設定します（図 2-41 (2) 参照）。
 - TX Mode: Poll packet と Test Packet で通信を確立します。
 - Loopback: IUT は、R4870 が送信した Packet と同じ Packet を R4870 に送り返します。
- Poll Period
送信機試験(TX Mode)時、R4870がIUTに送信するLMP_test_controlのパラメータの1つである Poll Period の値を設定します。ただし、値を設定しても Poll 周期は変わりません。

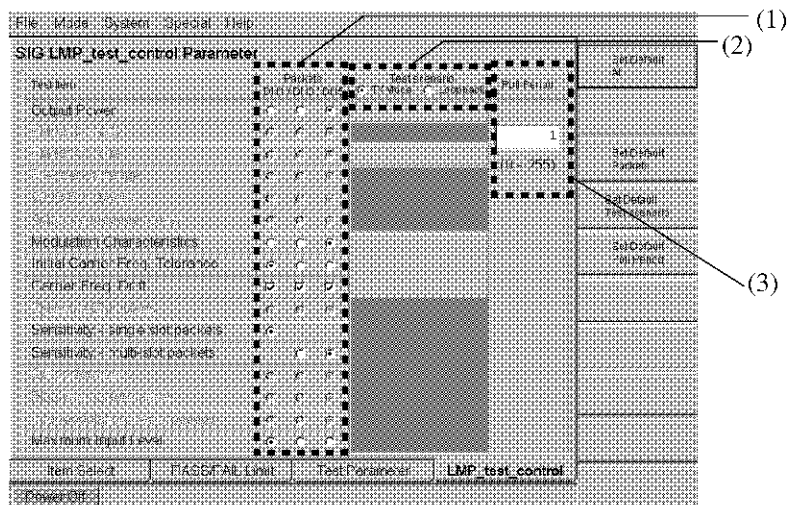


図 2-41 LMP_test_control の設定

2.4.7 Remote Loopback (SCO) 評価

ここでは、SCO のリモート・ループバック評価について説明します。

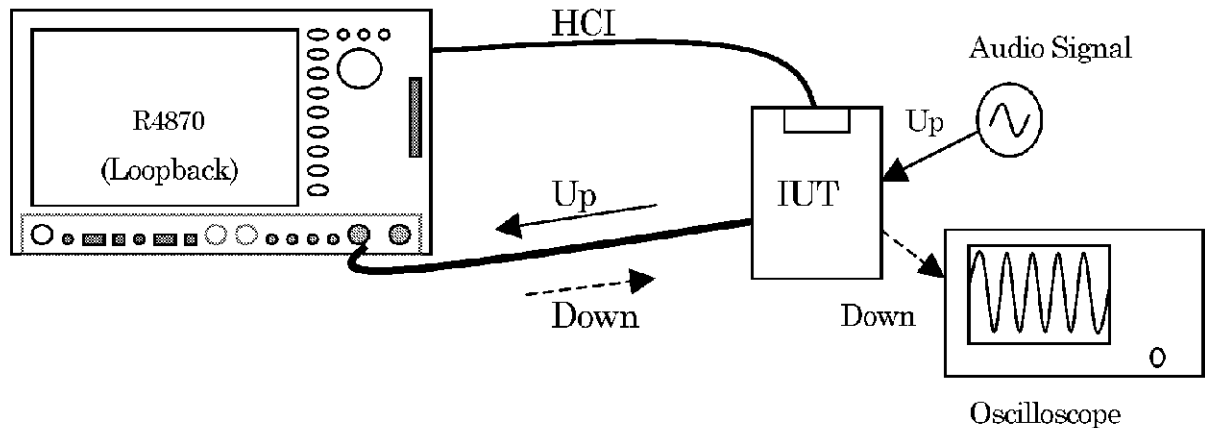


図 2-42 リモート・ループバック評価

リモート・ループバック評価機能は、図 2-42 のように Audio 信号を入力し、本器にてループバックされた音声データを復調したあとに、IUT からの出力信号を評価するために使用します。なお、本器が SCO のリモート・ループバック状態であれば、ACL リンクもリモート・ループバック状態になっています。したがって、ACL のリモート・ループバックを評価する場合は、IUT control を OFF に設定し (2.3.2 参照)、SCO のリモート・ループバック評価を実行したあと (2.4.7.2 参照)、IUT 側にて ACL データを送受信することによって、ACL ループバックを評価します。

2.4.7.1 Remote Loopback (Loopback ON) 評価の設定

1. メイン・メニューの **Mode** をクリックして、ドロップダウン・メニューの **Function Select** → **Utility** → **Remote Loopback** と選択します。
Loopback 評価画面が表示されます。

2.4.7 Remote Loopback (SCO) 評価

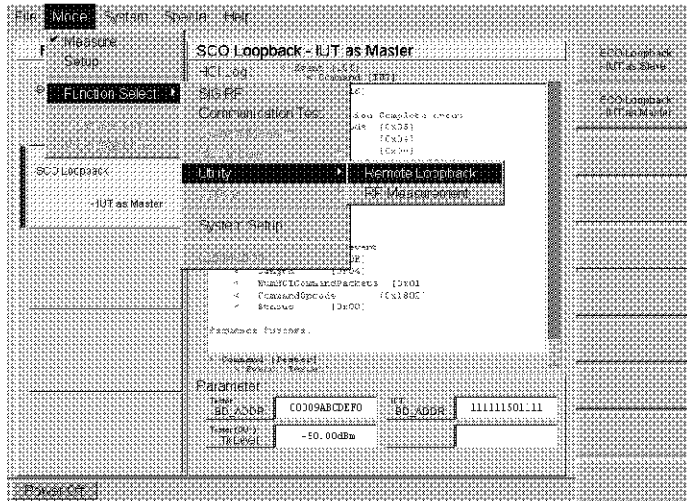


図 2-43 Loopback 評価画面

SCO の設定画面の表示

評価に先立ち SCO ループバックの各設定を行う必要があります。

2. 設定画面へは、Remote Loopback 評価画面が表示された状態で、メイン・メニューの **Mode** をクリックして、ドロップダウン・メニューの **Setup** を選択します (図 2-44 参照)。

注 設定が完了したあとに評価画面に戻るには、メイン・メニューの **Mode** をクリックして、ドロップダウン・メニューの **Measure** を選択します。

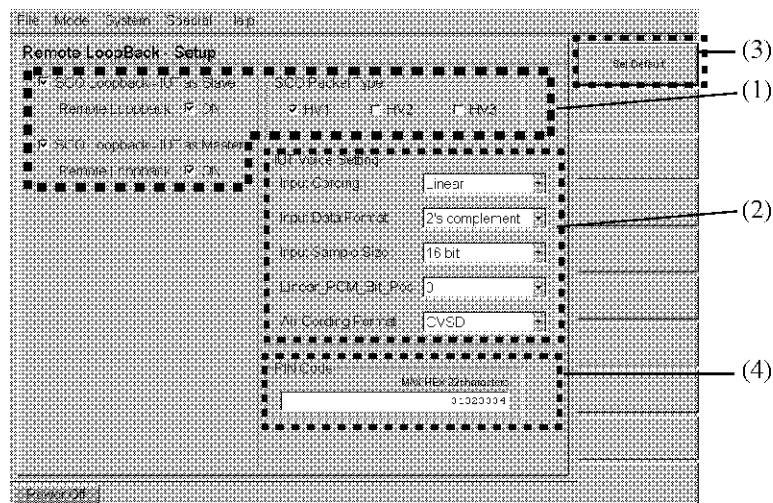


図 2-44 Remote LoopBack - Setup 画面 (デフォルト設定)

図 2-44 はデフォルト設定の状態を示しています。

(3) 枠の **Set Default** を選択すると、(1)、(2) 枠線内の全項目が初期状態に設定されます。

SCO の設定 (図 2-44(1))

- SCO Loopback - IUT as Slave または SCO Loopback - IUT as Master にチェックがかかっていることを確認します。
また、Remote Loopback が ON になっていることも確認します。

注

- SCO Loopback - IUT as Slave または SCO Loopback - IUT as Master のチェックを外すと、評価は実行されません。
 - Remote Loopback が OFF になっていると IUT との対向試験になります。対向試験では、R4870 の PHONE 1 からの Audio の入出力と IUT の Audio 入出力での対向試験となります。
-

- SCO Packet Type のいずれかが選択されていることを確認します。

注 SCO Packet Type の選択において、すべてのチェックを外した場合、評価は実行されません。

IUT Voice Setting (図 2-44(2))

- IUT の音声を設定します。

Input Cording: Linear
u-law
A-law

Input Data Format:
1's complement
2's complement
Sign - Magnitude

Input Sample Size:
8 bit
16 bit

Linear_PCM_Bit_Pos:
0/1/2/3/4/5/6/7

Air Cording Format:
CVSD
u-law
A-law

PIN Code (図 2-44(4))

- IUT が Authentication ありの場合に使用します。

2.4.7 Remote Loopback (SCO) 評価

PIN Code は Hex 入力です。

例：

IUT の PIN Code がアスキーの場合は下記のように入力して下さい。

"0" (アスキー 0) → 「30」Hex と入力

注 接続終了後（次回接続時）は、IUT の Link-key をクリアしてご使用下さい。IUT の Link-key がクリアできないときは、R4870 の BD-ADDR を新しい BD-ADDR に変更（前回使用していない値）して、接続を行って下さい。

2.4.7.2 Remote Loopback 評価実行例

SCO Loopback - IUT as Master の評価

1. 図 2-42 のように IUT を本器に接続します。
2. 評価を行いたい項目をサイド・メニューから選択します。
3. プログラム・ボタンの **SINGLE** *1 を押します。

図 2-45 の SCO Loopback - IUT as Master の評価実行画面が表示され、評価が実行されます。

評価実行中は、Remote Loopback インジケータのテスト項目が青色になります。

IUT と本器間ループバック接続が実行されると、画面中央にループバック接続を解除するためのダイアログ・ボックスが表示されます。

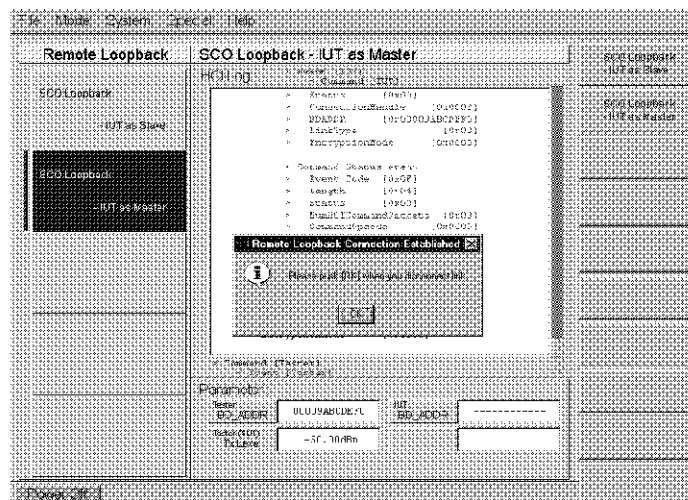


図 2-45 Remote Loopback 評価実行

- *1: すべての評価項目を連続して実行する場合は、プログラム・ボタンの **START** を押します。最上段の SCO Loopback - IUT as Slave から順に評価が開始されます。

ループバック接続の切断

4. ループバック切断のメッセージ・ボックス内の **OK** をクリックします。切断シーケンスが実行され、評価は終了します。

注 この評価は IUT 動作のチェックを行うもので、PASS/FAIL 表示は行いません。

2.4.8 RF Measurement

2.4.8 RF Measurement

ここでは、RF Measurement 機能の特長と操作方法の説明を行います。

2.4.8.1 RF Measurement の特長

- SIG RF の測定機能とは異なり、単一チャンネルのみでの測定を行います。
- 接続／切断シーケンスは測定シーケンスから分離していますので、接続／切断を任意に行う必要があります。
- FM Deviation 測定では、単パケットで複数の RF Parameter 測定を行うことで大幅に測定時間が短縮できます。(Modulation Characteristics / Frequency Drift / Frequency Tolerance 等)
- BER 測定では、周波数ホッピング状態で測定を行うため、より実際の動作条件に近い状態での BER 測定が可能となります。

2.4.8.2 RF Measurement 設定

2.4.8.2.1 RF Measurement 画面への移行

1. メイン・メニューの **Mode** をクリックして、ドロップダウン・メニューの **Function Select** → **Utility** → **RF Measurement** と選択します。
RF Measurement 画面が表示されます。

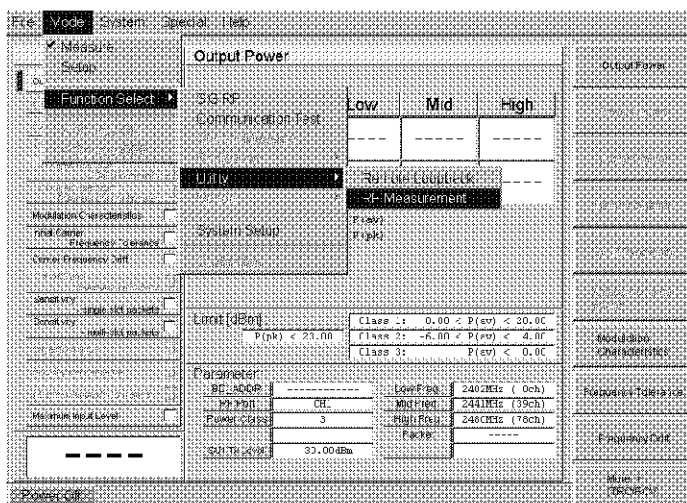


図 2-46 RF Measurement への移行方法

注 工場出荷時では Connection 画面が現れます。RF Measurement 機能を一度使用すると、次回からは最後に使用した測定画面または設定画面が表示されます。

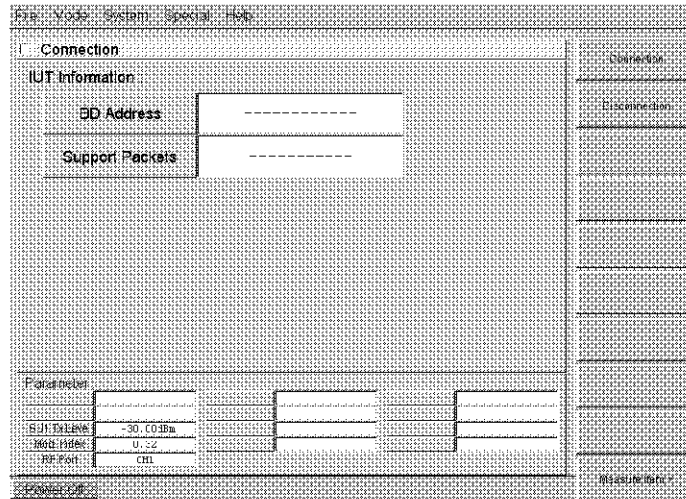


図 2-47 Connection 画面

2.4.8.2.2 各測定項目の設定

1. メイン・メニューの **Mode** をクリックして、ドロップダウン・メニューの **Setup** を選択します。
設定画面に切り替わります。
2. サイド・メニューの **FM Deviation** または **BER** を選択します。
FM Deviation または BER の設定画面に切り替わります。

注 ここでの PASS/FAIL Limit および Test Parameter の設定条件は、SIG RF 測定へは反映されません。ただし、System Setup での Channel Number Assignment 設定だけは反映されます。

2.4.8 RF Measurement

2.4.8.2.3 FM Deviation の PASS/FAIL Limit 設定

Output Power、Modulation Characteristics、Frequency Drift、Frequency Tolerance の判定値を変更できます。

各判定値の変更は、テキスト・ボックスを選択して任意の数字を入力したあとに **ENT** キーを押します。また、すべての判定値を SIG 規定値に戻すには

Set Default をクリックします。(ここで設定された判定値を超えると、測定結果のボックスが赤色になります)

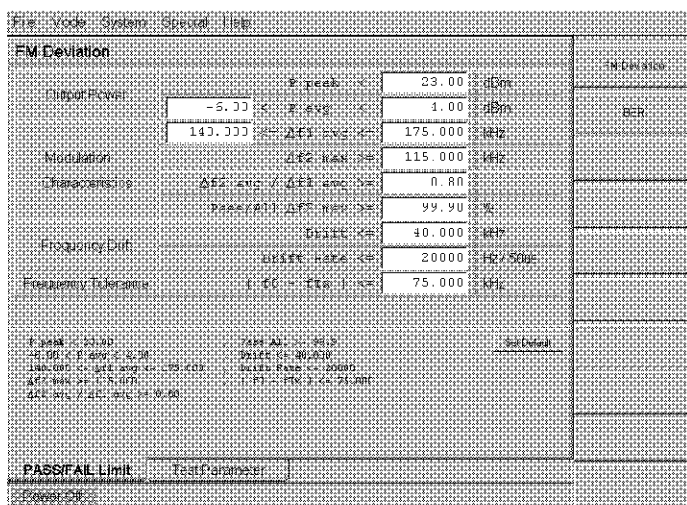


図 2-48 PASS/FAIL Limit 設定画面

2.4.8.2.4 FM Deviation の Test Parameter 設定

Frequency (または Channel)、Packet、Sample Packets、Average Frequency Calculation (Integration Average/Peak Average) のパラメータ設定が行えます。

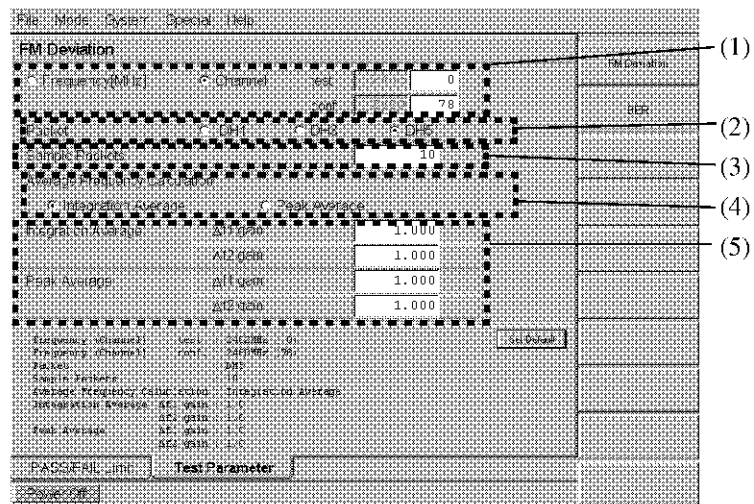


図 2-49 FM Deviation Test Parameter 設定画面

1. Frequency[MHz]/Channel

周波数またはチャンネルのいずれかにチェックを入れ、測定を行うポイントを指定します。また、それぞれの入力項目の意味は以下の通りです。

- test: IUT の試験周波数（またはチャンネル）
- conf.: 送信試験 (Loopback Mode) での IUT の受信周波数（またはチャンネル）
受信試験での IUT の送信周波数（またはチャンネル）

注 System Setup→IUT Information→Channel Number Assignment の Other (USA/Europe/Japan) または France の切り替えにのみリンクしています（周波数やチャンネル設定にはリンクしていません）。

- Other (USA/Europe/Japan): 2402 ~ 2480 [MHz]
0 ~ 78 [ch]
- France: 2454 ~ 2476 [MHz]
0 ~ 22 [ch]

2. Packet

試験パケット・タイプを DH1/DH3/DH5 から 1 つ、選択します。

3. Sample Packets

測定で取得するパケットの数を指定します。

取得パケット数: 1 ~ 200

4. Average Frequency Calculation

平均周波数の算出方法を選択します。

Integration Average: SIG 規格に準拠した平均周波数を算出

Peak Average: 連続した 8 bit の最大値と最小値から求めた半値を元に算出
($\Delta f_{2 \max}$ のみ適用)

2.4.8 RF Measurement

5. Integration Average/Peak Average

$\Delta f1$ と $\Delta f2$ の Deviation を求めるための Gain 設定が行えます。

$\Delta f1$ gain: 0.001 ~ 2.000

$\Delta f2$ gain: 0.001 ~ 2.000

2.4.8.2.5 BER の PASS/FAIL Limit 設定

BER 測定での判定値を設定します。

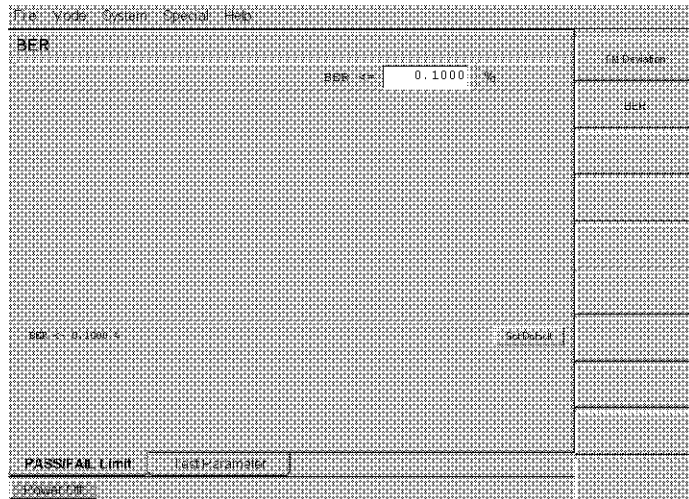


図 2-50 BER PASS/FAIL Limit 設定画面

2.4.8.2.6 BER の Test Parameter 設定

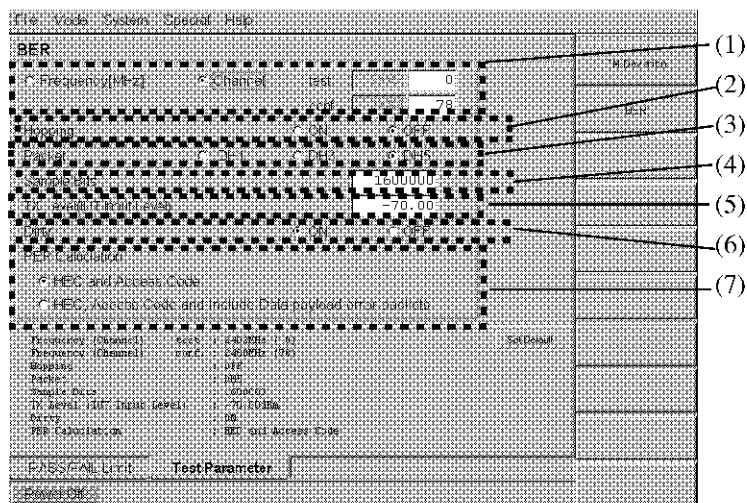


図 2-51 BER Test Parameter 設定画面

1. Frequency[MHz]/Channel

周波数またはチャンネルのいずれかにチェックを入れ、測定を行うポイントを指定します。
また、それぞれの入力項目の意味は以下のとおりです。

- test: IUT の試験周波数（またはチャンネル）
- conf.: 送信試験 (Loopback Mode) での IUT の受信周波数（またはチャンネル）
受信試験での IUT の送信周波数（またはチャンネル）

注 System Setup→IUT Information→Channel Number Assignment の Other (USA/Europe/Japan) または France の切り替えにのみリンクしています（周波数やチャンネル設定にはリンクしていません）。

- Other (USA/Europe/Japan): 2402 ~ 2480 [MHz]
0 ~ 78 [ch]
 - France: 2454 ~ 2476 [MHz]
0 ~ 22 [ch]
-

2. Hopping

測定を行う際に周波数ホッピングの有無を指定します。

3. Packet

試験パケット・タイプを DH1/DH3/DH5 から 1 つ、選択します。

4. Sample Bits

測定するビット数を指定します。

測定ビット数: 1 ~ 9999999

5. TX Level (IUT Input Level)

IUT への信号送信レベルを設定します。

設定範囲: -13 ~ -93 [dBm]

6. Dirty

IUT への送信信号に対して、SIG 規格に準拠した Dirty 信号の ON または OFF を選択します。

7. PER Calculation

PER (Packet Error Rate) では、測定の際に以下の 2 種類のモードが選択できます。

- HEC and Access Code: パケット喪失のみを計上
- HEC, Access Code include Data payload error packets:
ペイロード・データにエラーが存在する場合も計上

2.4.8.3 RF Measurement の評価実行例

1. Connection

R4870 と IUT とのケーブル接続を確認したあとに、サイド・メニューの **Connection** を選択します。**SINGLE** キーを押すと、R4870 と IUT の Connection が開始されます。

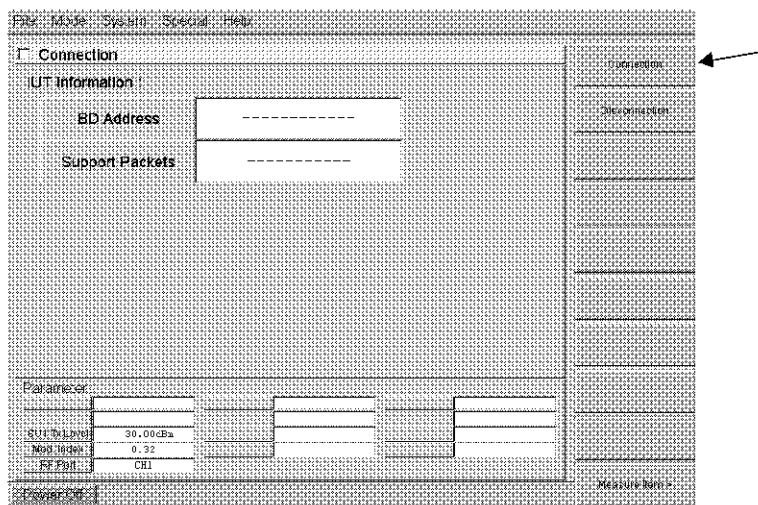


図 2-52 Connection 画面

IUT との接続が正常に完了すると、図 2-53 のように IUT の BD Address や、サポートしているパケット・タイプが表示され、メイン・メニュー下の判定用ボックスが緑色になります。(接続に失敗すると、判定用ボックスは赤色になり、BD Address と Support Packets には IUT 情報が表示されません。)

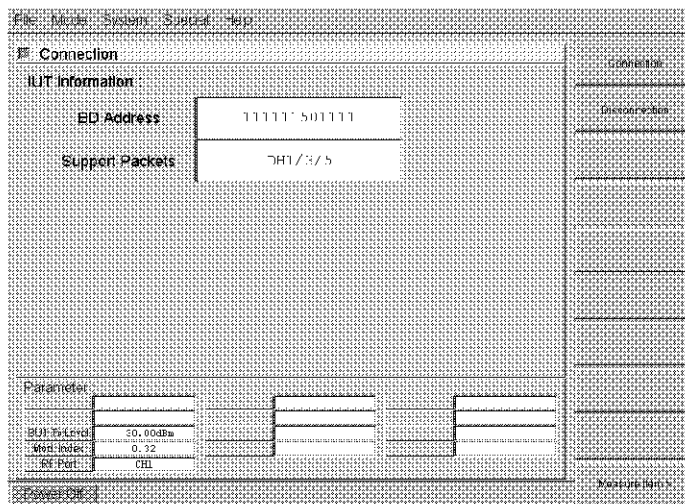


図 2-53 IUT との接続完了画面

2. FM Deviation 測定

サイド・メニューの **Measure Item** をクリックすると、サイド・メニューに **FM Deviation** と **BER** の測定項目が現れます。

FM Deviation を選択すると、図 2-54 の測定画面に切り替わります。

File Mode System Special Help					FM Deviation	
Item	Result	Unit	Limit		Pass/Fail	
Output Power	Peak	-----	dBm	0 peak < 23.00		PASS
	Average	-----	dBm	15.00 < 23.00 < 4.00		
Modulation	dF max	-----	Hz	146.000 < 240.000 < 270.000		
	dF avg	-----	Hz	147.000 < 240.000 < 175.000		
	dF max / dF avg	-----	%	1.000 < 1.000 < 0.500		
	Pass All dF max	-----	%	Pass All dF max < 99.500		
	Frequency Error	-----	Hz	1.000 < 40.000		
Frequency Error	Drift Rate	-----	Hz/Sec	2.000 < 20000		
	Frequency Tolerance	-----	Hz	1.000 < 200.000 < 20000		
Parameters						
CD/AGC	1111101111	Test Tone	240MHz (1 Ch)	Avg Power	Power Meter	
Power	0dB	Conf Peak	240MHz (7Sch)	dF Peak	1.000	
SF/IS Level	-30.01dBm	Sample Rate	10	dF Avg	1.000	
Mod Index	0.32					
RF Port	CH1					
Copyright						

図 2-54 測定画面 (FM Deviation)

測定結果がすべて規定値をパスすると、メイン・メニュー下の判定用ボックスが緑色になります。また、NG となった測定項目の各ボックスは赤色となり、判定用ボックスも赤色となります。

File Mode System Special Help					FM Deviation	
Item	Result	Unit	Limit		Pass/Fail	
Output Power	Peak	-2.36	dBm	0 peak < 23.00		PASS
	Average	-2.00	dBm	15.00 < 23.00 < 4.00		
Modulation	dF max	158.032	Hz	146.000 < 240.000 < 270.000		
	dF avg	147.008	Hz	147.000 < 240.000 < 175.000		
	dF max / dF avg	1.075	%	1.000 < 1.000 < 0.500		
	Pass All dF max	100.000	%	Pass All dF max < 99.500		
	Frequency Error	15.008	Hz	1.000 < 40.000		
Frequency Error	Drift Rate	10816	Hz/Sec	2.000 < 20000		
	Frequency Tolerance	-11.458	Hz	1.000 < 200.000 < 20000		
Parameters						
CD/AGC	1111101111	Test Tone	240MHz (1 Ch)	Avg Power	Peak	
Power	0dB	Conf Peak	240MHz (1 Ch)	dF Peak	1.000	
SF/IS Level	-30.003dBm	Sample Rate	200	dF Avg	1.000	
Mod Index	0.32					
RF Port	CH1					
Copyright						

図 2-55 FM Deviation 測定結果表示

2.4.8 RF Measurement

3. BER 測定

サイド・メニューの **BER** を選択すると、図 2-56 の画面に切り替わります。

SINGLE キーを押すと測定が開始されます。

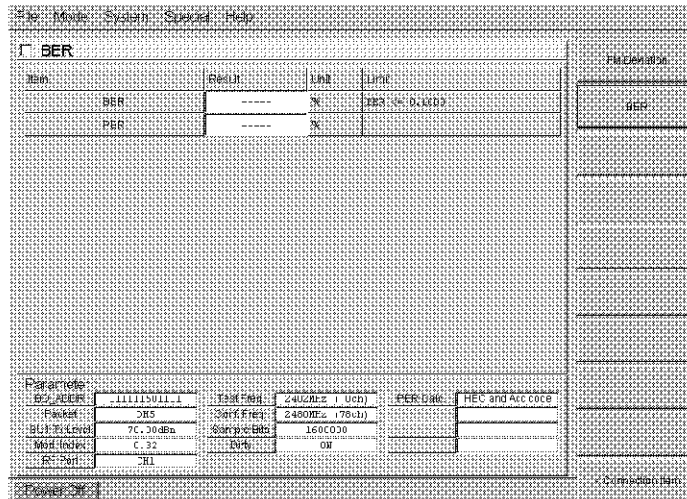


図 2-56 測定画面 (BER)

測定結果が規定値をパスすると、メイン・メニュー下の判定用ボックスが緑色になります。また、NGとなった測定項目の各ボックスは赤色となり、判定用ボックスも赤色となります。

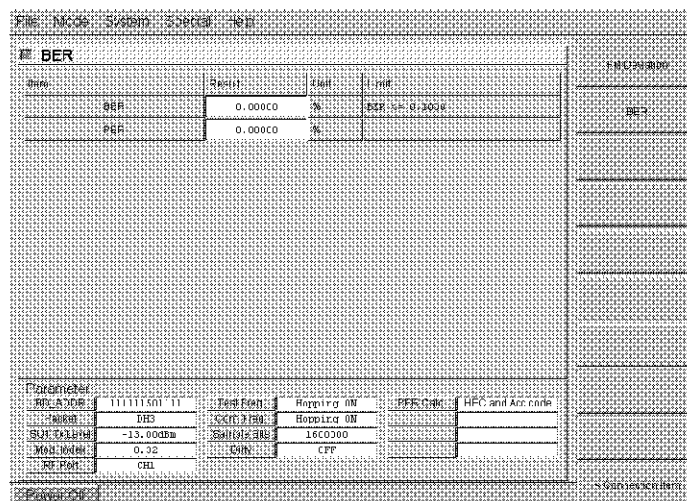


図 2-57 BER 測定結果表示

2.5 テスト例

2.5.1 SIG RF テスト

ここでは、IUT (Implementation Under Test) の Output Power と Sensitivity - single slot packets の 2 項目に限定してテストします。

テスト条件:

テスト項目 Output Power、Sensitivity - single slot packets
 周波数帯域 Low (0ch) と High (78ch)
 テスト方法 Standard

PASS/FAIL 判定のための Limit 値

Output Power	Average Power	Class3:P(av) < -1.00
	Peak Power	All Class:P(pk) < 22.00
Sensitivity - single slot packets		
	BER	0.08%
	PER Calculation	HEC and Access code

テストの基本パラメータ

BER Sample Bits (RCV ALL) Standard:1650000
 Sensitivity Dirty ON/OFF,TX Level Dirty ON

機器の準備

1. 電源が OFF になっていることを確認します。
2. IUT をテスト・フィクスチャに接続します。
3. 背面パネルにある AC 電源用コネクタに付属の電源ケーブルを接続します。

注意 破損防止のため、本器には指定範囲を超えた入力電圧または周波数を加えないで下さい。

4. 電源ケーブルをコンセントに接続します。

電源の投入

注意 フロッピー・ディスクを挿入した状態で **POWER** スイッチを ON にしないで下さい。

2.5.1 SIG RF テスト

5. 正面パネルにある **POWER** スイッチを ON にします。
 イニシャル・テストが終了すると次にプログラムをロードします（処理時間：約 120 秒）。
 正常に終了すると、たとえば図 2-58 のような Measure 画面が表示されます。

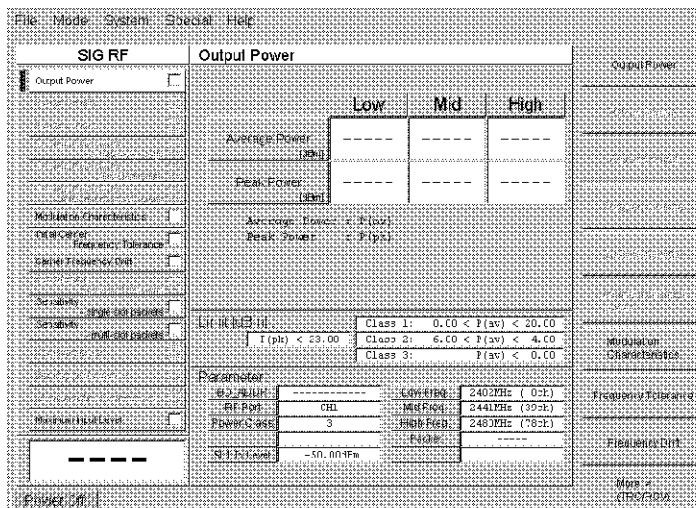


図 2-58 スタートアップ画面例（Measure 画面）

注 本器のバックアップ機能により、本器を一度使用すると、前回、電源を OFF にした直前の状態と同一の設定条件を反映した Measure 画面で本器は立ち上がります。

Instrument Preset の実行

Instrument Preset を実行します。

6. エントリ・キーブロック内の **PRESET** ボタンの右側を押しながら、左側のボタンを押します。
 図 2-59 のようなダイアログ・ボックスが表示されます。

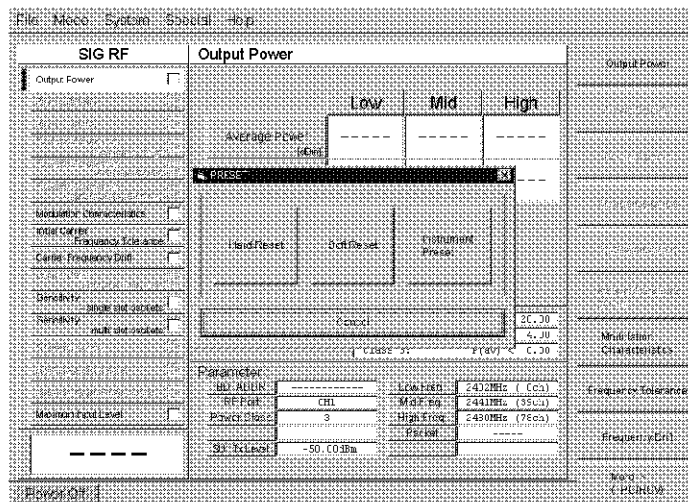
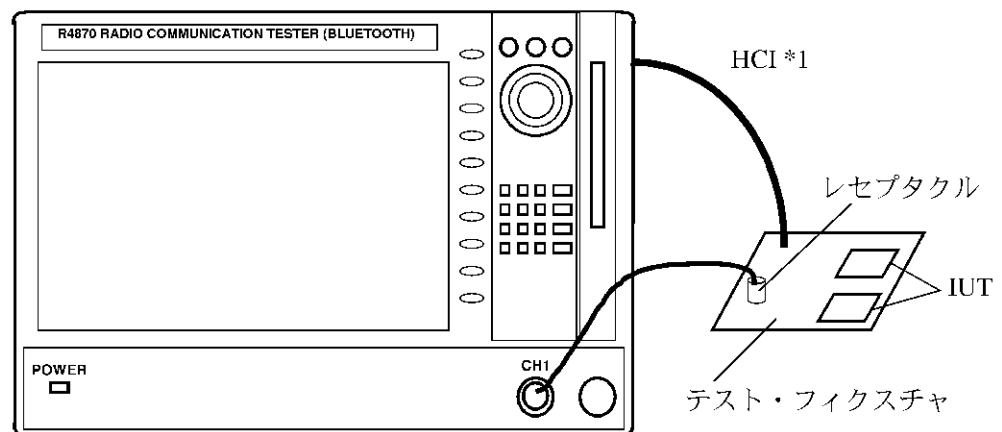


図 2-59 PRESET 画面

7. **Instrument Preset** を押します。
8. 正面パネルにある CH1 コネクタと IUT 側のレセプタクルを付属の入力ケーブルで接続します。



*1: オプション HCI が装着されている場合は、背面パネルにある RS-232 コネクタと IUT の HCI を接続します。

図 2-60 IUT と本器の接続

9. IUT を動作状態にします。

SIG 項目の選択

10. メイン・メニューの **Mode** をクリックして、ドロップダウン・メニューの **Function Select** → **SIG RF** と選択します。

2.5.1 SIG RF テスト

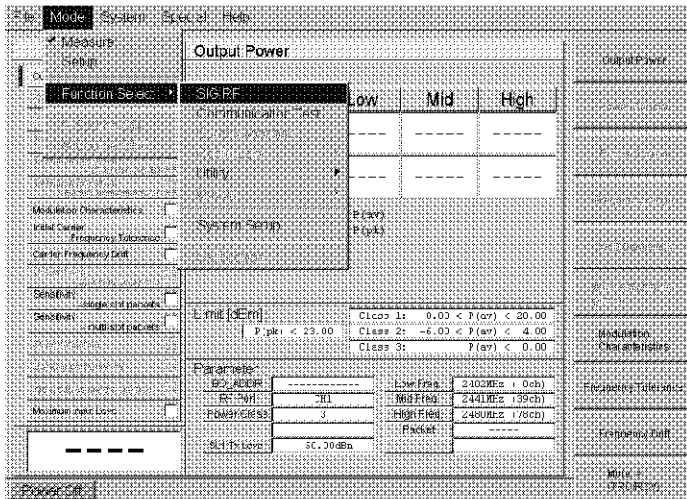


図 2-61 SIG RF 選択画面

11. メイン・メニューの **Mode** をクリックして、ドロップダウン・メニューの **Setup** を選択します。
12. **Item Select** タブをクリックします。
SIG Item Select 画面が表示されます。

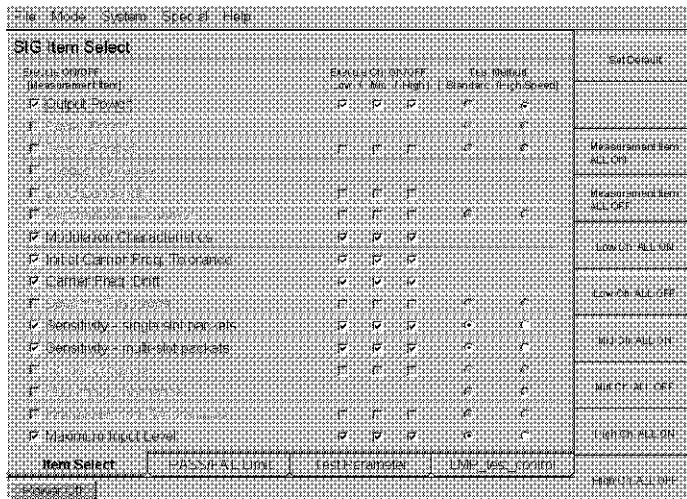


図 2-62 SIG Item Select 画面

13. サイド・メニューの **Measurement Item ALL OFF** をクリックします。
全テスト項目のチェックが外れます。

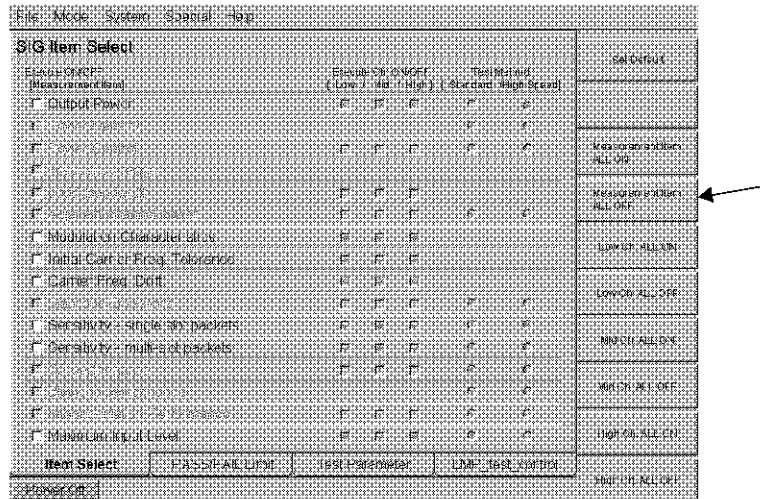


図 2-63 Measurement Item ALL OFF 画面

14. Output Power と Sensitivity - single slot packets のチェック・ボックスをクリックします。
2つのテスト項目が選択されます。
15. **Mid Ch. ALL OFF** をクリックします。
周波数帯域の Middle のチェックが外れます。

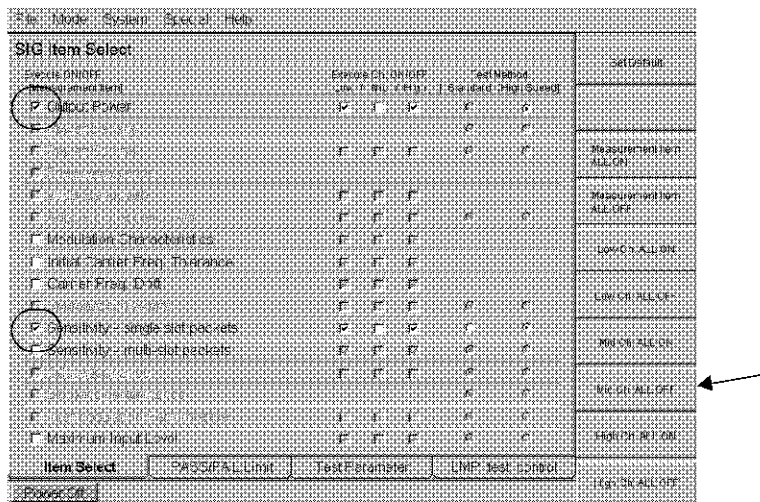


図 2-64 Mid Ch. ALL OFF 画面

Limit 値の設定 – Output Power

16. **PASS/FAIL Limit** タブをクリックします。
SIG Limit Parameter 画面が表示されます。

2.5.1 SIG RF テスト

17. **Output Power** をクリックします。

サイド・メニューに **Output Power** がないときは、**< More (TRM)** をクリックします。

SIG Limit Parameter インジケータの青いバーが左側にあることにより、**Output Power** が選択されていることを示します。

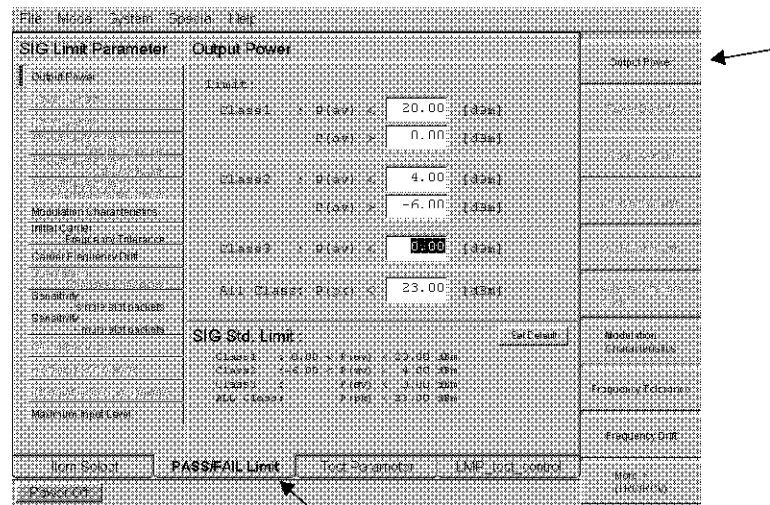


図 2-65 Limit 値の設定 – Output Power

Limit 値の変更 – Output Power

Limit:Class3 の Average Power を -1.00 dBm に変更します。

18. 0.00 を選択した状態で **- 1 . 0 0 ENT** と押します。

0.00 dBm が -1.00 dBm に置き換わります。

All Class の Peak Power を 22.00 dBm に変更します。

19. 23 を選択した状態で **2 2 ENT** と押します。

23.00 dBm が 22.00 dBm に置き換わります。

Limit 値の設定 – Sensitivity - single slot packets

BER の変更をします。

20. サイド・メニューの **More > (TRC/RCV)** をクリックします。

RCV (= 受信テスト) の SIG 項目を選択できるサイド・メニューに切り替わります。

21. **Sensitivity - single slot packets** をクリックします。

SIG Limit Parameter インジケータの青いバーが左側にあることにより、Sensitivity - single slot packets が選択されていることを示します。

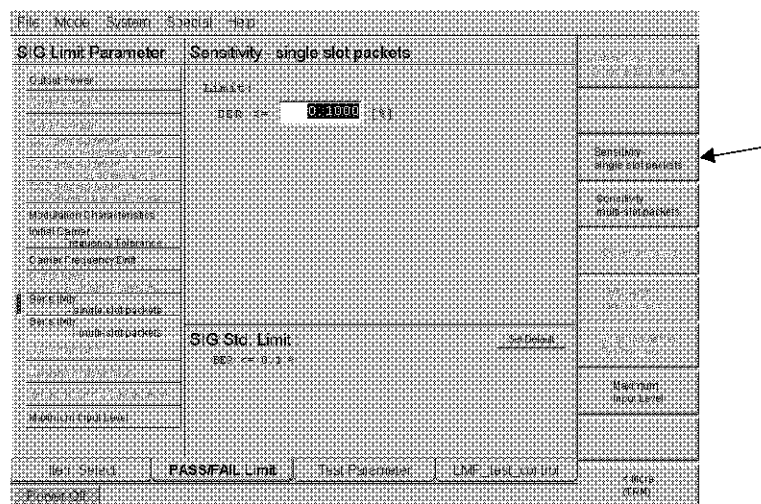


図 2-66 Limit 値の設定 – Sensitivity - single slot packets

Limit 値の変更 – Sensitivity - single slot packets

Limit:BER <= を 0.0800% に変更します。

22. 0.1000 を選択した状態で **0 . 0 8 0 0 ENT** と押します。

0.1000% が 0.0800% に置き換わります。

基本パラメータの設定

23. **Test Parameter** タブをクリックします。

SIG Test Parameter 画面が表示されます。

24. サイド・メニューの **Receiver Test (BER, PER)** をクリックします。

SIG Test Parameter インジケータの青いバーが左側にあることにより、Receiver Test (BER, PER) が選択されていることを示します。

2.5.1 SIG RF テスト

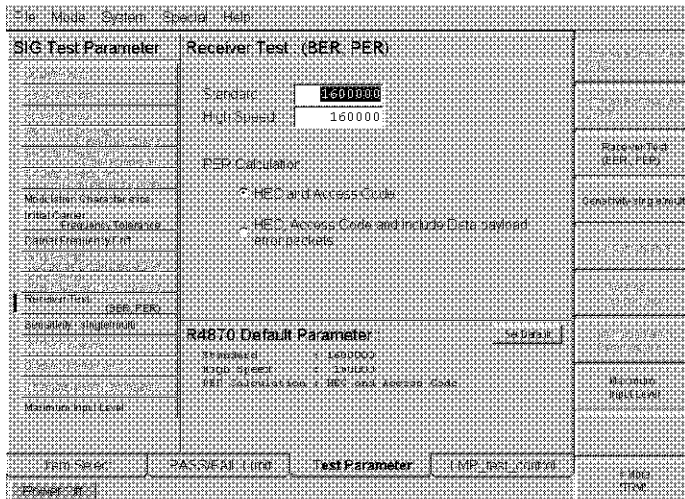


図 2-67 基本パラメータの設定 – Receiver Test:(BER, PER)

25. Standard のテキスト・ボックスをクリックします。
26. 1600000 を選択した状態で **1 6 5 0 0 0 0 0 ENT** と押します。
Standard では、1650000 ビットとなります。
27. サイド・メニューの **Sensitivity - single/multi** をクリックします。
SIG Test Parameter インジケータの青いバーが左側にあることにより、Sensitivity - single/multi が選択されていることを示します。
28. Dirty (TX Signal) の ON をクリックします。

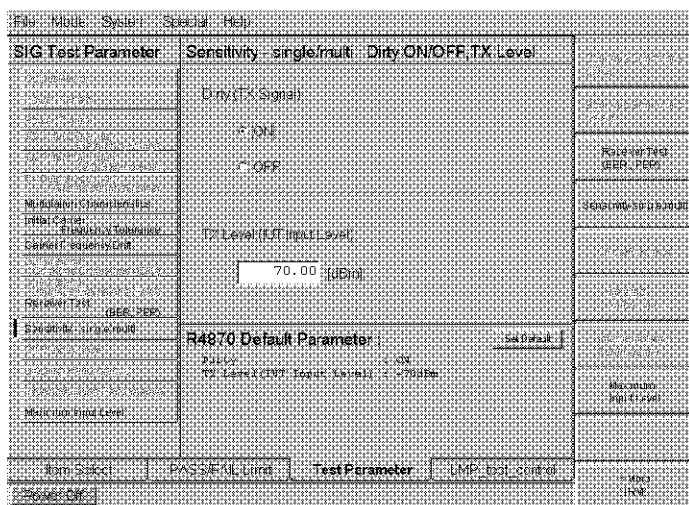


図 2-68 基本パラメータの設定 – Sensitivity - single/multi: Dirty ON/OFF, TX Level

テストの実行 – Output Power

Setup モードから Measure モードに切り替えます。

29. メイン・メニューの **Mode** をクリックして、ドロップダウン・メニューの **Measure** を選択します。

Measure 画面が表示されます。

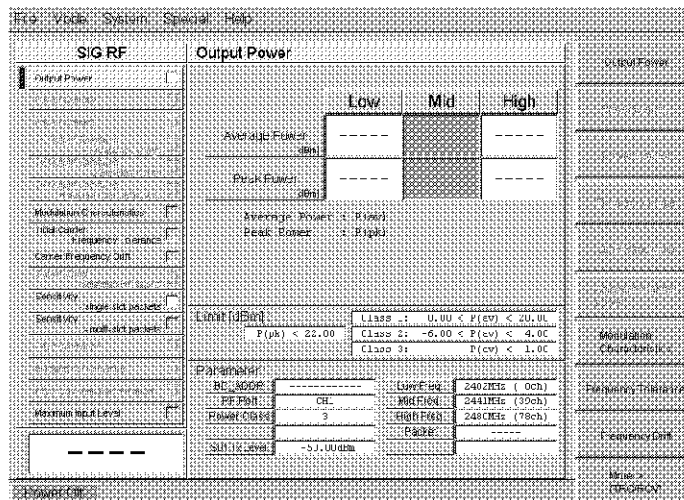


図 2-69 SIG RF - Measure 画面

30. サイド・メニューの **< More (TRM) → Output Power** とクリックします。

SIG RF インジケータの青いバーが左側にあることにより、Output Power が選択されていることを示します。

31. プログラム・ボタンの **SINGLE** を押します。
PASS/FAIL の判定が表示されるまで待ちます。

2.5.1 SIG RF テスト

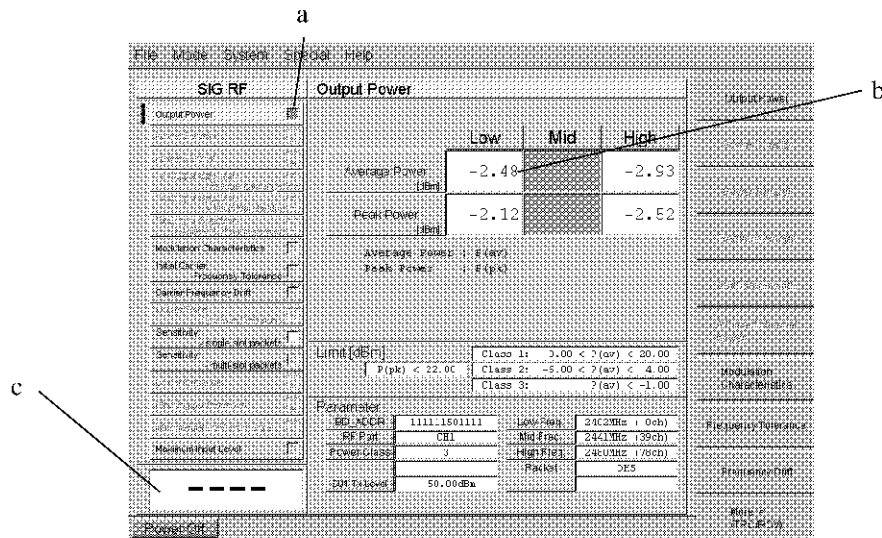


図 2-70 Output Power のテスト結果

- a. Output Power テストの PASS/FAIL 判定を色を変えて示しています。
PASS: 緑, FAIL: 赤
- b. テスト・データとして、Average Power と Peak Power を示します。
Low/High の周波数帯でテストしています。
値が PASS 範囲外の場合は、ボックス内が赤くなります。ただし、
データが取得できない場合は、"Error" と表示します。
- c. 総合の PASS/FAIL 判定を示します。

テストの実行 – Sensitivity - single slot packets

- 32. サイド・メニューの **More > (TRC/RCV)** をクリックします。
RCV (= 受信テスト) の SIG 項目を選択できるサイド・メニューに切り替わります。
- 33. **Sensitivity - single slot packets** をクリックします。
SIG RF インジケータの青いバーが左側にあることにより、Sensitivity - single slot packets が選択されていることを示します。
- 34. プログラム・ボタンの **SINGLE** を押します。
PASS/FAIL の判定が表示されるまで待ちます。

SIG RF		Sensitivity - single slot packets		
		Low	Mid	High
BER [%]		0.03575		0.03568
PER [%]		1.53161		1.98979
Modulation Characteristics: <input type="checkbox"/> Modulation: <input type="checkbox"/> Modulation Error Rate: <input type="checkbox"/> Carrier Frequency Error: <input type="checkbox"/>				
Sensitivity: <input checked="" type="checkbox"/> single slot packets Sensitivity: <input type="checkbox"/> multi-slot packets				
BER: <input type="text" value="0.00000"/>				
Parameter:				
HO ADDR:	111111501.11	Low Freq:	240MHz (0ch)	Next Unit
REF FREQ:	7MHz	Mid Freq:	244MHz (14ch)	None
SAFES FREQ:	165000	High Freq:	248MHz (18ch)	
Chan. ID:	00	Power:	D11	
RF Level:	-70.00dBm			
PASS				

図 2-71 Sensitivity - single slot packets のテスト結果

2.5.2 コミュニケーション・テスト

ここでは、IUT (Implementation Under Test) のコミュニケーション・テストを2項目に限定してテストします。

テスト条件:

テスト項目 Inquiry、Inquiry Scan

PASS/FAIL 判定のための設定値

Inquiry	20 [HEX] (x1.28sec)
Inquiry Scan	20 [HEX] (x1.28sec)

機器の準備

1. 電源が OFF になっていることを確認します。
2. IUT をテスト・フィクスチャに接続します。
3. 背面パネルにある AC 電源用コネクタに付属の電源ケーブルを接続します。

注意 破損防止のため、本器には指定範囲を超えた入力電圧または周波数を加えないで下さい。

4. 電源ケーブルをコンセントに接続します。

電源の投入

注意 フロッピー・ディスクを挿入した状態で **POWER** スイッチを ON にしないで下さい。

5. 正面パネルにある **POWER** スイッチを ON にします。
イニシャル・テストが終了すると次にプログラムをロードします (処理時間: 約 120 秒)。
正常に終了すると、たとえば図 2-72 のような Measure 画面が表示されます。

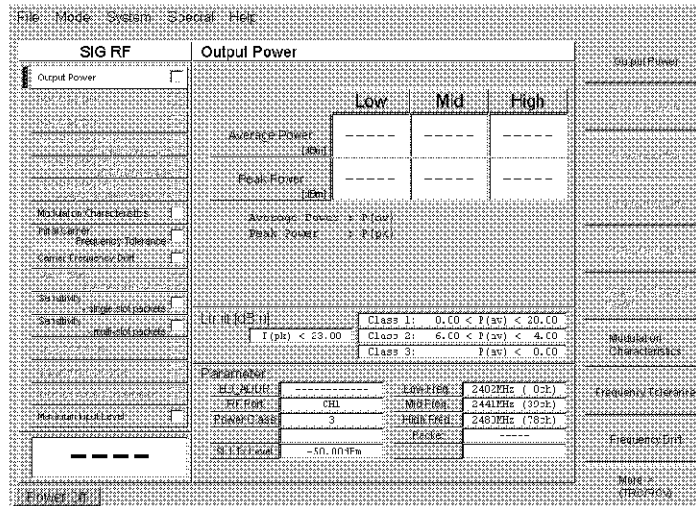


図 2-72 スタートアップ画面例 (Measure 画面)

注 本器のバックアップ機能により、本器を一度使用すると、前回、電源を OFF にした直前の状態と同一の設定条件を反映した Measure 画面で本器は立ち上がります。

Instrument Preset の実行

Instrument Preset を実行します。

6. エントリ・キーブロック内の **PRESET** ボタンの右側を押しながら、左側のボタンを押します。
 のようなダイアログ・ボックスが表示されます。

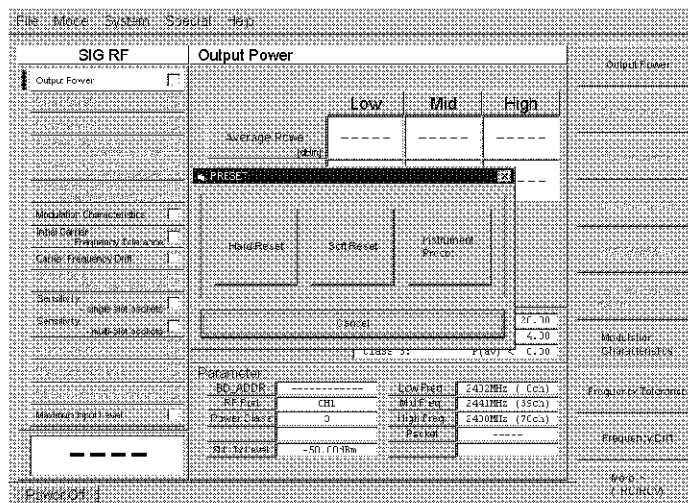
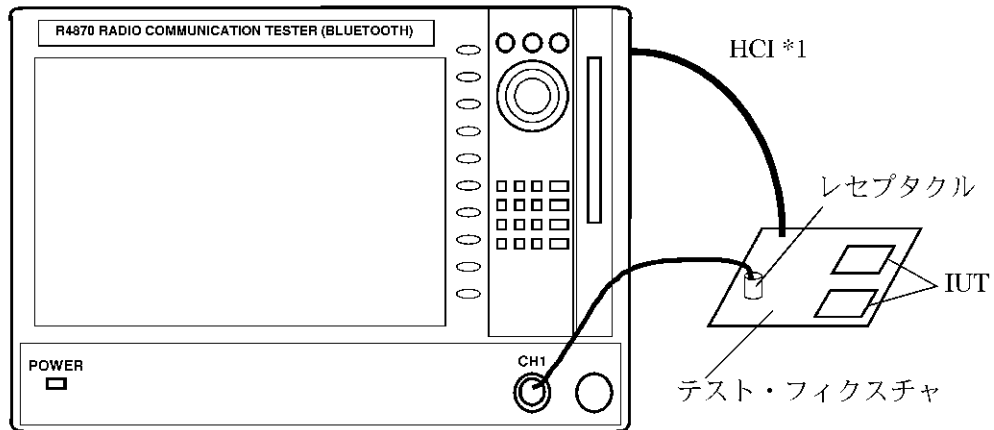


図 2-73 PRESET 画面

2.5.2 コミュニケーション・テスト

7. **Instrument Preset** を押します。
8. 正面パネルにある CH1 コネクタと IUT 側のレセプタクルを付属の入力ケーブルで接続します。



*1: オプション HCI が装着されている場合は、背面パネルにある RS-232 コネクタと IUT の HCI を接続します。

図 2-74 IUT と本器の接続

9. IUT を動作状態にします。

Communication Test の選択

10. メイン・メニューの **Mode** をクリックして、ドロップダウン・メニューの **Function Select** → **Communication Test** と選択します。

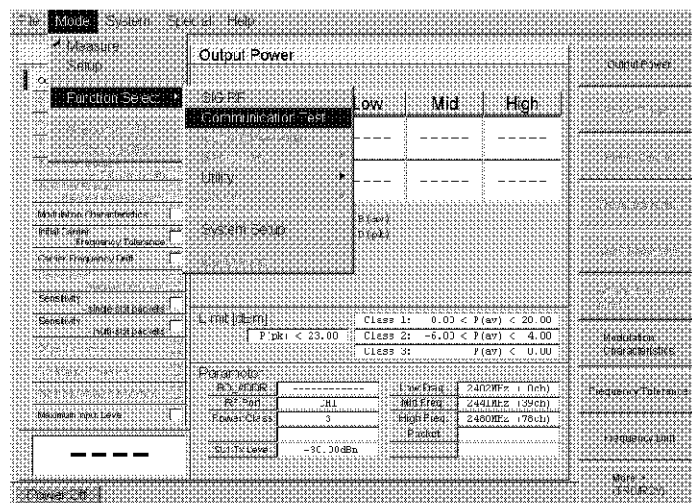


図 2-75 Communication Test の選択

11. メイン・メニューの **Mode** をクリックして、ドロップダウン・メニューの **Setup** を選択します。
Communication Test - Setup 画面が表示されます。
12. サイド・メニューの **Item ALL OFF** をクリックします。
全テスト項目のチェックが外れます。

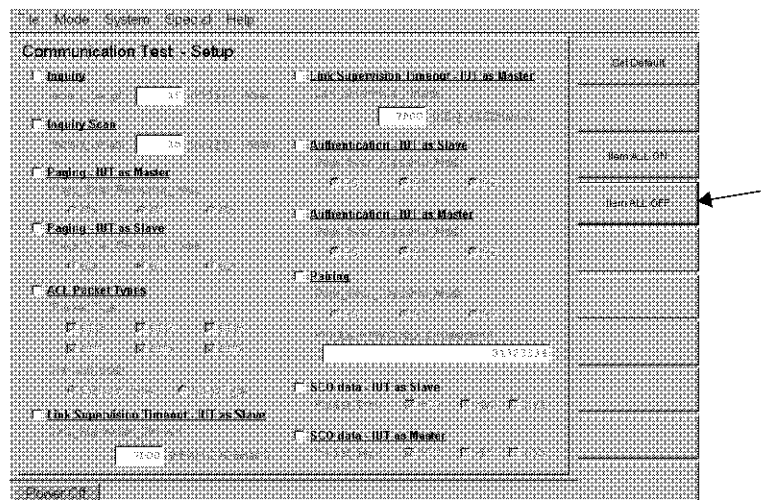


図 2-76 Item ALL OFF 画面

Inquiry、Inquiry Scan の設定

13. Inquiry のチェック・ボックスをクリックします。
Inquiry_Length を 20 [HEX] (x1.28sec) に変更します。
14. 15 を選択した状態で **2 0 ENT** と押します。
Inquiry_Length が 20 [HEX] (x1.28sec) に設定されます。
15. Inquiry Scan チェック・ボックスをクリックします。
Inquiry Scan を 20 [HEX] (x1.28sec) に変更します。
16. 15 を選択した状態で **2 0 ENT** と押します。
Inquiry_Length が 20 [HEX] (x1.28sec) に設定されます。

2.5.2 コミュニケーション・テスト

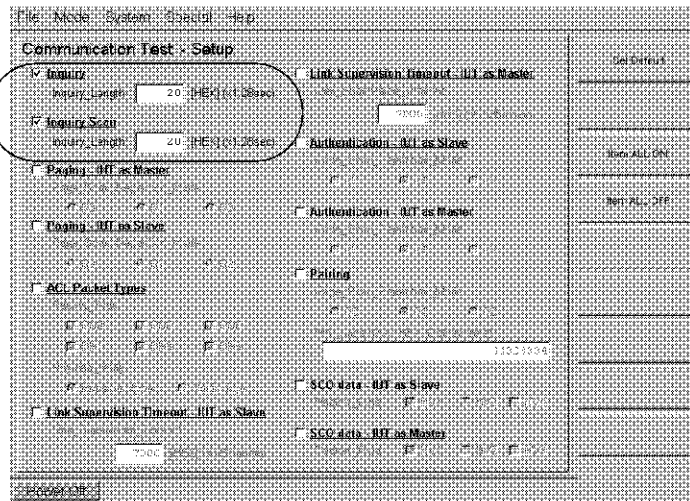


図 2-77 Communication Test - Setup 画面

Inquiry、Inquiry Scan のテスト

Setup モードから Measure モードに切り替えます。

17. メイン・メニューの **Mode** をクリックして、ドロップダウン・メニューの **Measure** を選択します。

Measure 画面が表示されます。

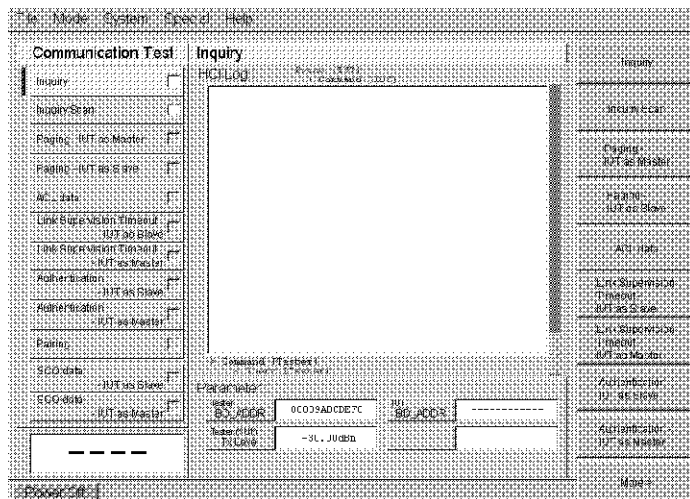


図 2-78 Communication Test - Measure 画面

18. プログラム・ボタンの **START** を押します。

Communication のスクリプト表示に続いて、Inquiry、Inquiry Scan それぞれの PASS/FAIL 判定が Communication Test インジケータ内に表示されます。
 さらに、ダイアログ・ボックス最下段に総合的な PASS/FAIL 判定が表示されます。
 PASS: 緑, FAIL: 赤

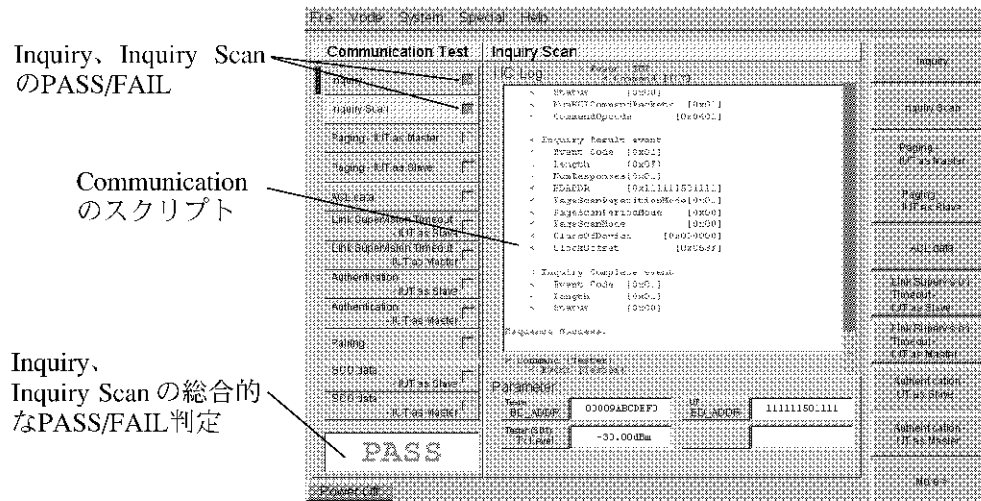


図 2-79 Inquiry、Inquiry Scan のテスト結果

3. 各機能の使い方

この章では、以下の項目で、パネル・キーと、ソフト・キーの機能を説明します。

- メニュー・インデックス： 3章のキー索引として活用して下さい。
- メニュー・マップ： パネル・キーのメニュー構成を示します。
- 機能説明： パネル・キーとソフト・キーの機能を説明します。

3.1 メニュー・インデックス

操作キー	参照ページ	操作キー	参照ページ
< Connection Item	3-7, 3-21		3-21, 3-26
< More	3-6, 3-20	Communication Test	3-4, 3-6,
< More (TRM)	3-5, 3-13,		3-9, 3-18,
	3-14, 3-19		3-19, 3-24
20dB Bandwidth	3-5, 3-12,	Connection	3-7, 3-20
	3-13, 3-14,	Current Measure	3-4, 3-18
	3-16, 3-19,	Delete...	3-4, 3-18
	3-22, 3-23	Disconnection	3-7, 3-20
About...	3-4, 3-19	Explorer	3-4, 3-18
ACL data	3-6, 3-20	File	3-4, 3-18
ACL Packet Types	3-9	FM Deviation	3-7, 3-10,
Adjacent Channel Power	3-22, 3-23		3-17, 3-20,
Adjacent channel power	3-5, 3-12,		3-25
	3-13, 3-14,	Frequency Drift	3-5, 3-13,
	3-16, 3-19		3-14, 3-15,
Air Cording Format	3-10		3-19, 3-23
Authentication-IUT as Master	3-6, 3-9,	Frequency Range	3-14, 3-22,
	3-20		3-23
Authentication-IUT as Slave	3-6, 3-9,	Frequency range	3-5, 3-12,
	3-20		3-13, 3-16,
BER	3-7, 3-10,		3-19
	3-17, 3-21,	Frequency Tolerance	3-5, 3-13,
	3-25		3-14, 3-19,
Blocking Performance	3-5, 3-13,		3-23
	3-14, 3-15,	Function Select	3-4, 3-5,
	3-19		3-6, 3-7,
Blocking performance	3-12, 3-16,		3-8, 3-9,
	3-23		3-10, 3-11,
C/I Performance	3-5, 3-13,		3-12, 3-13,
	3-14, 3-15,		3-14, 3-16,
	3-19		3-17, 3-18
C/I performance	3-12, 3-16,	Help	3-4, 3-19
	3-23	High Ch. ALL OFF	3-8, 3-12,
Calibration	3-4, 3-18		3-22
Carrier Freq. Drift	3-12, 3-16	High Ch. ALL ON	3-8, 3-12,
Comment Edit	3-7, 3-10,		3-22

3.1 メニュー・インデックス

Initial Carrier Freq. Tolerance	3-12, 3-16	3-12, 3-13,
Input Cording	3-10	3-14, 3-16,
Input Data Format	3-10	3-17, 3-18
Input Sample Size	3-10	Modulation Characteristics
Inquiry	3-6, 3-9,	3-5, 3-12,
	3-19	3-13, 3-14,
Inquiry Scan	3-6, 3-9,	3-16, 3-19,
	3-20	3-23
Intermodulation Performance	3-5, 3-12,	More >
	3-13, 3-14,	3-6, 3-20
	3-15, 3-16,	More >(TRC/RCV)
	3-19	3-5, 3-13,
Intermodulation performance	3-23, 3-24	3-14, 3-19
Item ALL OFF	3-9, 3-24	Network Config...
Item ALL ON	3-9, 3-24	3-4, 3-18
Item Select	3-11, 3-12,	Option
	3-22	3-4, 3-18
IUT Information	3-7, 3-10,	Out-of-Band Spurious Emissions
	3-21, 3-25	3-5, 3-13,
IUT Voice Setting	3-10	3-19
Liner_PCM_Bit_Pos	3-10	Out-of-band Spurious Emissions
Link Supervision Timeout-IUT as Master	3-6, 3-9,	3-23
	3-20	Output Power
Link Supervision Timeout-IUT as Slave	3-6, 3-9,	3-5, 3-12,
	3-20	3-13, 3-14,
LMP_test_control	3-11, 3-16,	3-16, 3-19,
	3-24	3-22, 3-23
Load...	3-4, 3-18	Paging-IUT as Master
Low Ch. ALL OFF	3-8, 3-12,	3-6, 3-9,
	3-22	3-20
Low Ch. ALL ON	3-8, 3-12,	Paging-IUT as Slave
	3-22	3-6, 3-9,
Maximum Input Level	3-5, 3-12,	3-20
	3-13, 3-14,	Pairing
	3-15, 3-16,	3-6, 3-9,
	3-19, 3-23,	3-20
	3-24	Panel Lock OFF
Measure	3-4, 3-18	3-4, 3-19
Measure Item >	3-7, 3-20	Panel Lock ON
Measurement Item ALL OFF	3-8, 3-12,	3-4, 3-19
	3-22	PASS/FAIL Limit
Measurement Item ALL ON	3-8, 3-12,	3-11, 3-13,
	3-22	3-17, 3-22,
Mid Ch. ALL OFF	3-8, 3-12,	3-25
	3-22	PIN Code
Mid Ch. ALL ON	3-8, 3-12,	3-10
	3-22	Power Control
Mode	3-4, 3-5,	3-5, 3-12,
	3-6, 3-7,	3-13, 3-14,
	3-8, 3-9,	3-16, 3-19,
	3-10, 3-11,	3-22, 3-23
		Power Density
		3-5, 3-12,
		3-13, 3-14,
		3-16, 3-19,
		3-22, 3-23
		Power Off
		3-4, 3-18
		Radio Law
		3-4, 3-18
		Receiver Test (BER, PER)
		3-15
		Receiver Test (BER/PER)
		3-14, 3-23
		Remote Loopback
		3-4, 3-6,
		3-10, 3-18,
		3-20, 3-24
		RF Measurement
		3-4, 3-7,
		3-10, 3-17,
		3-18, 3-20,
		3-24
		RS-232 Port
		3-7, 3-10,

	3-21, 3-25	3-17, 3-18,
Save...	3-4, 3-18	3-20, 3-24
SCO data-IUT as Master	3-6, 3-9, 3-20	
SCO data-IUT as Slave	3-6, 3-9, 3-20	
SCO Loopback-IUT as Master	3-6, 3-10, 3-20	
SCO Loopback-IUT as Slave	3-6, 3-10, 3-20	
SCO Packet Type	3-10	
Sensitivity single/multi	3-15	
Sensitivity-multi-slot packets	3-5, 3-12, 3-13, 3-16, 3-19, 3-23	
Sensitivity-single slot packets	3-5, 3-12, 3-13, 3-16, 3-19, 3-23	
Sensitivity-single/multi	3-14, 3-23	
Set Default	3-8, 3-9, 3-10, 3-12, 3-22, 3-24	
Set Default All	3-16, 3-24	
Set Default Packets	3-16, 3-24	
Set Default Poll Period	3-16, 3-24	
Set Default Test scenario	3-16, 3-24	
Setup	3-4, 3-18	
SIG RF	3-4, 3-5, 3-8, 3-11, 3-12, 3-13, 3-14, 3-16, 3-18, 3-19, 3-22	
Special	3-4, 3-19	
Spurious Emissions	3-12, 3-16	
Spurious Emissions (ETS)	3-14, 3-15, 3-23	
Spurious Emissions (FCC)	3-14, 3-15, 3-23	
System	3-4, 3-18	
System Configuration	3-7, 3-10, 3-21, 3-25	
System Setup	3-4, 3-7, 3-10, 3-18, 3-21, 3-25	
Test Parameter	3-11, 3-14, 3-17, 3-23, 3-25	
Time Adjust...	3-4, 3-18	
Utility	3-4, 3-6, 3-7, 3-10,	

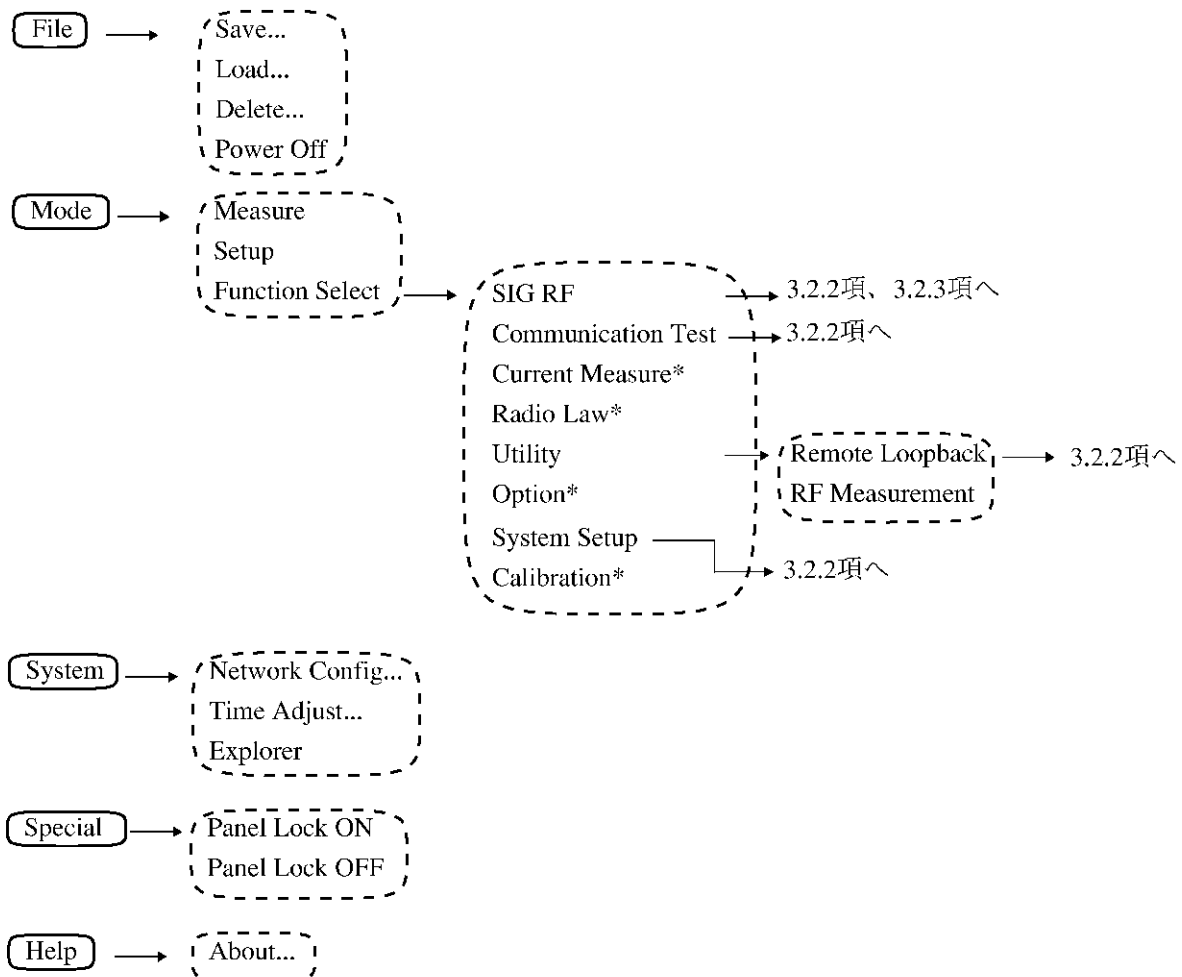
3.2 メニュー・マップ

ここでは、メイン・メニュー、ドロップダウン・メニュー、サイド・メニュー、タブのメニュー構成を示します。

注

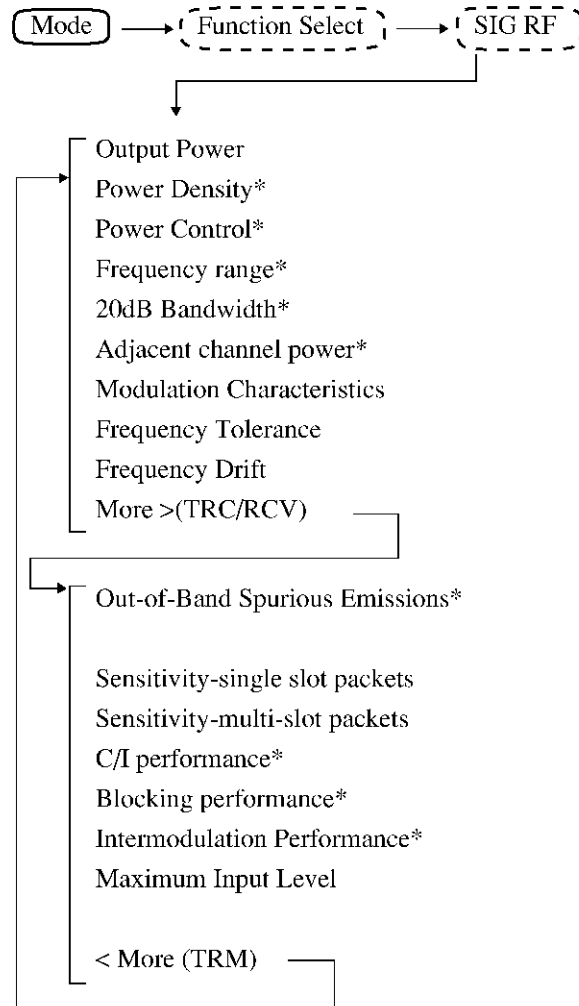
- は、メイン・メニューを示します。
- ⋯ は、ドロップダウン・メニューを示します。
- は、ダイアログ・ボックスを示します。
- * の付いたメニューは、本器単体では使用できません。

3.2.1 メイン・メニューとドロップダウン・メニュー

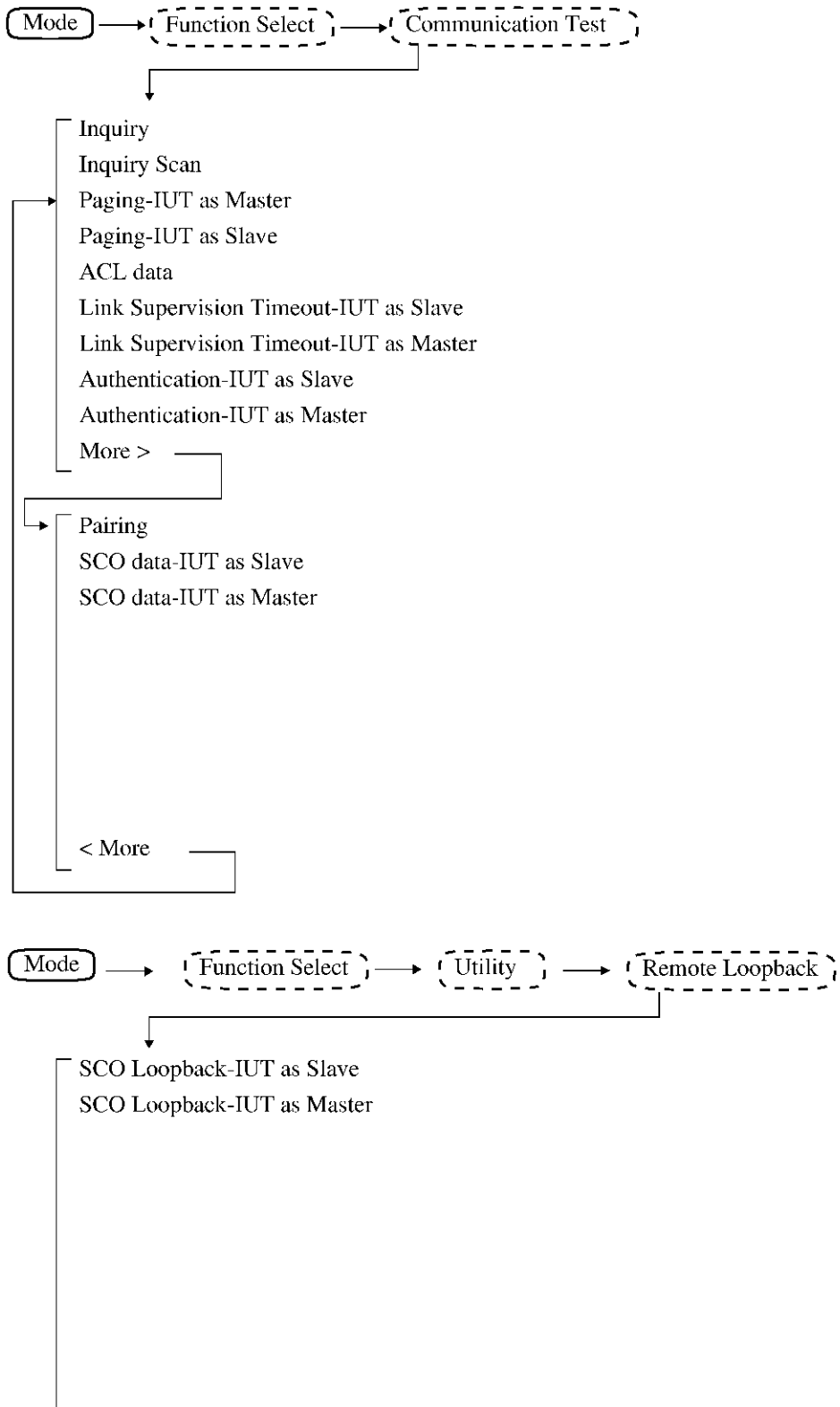


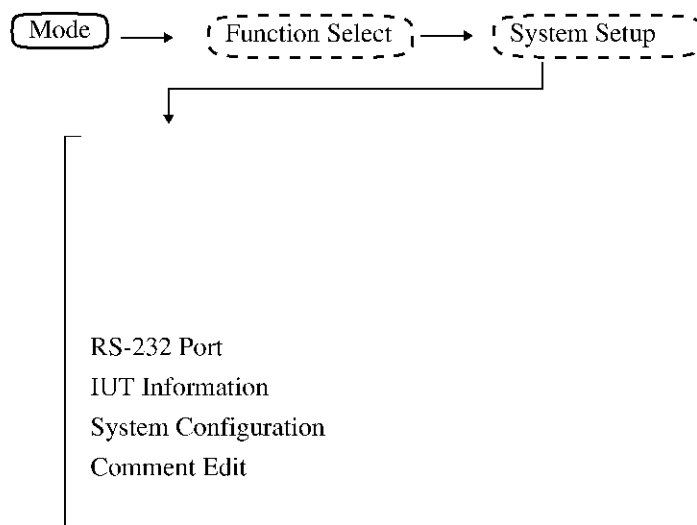
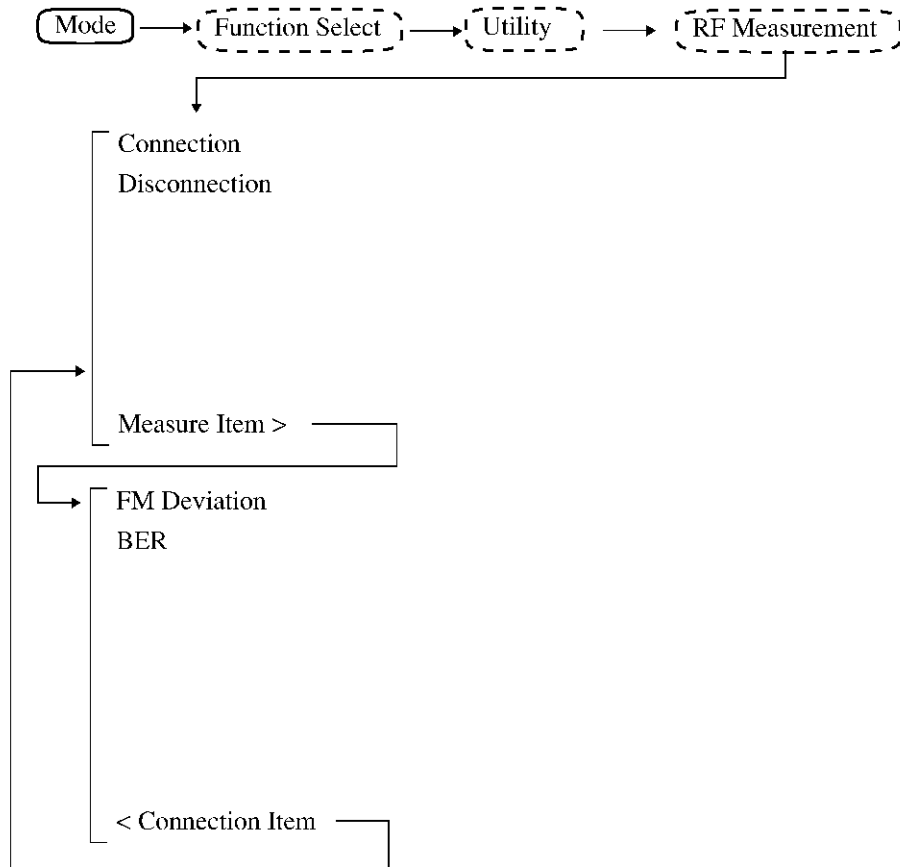
3.2.2 サイド・メニュー

1. Measure モードのメニュー



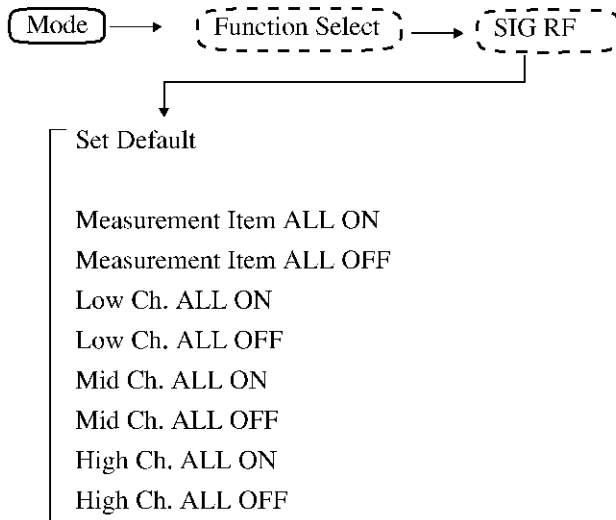
3.2.2 サイド・メニュー

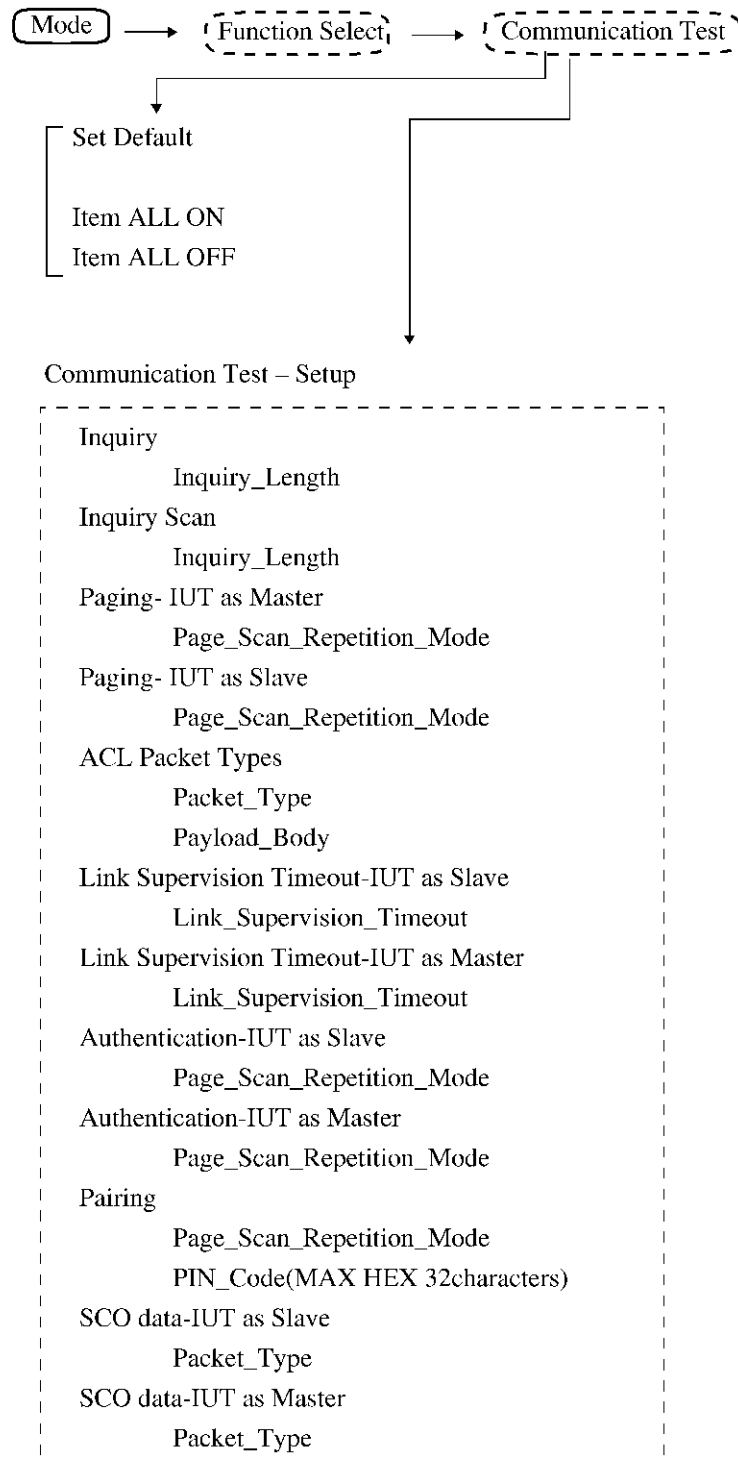




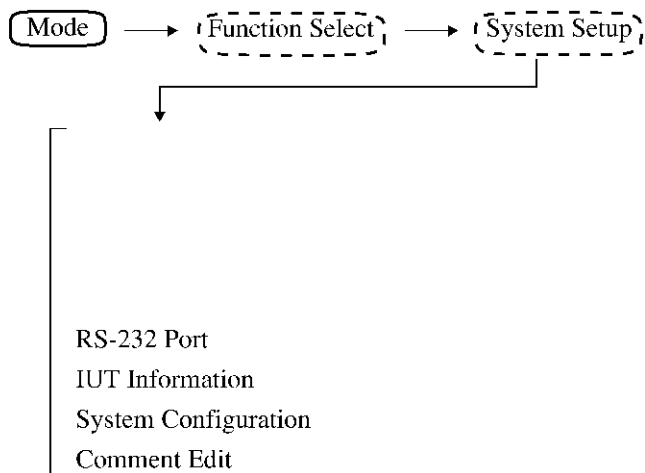
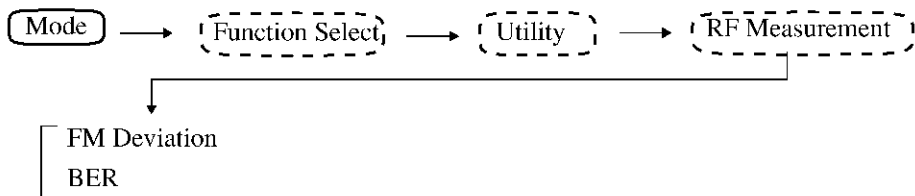
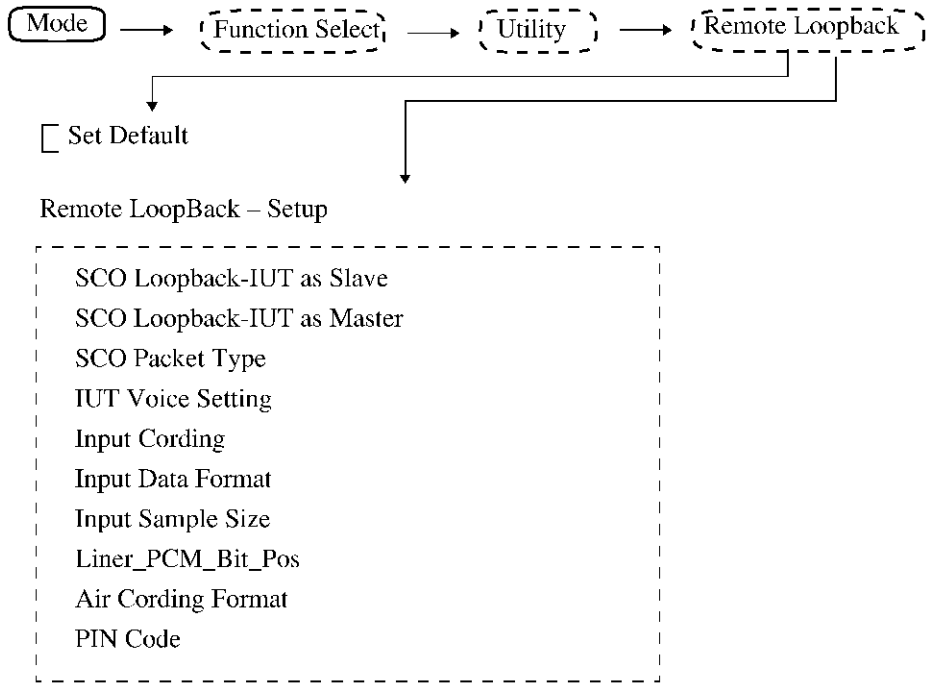
3.2.2 サイド・メニュー

2. Setup モードのメニュー



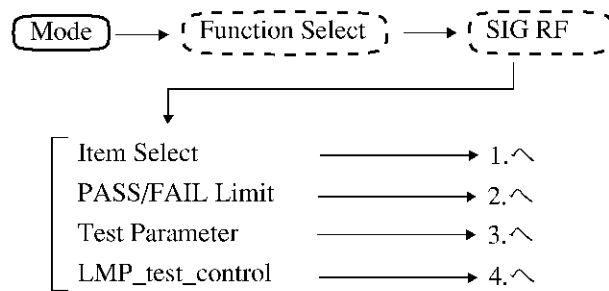


3.2.2 サイド・メニュー



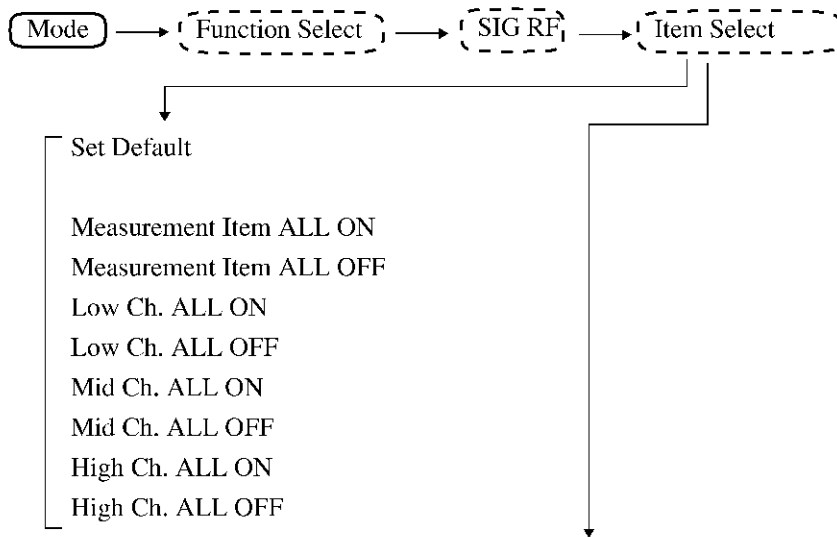
3.2.3 タブ

3.2.3.1 SIG RF



3.2.3 タブ

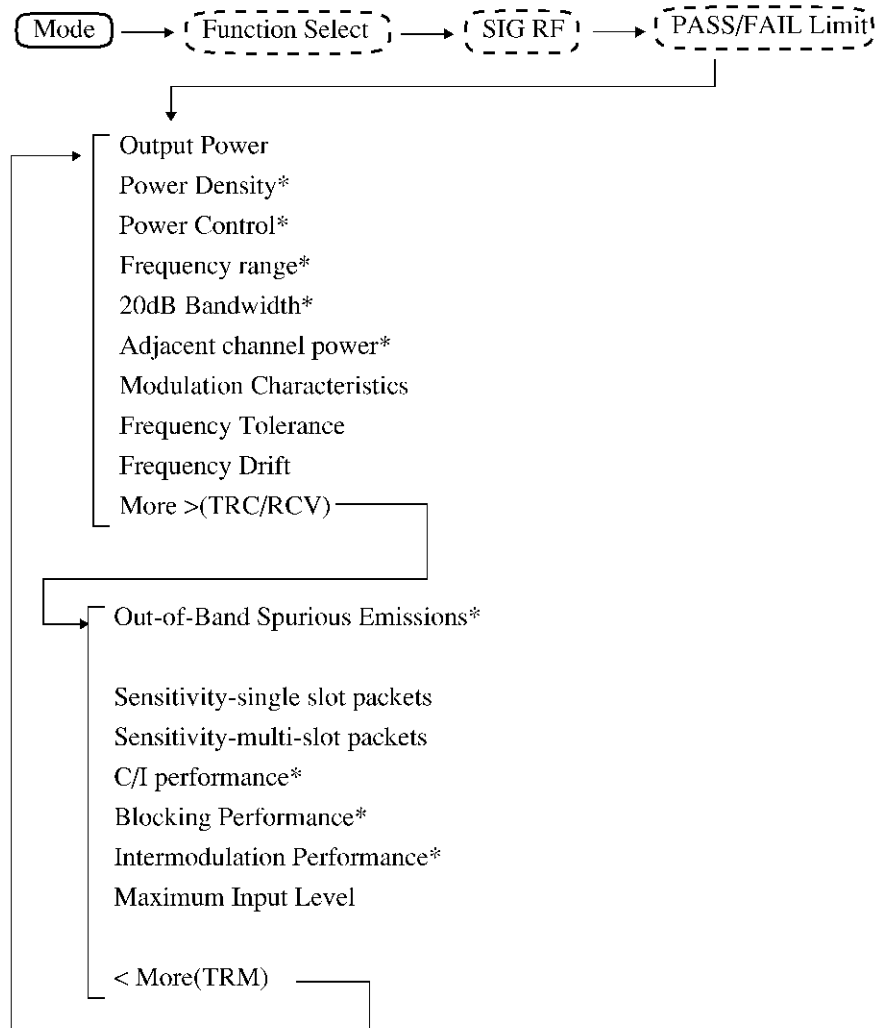
1. Item Select タブ



SIG Item Select

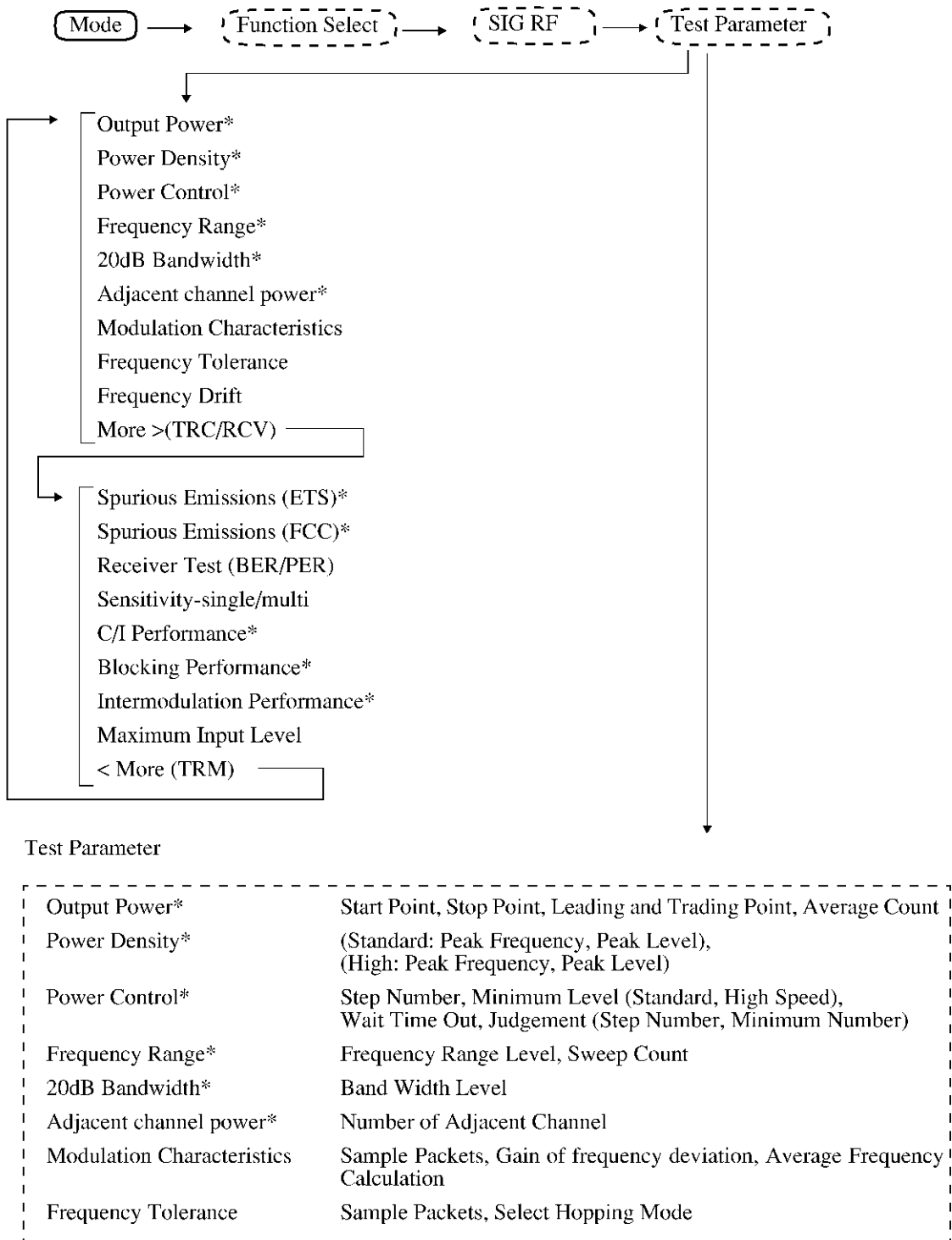
Execute On/Off [Measurement Item]	Execute Ch. On/Off [Low/Mid/High]	Test Method [Standard/High Speed]
Output Power		
Power Density*		
Power Control*		
Frequency range*		
20dB Bandwidth*		
Adjacent channel power*		
Modulation Characteristics		
Initial Carrier Freq. Tolerance		
Carrier Freq. Drift		
Spurious Emissions*		
Sensitivity-single slot packets		
Sensitivity-multi-slot packets		
C/I performance*		
Blocking performance*		
Intermodulation Performance*		
Maximum Input Level		

2. PASS/FAIL Limit タブ



3.2.3 タブ

3. Test Parameter タブ

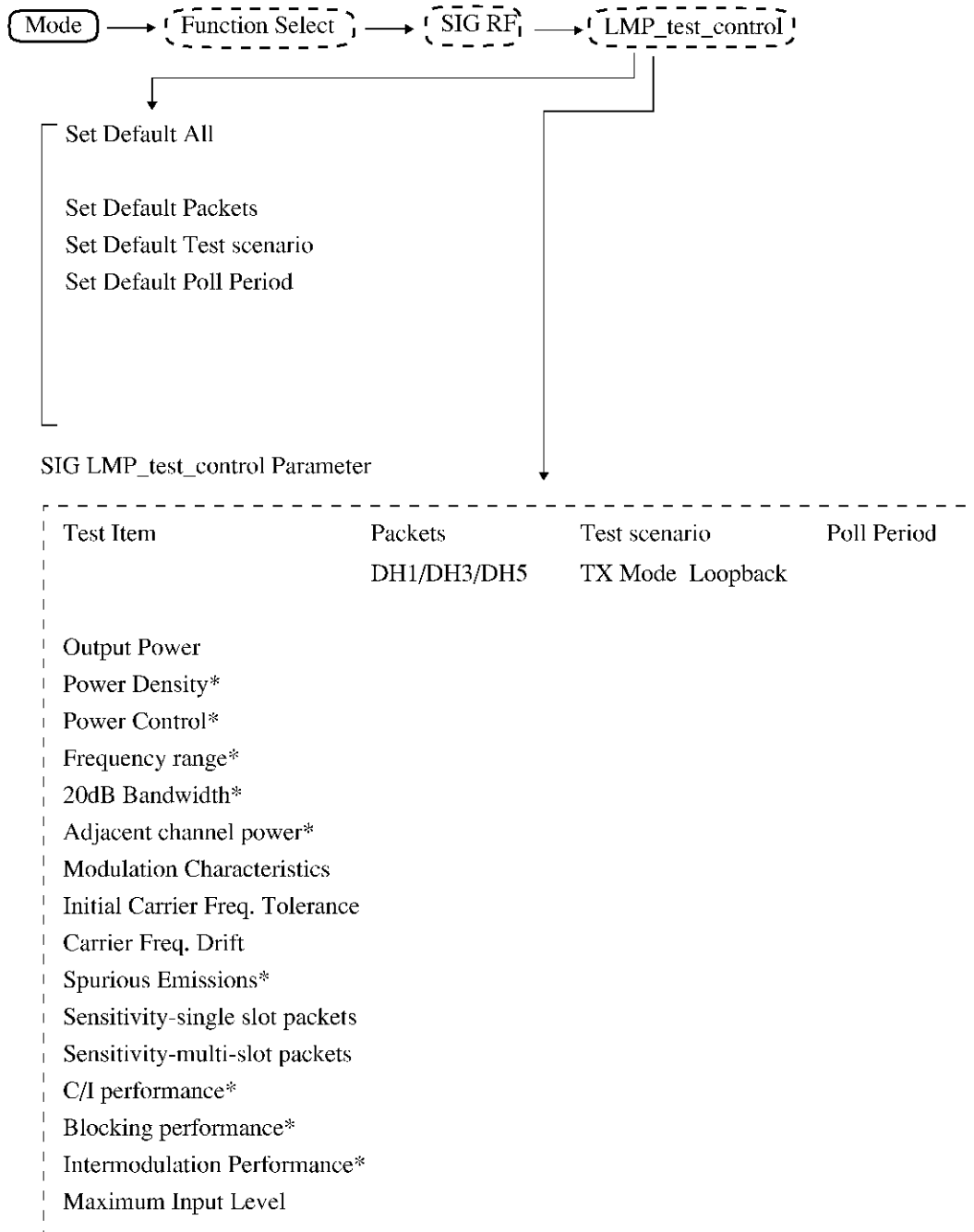


Test Parameter (続き)

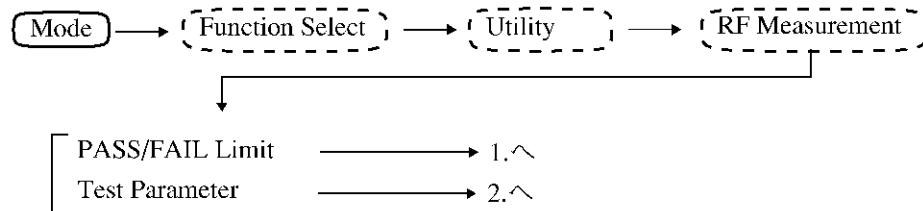
Frequency Drift	Sample Packets, Select Hopping Mode
Spurious Emissions (ETS)*	Test Frequency (for High Speed)
Spurious Emissions (FCC)*	Test Frequency (for High Speed)
Receiver Test (BER, PER)	Sample Bits, PER Calculation
Sensitivity single/multi	Dirty ON/OFF, TX Level
C/I Performance*	Image Frequency, Interfering Signal Level, Wanted Signal Level
Blocking Performance*	Wanted Signal Level, Interfering Signal Level 1/2/3
Intermodulation Performance*	Wanted Signal Level, f1 Signal Level, f2 Signal Level
Maximum Input Level	TX Level

3.2.3 タブ

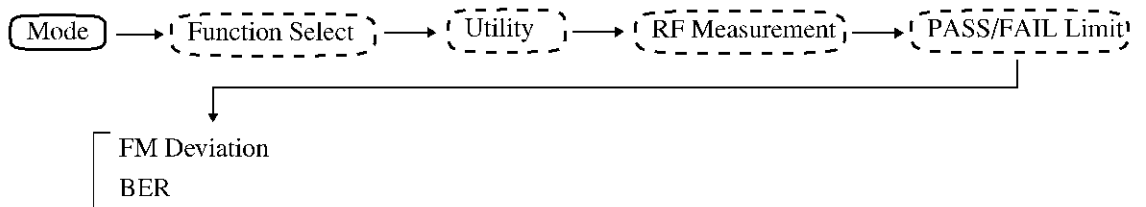
4. LMP_test_control タブ



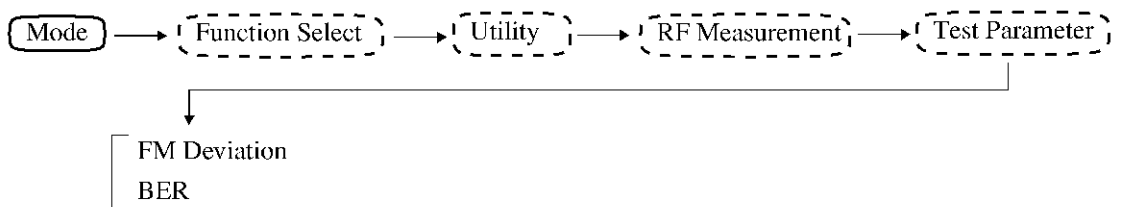
3.2.3.2 RF Measurement



1. PASS/FAIL Limit タブ



2. Test Parameter タブ



3.3 機能説明

3.3 機能説明

ここでは、各メニューの機能を説明します。3.3.1 ではメイン・メニュー、3.3.2 では Measure モードと Setup モードに分けて説明します。

3.3.1 メイン・メニューの説明

File	ファイルの操作に関するメニューおよび本器の終了に関するメニューをドロップダウン・メニューで表示します。
Save...	ファイルを保存するメニューを表示します。
Load...	ファイルを読み出すメニューを表示します。
Delete...	ファイルを削除するメニューを表示します。
Power Off	本器を終了するダイアログ・ボックスを表示します。
Mode	テストにかかわる本器のモードを切り替えます。
Measure	各テストにおける実行画面を表示します。
Setup	各テストにおける条件設定メニューを表示します。
Function Select	テストの種類やシステムの設定を選択するメニューを表示します。
SIG RF	Bluetooth™ SIG RF Test Specification のテスト・メニューを表示します。
Communication Test	Bluetooth™ SIG Blue Unit Test Cases のテスト・メニューを表示します。
Current Measure*	本器単体では使用できません。
Radio Law*	本器単体では使用できません。
Utility	
Remote Loopback	Remote Loopback の評価メニューを表示します。
RF Measurement	RF measurement のテスト・メニューを表示します。
Option*	本器単体では使用できません。
System Setup	テストにかかわる本器と IUT、テスト用コメント・メニューを表示します。
Calibration*	本器単体では使用できません。
System	システム機能を設定するメニューを表示します。
Network Config...	Network config ダイアログ・ボックスを表示します。
Time Adjust...	Time Adjust ダイアログ・ボックスを表示します。
Explorer	ファイル操作環境 (Explorer) を表示します。

Special

Panel Lock ON	Panel を Lock します。
Panel Lock OFF	Panel Lock を外します。

Help

About...	「本器について」の説明をするメニューを表示します。
-----------------	---------------------------

3.3.2 サイド・メニューの説明

1. Measure モードのメニュー

SIG RF

Bluetooth™ SIG RF Test Specification のテスト・メニューを表示します。

Output Power	Output Power のテストを実行します。
Power Density*	本器単体では使用できません。
Power Control*	本器単体では使用できません。
Frequency range*	本器単体では使用できません。
20dB Bandwidth*	本器単体では使用できません。
Adjacent channel power*	本器単体では使用できません。
Modulation Characteristics	Modulation Characteristics のテストを実行します。
Frequency Tolerance	Initial Carrier Frequency Tolerance のテストを実行します。
Frequency Drift	Carrier Frequency Drift のテストを実行します。
More >(TRC/RCV)	送受信、受信テスト・メニューの続きを表示します。
Out-of-Band Spurious Emissions*	本器単体では使用できません。
Sensitivity-single slot packets	Sensitivity-single slot packets のテストを実行します。
Sensitivity-multi-slot packets	Sensitivity-multi-slot packets のテストを実行します。
C/I Performance*	本器単体では使用できません。
Blocking Performance*	本器単体では使用できません。
Intermodulation Performance*	本器単体では使用できません。
Maximum Input Level	Maximum Input Level のテストを実行します。
< More (TRM)	送信テスト・メニューに戻ります。

Communication Test

Bluetooth™ SIG Blue Unit Test Cases のテスト・メニューを表示します。

Inquiry	Bluetooth™ SIG Blue Unit Test Cases の Inquiry のテストを実行します。
----------------	---

3.3.2 サイド・メニューの説明

<i>Inquiry Scan</i>	Bluetooth™ SIG Blue Unit Test Cases の Inquiry-Scan のテストを実行します。
<i>Paging-IUT as Master</i>	Bluetooth™ SIG Blue Unit Test Cases の Paging-IUT as Master のテストを実行します。
<i>Paging-IUT as Slave</i>	Bluetooth™ SIG Blue Unit Test Cases の Paging-IUT as Slave のテストを実行します。
<i>ACL data</i>	Bluetooth™ SIG Blue Unit Test Cases の ACL Packet Types のテストを実行します。
<i>Link Supervision Timeout-IUT as Slave</i>	Bluetooth™ SIG Blue Unit Test Cases の Link Supervision Timeout-IUT as Slave のテストを実行します。
<i>Link Supervision Timeout-IUT as Master</i>	Bluetooth™ SIG Blue Unit Test Cases の Link Supervision Timeout-IUT as Master のテストを実行します。
<i>Authentication-IUT as Slave</i>	Bluetooth™ SIG Blue Unit Test Cases の Authentication-IUT as Slave のテストを実行します。
<i>Authentication-IUT as Master</i>	Bluetooth™ SIG Blue Unit Test Cases の Authentication-IUT as Master のテストを実行します。
<i>More ></i>	残りの Bluetooth™ SIG Blue Unit Test Cases のメニューを表示します。
<i>Pairing</i>	Bluetooth™ SIG Blue Unit Test Cases の Pairing のテストを実行します。
<i>SCO data-IUT as Slave</i>	Bluetooth™ SIG Blue Unit Test Cases の SCO data-IUT as Slave を実行します。
<i>SCO data-IUT as Master</i>	Bluetooth™ SIG Blue Unit Test Cases の SCO data-IUT as Master を実行します。
<i><More</i>	Bluetooth™ SIG Blue Unit Test Cases の実行初期メニューに戻ります。
<i>Utility</i>	
<i>Remote Loopback</i>	Remote Loopback の評価メニューを表示します。
<i>SCO Loopback-IUT as Slave</i>	SCO Loopback-IUT as Slave を実行します。
<i>SCO Loopback-IUT as Master</i>	SCO Loopback-IUT as Master を実行します。
<i>RF Measurement</i>	RF Measurement テスト・メニューを表示します。
<i>Connection</i>	Connection を実行します。
<i>Disconnection</i>	Disconnection を実行します。
<i>Measure Item ></i>	Measure Item メニューを表示します。
<i>FM Deviation</i>	FM Deviation を実行します。

BER	BER を実行します。
< Connection Item	Connection Item メニューを表示します。
System Setup	テストにかかわる本器と IUT、テスト用コメント・メニューを表示します。
RS-232 Port	HCI (Host Control Interface) の設定メニューを表示します。
IUT Information	被測定物 IUT の Information にかかわるダイアログ・ボックスのメニューを表示します。
	Channel Number Assignment: 79 チャンネル / 23 チャンネルのうち、どちらかを選択します。
	Power Class: RF 送信電力の最大出力クラスを設定します。
	IUT Control: 被測定物の制御方法を設定します。 ON の場合、本器背面パネルの RS-232 ラインを IUT の HCI として使用します。 OFF の場合、IUT は RS-232 から制御されません。
	Select IUT Information Method: 被測定物のボード・アドレスの取得方法を設定します。
	IUT BD Address: Select IUT Information Method を User Setting に設定した場合、入力可能です。
	Support Packet: Select IUT Information Method を User Setting に設定した場合、入力可能です。
System Configuration	本器の System Setup にかかわるダイアログ・ボックスのメニューを表示します。
	設定項目 RFCH1 の外部 Cable Loss RFCH2 の外部 Cable Loss Tx Signal Level Tx Signal Modulation Index 内部 Signaling Unit 1 の BD Address Test Channel (Frequency or Channel) Test Channel Low/Mid/High 10 MHz Reference
Comment Edit	以下の項目は、テスト・データにコメントを編集しておくことができます。
	Unit Name Lot Number Device Number Device Number Auto Increment User Comment

3.3.2 サイド・メニューの説明

2. Setup モードのメニュー

SIG RF

Bluetooth™ SIG RF Test Specification のテストにかかわる Setup メニューを表示します。以下のメニューをそれぞれ選択することにより、詳細を設定できます。

Item Select

テスト項目の選択メニューを表示します。
テスト条件画面を切り替えるために使用します。

注 Bluetooth™ SIG RF Test Specification のテストを行うときのみ表示されます。

Set Default

Bluetooth™ SIG RF Test Specification にかかわる 7 項目の設定を Default 値に設定します。

Measurement Item ALL ON

Bluetooth™ SIG RF Test Specification のテスト項目をすべて ON に設定します。

Measurement Item ALL OFF

Bluetooth™ SIG RF Test Specification のテスト項目をすべて OFF に設定します。

Low Ch. ALL ON

Bluetooth™ SIG RF Test Specification のテストにおける実行チャンネルにすべての Low を設定します。

Low Ch. ALL OFF

Bluetooth™ SIG RF Test Specification のテストにおいて、実行チャンネルの Low の設定をすべて外します。

Mid Ch. ALL ON

Bluetooth™ SIG RF Test Specification のテストにおける実行チャンネルにすべての Mid を設定します。

Mid Ch. ALL OFF

Bluetooth™ SIG RF Test Specification のテストにおいて、実行チャンネルの Mid の設定をすべて外します。

High Ch. ALL ON

Bluetooth™ SIG RF Test Specification のテストにおける実行チャンネルにすべての High を設定します。

High Ch. ALL OFF

Bluetooth™ SIG RF Test Specification のテストにおいて、実行チャンネルの High の設定をすべて外します。

PASS/FAIL Limit

テストの判定値の設定メニューを表示します。
テスト条件画面を切り替えるために使用します。

注 Bluetooth™ SIG RF Test Specification のテストを行うときのみ表示されます。

Output Power

Output Power の PASS/FAIL の Limit の設定をします。

Power Density*

本体単体では使用できません。

Power Control*

本体単体では使用できません。

Frequency Range*

本体単体では使用できません。

20dB Bandwidth*

本体単体では使用できません。

Adjacent Channel Power*

本体単体では使用できません。

<i>Modulation Characteristics</i>	Modulation Characteristics の PASS/FAIL の Limit の設定をします。
<i>Frequency Tolerance</i>	Frequency Tolerance の PASS/FAIL の Limit の設定をします。
<i>Frequency Drift</i>	Frequency Drift の PASS/FAIL の Limit の設定をします。
<i>Out-of-band Spurious Emissions*</i>	本体単体では使用できません。
<i>Sensitivity-single slot packets</i>	Sensitivity-single slot packets の PASS/FAIL の Limit の設定をします。
<i>Sensitivity-multi-slot packets</i>	Sensitivity-multi-slot packets の PASS/FAIL の Limit の設定をします。
<i>C/I performance*</i>	本体単体では使用できません。
<i>Blocking performance*</i>	本体単体では使用できません。
<i>Intermodulation performance*</i>	本体単体では使用できません。
<i>Maximum Input Level</i>	Maximum Input Level の PASS/FAIL の Limit の設定をします。

Test Parameter

テストのための Parameter の設定メニューを表示します。
テスト条件画面を切り替えるために使用します。

注 Bluetooth™ SIG RF Test Specification のテストを行うときのみ表示されます。

<i>Output Power*</i>	本体単体では使用できません。
<i>Power Density*</i>	本体単体では使用できません。
<i>Power Control*</i>	本体単体では使用できません。
<i>Frequency Range*</i>	本体単体では使用できません。
<i>20dB Bandwidth*</i>	本体単体では使用できません。
<i>Adjacent Channel Power*</i>	本体単体では使用できません。
<i>Modulation Characteristics</i>	Modulation Characteristics の Test Parameter の設定をします。
<i>Frequency Tolerance</i>	Frequency Tolerance の Test Parameter の設定をします。
<i>Frequency Drift</i>	Frequency Drift の Test Parameter の設定をします。
<i>Spurious Emissions (ETS)*</i>	本体単体では使用できません。
<i>Spurious Emissions (FCC)*</i>	本体単体では使用できません。
<i>Receiver Test (BER/PER)</i>	Receiver Test の Test Parameter の設定をします。
<i>Sensitivity-single/multi</i>	Sensitivity-single/multi の Test Parameter の設定をします。
<i>C/I performance*</i>	本体単体では使用できません。
<i>Blocking performance*</i>	本体単体では使用できません。

3.3.2 サイド・メニューの説明

<i>Intermodulation performance</i>	* 本体単体では使用できません。
<i>Maximum Input Level</i>	Maximum Input Level の Test Parameter の設定をします。
LMP test control	
<i>Set Default All</i>	Bluetooth™ SIG RF 測定時の通信条件を設定します。
<i>Set Default Packets</i>	Packet Type, Test scenario, Poll Period をすべて Default 値に戻します。
<i>Set Default Test scenario</i>	Test scenario をすべて Default 値に戻します。
<i>Set Default Poll Period</i>	Poll Period をすべて Default 値に戻します。
Communication Test	
	Bluetooth™ SIG Blue Unit Test Cases にかかわるダイアログ・ボックスのメニューを表示します。
設定項目	Item select Inquiry_Length Page_Scan_Repetition_Mode Packet_Type Payload_Body Link_Supervision_Timeout PIN_Code
<i>Set Default</i>	Bluetooth™ SIG Blue Unit Test Cases にかかわる 7 項目の設定を Default 値に設定します。
<i>Item ALL ON</i>	Bluetooth™ SIG Blue Unit Test Cases にかかわるテスト項目をすべて ON に設定します。
<i>Item ALL OFF</i>	Bluetooth™ SIG Blue Unit Test Cases にかかわるテスト項目をすべて OFF に設定します。
Utility	
<i>Remote Loopback</i>	Remote Loopback に関わるメニューを表示します。
設定項目	SCO Loopback-IUT as Slave ON/OFF Remote Loopback ON/OFF SCO Loopback-IUT as Master ON/OFF Remote Loopback ON/OFF SCO Packet Type Input Coding Input Data Format Input Sample Size Linear_PCM_Bit_Pos Air Cording Format PIN Code
<i>RF Measurement</i>	RF Measurement に関わるメニューを表示します。

PASS/FAIL Limit

テストの判定値の設定メニューを表示します。
テスト条件を切り替えるために使用します。

注 Utility の RF measurement のテストを行うときのみ表示されます。

FM Deviation

FM Deviation にかかわる項目 PASS/FAIL の Limit の設定をします。

BER

BER の PASS/FAIL の Limit の設定をします。

Test Parameter

テストの Parameter の設定メニューを表示します。
テスト条件画面を切り替えるために使用します。

注 Utility の RF measurement のテストを行うときのみ表示されます。

FM Deviation

FM Deviation の Parameter の設定をします。

BER

BER の Test Parameter の設定をします。

System Setup

テストにかかわる本器と IUT、テスト用コメント・メニューを表示します。

RS-232 Port

HCI (Host Control Interface) の設定メニューを表示します。

IUT Information

被測定物 IUT の Information にかかわるダイアログ・ボックスのメニューを表示します。

Channel Number Assignment:

79 チャンネル / 23 チャンネルのうち、どちらかを選択します。

Power Class:

RF 送信電力の最大出力クラスを設定します。

IUT Control:

被測定物の制御方法を設定します。
ONの場合、本器背面パネルのRS-232ラインをIUTのHCIとして使用します。
OFFの場合、IUTはRS-232から制御されません。

Select IUT Information Method:

被測定物のボード・アドレスの取得方法を設定します。

IUT BD Address:

Select IUT Information Method を User Setting に設定した場合、入力可能です。

Support Packet:

Select IUT Information Method を User Setting に設定した場合、入力可能です。

System Configuration

本器の System Setup にかかわるダイアログ・ボックスのメ

3.3.2 サイド・メニューの説明

メニューを表示します。

設定項目 RFCH1の外部Cable Loss
RFCH2の外部Cable Loss
Tx Signal Level
Tx Signal modulation Index
内部Signaling Unit 1のBD Address
Test Channel(Frequency or Channel)
Test Channel Low/Mid/High
10 MHz Reference

Comment Edit

以下の項目は、テスト・データにコメントを編集しておくことができます。

Unit Name
Lot Number
Device Number
Device Number Auto Increment
User Comment

3.4 Bluetooth SIG RF test 項目と判定値の範囲

1. RF ポート CH1

表 3-1 Bluetooth SIG RF test 項目と判定値の範囲 CH1

規格	テスト項目	設定範囲		Note-1	Note-2
TRM/CA/01/C	Output power	Average Power	+25 dBm ~ -33 dBm	Class 1-3 同じ	EXT ATT の範囲は 0 dB ~ 30 dB で可変できる。
		Peak Power	+25 dBm ~ -30 dBm	Class 1-3 同じ	EXT ATT の範囲は 0 dB ~ 30 dB で可変できる。
TRM/CA/07/C	Modulation Characteristics	$\Delta f_{1\text{avg}}$	0 kHz ~ 300 kHz		
		$\Delta f_{2\text{max}}$	0 kHz ~ 300 kHz		
		PASS/All $\Delta f_{2\text{max}}$	0 ~ 100%		
		Ratio ($\Delta f_{2\text{avg}}/\Delta f_{1\text{avg}}$)	0 ~ 1.0		
TRM/CA/08/C	Initial Carrier Frequency Tolerance	Initial Carrier Frequency Tolerance	0 kHz ~ 300 kHz		
TRM/CA/09/C	Carrier Frequency Drift	DH1 Drift	0 kHz ~ 300 kHz		
		DH3 Drift	0 kHz ~ 300 kHz		
		DH5 Drift	0 kHz ~ 300 kHz		
		Drift Rate	0 Hz ~ 300000 Hz/50 μ s		
RCV/CA/01/C	Sensitivity-single slot packets	BER	0% ~ 100%	resolution 0.0001%	
RCV/CA/02/C	Sensitivity-multi slot packets	BER	0% ~ 100%	resolution 0.0001%	
RCV/CA/06/C	Maximum Input Level	BER	0% ~ 100%	resolution 0.0001%	

3.4 Bluetooth SIG RF test 項目と判定値の範囲

2. RF ポート CH2

表 3-2 Bluetooth SIG RF test 項目と判定値の範囲 CH2

規格	テスト項目	設定範囲		Note-1	Note-2
TRM/CA/01/C	Output power	Average Power	+8 dBm ~ -50 dBm	Class 1-3 同じ	EXT ATT の範囲は 0 dB ~ 30 dB で可変できる。
		Peak Power	+8 dBm ~ -50 dBm	Class 1-3 同じ	EXT ATT の範囲は 0 dB ~ 30 dB で可変できる。
TRM/CA/07/C	Modulation Characteristics	$\Delta f_{1\text{avg}}$	0 kHz ~ 300 kHz		
		$\Delta f_{2\text{max}}$	0 kHz ~ 300 kHz		
		PASS/All $\Delta f_{2\text{max}}$	0 ~ 100%		
		Ratio ($\Delta f_{2\text{avg}}/\Delta f_{1\text{avg}}$)	0 ~ 1.0		
TRM/CA/08/C	Initial Carrier Frequency Tolerance	Initial Carrier Frequency Tolerance	0 kHz ~ 300 kHz		
TRM/CA/09/C	Carrier Frequency Drift	DH1 Drift	0 kHz ~ 300 kHz		
		DH3 Drift	0 kHz ~ 300 kHz		
		DH5 Drift	0 kHz ~ 300 kHz		
		Drift Rate	0 Hz ~ 300000 Hz/50 μ s		
RCV/CA/01/C	Sensitivity-single slot packets	BER	0% ~ 100%	resolution 0.0001%	
RCV/CA/02/C	Sensitivity-multi slot packets	BER	0% ~ 100%	resolution 0.0001%	
RCV/CA/06/C	Maximum Input Level	BER	0% ~ 100%	resolution 0.0001%	

4. テスト方法

この章では、Bluetooth SIG の RF テスト項目において、本器の内部動作について説明します。ここでは、本器でテストが可能な 7 項目を説明します。

- Output Power
- Modulation Characteristics
- Initial Carrier frequency Tolerance
- Carrier Frequency Drift
- Sensitivity (single slot packets)
- Sensitivity (multi-slot packets)
- Maximum Input Level

4.1 Output Power

本器は、下記の条件で Bluetooth の IUT の送信出力をテストします。

注 本器での Output Power テストは、内部 Test Method が High Speed モードに設定されています。

1. 通信状態

- Hopping : OFF
- Test Mode : ON
- TX Mode or Loopback Mode
- Payload : PRBS 9
- Packet Type : DH1, DH3, DH5 のうち、1 つだけ選択して測定
- 受信周波数 : 設定については、2.4.3 項 System Configuration 設定を参照して下さい。

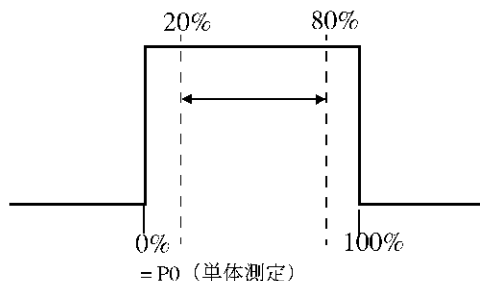
2. テスト項目

- Average Power
- Peak Power

注 テストは、Packet Type が DH1, DH3, DH5 のいずれの場合も送信バースト波形の 20% 以下および 80% 以上 ^{*1} の Average Power と Peak Power をテストします。

4.2 Modulation Characteristics

*1:



4.2 Modulation Characteristics

本器は、下記の条件で Bluetooth の IUT の変調特性をテストします。

1. 通信状態

- Hopping : OFF
- Test Mode : ON
- TX Mode or Loopback Mode
- Payload : 01010101 and 00001111
- Packet Type : DH1, DH3, DH5 のうち、1つだけ選択して測定
- 受信周波数 : 設定については、2.4.3 項 System Configuration 設定を参照して下さい。

2. テスト項目

- $\Delta f_{1_{avg}}$
- $\Delta f_{1_{max}}$
- $\Delta f_{2_{avg}}$
- $\Delta f_{2_{max}}$
- PASS/ALL $\Delta f_{2_{max}}$
- $\Delta f_{2_{avg}} / \Delta f_{1_{avg}}$

4.3 Initial Carrier frequency Tolerance

本器は、下記の条件で Bluetooth の IUT の初期搬送波周波数をテストします。

1. 通信状態

- Hopping : ON and OFF *1
- Test Mode : ON
- TX Mode or Loopback Mode
- Payload : PRBS 9
- Packet Type : DH1, DH3, DH5 のうち、1 つだけ選択して測定
- 受信周波数 : 設定については、2.4.3 項 System Configuration 設定を参照して下さい。

2. テスト項目

- Initial Carrier frequency Tolerance (hopping Off)
- Initial Carrier frequency Tolerance (hopping On)

*1:Hopping の ON、OFF の両方、および ON、OFF のいずれかを選択できます。
ON、OFF ともに選択しない場合、測定は実行されません。

4.4 Carrier Frequency Drift

本器は、下記の条件で Bluetooth の IUT の周波数ドリフトをテストします。

1. 通信状態

- Hopping : ON and OFF *1
- Test Mode : ON
- TX Mode or Loopback Mode
- Payload : 01010101
- Packet Type : DH1, DH3, DH5 から、1 つ以上選択して測定
- 受信周波数 : 設定については、2.4.3 項 System Configuration 設定を参照して下さい。

2. テスト項目

- Carrier frequency Drift (hopping Off)
- Carrier frequency Drift (hopping On)
- Drift Rate (hopping Off)
- Drift Rate (hopping On)

*1:Hopping の ON、OFF の両方、および ON、OFF のいずれかを選択できます。
ON、OFF ともに選択しない場合、測定は実行されません。

4.5 Sensitivity (single slot packets)

本器は、下記の条件で Bluetooth の IUT の受信感度をテストします。

1. 通信状態

- Hopping : OFF
- Test Mode : ON
- Loopback Mode
- Dirty Transmitter or Normal
- Payload : PRBS 9
- Packet Type : DH1
- 検証ビット数 : 1600000 bits (注 1)
- IUT 入力レベル : -70 dBm (注 2)
- 送信周波数 : 設定については、2.4.3 項 System Configuration 設定を参照して下さい。

注

1. High Speed モード、Standard モードの検証ビット数は、以下の範囲で任意に変更可能です。
High Speed モード : 1 ~ 1600000 bits
Standard モード : 1600000 ~ 9999999 bits
2. IUT 入力レベルは、以下の場合に変更可能です。
SIG Test Parameter 設定において、Sensitivity の TX Level (IUT Input Level)

2. テスト項目

- BER (Bit Error Rate)
- PER (Packet Error Rate)

注 本器は、Delayed loopback 方式にも対応しています。Delayed/Normal を設定する必要はありません。

4.6 Sensitivity (multi-slot packets)

本器は、下記の条件で Bluetooth の IUT の受信感度をテストします。

1. 通信状態

- Hopping : OFF
- Test Mode : ON
- Loopback Mode
- Dirty Transmitter or Normal
- Payload : PRBS 9
- Packet Type : DH3, DH5 のどちらかを選択して測定
- 検証ビット数 : 1600000 bits (注 1)
- IUT 入力レベル : -70 dBm (注 2)
- 送信周波数 : 設定については、2.4.3 項 System Configuration 設定を参照して下さい。

注

1. High Speed モード、Standard モードの検証ビット数は、以下の範囲で任意に変更可能です。
High Speed モード : 1 ~ 1600000 bits
Standard モード : 1600000 ~ 9999999 bits
2. IUT 入力レベルは、以下の場合に変更可能です。
SIG Test Parameter 設定において、Sensitivity の TX Level (IUT Input Level)

2. テスト項目

- BER (Bit Error Rate)
- PER (Packet Error Rate)

注 本器は、Delayed loopback 方式にも対応しています。Delayed/Normal を設定する必要はありません。

4.7 Maximum Input Level

本器は、下記の条件で Bluetooth の IUT の最大受信入力をテストします。

1. 通信状態

- Hopping : OFF
- Test Mode : ON
- Loopback Mode
- Normal
- Payload : PRBS 9
- Packet Type : DH1, DH3, DH5 のうち、1つだけ選択して測定
- 検証ビット数 : 1600000 bits (注 1)
- IUT 入力レベル : -20 dBm (注 2)
- 送信周波数 : 設定については、2.4.3 項 System Configuration 設定を参照して下さい。

注

1. High Speed モード、Standard モードの検証ビット数は、以下の範囲で任意に変更可能です。
High Speed モード : 1 ~ 1600000 bits
Standard モード : 1600000 ~ 9999999 bits
2. IUT 入力レベルは、以下の場合に変更可能です。
SIG Test Parameter 設定において、Maximum Input Level の TX Level (IUT Input Level)

2. テスト項目

- BER (Bit Error Rate)
- PER (Packet Error Rate)

注 本器は、Delayed loopback 方式にも対応しています。Delayed/Normal に設定する必要はありません。

4.8 FM Deviation

本器は下記の条件で Bluetooth の IUT の送信測定をテストします。

1. 通信状態

- Hopping : OFF
- Test Mode : ON
- Loopback Mode
- Payload : 01010101 と 00001111
- Packet Type : DH1, DH3, DH5 のうち、1つだけ選択して測定
- 受信周波数 : Setup の Test Parameter にて設定

注 Channel (Frequency) は、System Setup、System Configuration の Channel Number Assignment の設定に依存します。

2. テスト項目

- Output Power Average Power, Peak Power
- Modulation Characteristics $\Delta f1_{\max}$, $\Delta f1_{\text{avg}}$, $\Delta f2_{\max}$, $\Delta f2_{\text{avg}}$, $\Delta f2_{\text{avg}}/\Delta f1_{\text{avg}}$, Pass All $\Delta f2_{\max}$
- Frequency Drift Drift, Drift Rate
- Frequency Tolerance

注 測定方法は、Advantest 独自の方法で SIG 規格の方法と異なります。

4.9 BER

本器は下記の条件で Bluetooth の IUT の受信感度をテストします。

1. 通信状態

- Hopping: ON or OFF
- Test Mode : ON
- Loopback Mode
- Dirty Transmitter or Normal
- Payload : PRBS 9
- Packet Type : DH1, DH3, DH5 のうち、1つだけ選択して測定
- 検証ビット数 : 1 ~ 9,999,999
- IUT 入力レベル : -13 ~ -93 dBm
- 送信周波数 : Setup の Test Parameter にて設定

注 Channel (Frequency) は、System Setup、System Configuration の Channel Number Assignment の設定に依存します。

2. テスト項目

- BER (Bit Error Rate)
- PER (Packet Error Rate)

注 本器は、Delayed loopback 方式にも対応しています。Delayed/Normal を設定する必要はありません。

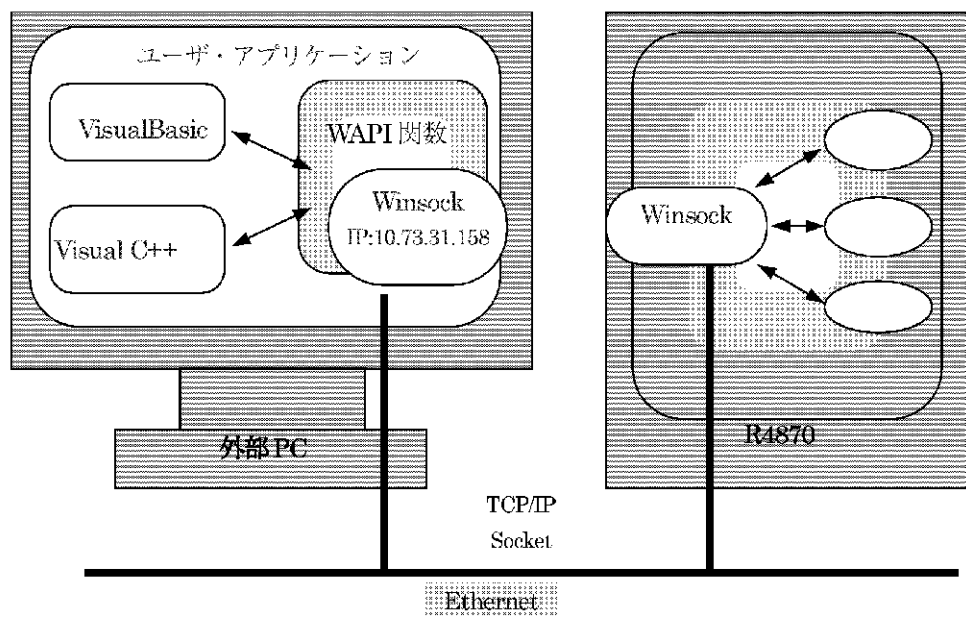
5. リモート制御

5.1 制御方法および準備

外部 PC を使って R4870 を Ethernet 経由での制御方法について説明します。
(VisualBasic6.0 での測定アプリケーションの作成手順を示します。)

R4870 は Windows アプリケーション専用の API 関数 (WAPI 関数) を使用することで制御可能となっています。これは、外部 PC の Windows アプリケーションと R4870 のプロセス間での通信を行うことで実現しています。このプロセス間の通信には、TCP/IP プロトコルを使った Winsock 1.1 によるソケット通信を行っています。

以下にそのイメージを示します。



- WAPI 関数について
測定アプリケーションから R4870 を制御して、測定データを取得する専用の API 関数を Windows DLL として提供しています。この API 関数を WAPI 関数と呼びます。
 - 外部測定アプリケーション開発の準備
外部 PC から WAPI 関数を使用して R4870 を制御する測定アプリケーションを作成するための準備作業を記述します。
(開発環境 (OS) は Windows98SE/2000、使用言語は VisualBasic6.0 です。)
1. ご利用頂く WAPI 関数名は bt.dll (Win32 Dynamic Link Library) です。
この WAPI 関数は必ず測定アプリケーションと同じフォルダ内に置いて下さい。

5.1 制御方法および準備

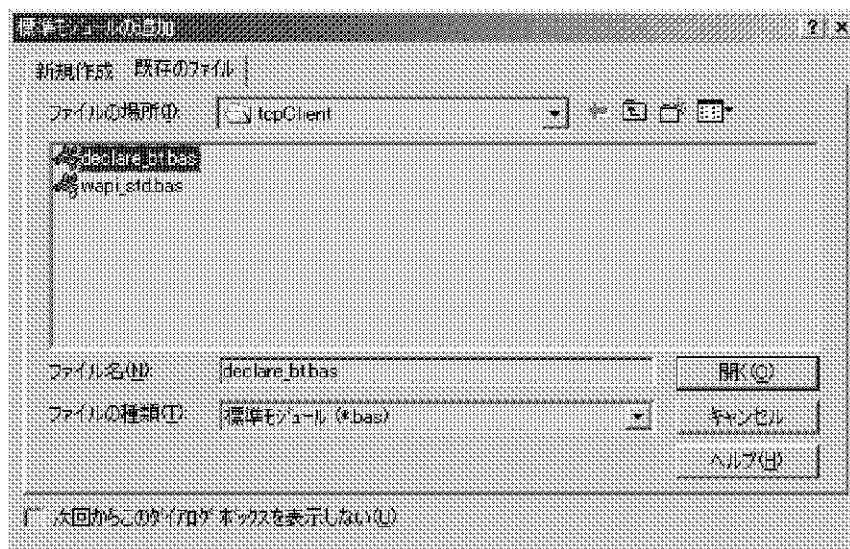
2. VisualBasic6.0 から API 関数をコールするには、Declare 宣言文が必要になります。弊社ではこの宣言文を記述した定義ファイルも bt.dll と一緒に提供しています。bt.dll および定義ファイルは、本器のドライブ「D:\Advantest\AR4870」にあります。Explorer を使いフロッピー・ディスクに本器からコピーしてお使い下さい。

注 bt.dll は Explorer の設定により表示されない場合があります。設定の変更は、Explorer のメイン・メニューの **View** をクリックして、ドロップダウン・メニューの **Options...** を選択します。Options ダイアログ・ボックスが表示されますので **View** タブ内の **Show all files** を選択し、**OK** をクリックします。

使用する定義ファイルを以下に示します。

```
declare_bt.bas
declare_loopback.bas
declare_telec.bas
declare_vsim.bas
declare_butc.bas
declare_sig.bas
declare_rfmeas.bas
wapi_std.bas
```

この定義ファイルは、作成する測定アプリケーションと同じフォルダに置いてプロジェクト・ファイルにすべて追加して下さい。



この画面では、declare_bt.bas を追加しているところです。

3. 以上の作業を行うことで、測定アプリケーション作成環境の準備が完了しました。

5.2 マクロ定義

ON/OFF

マクロ名	値	機能
WMT_OFF	0	OFF
WMT_ON	1	ON

TRUE/FALSE

マクロ名	値	機能
WMT_TRUE	0	正常終了（正常値）
WMT_FALSE	1	エラーあり

5.3 エラー・コード一覧

エラー・モニタック	コード	説明
ERR_SOCKET_COM	256	ソケット通信エラーが発生した。
ERR_SEND_SIZE	257	送信したデータ数が違っている。
ERR_RECV_SIZE	258	受信したデータ数が違っている。
ERR_PACKET_ATTR	259	パケット属性が違っている。
ERR_ILLEGAL_COM	260	送信コマンドに対する応答ではない。
ERR_QUERY_BUF	261	クエリ・バッファが空か、指定されていない。
ERR_PARAM_NUM	262	データ受信時、格納先変数の数と送られてきたパラメータ数とが食い違っている。
ERR_NO_TYPE	263	データ受信時、データ型が不適切である。
ERR_TYPE_SIZE	264	LONG/SINGLE/DOUBLE 型のデータ受信時、データ・サイズが違っている。
ERR_ALLOC	265	データ受信のための領域を内部的に確保できない。
WMT_FALSE	1	その他のエラー。
WMT_TRUE	0	正常終了

5.4 通信制御基本関数

5.4 通信制御基本関数

5.4.1 通信制御基本関数一覧

アプリケーション作成にあたり、次の通信制御関数を使用します。

1. WmtOpenPacket() 計測器との通信経路を確保するため、アプリケーション起動時に必ずこの関数をコールしてください。
2. WmtGetIpStr() ホスト名から IP アドレスを取得します。取得した IP アドレスは文字列として格納されます。
3. WmtClosePacket() 計測器との通信経路を解放するため、アプリケーション終了時にこの関数をコールしてください。

5.4.2 WmtOpenPacket

関数名	long WmtOpenPacket
機能	計測器との通信経路を確保
引数	[IN] char * strIP // IP アドレス (ex. "192.100.0.1") を表した文字列 // "xxx.xxx.xxx.xxx": LAN に接続されたときの IP アドレス char * strBD // ボード識別子 (ex. "BD1") などを表した文字列 // 識別子が必要ない場合は、"" と指定する [OUT] long * lngID // 接続識別子。この値を各 API 関数の第 1 引数に指定し、 // 接続先を特定する。
戻り値	0: 正常終了 0 以外: エラー発生 (詳細は「5.3 エラー・コード一覧」を参照)
説明	計測器との通信経路を確保するため、アプリケーション起動時に必ずこの関数をコールしてください。 提供している API 関数はすべてこの WmtOpenPacket() を実行した後でないと正常に動作させることができません。
サンプル	<pre>Public Declare Function WmtOpenPacket Lib "bt.dll" _ (ByVal strIP As String, ByVal strBD As String, ByRef lngID As Long) As Long Private Sub cmdOpen_Click() Dim lngID As Long Dim lngErr As Long lngErr = WmtOpenPacket("192.100.0.1", "", lngID) 'R4870 の IP アドレスが '192.100.0.1 の場合 If (lngErr <> 0) Then MsgBox "Invalid open the Communication Port. (" & Str(lngErr) & ")", vbOKOnly End If End Sub</pre>

5.4.3 WmtGetIpStr

関数名	long WmtGetIpStr
機能	ホスト名から IP アドレスを取得
引数	[IN] char * strHost // ホスト名を表した文字列 char **strIpAddr // IP アドレスを格納する文字列を指すポインタ
戻り値	0: 正常終了
説明	ホスト名から IP アドレスを取得します。取得した IP アドレスは <i>strIpAddr</i> で指定された文字列変数に格納されます。 例： 192.10.100.1 の場合 strIpAddr = "192.10.100.1"
サンプル	<pre>Public Declare Function WmtOpenPacket Lib "bt.dll" (ByVal strIP As String, ByVal strBD As String, ByRef lngID As Long) As Long Public Declare Function WmtGetIpStr Lib "bt.dll" (ByVal strHost As String, ByRef strIpAddr As String) As Long Private Sub cmdOpen_Click() ' 取得した IP アドレスで通信経路を確保する Dim lngErr As Long Dim strIpAddr As String * 16 ' 必ず 16 文字以上固定長で確保すること!! WmtGetIpStr("R4870", strIpAddr) lngErr = WmtOpenPacket(strIpAddr, "", lngID) If (lngErr <> 0) Then MsgBox "Invalid open the Communication Port. (" & lngErr & ") _ & Str(lngErr) & ")", vbOKOnly End If End Sub</pre>

5.4.4 WmtClosePacket

関数名	long WmtClosePacket
機能	計測器との通信経路を解放
引数	[IN] long lngID // WmtOpenPacket() で得られた接続識別子
戻り値	0: 正常終了
説明	計測器との通信経路を解放するため、アプリケーション終了時にこの関数をコールして下さい。
サンプル	<pre>Public Declare Function WmtClosePacket Lib "bt.dll" (ByVal lngID As Long) As Long Private Sub cmdClose_Click() Dim lngErr As Long lngErr = WmtClosePacket(lngID) End Sub</pre>

5.5 測定アプリケーションのプログラミング方法

外部 PC から WAPI 関数を利用した測定アプリケーションのプログラム手順を記述します。
(開発環境 OS: Windows98SE/2000、言語: VisualBasic6.0)

測定アプリケーションは、TCP/IP 通信を利用して R4870 を制御しますが、WAPI 関数によって通信部分は意識することなく制御できます。

1. 測定アプリケーション起動時には、WmtGetIpStr() および WmtOpenPacket() をコールして、必ず R4870 と通信経路を確立する必要があります。
2. アプリケーション起動時の通信が確立した際、WmtOpenPacket() で得られた lngID は、以降の WAPI 関数を使用する際に必ず必要となります。
外部 PC と R4870 との TCP/IP 通信は lngID を使用して行っています。
3. 測定アプリケーションの中に WAPI 関数を埋め込むことで、R4870 を簡単に制御することが可能です。WAPI 関数のその他の使い方については、「5.6 プログラミング例」および「5.7 関数仕様」を参照して下さい。
4. 測定アプリケーション終了時には WmtClosePacket() をコールして、確保した通信経路を解放する必要があります。
5. 必要な測定プログラム作成が完了したら実行します。測定アプリケーションのデバッグの際には、参照設定など一切必要としません。
6. デバッグが完了したら、実行形式を作成して作業は終了です。

5.6 プログラミング例

R4870 へのデータ設定およびクエリ・データの読み出しなど、代表的なプログラミング例を紹介します。

1. R4870 への条件設定

例題	SIG 測定において、Output Power 測定を ON とし、Class1 の Average の判定値を 0 ~ 20 dBm に、Peak の判定値を 23 dBm に設定します。
サンプル	<pre> Public Declare Function WmtConfSigOutpPow Lib "btdll" _ (ByVal lngID As Long, ByVal lngPoint As Long, ByVal lngOnOff As Long) As Long Public Declare Function WmtConfSigOutpPowClass1AvgUp Lib "btdll" _ (ByVal lngID As Long, ByVal dblLimit As Double) As Long Public Declare Function WmtConfSigOutpPowClass1AvgLo Lib "btdll" _ (ByVal lngID As Long, ByVal dblLimit As Double) As Long Public Declare Function WmtConfSigOutpPowPeakUp Lib "btdll" _ (ByVal lngID As Long, ByVal dblLimit As Double) As Long Private Sub SigOutpPowSetupConfig(ByVal lng_D As Long) Dim lngPoint As Long ' Output Power 試験の実行を ON に設定 (FREQ_AIT = 0, WMT_ON = 1 / WMT_OFF = 0) Call WmtConfSigOutpPow(lng_D, FREQ_AIT, WMT_ON) ' Low/Mid/High の動作ポイントすべてを ON に設定 (FREQ_LOW = 1, FREQ_MID = 2, FREQ_HIGH = 3) For lngPoint = FREQ_LOW To FREQ_HIGH Call WmtConfSigOutpPow(lngID, lngPoint, WMT_ON) Next lngPoint ' 判定値の設定 Call WmtConfSigOutpPowClass1AvgUp(lngID, 20#) ' Class1 Average の上限値 Call WmtConfSigOutpPowClass1AvgLo(lngID, 0#) ' Class1 Average の下限値 Call WmtConfSigOutpPowPeakUp(lng_D, 23#) ' Peak の上限値 End Sub </pre>

5.6 プログラミング例

2. R4870 から条件の読み出し

例題	SIG 測定において、Output Power 測定の設定 (ON/OFF) と、Class1 の Average の判定値および Peak の判定値を読み出し、表示します。
サンプル	<pre> Public Declare Function QryConfSigOutpPow Lib "btdll" _ (ByVal lngID As Long, ByVal lngPoint As Long, ByRef lngOnOff As Long) As Long Public Declare Function QryConfSigOutpPowClass1AvgUp Lib "btdll" _ (ByVal lngID As Long, ByRef dblLimLo As Double) As Long Public Declare Function QryConfSigOutpPowClass1AvgLo Lib "btdll" _ (ByVal lngID As Long, ByRef dblLimHi As Double) As Long Public Declare Function QryConfSigOutpPowPeakUp Lib "btdll" _ (ByVal lngID As Long, ByRef dblLimLo As Double) As Long Private Sub SigOutpPowSetupPreview(ByVal lngID As Long) Dim lngPoint As Long Dim lngOnOff(0 To 3) As Long ' 0:All, 1:Low, 2:Mid, 3:High Dim dblLimPeak As Double Dim dblLimAvg(0 To 2) As Double ' 0:Up, 1:Low Dim strMsg As String ' Output Power 試験の実行の読み出し Call QryConfSigOutpPow(lngID, FRFQ_ALL, lngOnOff(FRFQ_ALL)) ' Low/Mid/High の各動作ポイントの実行の読み出し For lngPoint = FRFQ_LOW To FRFQ_HIGH Call QryConfSigOutpPow(lngID, lngPoint, lngOnOff(lngPoint)) Next lngPoint ' 判定値の読み出し Call QryConfSigOutpPowClass1AvgUp(lngID, dblLimAvg(0)) ' Class1 Average の上限値を設定 Call QryConfSigOutpPowClass1AvgLo(lngID, dblLimAvg(1)) ' Class1 Average の下限値を設定 Call QryConfSigOutpPowPeakUp(lngID, dblLimPeak) ' Peak の上限値 If (lngOnOff(FRFQ_ALL) = WMT_ON) Then strMsg = "Output Power Execute : Low = " & If(lngOnOff(FRFQ_LOW) = WMT_ON, "On", "Off") & _ & ", Mid = " & If(lngOnOff(FRFQ_MID) = WMT_ON, "On", "Off") & _ & ", High = " & If(lngOnOff(FRFQ_HIGH) = WMT_ON, "On", "Off") Else strMsg = "Output Power Execute : Off" End If strMsg = strMsg & vbCrLf & "Class1 Up : " & Str(doLimAvg(0)) strMsg = strMsg & vbCrLf & "Class1 Low : " & Str(doLimAvg(1)) strMsg = strMsg & vbCrLf & "Peak : " & Str(doLimPeak) Call MsgBox(strMsg, vbOKOnly, "Output Power Info.") End Sub </pre>

3. R4870 の測定実行と測定結果の読み出し

例題	SIG 測定において、Output Power 測定を実行し、Low/Mid/High それぞれの値を読み出し、表示します。(*: 測定を行う際には、必ず WmtProcSignConn() を使用して、IUT との接続を行って下さい。)
サンプル	<pre> Public Declare Function WmtProcSigOutpPow Lib "bt.dll" (ByVal lngID As Long, ByVal lngPoint As Long) As Long Public Declare Function QryStatMeas Lib "bt.dll" (ByVal lngID As Long, ByRef lngStat As Long) As Long Public Declare Function QryFetcSigOutpPowAvg Lib "bt.dll" (ByVal lngID As Long, ByVal lngPoint As Long, ByRef dblPow As Double) As Long Public Declare Function QryFetcSigOutpPowPk Lib "bt.dll" (ByVal lngID As Long, ByVal lngPoint As Long, ByRef dblPow As Double) As Long Private Sub SigOutpPowMeasure(ByVal lngID As Long) Dim lngPoint As Long Dim dblAvg(1 To 3) As Double Dim dblPeak(1 To 3) As Double Dim lngStat As Long Dim strMsg As String ' 測定の実行 If (WmtProcSigOutpPow(lngID, FREQ_A_L) = WM_FOK) Then ' 測定の終了のモニタ Do If (QryStatMeas(lngID, lngStat) = WMT_ERROR) Then If (lngStat = 0) Then ' ステータスが測定終了を示したら、ループを抜けます Exit Do End If End If Loop DoEvents Call Sleep(100) ' 100 ms のウェイト Loop ' Low/Mid/High の各動作ポイントの測定結果の読み出し For lngPoint = FREQ_LOW To FREQ_HIGH Call QryFetcSigOutpPowAvg(lngID, lngPoint, dblAvg(lngPoint)) ' Average Call QryFetcSigOutpPowPk(lngID, lngPoint, dblPeak(lngPoint)) ' Peak Next lngPoint strMsg = "Output Power" & vbCrLf & "[Average] Low " & Str(dblAvg(FREQ_LOW)) & vbCrLf & " Mid " & Str(dblAvg(FREQ_MID)) & vbCrLf & " High " & Str(dblAvg(FREQ_HIGH)) & vbCrLf & "[Peak] Low " & Str(dblPeak(FREQ_LOW)) & vbCrLf & " Mid " & Str(dblPeak(FREQ_MID)) & vbCrLf & " High " & Str(dblPeak(FREQ_HIGH)) Call MsgBox(strMsg, vbOKOnly, "Result") Else Call MsgBox("Execution failed : Output Power.", vbOKOnly, "Error") End If End Sub </pre>

5.6 プログラミング例

4. R4870 への文字列 (STRING) データの設定と読み出し

例題	Visual Basic を使った文字列 (String 型) の設定と読み出し例です。
サンプル	<pre>Public Declare Function WmtConfUnitName Lib "bt.dll" _ (ByVal lngID As Long, ByVal strName As String) As Long Public Declare Function QryConfUnitName Lib "bt.dll" _ (ByVal lngID As Long, ByRef strName As String) As Long Private Sub crdSe_Read_Click() ' 固定長 String で、NULL も含んだ領域を確保 Dim strName As String * 22 strName = "Test of StrName" lngErr = WmtConfUnitName(lngID, strName) ' 送信時は strName は ByVal 指定 lngErr = QryConfUnitName(lngID, strName) ' 受信時は strName は ByRef 指定 ' API 関数が strName に書き出す MsgBox "ユニット名称は、" & strName & " です。" End Sub</pre>

5. 配列 (Byte 型) データの設定と読み出し (R4870 BD Address 設定と読み出し)

例題	Visual Basic を使った配列 (Byte 型) の設定と読み出し例です。 R4870 組込通信ユニットの BD Address の設定と読み出し例です。 (例 : BD Address = 0x481F203DAB59)。
サンプル	<pre> Public Declare Function WmlCondBdAddrSU Lib "bd.dll" (ByVal lng_D As Long, _ ByVal lngType As Long, ByVal bytAddr As Any, ByVal lngNum As Long) As Long Public Declare Function QryCondBdAddrSU Lib "bd.dll" (ByVal lng_D As Long, _ ByVal lngType As Long, ByVal bytAddr As Any) As Long Private Sub cmdSecRead_Click() ' 必要サイズ分以上を確保 Dim bytAddr(6) As Byte ' R4870 組込通信ユニット番号 lngType = 1 ' BD ADDR 0x481F203D1B59 bytAddr(0) = &H18 bytAddr(1) = &H11 bytAddr(2) = &H20 bytAddr(3) = &H3D bytAddr(4) = &HAB bytAddr(5) = &H59 lngErr = WmlCondBdAddrSU(lng_D, lngType, bytAddr(0), 6) ' 配列データを渡す場合は、必ず配列とそのバイト数をセットで渡すこと。 ' また Declare 宣言では配列に相当するデータ型は Any を使用している。 lngErr = QryCondBdAddrSU(lng_D, lngType, bytAddr(0)) MsgBox "R4870 の BD Address は、" & _ Hex(bytAddr(0)) & Hex(bytAddr(1)) & Hex(bytAddr(2)) & _ Hex(bytAddr(3)) & Hex(bytAddr(4)) & Hex(bytAddr(5)) & " です。" End Sub </pre>

5.7 関数仕様

5.7 関数仕様

インデックス

関数名	参照ページ
CONFigure サブシステム - Communication Test	5-83
QryConfButcAcl	5-88
QryConfButcAclPackTypeIUTSupp	5-89
QryConfButcAclPaylBody	5-90
QryConfButcInq	5-83
QryConfButcInqInqLeng	5-84
QryConfButcMaut	5-94
QryConfButcMautPageScanRepMode	5-95
QryConfButcMlin	5-92
QryConfButcMlinLinkSupeTout	5-92
QryConfButcMpag	5-86
QryConfButcMpagPageScanRepMode	5-86
QryConfButcMsco	5-99
QryConfButcMscoPackTypeSco	5-100
QryConfButcPair	5-96
QryConfButcPairPageScanRepMode	5-96
QryConfButcPairPinCode	5-97
QryConfButcSaut	5-93
QryConfButcSautPageScanRepMode	5-94
QryConfButcSinq	5-84
QryConfButcSinqInqLeng	5-85
QryConfButcSlin	5-90
QryConfButcSlinLinkSupeTout	5-91
QryConfButcSpag	5-87
QryConfButcSpagPageScanRepMode	5-88
QryConfButcSsco	5-98
QryConfButcSscoPackTypeSco	5-98
WmtConfButcAcl	5-88
WmtConfButcAclPackTypeIUTSupp	5-89
WmtConfButcAclPaylBody	5-89
WmtConfButcInq	5-83
WmtConfButcInqInqLeng	5-83
WmtConfButcMaut	5-94
WmtConfButcMautPageScanRepMode	5-95
WmtConfButcMlin	5-91
WmtConfButcMlinLinkSupeTout	5-92
WmtConfButcMpag	5-85
WmtConfButcMpagPageScanRepMode	5-86
WmtConfButcMsco	5-99
WmtConfButcMscoPackTypeSco	5-99
WmtConfButcPair	5-95
WmtConfButcPairPageScanRepMode	5-96
WmtConfButcPairPinCode	5-97
WmtConfButcSaut	5-93
WmtConfButcSautPageScanRepMode	5-93

WmtConfButcSinq	5-84
WmtConfButcSinqInqLeng	5-85
WmtConfButcSlin	5-90
WmtConfButcSlinLinkSupeTout	5-91
WmtConfButcSpag	5-87
WmtConfButcSpagPageScanRepMode	5-87
WmtConfButcSsco	5-97
WmtConfButcSscoPackTypeSco	5-98
CONFigure サブシステム - Remote Loopback	5-101
QryConfLoopMsco	5-102
QryConfLoopMscoLoopOnOff	5-105
QryConfLoopScoPackTypeSco	5-103
QryConfLoopScoPinCode	5-104
QryConfLoopScoVoicSett	5-102
QryConfLoopSsco	5-101
QryConfLoopSscoLoopOnOff	5-104
WmtConfLoopMsco	5-101
WmtConfLoopMscoLoopOnOff	5-105
WmtConfLoopScoPackTypeSco	5-103
WmtConfLoopScoPinCode	5-103
WmtConfLoopScoVoicSett	5-102
WmtConfLoopSsco	5-101
WmtConfLoopSscoLoopOnOff	5-104
CONFigure サブシステム - RF Measurement	5-106
QryConfRfBerBerUp	5-119
QryConfRfBerConfCH	5-121
QryConfRfBerConfFreq	5-120
QryConfRfBerHop	5-123
QryConfRfBerPerCalc	5-125
QryConfRfBerTestBits	5-123
QryConfRfBerTestCH	5-121
QryConfRfBerTestFreq	5-120
QryConfRfBerTestPack	5-122
QryConfRfBerTxDirt	5-125
QryConfRfBerTxLev	5-124
QryConfRfFmDevAvgFreqCalc	5-116
QryConfRfFmDevConfCH	5-114
QryConfRfFmDevConfFreq	5-113
QryConfRfFmDevDrifRateUp	5-111
QryConfRfFmDevF1avgLo	5-108
QryConfRfFmDevF1avgUp	5-108
QryConfRfFmDevF2F1Up	5-109
QryConfRfFmDevF2maxUp	5-109
QryConfRfFmDevF2PassLo	5-110
QryConfRfFmDevFreqDrifUp	5-111
QryConfRfFmDevFreqToleUp	5-110
QryConfRfFmDevInteF1Gain	5-116
QryConfRfFmDevInteF2Gain	5-117
QryConfRfFmDevPeakF1Gain	5-118
QryConfRfFmDevPeakF2Gain	5-118
QryConfRfFmDevPowAvgLo	5-107

5.7 関数仕様

QryConfRfFmDevPowPeakUp	5-107
QryConfRfFmDevSampPack	5-115
QryConfRfFmDevTestCH	5-113
QryConfRfFmDevTestFreq	5-112
QryConfRfFmDevTestPack	5-114
QryConfRfRfFmDevPowAvgUp	5-106
WmtConfRfBerBerUp	5-119
WmtConfRfBerConfCH	5-121
WmtConfRfBerConfFreq	5-120
WmtConfRfBerHop	5-122
WmtConfRfBerPerCalc	5-125
WmtConfRfBerTestBits	5-123
WmtConfRfBerTestCH	5-120
WmtConfRfBerTestFreq	5-119
WmtConfRfBerTestPack	5-122
WmtConfRfBerTxDirt	5-124
WmtConfRfBerTxLev	5-124
WmtConfRfFmDevAvgFreqCalc	5-115
WmtConfRfFmDevConfCH	5-113
WmtConfRfFmDevConfFreq	5-112
WmtConfRfFmDevDrifRateUp	5-111
WmtConfRfFmDevF1avgLo	5-108
WmtConfRfFmDevF1avgUp	5-107
WmtConfRfFmDevF2F1Up	5-109
WmtConfRfFmDevF2maxUp	5-108
WmtConfRfFmDevF2PassLo	5-109
WmtConfRfFmDevFreqDrifUp	5-110
WmtConfRfFmDevFreqToleUp	5-110
WmtConfRfFmDevInteF1Gain	5-116
WmtConfRfFmDevInteF2Gain	5-117
WmtConfRfFmDevPeakF1Gain	5-117
WmtConfRfFmDevPeakF2Gain	5-118
WmtConfRfFmDevPowAvgLo	5-106
WmtConfRfFmDevPowAvgUp	5-106
WmtConfRfFmDevPowPeakUp	5-107
WmtConfRfFmDevSampPack	5-115
WmtConfRfFmDevTestCH	5-113
WmtConfRfFmDevTestFreq	5-112
WmtConfRfFmDevTestPack	5-114
CONFigure サブシステム - SIG RF	5-43
QryConfFreqDrifTestPack	5-76
QryConfFreqToleTestPack	5-75
QryConfInteDevF1Gain	5-79
QryConfInteDevF2Gain	5-79
QryConfMaxInpTestPack	5-78
QryConfModCharTestPack	5-75
QryConfPeakDevF1Gain	5-80
QryConfPeakDevF2Gain	5-81
QryConfSensMultTestPack	5-77
QryConfSensSingTestPack	5-77
QryConfSigAvgFreqCalc	5-72

QryConfSigBERbitsHspd	5-52
QryConfSigBERbitsStd	5-52
QryConfSigFreqDrif	5-46
QryConfSigFreqDrifDH1DrifUp	5-61
QryConfSigFreqDrifDH3DrifUp	5-62
QryConfSigFreqDrifDH5DrifUp	5-62
QryConfSigFreqDrifHopOf	5-70
QryConfSigFreqDrifHopOn	5-69
QryConfSigFreqDrifRateUp	5-63
QryConfSigFreqDrifSampNum	5-69
QryConfSigFreqTole	5-45
QryConfSigFreqToleFreqUp	5-60
QryConfSigFreqToleHopOf	5-68
QryConfSigFreqToleHopOn	5-67
QryConfSigFreqToleSampNum	5-67
QryConfSigMaxInp	5-49
QryConfSigMaxInpBerUp	5-65
QryConfSigMaxInpTestType	5-51
QryConfSigMaxInpTxLev	5-71
QryConfSigModChar	5-44
QryConfSigModCharF1	5-81
QryConfSigModCharF1avgLo	5-58
QryConfSigModCharF1avgUp	5-57
QryConfSigModCharF2	5-82
QryConfSigModCharF2F1Up	5-59
QryConfSigModCharF2maxUp	5-58
QryConfSigModCharF2PassLo	5-71
QryConfSigModCharSampNum	5-60
QryConfSigOutpPow	5-43
QryConfSigOutpPowClas1AvgLo	5-54
QryConfSigOutpPowClas1AvgUp	5-53
QryConfSigOutpPowClas2AvgLo	5-55
QryConfSigOutpPowClas2AvgUp	5-54
QryConfSigOutpPowClas3AvgUp	5-56
QryConfSigOutpPowPeakUp	5-56
QryConfSigOutpPowTestPack	5-74
QryConfSigPerCalcSele	5-73
QryConfSigPollPeri	5-82
QryConfSigSensMult	5-48
QryConfSigSensMultBerUp	5-64
QryConfSigSensMultTestType	5-50
QryConfSigSensSing	5-47
QryConfSigSensSingBerUp	5-64
QryConfSigSensSingTestType	5-50
QryConfSigSensTxLev	5-66
QryConfSigTestScen	5-73
QryConfSigTxDirt	5-65
WmtConfFreqDrifTestPack	5-76
WmtConfFreqToleTestPack	5-75
WmtConfInteDevF1Gain	5-78
WmtConfInteDevF2Gain	5-79

5.7 関数仕様

WmtConfMaxInpTestPack	5-78
WmtConfModCharTestPack	5-74
WmtConfPeakDevF1Gain	5-80
WmtConfPeakDevF2Gain	5-80
WmtConfSensMultTestPack	5-77
WmtConfSensSingTestPack	5-76
WmtConfSigAvgFreqCalc	5-72
WmtConfSigBERbitsHspd	5-51
WmtConfSigBERbitsStd	5-52
WmtConfSigFreqDrif	5-46
WmtConfSigFreqDrifDH1DrifUp	5-61
WmtConfSigFreqDrifDH3DrifUp	5-61
WmtConfSigFreqDrifDH5DrifUp	5-62
WmtConfSigFreqDrifHopOf	5-70
WmtConfSigFreqDrifHopOn	5-69
WmtConfSigFreqDrifRateUp	5-63
WmtConfSigFreqDrifSampNum	5-68
WmtConfSigFreqTole	5-45
WmtConfSigFreqToleFreqUp	5-60
WmtConfSigFreqToleHopOf	5-68
WmtConfSigFreqToleHopOn	5-67
WmtConfSigFreqToleSampNum	5-66
WmtConfSigMaxInp	5-49
WmtConfSigMaxInpBerUp	5-65
WmtConfSigMaxInpTestType	5-51
WmtConfSigMaxInpTxLev	5-70
WmtConfSigModChar	5-44
WmtConfSigModCharF1	5-81
WmtConfSigModCharF1avgLo	5-57
WmtConfSigModCharF1avgUp	5-57
WmtConfSigModCharF2	5-82
WmtConfSigModCharF2F1Up	5-59
WmtConfSigModCharF2maxUp	5-58
WmtConfSigModCharF2PassLo	5-71
WmtConfSigModCharSampNum	5-59
WmtConfSigOutpPow	5-43
WmtConfSigOutpPowClas1AvgLo	5-53
WmtConfSigOutpPowClas1AvgUp	5-53
WmtConfSigOutpPowClas2AvgLo	5-55
WmtConfSigOutpPowClas2AvgUp	5-54
WmtConfSigOutpPowClas3AvgUp	5-55
WmtConfSigOutpPowPeakUp	5-56
WmtConfSigOutpPowTestPack	5-74
WmtConfSigPerCalcSele	5-72
WmtConfSigPollPeri	5-82
WmtConfSigSensMult	5-48
WmtConfSigSensMultBerUp	5-64
WmtConfSigSensMultTestType	5-50
WmtConfSigSensSing	5-47
WmtConfSigSensSingBerUp	5-63
WmtConfSigSensSingTestType	5-49

WmtConfSigSensTxLev	5-66
WmtConfSigTestScen	5-73
WmtConfSigTxDirt	5-65
CONFigure サブシステム - SYSTEM	5-26
QryConfBdAddrIUT	5-40
QryConfBdAddrSU	5-29
QryConfDevNumb	5-33
QryConfDevNumbIncr	5-34
QryConfHciRs232	5-38
QryConfHopMode	5-26
QryConfInpTypeFreq	5-27
QryConfIUTContMod	5-36
QryConfLotNumb	5-32
QryConfOperCH	5-29
QryConfOperFreq	5-28
QryConfPaneLock	5-42
QryConfPowClasIUT	5-36
QryConfRFCablLoss	5-30
QryConfRfPort	5-41
QryConfSuppPackType	5-40
QryConfTxModIdx	5-38
QryConfTxPowLev	5-37
QryConfUnitName	5-32
QryConfUseIUTPara	5-39
QryConfUserInfoComm	5-35
QryConfUserInfoItem	5-34
QrySensRoscExtEnab	5-31
QrySensRoscExtStat	5-31
WmtConfBdAddrIUT	5-39
WmtConfBdAddrSU	5-29
WmtConfDevNumb	5-33
WmtConfDevNumbIncr	5-33
WmtConfHciRs232	5-38
WmtConfHopMode	5-26
WmtConfInpTypeFreq	5-26
WmtConfIUTContMod	5-35
WmtConfLotNumb	5-32
WmtConfOperCH	5-28
WmtConfOperFreq	5-27
WmtConfPaneLock	5-41
WmtConfPowClasIUT	5-36
WmtConfRFCablLoss	5-30
WmtConfRfPort	5-41
WmtConfSuppPackType	5-40
WmtConfTxModIdx	5-37
WmtConfTxPowLev	5-37
WmtConfUnitName	5-31
WmtConfUseIUTPara	5-39
WmtConfUserInfoComm	5-35
WmtConfUserInfoItem	5-34
WmtSensRoscExtEnab	5-30

5.7 関数仕様

FETCh サブシステム - Communication Test	5-143
QryFetcButcAclErrStat	5-144
QryFetcButcInqErrStat	5-143
QryFetcButcMautErrStat	5-145
QryFetcButcMlinErrStat	5-145
QryFetcButcMpagErrStat	5-143
QryFetcButcMscoErrStat	5-146
QryFetcButcPairErrStat	5-146
QryFetcButcSautErrStat	5-145
QryFetcButcSinqErrStat	5-143
QryFetcButcSlinErrStat	5-144
QryFetcButcSpagErrStat	5-144
QryFetcButcSscoErrStat	5-146
FETCh サブシステム - Remote Loopback	5-147
QryFetcLoopMscoErrStat	5-147
QryFetcLoopSscoErrStat	5-147
FETCh サブシステム - RF Measurement	5-148
QryFetcRfBerBer	5-155
QryFetcRfBerPer	5-155
QryFetcRfFmDevDrifRateAvg	5-154
QryFetcRfFmDevDrifRateMax	5-154
QryFetcRfFmDevDrifRateStddev	5-154
QryFetcRfFmDevF1avg	5-150
QryFetcRfFmDevF1max_max	5-150
QryFetcRfFmDevF1max_min	5-151
QryFetcRfFmDevF1stddev	5-151
QryFetcRfFmDevF2avg	5-149
QryFetcRfFmDevF2Id	5-148
QryFetcRfFmDevF2max_max	5-149
QryFetcRfFmDevF2max_min	5-149
QryFetcRfFmDevF2stddev	5-150
QryFetcRfFmDevFreqDrifAvg	5-153
QryFetcRfFmDevFreqDrifMax	5-153
QryFetcRfFmDevFreqDrifStddev	5-153
QryFetcRfFmDevFreqToleAvg	5-152
QryFetcRfFmDevFreqToleMax	5-151
QryFetcRfFmDevFreqToleMin	5-152
QryFetcRfFmDevFreqToleStddev	5-152
QryFetcRfFmDevPowAvg	5-148
QryFetcRfFmDevPowPk	5-148
FETCh サブシステム - SIG RF	5-126
QryFetcSigFreqDrifHopOffDrifAvg	5-133
QryFetcSigFreqDrifHopOffDrifMax	5-133
QryFetcSigFreqDrifHopOffDrifStddev	5-134
QryFetcSigFreqDrifHopOffRateAvg	5-135
QryFetcSigFreqDrifHopOffRateMax	5-134
QryFetcSigFreqDrifHopOffRateStddev	5-135
QryFetcSigFreqDrifHopOnDrifAvg	5-136
QryFetcSigFreqDrifHopOnDrifMax	5-136
QryFetcSigFreqDrifHopOnDrifStddev	5-137
QryFetcSigFreqDrifHopOnRateAvg	5-138

QryFetcSigFreqDrifHopOnRateMax	5-137
QryFetcSigFreqDrifHopOnRateStddev	5-138
QryFetcSigFreqDrifPack	5-141
QryFetcSigFreqToleHopOffAvg	5-130
QryFetcSigFreqToleHopOffMax	5-130
QryFetcSigFreqToleHopOffMin	5-131
QryFetcSigFreqToleHopOffStddev	5-132
QryFetcSigFreqToleHopOnAvg	5-131
QryFetcSigFreqToleHopOnMax	5-130
QryFetcSigFreqToleHopOnMin	5-131
QryFetcSigFreqToleHopOnStddev	5-132
QryFetcSigFreqTolePack	5-141
QryFetcSigMaxInpBer	5-140
QryFetcSigMaxInpPack	5-142
QryFetcSigMaxInpPer	5-140
QryFetcSigModCharF1avg	5-129
QryFetcSigModCharF1max_max	5-128
QryFetcSigModCharF1max_min	5-129
QryFetcSigModCharF1stddev	5-129
QryFetcSigModCharF2avg	5-127
QryFetcSigModCharF2Id	5-127
QryFetcSigModCharF2max_max	5-128
QryFetcSigModCharF2max_min	5-127
QryFetcSigModCharF2stddev	5-128
QryFetcSigModCharPack	5-141
QryFetcSigOutpPowAvg	5-126
QryFetcSigOutpPowPack	5-141
QryFetcSigOutpPowPk	5-126
QryFetcSigSensMultBer	5-139
QryFetcSigSensMultiPack	5-142
QryFetcSigSensMultPer	5-140
QryFetcSigSensSingBer	5-139
QryFetcSigSensSingPack	5-142
QryFetcSigSensSingPer	5-139
FETCh サブシステム - Waveform	5-156
QryFetcWaveFormCoun	5-156
QryFetcWaveFormData	5-157
QryFetcWaveFormInfo	5-156
MMEMory サブシステム	5-25
WmtMmemDel	5-25
WmtMmemLoad	5-25
WmtMmemStor	5-25
PROCedure サブシステム - Communication Test	5-162
WmtProcButcAcl	5-163
WmtProcButcInq	5-162
WmtProcButcMaut	5-164
WmtProcButcMlin	5-163
WmtProcButcMpag	5-162
WmtProcButcMsco	5-164
WmtProcButcPair	5-164
WmtProcButcSaut	5-163

5.7 関数仕様

WmtProcButcSinq	5-162
WmtProcButcSlin	5-163
WmtProcButcSpag	5-162
WmtProcButcSsco	5-164
PROCEDURE サブシステム - Remote Loopback	5-165
WmtProcLoopMsc0	5-165
WmtProcLoopMsc0Disc	5-165
WmtProcLoopSsco	5-165
WmtProcLoopSscoDisc	5-165
PROCEDURE サブシステム - RF Measurement	5-166
WmtProcRfBer	5-166
WmtProcRfConn	5-166
WmtProcRfDisc	5-166
WmtProcRfFmDev	5-166
PROCEDURE サブシステム - SIG RF	5-159
WmtProcSigAll	5-161
WmtProcSigFreqDrif	5-160
WmtProcSigFreqTole	5-160
WmtProcSigMaxInp	5-161
WmtProcSigModChar	5-159
WmtProcSigOutPow	5-159
WmtProcSigSensMult	5-161
WmtProcSigSensSing	5-160
PROCEDURE サブシステム - SYSTEM	5-158
WmtCalSUAuto	5-158
WmtProcAbor	5-158
WmtProcSing	5-158
WmtProcStar	5-158
SIGNaling サブシステム	5-24
WmtProcSignConn	5-24
WmtProcSignDisc	5-24
STATus サブシステム	5-23
QryStatMeas	5-23
SYSTem サブシステム	5-21
QrySystErr	5-22
QrySystIden	5-21
QrySystInfoOpt	5-22
QrySystVers	5-21
WmtSystPres	5-21

5.7.1 SYSTem サブシステム

5.7.1.1 WmtSystPres

関数名	long WmtSystPres
機能	システムの初期化
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子（接続確定時に得られた ID を使用） long lngMode // 0: Instrument Preset // 1: Software Reset（Power On 状態へリセット） // 2: Hardware Reset（Signaling Unit をリセット）
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	システムを初期化します。リセットする状態は、変数 <i>lngMode</i> にて指定することが可能です。

5.7.1.2 QrySystIden

関数名	long QrySystIden
機能	システム情報を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子（接続確定時に得られた ID を使用） [OUT] char ** strIdn // 文字列を格納
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	システム情報を読み出し、 <i>strIdn</i> で指定された変数にその値を格納します。引数は文字列を指すポインタを渡して下さい。VB では String 型データを ByRef で渡します。
注意	格納先（アプリケーション側）のメモリ容量は十分に確保して下さい。API 関数は格納先のメモリ容量をチェックしません。

5.7.1.3 QrySystVers

関数名	long QrySystVers
機能	バージョン情報を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子（接続確定時に得られた ID を使用） [OUT] char ** strVers // 文字列を格納
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	バージョン情報を読み出し、 <i>strVers</i> で指定された変数にその値を格納します。引数は文字列を指すポインタを渡して下さい。VB では String 型データを ByRef で渡します。
注意	格納先（アプリケーション側）のメモリ容量は十分に確保して下さい。API 関数は格納先のメモリ容量をチェックしません。

5.7.1 SYSTem サブシステム

5.7.1.4 QrySystInfoOpt

関数名	long QrySystInfoOpt
機能	オプション情報を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) OUT char ** strOpt // 文字列を格納
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	オプション情報を読み出し、 <i>strOpt</i> で指定された変数にその値を格納します。 引数は文字列を指すポインタを渡して下さい。VB では String 型データを ByRef で渡します。
注意	格納先 (アプリケーション側) のメモリ容量は十分に確保して下さい。API 関数は格納先のメモリ容量をチェックしません。

5.7.1.5 QrySystErr

関数名	long QrySystErr
機能	最新のエラー番号とエラー・メッセージを読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) OUT long * lngNo // エラー番号 char ** strMsgs // 文字列を格納
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	最新のエラー番号とエラー・メッセージを読み出し、それぞれ <i>lngNo</i> , <i>strMsgs</i> で指定された変数にその値を格納します。 引数 <i>strMsgs</i> は文字列を指すポインタを渡して下さい。VB では String 型データを ByRef で渡します。エラー・メッセージについては、「A.2 エラー・メッセージ」を参照して下さい。
注意	格納先 (アプリケーション側) のメモリ容量は十分に確保して下さい。API 関数は格納先のメモリ容量をチェックしません。

5.7.2 STATus サブシステム

5.7.2.1 QryStatMeas

関数名	long QryStatMeas
機能	測定中かどうかの問い合わせ
引数	IN long lngID // 対象機器識別子（接続確定時に得られた ID を使用） OUT long *lngStat // 0: 停止中 / 1: 測定中
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	測定中かどうかを問い合わせます。読み出された値は、変数 <i>lngStat</i> に格納されます。

5.7.3 SIGNaling サブシステム

5.7.3.1 WmtProcSignConn

関数名	long WmtProcSignConn
機能	R4870 と IUT を接続 (RF 試験時の Test Mode 接続)
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用)
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	R4870 と IUT を接続 (RF 試験時の Test Mode 接続) します。

5.7.3.2 WmtProcSignDisc

関数名	long WmtProcSignDisc
機能	R4870 と IUT の接続 (RF 試験時の Test Mode 接続) を遮断
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用)
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	R4870 と IUT の接続 (RF 試験時の Test Mode 接続) を遮断します。

5.7.4 MMEory サブシステム

5.7.4.1 WmtMmemStor

関数名	long WmtMmemStor
機能	データのストア
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子（接続確定時に得られた ID を使用） char * strFile // ファイル名
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	設定データや測定結果などをファイル <i>strFile</i> にストアします。拡張子の指定は不要。 (<i>strFile</i> はフォルダ名を入れた絶対パスで指定することも可能。絶対パスで指定されていない場合は、R4870 の D:\Advantest\R4870\SVRCL の下に保存されます。)

5.7.4.2 WmtMmemLoad

関数名	long WmtMmemLoad
機能	データのロード
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子（接続確定時に得られた ID を使用） char * strFile // ファイル名
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	設定データや測定結果などをファイル <i>strFile</i> からロードします。拡張子の指定は不要。 (<i>strFile</i> はフォルダ名を入れた絶対パスで指定することも可能。絶対パスで指定されていない場合は、R4870 の D:\Advantest\R4870\SVRCL の下からロードします。)

5.7.4.3 WmtMmemDel

関数名	long WmtMmemDel
機能	データ・ファイルの削除
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子（接続確定時に得られた ID を使用） char * strFile // ファイル名
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	ストアされたデータ・ファイル <i>strFile</i> を削除します。拡張子の指定は不要。 (<i>strFile</i> はフォルダ名を入れた絶対パスで指定することも可能。絶対パスで指定されていない場合は、R4870 の D:\Advantest\R4870\SVRCL の下から削除します。)

5.7.5 CONFigure サブシステム - SYSTEM

5.7.5.1 WmtConfHopMode

関数名	long WmtConfHopMode
機能	IUT がサポートしているホッピング・モードを設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngGeog // 0: USA/Europe/Japan など // 1: France のみ
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	IUT がサポートしているホッピング・モードを設定します。初期値は 0 となります。

5.7.5.2 QryConfHopMode

関数名	long QryConfHopMode
機能	IUT がサポートしているホッピング・モードのサポート状況を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] long * lngGeog
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	IUT がサポートしているホッピング・モードのサポート状況を読み出し、lngGeog で指定された変数にその値を格納します。

5.7.5.3 WmtConfInpTypeFreq

関数名	long WmtConfInpTypeFreq
機能	動作周波数の入力方法を設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngType // 0: 周波数 // 1: CH
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	動作周波数の入力方法を設定します。初期値は 1 となります。

5.7.5.4 QryConfInpTypeFreq

関数名	long QryConfInpTypeFreq
機能	動作周波数の入力方法を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] long * lngType
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	動作周波数の入力方法を読み出し、lngType で指定された変数にその値を格納します。

5.7.5.5 WmtConfOperFreq

関数名	long WmtConfOperFreq
機能	最低/中間/最高ポイントでの動作周波数を設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngGeog // 0: 試験周波数 -USA/Europe/Japan など // 1: 試験周波数 -France のみ // 10: 対向周波数 -USA/Europe/Japan など // 11: 対向周波数 -France のみ long lngPoint // 動作周波数指定 0x01: LOW (最低周波数) // 0x02: MID (中間周波数) // 0x03: HIGH (最高周波数) double dblFreq // 動作周波数 (Hz)
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	最低/中間/最高ポイントでの動作周波数を設定します。

5.7.5 CONFigure サブシステム - SYSTEM

5.7.5.6 QryConfOperFreq

関数名	long QryConfOperFreq
機能	最低／中間／最高ポイントでの動作周波数を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngGeog // 0: 試験周波数 -USA/Europe/Japan など // 1: 試験周波数 -France のみ // 10: 対向周波数 -USA/Europe/Japan など // 11: 対向周波数 -France のみ long lngPoint // 動作周波数指定 0x01: LOW (最低周波数) // 0x02: MID (中間周波数) // 0x03: HIGH (最高周波数) [OUT] double * dblFreq // 動作周波数 (Hz)
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	最低／中間／最高ポイントでの動作周波数を読み出し、 <i>dblFreq</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.5.7 WmtConfOperCH

関数名	long WmtConfOperCH
機能	最低／中間／最高ポイントでの動作チャンネルを設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngGeog // 0: 試験 CH-USA/Europe/Japan など // 1: 試験 CH-France のみ // 10: 対向 CH-USA/Europe/Japan など // 11: 対向 CH-France のみ long lngPoint // 動作 CH 指定 0x01: LOW (最低周波数) // 0x02: MID (中間周波数) // 0x03: HIGH (最高周波数) long lngCh // 動作チャンネル
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	最低／中間／最高ポイントでの動作チャンネルを設定します。

5.7.5.8 QryConfOperCH

関数名	long QryConfOperCH
機能	最低／中間／最高ポイントでの動作チャンネルを読み出す
引数	<p>[IN] long lngID // 対象機器識別子（接続確定時に得られた ID を使用）</p> <p>long lngGeog // 0: 試験 CH-USA/Europe/Japan など</p> <p>// 1: 試験 CH-France のみ</p> <p>// 10: 対向 CH-USA/Europe/Japan など</p> <p>// 11: 対向 CH-France のみ</p> <p>long lngPoint // 動作 CH 指定 0x01: LOW（最低周波数）</p> <p>// 0x02: MID（中間周波数）</p> <p>// 0x03: HIGH（最高周波数）</p> <p>[OUT] long * lngCh // 動作チャンネル</p>
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	最低／中間／最高ポイントでの動作チャンネルを読み出し、lngCh で指定された変数にその値を格納します。

5.7.5.9 WmtConfBdAddrSU

関数名	long WmtConfBdAddrSU
機能	R4870 組込通信ユニット (Signaling Unit) の BD Address を設定
引数	<p>[IN] long lngID // 対象機器識別子（接続確定時に得られた ID を使用）</p> <p>long lngType // 1: UNIT1</p> <p>// 2: UNIT2（現在使用できません）</p> <p>char bytAddr[6] // BD Address（48 ビット）</p> <p>long lngNum // 配列の総バイト数（この場合は 6 バイト）</p>
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	R4870 組込通信ユニット (Signaling Unit) の BD Address を設定します。

5.7.5.10 QryConfBdAddrSU

関数名	long QryConfBdAddrSU
機能	R4870 組込通信ユニット (Signaling Unit) の BD Address を読み出す
引数	<p>[IN] long lngID // 対象機器識別子（接続確定時に得られた ID を使用）</p> <p>long lngType // 1: UNIT1</p> <p>// 2: UNIT2（現在使用できません）</p> <p>[OUT] char * bytAddr // BD Address（48 ビット）</p>
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	R4870 組込通信ユニット (Signaling Unit) の BD Address を読み出し、bytAddr で指定された配列にその値を格納します。

5.7.5 CONFigure サブシステム - SYSTEM

5.7.5.11 WmtConfRFCablLoss

関数名	long WmtConfRFCablLoss
機能	RF コネクタに接続する外部のロス補正値を設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngRf // 1: RF1 // 2: RF2 double dblLoss // ロス補正値 (dB)
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	RF コネクタに接続する外部のロス補正値を設定します。初期値は 0 dB となります。

5.7.5.12 QryConfRFCablLoss

関数名	long QryConfRFCablLoss
機能	RF コネクタに接続する外部のロス補正値を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngRf // 1: RF1 // 2: RF2 [OUT] double * dblLoss
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	RF コネクタに接続する外部のロス補正値を読み出し、 <i>dblLoss</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.5.13 WmtSensRosExtEnab

関数名	long WmtSensRosExtEnab
機能	外部 10 MHz 基準源の有効/無効設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngOnoff // 1: 有効 / 0: 無効
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	外部 10 MHz 基準源の有効/無効を設定します。

5.7.5.14 QrySensRoscExtEnab

関数名	long QrySensRoscExtEnab
機能	外部 10 MHz 基準源の有効/無効状況を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] long * lngOnoff
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている外部 10 MHz 基準源の有効/無効状況を読み出し、 <i>lngOnoff</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.5.15 QrySensRoscExtStat

関数名	long QrySensRoscExtStat
機能	外部 10 MHz 基準信号ステータスの読み出し
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] long * lngStat
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	外部 10 MHz 基準信号が供給されているか否かを読み出し、 <i>lngStat</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.5.16 WmtConfUnitName

関数名	long WmtConfUnitName
機能	ユーザが機器に対して任意に設定できるシステム名称を設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) char * strName // システム名称 (VB では ByVal で指定)
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	ユーザが機器に対して任意に設定できるシステム名称を最大 20 文字までの文字列で設定します。初期値は "R4870" となります。 アプリケーションでは通常の文字列 (固定長のみ) を渡すだけです。VB では String 型データを ByVal で渡します。

5.7.5 CONFigure サブシステム - SYSTEM

5.7.5.17 QryConfUnitName

関数名	long QryConfUnitName
機能	ユーザが機器に対して任意に設定できるシステム名称を読み出す
引数	IN long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) OUT char ** strName // システム名称 (VB では ByRef で指定)
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	ユーザが機器に対して任意に設定できるシステム名称を読み出し、 <i>strName</i> で指定された変数にその値を格納します。 アプリケーション側ではこの文字数 + NULL が格納できる領域を確保する必要があります。また引数は文字列を指すポインタを渡して下さい。VB では String 型データを ByRef で渡します。

5.7.5.18 WmtConfLotNumb

関数名	long WmtConfLotNumb
機能	試験デバイスのロット・ナンバを設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) char * strLot // ロット・ナンバ (VB では ByVal で指定)
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	試験デバイスのロット・ナンバを最大 20 文字までの文字列で設定します。 アプリケーションでは通常の文字列 (固定長のみ) を渡すだけです。VB では String 型データを ByVal で渡します。

5.7.5.19 QryConfLotNumb

関数名	long QryConfLotNumb
機能	試験デバイスのロット・ナンバを読み出す
引数	IN long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) OUT char ** strLot // ロット・ナンバ (VB では ByRef で指定)
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	試験デバイスのロット・ナンバを文字列として読み出し、 <i>strLot</i> で指定された変数にその値を格納します。 アプリケーション側ではこの文字数 + NULL が格納できる領域を確保する必要があります。また引数は文字列を指すポインタを渡して下さい。VB では String 型データを ByRef で渡します。

5.7.5.20 WmtConfDevNumb

関数名	long WmtConfDevNumb
機能	試験デバイスのデバイス・ナンバを設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子（接続確定時に得られた ID を使用） char * strDev // デバイス・ナンバ（VB では ByVal で指定）
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	試験デバイスのデバイス・ナンバを最大 20 文字までの文字列で設定します。アプリケーションでは通常の文字列（固定長のみ）を渡すだけです。VB では String 型データを ByVal で渡します。

5.7.5.21 QryConfDevNumb

関数名	long QryConfDevNumb
機能	試験デバイスのデバイス・ナンバを読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子（接続確定時に得られた ID を使用） [OUT] char ** strDev // デバイス・ナンバ (VB では ByRef で指定)
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	試験デバイスのデバイス・ナンバを文字列として読み出し、strDev で指定された変数にその値を格納します。アプリケーション側ではこの文字数 + NULL が格納できる領域を確保する必要があります。また引数は文字列を指すポインタを渡して下さい。VB では String 型データを ByRef で渡します。

5.7.5.22 WmtConfDevNumblncr

関数名	long WmtConfDevNumblncr
機能	試験デバイスのデバイス・ナンバを、試験実行ごとに増加するかどうかを設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子（接続確定時に得られた ID を使用） long lngOnoff // 0: 増加しない // 1: 増加する
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	試験デバイスのデバイス・ナンバを、試験実行ごとに増加するかどうかを設定します。

5.7.5.23 QryConfDevNumblncr

関数名	long QryConfDevNumblncr
機能	試験デバイスのデバイス・ナンバを、試験実行ごとに増加するかどうかの設定状況を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] long * lngOnoff
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	試験デバイスのデバイス・ナンバを、試験実行ごとに増加するかどうかの設定状況を読み出し、lngOnoff で指定された変数にその値を格納します。

5.7.5.24 WmtConfUserInfoltem

関数名	long WmtConfUserInfoltem
機能	ユーザが任意に入力できるコメントの項目名を設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngNum // 配列の要素番号 char * strName // 項目名 (VB では ByVal で指定)
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	ユーザが任意に入力できるコメントの項目名を最大 20 文字までの文字列として設定します。アプリケーションでは通常の文字列 (固定長のみ) を渡すだけです。VB では String 型データを ByVal で渡します。

5.7.5.25 QryConfUserInfoltem

関数名	long QryConfUserInfoltem
機能	ユーザが任意に入力できるコメントの項目名を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngNum // 配列の要素番号 [OUT] char ** strName // 項目名 (VB では ByRef で指定)
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	ユーザが任意に入力できるコメントの項目名を読み出し、strName で指定された変数にその値を格納します。アプリケーション側ではこの文字数 + NULL が格納できる領域を確保する必要があります。また引数は文字列を指すポインタを渡して下さい。VB では String 型データを ByRef で渡します。

5.7.5.26 WmtConfUserInfoComm

関数名	long WmtConfUserInfoComm
機能	ユーザが任意に入力できるコメントを設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngNum // 配列の要素番号 char * strComm // コメント (VB では ByVal で指定)
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	ユーザが任意に入力できるコメントを最大 40 文字までの文字列として設定します。アプリケーションでは通常の文字列 (固定長のみ) を渡すだけです。VB では String 型データを ByVal で渡します。

5.7.5.27 QryConfUserInfoComm

関数名	long QryConfUserInfoComm
機能	ユーザが任意に入力できるコメントを読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngNum // 配列の要素番号 [OUT] char ** strComm // コメント (VB では ByRef で指定)
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	ユーザが任意に入力できるコメントを読み出し、 <i>strComm</i> で指定された変数にその値を格納します。 アプリケーション側ではこの文字数 + NULL が格納できる領域を確保する必要があります。また引数は文字列を指すポインタを渡して下さい。VB では String 型データを ByRef で渡します。

5.7.5.28 WmtConfIUTContMod

関数名	long WmtConfIUTContMod
機能	IUT 制御の ON/OFF
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngOnoff // 0:OFF / 1: ON
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	IUT 制御の ON/OFF を設定します。初期値は 1 となります。

5.7.5.29 QryConfIUTContMod

関数名	long QryConfIUTContMod
機能	IUT 制御の ON/OFF 状況を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] long * lngOnoff
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	IUT 制御の ON/OFF 状況を読み出し、 <i>lngOnoff</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.5.30 WmtConfPowClasIUT

関数名	long WmtConfPowClasIUT
機能	IUT のパワー・クラスを設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngType // 1: CLASS1 // 2: CLASS2 // 3: CLASS3
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	IUT のパワー・クラスを設定します。初期値は 3 となります。

5.7.5.31 QryConfPowClasIUT

関数名	long QryConfPowClasIUT
機能	IUT のパワー・クラスの設定状況を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] long * lngType
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	IUT のパワー・クラスの設定状況を読み出し、 <i>lngType</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.5.32 WmtConfTxPowLev

関数名	long WmtConfTxPowLev
機能	R4870 組込通信ユニット (Signaling Unit) の送信出力レベルを設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngType // 0: SU1 / 1: SU2 (現在使用できません) double dblLev // 出力レベル
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	R4870 組込通信ユニット (Signaling Unit) の送信出力レベルを設定します。 設定範囲は、-13 ~ -93 dBm を基本とし、Cable Loss の値を減算、および RF Port の設定で CH2 が指定されていた場合には 17 dB を加算した値となります。 Ex.) Cable Loss=5 dB, CH2 を選択時には、入力範囲は -1 ~ -81 dB。

5.7.5.33 QryConfTxPowLev

関数名	long QryConfTxPowLev
機能	R4870 組込通信ユニット (Signaling Unit) の送信出力レベルを読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngType // 0: SU1 / 1: SU2 (現在使用できません) OUT double * dblLev
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	R4870 組込通信ユニット (Signaling Unit) の送信出力レベルを読み出し、dblLev で指定された変数にその値を格納します。

5.7.5.34 WmtConfTxModIdx

関数名	long WmtConfTxModIdx
機能	R4870 組込通信ユニット (Signaling Unit) の変調指数を設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngType // 0: SU1 / 1: SU2 (現在使用できません) double dblIdx // 変調指数
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	R4870 組込通信ユニット (Signaling Unit) の変調指数を設定します。

5.7.5.35 QryConfTxModIdx

関数名	long QryConfTxModIdx
機能	R4870 組込通信ユニット (Signaling Unit) の変調指数を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngType // 0: SU1 / 1: SU2 (現在使用できません) OUT double * dblIdx
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	R4870 組込通信ユニット (Signaling Unit) の変調指数を読み出し、 <i>dblIdx</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.5.36 WmtConfHciRs232

関数名	long WmtConfHciRs232
機能	HCI の RS232 ポートの通信条件を設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngPort // ポート番号 (0:PORT-A / 1:PORT-B 現在使用できません) long lngBaud // ボー・レート // 115200/57600/38400/19200/14400/9600/7200/4800/2400/1200 long lngData // データ長 (8: 固定) long lngParity // パリティ・ビット (0:EVEN / 1:ODD / 2:NONE) long lngStop // ストップ・ビット (0:1bits / 1:1.5bits / 2:2bits) long lngHand // ハンド・シェーク (0:NONE 固定)
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	HCI の RS232 ポートの通信条件を設定します。

5.7.5.37 QryConfHciRs232

関数名	long QryConfHciRs232
機能	HCI の RS232 ポートの通信条件を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngPort // ポート番号 (0:PORT-A / 1:PORT-B 現在使用できません) OUT long * lngBaud // ボー・レート long * lngData // データ長 long * lngParity // パリティ・ビット long * lngStop // ストップ・ビット long * lngHand // ハンド・シェーク方式
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	HCI の RS232 ポートの通信条件を読み出し、それぞれ変数に格納します。

5.7.5.38 WmtConfUseIUTPara

関数名	long WmtConfUseIUTPara
機能	IUT の情報を取得する方法を設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngMethod // 0: Inquiry // 1: HCI // 2: ユーザ設定情報
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	IUT の情報を取得する方法を設定します。初期値は 0 となります。

5.7.5.39 QryConfUseIUTPara

関数名	long QryConfUseIUTPara
機能	IUT の情報を取得する方法を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] long * lngMethod
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	IUT の情報を取得する方法を読み出し、 <i>lngMethod</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.5.40 WmtConfBdAddrIUT

関数名	long WmtConfBdAddrIUT
機能	IUT の BD Address を設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) char bytAddr[6] // BD Address (48 ビット) long lngNum // 配列の総バイト数 (この場合は 6 バイト)
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	IUT の BD Address を設定します。

5.7.5 CONFigure サブシステム - SYSTEM

5.7.5.41 QryConfBdAddrIUT

関数名	long QryConfBdAddrIUT
機能	IUT の BD Address を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] char * bytAddr // BD Address (48 ビット)
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	IUT の BD Address を読み出し、 <i>bytAddr</i> で指定された配列にその値を格納します。

5.7.5.42 WmtConfSuppPackType

関数名	long WmtConfSuppPackType
機能	IUT のサポート・パケットを設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngType // 0x0001:DH1 / 0x0002:DH3 / 0x0004:DH5 / 0x0000:ALL long lngData // WMT_OFF(0):OFF/WMT_ON(1):ON // 0x0000:ALL を指定したときは、サポートするパケット // (0x0001:DH1,0x0002:DH3,0x0004:DH5) の論理和を // 設定します。
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	IUT のサポート・パケットを設定します。パケット個別に設定する方法と一括に設定する方法があります。一括に設定する場合は <i>lngType</i> に ALL を指定し <i>lngData</i> にサポートするパケットに対応する値の論理和を設定します。 Ex.)DH1(0x0001)と DH3(0x0002)をサポートする場合はこれらの論理和 0x0003 を設定します。

5.7.5.43 QryConfSuppPackType

関数名	long QryConfSuppPackType
機能	IUT のサポート・パケットを読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngType // 0x0001: DH1 / 0x0002: DH3 / 0x0004: DH5 // 0x0000: ALL [OUT] long * lngData
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	IUT のサポート・パケットを読み出し、 <i>lngData</i> で指定された変数にその値を格納します。詳細は、WmtConfSuppPackType を参照して下さい。

5.7.5.44 WmtConfRfPort

関数名	long WmtConfRfPort
機能	IUT の信号線を、RF Port の CH1/CH2 のどちらに接続しているかを選択
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngConn // 1: (CH1) // 2: (CH2)
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	IUT の信号線を、RF Port の CH1/CH2 のどちらに接続しているかを選択します。初期値は 1 となります。

5.7.5.45 QryConfRfPort

関数名	long QryConfRfPort
機能	IUT の信号線を、RF Port の CH1/CH2 のどちらに接続しているかを読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] long * lngConn
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	IUT の信号線を、RF Port の CH1/CH2 のどちらに接続しているかを読み出し、 <i>lngConn</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.5.46 WmtConfPaneLock

関数名	long WmtConfPaneLock
機能	パネル操作のロック状態 (ON/OFF) を設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngOnoff // 0: OFF // 1: ON
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	R4870 本体のタッチ・パネルおよびパネル・キーの操作による状態の変更の可/不可を設定します。

5.7.5.47 QryConfPaneLock

関数名	long QryConfPaneLock
機能	パネル操作のロック状態 (ON/OFF) を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) OUT long * lngOnOff
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	R4870 本体のタッチ・パネルおよびパネル・キーの操作による状態の変更が、可か不可かを読み出します。

5.7.6 CONFigure サブシステム - SIG RF

5.7.6.1 WmtConfSigOutPow

関数名	long WmtConfSigOutPow
機能	出力パワー試験の ON/OFF を設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngPoint // 試験項目設定 0x00: 試験項目の ON/OFF // 動作周波数設定 0x01: LOW (最低周波数) // 0x02: MID (中間周波数) // 0x03: HIGH (最高周波数) long lngOnOff // WMT_OFF(0): OFF / WMT_ON(1): ON
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	出力パワー試験の ON/OFF を設定します。初期値は試験項目およびすべての動作周波数に対して ON となります。

5.7.6.2 QryConfSigOutPow

関数名	long QryConfSigOutPow
機能	出力パワー試験の ON/OFF 状況を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngPoint // 試験項目設定 0x00: 試験項目の ON/OFF // 動作周波数設定 0x01: LOW (最低周波数) // 0x02: MID (中間周波数) // 0x03: HIGH (最高周波数) [OUT] long * lngOnOff
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている出力パワー試験の ON/OFF 状況を読み出し、lngOnOff で指定された変数にその値を格納します。

5.7.6.3 WmtConfSigModChar

関数名	long WmtConfSigModChar
機能	変調特性試験の ON/OFF を設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngPoint // 試験項目設定 0x00: 試験項目の ON/OFF // 動作周波数設定 0x01: LOW (最低周波数) // 0x02: MID (中間周波数) // 0x03: HIGH (最高周波数) long lngOnOff // WMT_OFF(0): OFF / WMT_ON(1): ON
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	変調特性試験の ON/OFF を設定します。初期値は試験項目およびすべての動作周波数に対して ON となります。

5.7.6.4 QryConfSigModChar

関数名	long QryConfSigModChar
機能	変調特性試験の ON/OFF 状況を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngPoint // 試験項目設定 0x00: 試験項目の ON/OFF // 動作周波数設定 0x01: LOW (最低周波数) // 0x02: MID (中間周波数) // 0x03: HIGH (最高周波数) [OUT] long * lngOnOff
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている変調特性試験の ON/OFF 状況を読み出し、lngOnOff で指定された変数にその値を格納します。

5.7.6.5 WmtConfSigFreqTole

関数名	long WmtConfSigFreqTole
機能	初期搬送波周波数の許容値試験の ON/OFF を設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngPoint // 試験項目設定 0x00: 試験項目の ON/OFF // 動作周波数設定 0x01: LOW (最低周波数) // 0x02: MID (中間周波数) // 0x03: HIGH (最高周波数) long lngOnOff // WMT_OFF(0): OFF / WMT_ON(1): ON
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	初期搬送波周波数の許容値試験の ON/OFF を設定します。初期値は試験項目およびすべての動作周波数に対して ON となります。

5.7.6.6 QryConfSigFreqTole

関数名	long QryConfSigFreqTole
機能	初期搬送波周波数の許容値試験の ON/OFF 状況を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngPoint // 試験項目設定 0x00: 試験項目の ON/OFF // 動作周波数設定 0x01: LOW (最低周波数) // 0x02: MID (中間周波数) // 0x03: HIGH (最高周波数) [OUT] long * lngOnOff
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている初期搬送波周波数の許容値試験の ON/OFF 状況を読み出し、 <i>lngOnOff</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.6.7 WmtConfSigFreqDrif

関数名	long WmtConfSigFreqDrif
機能	搬送波周波数ドリフト試験の ON/OFF を設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngPoint // 試験項目設定 0x00: 試験項目の ON/OFF // 動作周波数設定 0x01: LOW (最低周波数) // 0x02: MID (中間周波数) // 0x03: HIGH (最高周波数) long lngOnOff // WMT_OFF(0): OFF / WMT_ON(1): ON
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	搬送波周波数ドリフト試験の ON/OFF を設定します。初期値は試験項目およびすべての動作周波数に対して ON となります。

5.7.6.8 QryConfSigFreqDrif

関数名	long QryConfSigFreqDrif
機能	搬送波周波数ドリフト試験の ON/OFF 状況を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngPoint // 試験項目設定 0x00: 試験項目の ON/OFF // 動作周波数設定 0x01: LOW (最低周波数) // 0x02: MID (中間周波数) // 0x03: HIGH (最高周波数) [OUT] long * lngOnOff
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている搬送波周波数ドリフト試験の ON/OFF 状況を読み出し、lngOnOff で指定された変数にその値を格納します。

5.7.6.9 WmtConfSigSensSing

関数名	long WmtConfSigSensSing
機能	感度（シングル・スロット・パケット）試験の ON/OFF を設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子（接続確定時に得られた ID を使用） long lngPoint // 試験項目設定 0x00: 試験項目の ON/OFF // 動作周波数設定 0x01: LOW（最低周波数） // 0x02: MID（中間周波数） // 0x03: HIGH（最高周波数） long lngOnOff // WMT_OFF(0): OFF / WMT_ON(1): ON
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	感度（シングル・スロット・パケット）試験の ON/OFF を設定します。初期値は試験項目およびすべての動作周波数に対して ON となります。

5.7.6.10 QryConfSigSensSing

関数名	long QryConfSigSensSing
機能	感度（シングル・スロット・パケット）試験の ON/OFF 状況を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子（接続確定時に得られた ID を使用） long lngPoint // 試験項目設定 0x00: 試験項目の ON/OFF // 動作周波数設定 0x01: LOW（最低周波数） // 0x02: MID（中間周波数） // 0x03: HIGH（最高周波数） [OUT] long * lngOnOff
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている感度（シングル・スロット・パケット）試験の ON/OFF 状況を読み出し、lngOnOff で指定された変数にその値を格納します。

5.7.6.11 WmtConfSigSensMult

関数名	long WmtConfSigSensMult
機能	感度（マルチ・スロット・パケット）試験の ON/OFF を設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子（接続確定時に得られた ID を使用） long lngPoint // 試験項目設定 0x00: 試験項目の ON/OFF // 動作周波数設定 0x01: LOW（最低周波数） // 0x02: MID（中間周波数） // 0x03: HIGH（最高周波数） long lngOnOff // WMT_OFF(0): OFF / WMT_ON(1): ON
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	感度（マルチ・スロット・パケット）試験の ON/OFF を設定します。初期値は試験項目およびすべての動作周波数に対して ON となります。

5.7.6.12 QryConfSigSensMult

関数名	long QryConfSigSensMult
機能	感度（マルチ・スロット・パケット）試験の ON/OFF 状況を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子（接続確定時に得られた ID を使用） long lngPoint // 試験項目設定 0x00: 試験項目の ON/OFF // 動作周波数設定 0x01: LOW（最低周波数） // 0x02: MID（中間周波数） // 0x03: HIGH（最高周波数） [OUT] long * lngOnOff
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている感度（マルチ・スロット・パケット）試験の ON/OFF 状況を読み出し、lngOnOff で指定された変数にその値を格納します。

5.7.6.13 WmtConfSigMaxInp

関数名	long WmtConfSigMaxInp
機能	最大入力レベル試験の ON/OFF を設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngPoint // 試験項目設定 0x00: 試験項目の ON/OFF // 動作周波数設定 0x01: LOW (最低周波数) // 0x02: MID (中間周波数) // 0x03: HIGH (最高周波数) long lngOnOff // WMT_OFF(0): OFF / WMT_ON(1): ON
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	最大入力レベル試験の ON/OFF を設定します。初期値は試験項目およびすべての動作周波数に対して ON となります。

5.7.6.14 QryConfSigMaxInp

関数名	long QryConfSigMaxInp
機能	最大入力レベル試験の ON/OFF 状況を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngPoint // 試験項目設定 0x00: 試験項目の ON/OFF // 動作周波数設定 0x01: LOW (最低周波数) // 0x02: MID (中間周波数) // 0x03: HIGH (最高周波数) [OUT] long * lngOnOff
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている最大入力レベル試験の ON/OFF 状況を読み出し、lngOnOff で指定された変数にその値を格納します。

5.7.6.15 WmtConfSigSensSingTestType

関数名	long WmtConfSigSensSingTestType
機能	感度 (シングル・スロット・パケット) 試験の試験方法を選択
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngType // 測定タイプ 0x00: STANDARD (SIG 規格準拠) // 0x01: HIGH SPEED (高速/簡易版)
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	感度 (シングル・スロット・パケット) 試験の試験方法を設定します。初期値は 0 (SIG 規格準拠) となります。

5.7.6.16 QryConfSigSensSingTestType

関数名	long QryConfSigSensSingTestType
機能	感度（シングル・スロット・パケット）試験の試験方法を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子（接続確定時に得られた ID を使用） [OUT] long * lngType
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている感度（シングル・スロット・パケット）試験の試験方式を読み出し、 <i>lngType</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.6.17 WmtConfSigSensMultTestType

関数名	long WmtConfSigSensMultTestType
機能	感度（マルチ・スロット・パケット）試験の試験方法を選択
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子（接続確定時に得られた ID を使用） long lngType // 測定タイプ 0x00: STANDARD (SIG 規格準拠) // 0x01: HIGH SPEED (高速/簡易版)
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	感度（マルチ・スロット・パケット）試験の試験方法を設定します。初期値は 0 (SIG 規格準拠) となります。

5.7.6.18 QryConfSigSensMultTestType

関数名	long QryConfSigSensMultTestType
機能	感度（マルチ・スロット・パケット）試験の試験方法を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子（接続確定時に得られた ID を使用） [OUT] long * lngType
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている感度（マルチ・スロット・パケット）試験の試験方式を読み出し、 <i>lngType</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.6.19 WmtConfSigMaxInpTestType

関数名	long WmtConfSigMaxInpTestType
機能	最大入力レベル試験の試験方法を選択
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子（接続確定時に得られた ID を使用） long lngType // 測定タイプ 0x00: STANDARD (SIG 規格準拠) // 0x01: HIGH SPEED (高速/簡易版)
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	最大入力レベル試験の試験方法を設定します。初期値は 0 (SIG 規格準拠) となります。

5.7.6.20 QryConfSigMaxInpTestType

関数名	long QryConfSigMaxInpTestType
機能	最大入力レベル試験の試験方法を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子（接続確定時に得られた ID を使用） [OUT] long * lngType
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている最大入力レベル試験の試験方式を読み出し、lngType で指定された変数にその値を格納します。

5.7.6.21 WmtConfSigBERbitsHspd

関数名	long WmtConfSigBERbitsHspd
機能	BER 測定 HIGH SPEED モード時のサンプル・ビット数を設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子（接続確定時に得られた ID を使用） long lngBits // サンプル・ビット数 1 ~ 1600000
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	BER 測定 HIGH SPEED モード時のサンプル・ビット数を設定します。初期値は 160000 となります。

5.7.6.22 QryConfSigBERbitsHspd

関数名	long QryConfSigBERbitsHspd
機能	BER 測定 HIGH SPEED モード時のサンプル・ビット数を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] long * lngBits
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている BER 測定 HIGH SPEED モード時のサンプル・ビット数を読み出し、 <i>lngBits</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.6.23 WmtConfSigBERbitsStd

関数名	long WmtConfSigBERbitsStd
機能	BER 測定 STANDARD モード時のサンプル・ビット数を設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngBits // サンプル・ビット数 1600000 ~ 9999999
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	BER 測定 STANDARD モード時のサンプル・ビット数を設定します。初期値は 1600000 となります。

5.7.6.24 QryConfSigBERbitsStd

関数名	long QryConfSigBERbitsStd
機能	BER 測定 STANDARD モード時のサンプル・ビット数を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] long * lngBits
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている BER 測定 STANDARD モード時のサンプル・ビット数を読み出し、 <i>lngBits</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.6.25 WmtConfSigOutPowClas1AvgUp

関数名	long WmtConfSigOutPowClas1AvgUp
機能	出力パワー試験の Class1 での平均パワーの判定に使用する上限値を設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) double dblLimit // -33.0 ~ 25.0 (dBm) ただし下限値以下は設定不可
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	出力パワー試験の Class1 での平均パワーの判定に使用する上限値を設定します。初期値は 20.0 となります。

5.7.6.26 QryConfSigOutPowClas1AvgUp

関数名	long QryConfSigOutPowClas1AvgUp
機能	出力パワー試験の Class1 での平均パワーの判定に使用する上限値を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] double * dblLimit
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている出力パワー試験の Class1 での平均パワーの判定に使用する上限値を読み出し、dblLimit で指定された変数にその値を格納します。

5.7.6.27 WmtConfSigOutPowClas1AvgLo

関数名	long WmtConfSigOutPowClas1AvgLo
機能	出力パワー試験の Class1 での平均パワーの判定に使用する下限値を設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) double dblLimit // -33.0 ~ 25.0 (dBm) ただし上限値以上は設定不可
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	出力パワー試験の Class1 での平均パワーの判定に使用する下限値を設定します。初期値は 0.0 となります。

5.7.6.28 QryConfSigOutPowClas1AvgLo

関数名	long QryConfSigOutPowClas1AvgLo
機能	出力パワー試験の Class1 での平均パワーの判定に使用する下限値を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] double * dblLimit
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている出力パワー試験の Class1 での平均パワーの判定に使用する下限値を読み出し、dblLimit で指定された変数にその値を格納します。

5.7.6.29 WmtConfSigOutPowClas2AvgUp

関数名	long WmtConfSigOutPowClas2AvgUp
機能	出力パワー試験の Class2 での平均パワーの判定に使用する上限値を設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) double dblLimit // -33.0 ~ 25.0 (dBm) ただし下限値以下は設定不可
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	出力パワー試験の Class2 での平均パワーの判定に使用する上限値を設定します。初期値は 4.0 となります。

5.7.6.30 QryConfSigOutPowClas2AvgUp

関数名	long QryConfSigOutPowClas2AvgUp
機能	出力パワー試験の Class2 での平均パワーの判定に使用する上限値を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] double * dblLimit
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている出力パワー試験の Class2 での平均パワーの判定に使用する上限値を読み出し、dblLimit で指定された変数にその値を格納します。

5.7.6.31 WmtConfSigOutPowClas2AvgLo

関数名	long WmtConfSigOutPowClas2AvgLo
機能	出力パワー試験の Class2 での平均パワーの判定に使用する下限値を設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) double dblLimit // -33.0 ~ 25.0 (dBm) ただし上限値以上は設定不可
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	出力パワー試験の Class2 での平均パワーの判定に使用する下限値を設定します。初期値は -6.0 となります。

5.7.6.32 QryConfSigOutPowClas2AvgLo

関数名	long QryConfSigOutPowClas2AvgLo
機能	出力パワー試験の Class2 での平均パワーの判定に使用する下限値を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] double * dblLimit
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている出力パワー試験の Class2 での平均パワーの判定に使用する下限値を読み出し、dblLimit で指定された変数にその値を格納します。

5.7.6.33 WmtConfSigOutPowClas3AvgUp

関数名	long WmtConfSigOutPowClas3AvgUp
機能	出力パワー試験の Class3 での平均パワーの判定に使用する上限値を設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) double dblLimit // -33.0 ~ 25.0 (dBm)
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	出力パワー試験の Class3 での平均パワーの判定に使用する上限値を設定します。初期値は 0.0 となります。

5.7.6.34 QryConfSigOutPowClas3AvgUp

関数名	long QryConfSigOutPowClas3AvgUp
機能	出力パワー試験の Class3 での平均パワーの判定に使用する上限値を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] double * dblLimit
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている出力パワー試験の Class3 での平均パワーの判定に使用する上限値を読み出し、dblLimit で指定された変数にその値を格納します。

5.7.6.35 WmtConfSigOutPowPeakUp

関数名	long WmtConfSigOutPowPeakUp
機能	出力パワー試験のピーク・パワーの判定に使用する上限値を設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) double dblLimit // -30.0 ~ 25.0 (dBm)
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	出力パワー試験のピーク・パワーの判定に使用する上限値を設定します。初期値は 23.0 となります。

5.7.6.36 QryConfSigOutPowPeakUp

関数名	long QryConfSigOutPowPeakUp
機能	出力パワー試験のピーク・パワーの判定に使用する上限値を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] double * dblLimit
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている出力パワー試験のピーク・パワーの判定に使用する上限値を読み出し、dblLimit で指定された変数にその値を格納します。

5.7.6.37 WmtConfSigModCharF1avgUp

関数名	long WmtConfSigModCharF1avgUp
機能	変調特性試験の Δf_{1avg} の判定に使用する上限値を設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) double dblLimit // 0 ~ 300000 (Hz) ただし下限値未満は設定不可
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	変調特性試験の Δf_{1avg} の判定に使用する上限値を設定します。初期値は 175000 となります。

5.7.6.38 QryConfSigModCharF1avgUp

関数名	long QryConfSigModCharF1avgUp
機能	変調特性試験の Δf_{1avg} の判定に使用する上限値を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] double * dblLimit
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている変調特性試験の Δf_{1avg} の判定に使用する上限値を読み出し、 <i>dblLimit</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.6.39 WmtConfSigModCharF1avgLo

関数名	long WmtConfSigModCharF1avgLo
機能	変調特性試験の Δf_{1avg} の判定に使用する下限値を設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) double dblLimit // 0 ~ 300000 (Hz) ただし上限値を超える値は設定不可
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	変調特性試験の Δf_{1avg} の判定に使用する下限値を設定します。初期値は 140000 となります。

5.7.6.40 QryConfSigModCharF1avgLo

関数名	long QryConfSigModCharF1avgLo
機能	変調特性試験の Δf_{1avg} の判定に使用する下限値を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] double * dblLimit
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている変調特性試験の Δf_{1avg} の判定に使用する下限値を読み出し、 <i>dblLimit</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.6.41 WmtConfSigModCharF2maxUp

関数名	long WmtConfSigModCharF2maxUp
機能	変調特性試験の Δf_{2max} の判定に使用する下限値を設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) double dblLimit // 0 ~ 300000 (Hz)
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	変調特性試験の Δf_{2max} の判定に使用する下限値を設定します。初期値は 115000 となります。

5.7.6.42 QryConfSigModCharF2maxUp

関数名	long QryConfSigModCharF2maxUp
機能	変調特性試験の Δf_{2max} の判定に使用する下限値を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] double * dblLimit
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている変調特性試験の Δf_{2max} の判定に使用する下限値を読み出し、 <i>dblLimit</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.6.43 WmtConfSigModCharF2F1Up

関数名	long WmtConfSigModCharF2F1Up
機能	変調特性試験の $\Delta f_{2avg}/\Delta f_{1avg}$ の判定に使用する下限値を設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) double dblLimit // 0.00 ~ 1.00
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	変調特性試験の $\Delta f_{2avg}/\Delta f_{1avg}$ の判定に使用する下限値を設定します。初期値は 0.80 となります。

5.7.6.44 QryConfSigModCharF2F1Up

関数名	long QryConfSigModCharF2F1Up
機能	変調特性試験の $\Delta f_{2avg}/\Delta f_{1avg}$ の判定に使用する下限値を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] double * dblLimit
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている変調特性試験の $\Delta f_{2avg}/\Delta f_{1avg}$ の判定に使用する下限値を読み出し、 <i>dblLimit</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.6.45 WmtConfSigModCharSampNum

関数名	long WmtConfSigModCharSampNum
機能	変調特性試験のサンプル・パケット数の設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngNum // 1 ~ 200 [パケット]
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	変調特性試験のサンプル・パケット数を設定します。初期値は 10 [パケット] になります。SIG 規格では、少なくとも 10 [パケット] です。

5.7.6.46 QryConfSigModCharSampNum

関数名	long QryConfSigModCharSampNum
機能	変調特性試験のサンプル・パケット数を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] long * lngNum
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている変調特性試験のサンプル・パケット数を読み出し、 <i>lngNum</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.6.47 WmtConfSigFreqToleFreqUp

関数名	long WmtConfSigFreqToleFreqUp
機能	初期搬送波周波数の許容値試験の許容範囲の判定値を設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) double dblLimit // 0 ~ 300000 (Hz)
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	初期搬送波周波数の許容値試験の許容範囲の判定値を設定します。初期値は 75000 となります。

5.7.6.48 QryConfSigFreqToleFreqUp

関数名	long QryConfSigFreqToleFreqUp
機能	初期搬送波周波数の許容値試験の許容範囲の判定値を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] double * dblLimit
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている初期搬送波周波数の許容値試験の許容範囲の判定値を読み出し、 <i>dblLimit</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.6.49 WmtConfSigFreqDrifDH1DrifUp

関数名	long WmtConfSigFreqDrifDH1DrifUp
機能	搬送波周波数ドリフト試験の DH1 packet の場合での許容範囲の判定値を設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) double dblLimit // 0 ~ 300000 (Hz)
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	搬送波周波数ドリフト試験の DH1 packet の場合での許容範囲の判定値を設定します。初期値は 25000 となります。

5.7.6.50 QryConfSigFreqDrifDH1DrifUp

関数名	long QryConfSigFreqDrifDH1DrifUp
機能	搬送波周波数ドリフト試験の DH1 packet の場合での許容範囲の判定値を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] double * dblLimit
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている搬送波周波数ドリフト試験の DH1 packet の場合での許容範囲の判定値を読み出し、 <i>dblLimit</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.6.51 WmtConfSigFreqDrifDH3DrifUp

関数名	long WmtConfSigFreqDrifDH3DrifUp
機能	搬送波周波数ドリフト試験の DH3 packet の場合での許容範囲の判定値を設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) double dblLimit // 0 ~ 300000 (Hz)
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	搬送波周波数ドリフト試験の DH3 packet の場合での許容範囲の判定値を設定します。初期値は 40000 となります。

5.7.6.52 QryConfSigFreqDrifDH3DrifUp

関数名	long QryConfSigFreqDrifDH3DrifUp
機能	搬送波周波数ドリフト試験の DH3 packet の場合での許容範囲の判定値を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] double * dblLimit
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている搬送波周波数ドリフト試験の DH3 packet の場合での許容範囲の判定値を読み出し、 <i>dblLimit</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.6.53 WmtConfSigFreqDrifDH5DrifUp

関数名	long WmtConfSigFreqDrifDH5DrifUp
機能	搬送波周波数ドリフト試験の DH5 packet の場合での許容範囲の判定値を設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) double dblLimit // 0 ~ 300000 (Hz)
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	搬送波周波数ドリフト試験の DH5 packet の場合での許容範囲の判定値を設定します。初期値は 40000 となります。

5.7.6.54 QryConfSigFreqDrifDH5DrifUp

関数名	long QryConfSigFreqDrifDH5DrifUp
機能	搬送波周波数ドリフト試験の DH5 packet の場合での許容範囲の判定値を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] double * dblLimit
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている搬送波周波数ドリフト試験の DH5 packet の場合での許容範囲の判定値を読み出し、 <i>dblLimit</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.6.55 WmtConfSigFreqDrifRateUp

関数名	long WmtConfSigFreqDrifRateUp
機能	搬送波周波数ドリフト試験の $ f(k+5) - f(k) $ の許容範囲の判定値を設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) double dblLimit // 0 ~ 300000 (Hz)
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	搬送波周波数ドリフト試験の $ f(k+5) - f(k) $ の許容範囲の判定値を設定します。初期値は 20000 となります。

5.7.6.56 QryConfSigFreqDrifRateUp

関数名	long QryConfSigFreqDrifRateUp
機能	搬送波周波数ドリフト試験の $ f(k+5) - f(k) $ の許容範囲の判定値を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] double * dblLimit
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている搬送波周波数ドリフト試験の $ f(k+5) - f(k) $ の許容範囲の判定値を読み出し、 <i>dblLimit</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.6.57 WmtConfSigSensSingBerUp

関数名	long WmtConfSigSensSingBerUp
機能	感度試験 (シングル・スロット・パケット) の BER(Bit Error Rate) の許容範囲の上限値を設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) double dblLimit // 0.0000 ~ 100.0000[%]
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	感度試験 (シングル・スロット・パケット) の BER(Bit Error Rate) の許容範囲の上限値を設定します。初期値は 0.1000 となります。

5.7.6.58 QryConfSigSensSingBerUp

関数名	long QryConfSigSensSingBerUp
機能	感度試験（シングル・スロット・パケット）の BER(Bit Error Rate) の許容範囲の上限値を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子（接続確定時に得られた ID を使用） [OUT] double * dblLimit
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている感度試験（シングル・スロット・パケット）の BER(Bit Error Rate) の許容範囲の上限値を読み出し、 <i>dblLimit</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.6.59 WmtConfSigSensMultBerUp

関数名	long WmtConfSigSensMultBerUp
機能	感度試験（マルチ・スロット・パケット）の BER(Bit Error Rate) の許容範囲の上限値を設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子（接続確定時に得られた ID を使用） double dblLimit // 0.0000 ~ 100.0000 [%]
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	感度試験（マルチ・スロット・パケット）の BER(Bit Error Rate) の許容範囲の上限値を設定します。初期値は 0.1000 となります。

5.7.6.60 QryConfSigSensMultBerUp

関数名	long QryConfSigSensMultBerUp
機能	感度試験（マルチ・スロット・パケット）の BER(Bit Error Rate) の許容範囲の上限値を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子（接続確定時に得られた ID を使用） [OUT] double * dblLimit
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている感度試験（マルチ・スロット・パケット）の BER(Bit Error Rate) の許容範囲の上限値を読み出し、 <i>dblLimit</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.6.61 WmtConfSigMaxInpBerUp

関数名	long WmtConfSigMaxInpBerUp
機能	最大入力レベル試験の BER(Bit Error Rate) の許容範囲の上限値を設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) double dblLimit // 0.0000 ~ 100.0000 [%]
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	最大入力レベル試験の BER(Bit Error Rate) の許容範囲の上限値を設定します。初期値は 0.1000 となります。

5.7.6.62 QryConfSigMaxInpBerUp

関数名	long QryConfSigMaxInpBerUp
機能	最大入力レベル試験の BER(Bit Error Rate) の許容範囲の上限値を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] double * dblLimit
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている最大入力レベル試験の BER(Bit Error Rate) の許容範囲の上限値を読み出し、dblLimit で指定された変数にその値を格納します。

5.7.6.63 WmtConfSigTxDir

関数名	long WmtConfSigTxDir
機能	感度試験の Dirty 機能の ON/OFF を設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngOnOff // WMT_OFF(0): OFF / WMT_ON(1): ON
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	感度試験の Dirty 機能の ON/OFF を設定します。初期値は ON となります。

5.7.6.64 QryConfSigTxDir

関数名	long QryConfSigTxDir
機能	感度試験の Dirty 機能の ON/OFF 状況を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] long * lngOnOff
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている感度試験の Dirty 機能の ON/OFF 状況を読み出し、lngOnOff で指定された変数にその値を格納します。

5.7.6.65 WmtConfSigSensTxLev

関数名	long WmtConfSigSensTxLev
機能	感度試験の Tx Level(IUT Input Level) を設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) double dblLev // 信号レベル // <CH1> (-93.00 - (Cable Loss)) // ~ (-13.00 - (Cable Loss)) [dBm] // <CH2> (-76.00 - (Cable Loss)) // ~ (+4.00 - (Cable Loss)) [dBm]
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	感度試験の Tx Level(IUT Input Level) を設定します。 設定範囲は、-13.00 ~ -93.00 dBm を基本とし、Cable Loss の値を減算、および RF Port の設定で CH2 が指定されていた場合には 17 dB を加算した値となります。初期値は -70.00 dBm となります。 Ex.) Cable Loss=5 dB, CH2 を選択時には、入力範囲は -1 ~ -81 dBm。

5.7.6.66 QryConfSigSensTxLev

関数名	long QryConfSigSensTxLev
機能	感度試験の Tx Level(IUT Input Level) を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] double * dblLev
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている感度試験の Tx Level(IUT Input Level) を読み出し、dblLev で指定された変数にその値を格納します。

5.7.6.67 WmtConfSigFreqToleSampNum

関数名	long WmtConfSigFreqToleSampNum
機能	初期搬送波周波数試験のサンプル・パケット数の設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngSampNum // 1 ~ 200 [パケット]
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	初期搬送波周波数試験のサンプル・パケット数を設定します。初期値は 10 [パケット] になります。SIG 規格では、少なくとも 10 [パケット] です。

5.7.6.68 QryConfSigFreqToleSampNum

関数名	long QryConfSigFreqToleSampNum
機能	初期搬送波周波数試験のサンプル・パケット数を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子（接続確定時に得られた ID を使用） [OUT] long * lngSampNum
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている初期搬送波周波数試験のサンプル・パケット数を読み出し、 <i>lngSampNum</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.6.69 WmtConfSigFreqToleHopOn

関数名	long WmtConfSigFreqToleHopOn
機能	初期搬送波周波数試験の Hopping On での測定の On/Off を設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子（接続確定時に得られた ID を使用） long lngOnOff // WMT_OFF(0): OFF / WMT_ON(1): ON
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	初期搬送波周波数試験の Hopping On での測定の On/Off を設定します。初期値は ON になります。SIG 規格では測定 (ON) を行います。

5.7.6.70 QryConfSigFreqToleHopOn

関数名	long QryConfSigFreqToleHopOn
機能	初期搬送波周波数試験の Hopping On での測定の On/Off を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子（接続確定時に得られた ID を使用） [OUT] long * lngOnOff
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている初期搬送波周波数試験の Hopping On での測定の On/Off を読み出し、 <i>lngOnOff</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.6.71 WmtConfSigFreqToleHopOf

関数名	long WmtConfSigFreqToleHopOf
機能	初期搬送波周波数試験の Hopping Off での測定の On/Off を設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngOnOff // WMT_OFF(0): OFF / WMT_ON(1): ON
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	初期搬送波周波数試験の Hopping Off での測定の On/Off を設定します。初期値は ON になります。SIG 規格では測定 (ON) を行います。

5.7.6.72 QryConfSigFreqToleHopOf

関数名	long QryConfSigFreqToleHopOf
機能	初期搬送波周波数試験の Hopping Off での測定の On/Off を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] long * lngOnOff
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている初期搬送波周波数試験の Hopping Off での測定の On/Off を読み出し、lngOnOff で指定された変数にその値を格納します。

5.7.6.73 WmtConfSigFreqDrifSampNum

関数名	long WmtConfSigFreqDrifSampNum
機能	搬送波周波数ドリフト試験のサンプル・パケット数の設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngSampNum // 1 ~ 200 [パケット]
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	搬送波周波数ドリフト試験のサンプル・パケット数を設定します。初期値は 10 [パケット] になります。SIG 規格では、少なくとも 10 [パケット] です。

5.7.6.74 QryConfSigFreqDrifSampNum

関数名	long QryConfSigFreqDrifSampNum
機能	搬送波周波数ドリフト試験のサンプル・パケット数を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子（接続確定時に得られた ID を使用） [OUT] long * lngSampNum
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている搬送波周波数ドリフト試験のサンプル・パケット数の設定を読み出し、 <i>lngSampNum</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.6.75 WmtConfSigFreqDrifHopOn

関数名	long WmtConfSigFreqDrifHopOn
機能	搬送波周波数ドリフト試験の Hopping On での測定の On/Off を設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子（接続確定時に得られた ID を使用） long lngOnOff // WMT_OFF(0): OFF / WMT_ON(1): ON
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	初期搬送波周波数試験の Hopping Off での測定の On/Off を設定します。初期値は ON になります。SIG 規格では測定 (ON) を行います。

5.7.6.76 QryConfSigFreqDrifHopOn

関数名	long QryConfSigFreqDrifHopOn
機能	搬送波周波数ドリフト試験の Hopping On での測定の On/Off を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子（接続確定時に得られた ID を使用） [OUT] long * lngOnOff
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている搬送波周波数ドリフト試験の Hopping On での測定の On/Off を読み出し、 <i>lngOnOff</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.6.77 WmtConfSigFreqDrifHopOf

関数名	long WmtConfSigFreqDrifHopOf
機能	搬送波周波数ドリフト試験の Hopping Off での測定の On/Off を設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngOnOff // WMT_OFF(0): OFF / WMT_ON(1): ON
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	搬送波周波数ドリフト試験の Hopping Off での測定の On/Off を設定。初期値は ON になります。SIG 規格では測定 (ON) を行います。

5.7.6.78 QryConfSigFreqDrifHopOf

関数名	long QryConfSigFreqDrifHopOf
機能	搬送波周波数ドリフト試験の Hopping Off での測定の On/Off を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] long * lngOnOff
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている搬送波周波数ドリフト試験の Hopping Off での測定の On/Off を読み出し、lngOnOff で指定された変数にその値を格納します。

5.7.6.79 WmtConfSigMaxInpTxLev

関数名	long WmtConfSigMaxInpTxLev
機能	最大入力レベル試験の TX Level の設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) double dblTxLev // 信号レベル // <CH1> (-93.00 - (Cable Loss)) // ~ (-13.00 - (Cable Loss)) [dBm] // <CH2> (-76.00 - (Cable Loss)) // ~ (+4.00 - (Cable Loss)) [dBm]
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	最大入力レベル試験の TX Level を設定します。初期値は -20.00[dBm]、設定範囲は -13.00 ~ -93.00 [dBm] を基本とし、Cable Loss の値を減算、および RF Port の設定で CH2 が指定されていた場合には 17[dB] を加算した値です。 SIG 規格では -20[dBm] になります。 Ex.) Cable Loss=5 dB, CH2 を選択時には、入力範囲は -1 ~ -81 dBm になる。

5.7.6.80 QryConfSigMaxInpTxLev

関数名	long QryConfSigMaxInpTxLev
機能	最大入力レベル試験の TX Level を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] double * dblTxLev
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている最大入力レベル試験の TX Level を読み出し、 <i>dblTxLev</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.6.81 WmtConfSigModCharF2PassLo

関数名	long WmtConfSigModCharF2PassLo
機能	変調特性試験の Δf_{2max} の PASS の割合の判定に使用する下限値の設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) double dblLimit // 0.000 ~ 100.000 [%]
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	変調特性試験の Δf_{2max} の PASS の割合の判定に使用する下限値を設定します。初期値は 99.900 になります。

5.7.6.82 QryConfSigModCharF2PassLo

関数名	long QryConfSigModCharF2PassLo
機能	変調特性試験の Δf_{2max} の PASS の割合の判定に使用する下限値を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] double * dblLimit
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている変調特性試験の Δf_{2max} の PASS の割合の判定に使用する下限値を読み出し、 <i>dblLimit</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.6.83 WmtConfSigAvgFreqCalc

関数名	long WmtConfSigAvgFreqCalc
機能	変調特性試験の変調周波数の演算方法の選択を設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngSelect // 変調周波数演算方法 0: Integration // 1: Peak
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	変調特性試験の変調周波数の演算方法の選択を設定します。初期値は 0(Integration) になります。

5.7.6.84 QryConfSigAvgFreqCalc

関数名	long QryConfSigAvgFreqCalc
機能	変調特性試験の変調周波数の演算方法の選択を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] long * lngSelect
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている変調特性試験の変調周波数の演算方法の選択を読み出し、 <i>lngSelect</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.6.85 WmtConfSigPerCalcSele

関数名	long WmtConfSigPerCalcSele
機能	PER 測定の算出方法の選択を設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngSelect // PER Calculation 0: HEC and Access Code // 1: HEC, Access Code and include // Data payload error Packets
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	PER 測定の算出方法の選択を設定します。初期値は 0(HEC and Access Code) になります。

5.7.6.86 QryConfSigPerCalcSele

関数名	long QryConfSigPerCalcSele
機能	PER 測定の算出方法の選択を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] long * lngSelect
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている PER 測定の算出方法の選択を読み出し、 <i>lngSelect</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.6.87 WmtConfSigTestScen

関数名	long WmtConfSigTestScen
機能	Test Scenario (TX mode または Loopback) の選択を設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngScen // Test Scenario の選択 0: TX mode 1: Loopback
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	SIG RF 試験時の通信状態を設定します。初期値は 0 (TX mode) になります。

5.7.6.88 QryConfSigTestScen

関数名	long QryConfSigTestScen
機能	Test Scenario (TX mode または Loopback) の選択を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] long *lngScen
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている SIG RF 試験時の通信状態を読み出し、 <i>lngScen</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.6.89 WmtConfSigOutPowTestPack

関数名	long WmtConfSigOutPowTestPack
機能	出力パワー試験時に使用するパケットを設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngPack // パケット・タイプの設定 0x00000001 : DH1 0x00000002 : DH3 0x00000004 : DH5
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	出力パワー試験時に使用するパケットを設定します。初期値は 0x00000004 (DH5) になります。

5.7.6.90 QryConfSigOutPowTestPack

関数名	long QryConfSigOutPowTestPack
機能	出力パワー試験時に使用するパケットを読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] long * lngPack
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている出力パワー試験時に使用するパケットを読み出し、lngPack で指定された変数にその値を格納します。

5.7.6.91 WmtConfSigModCharTestPack

関数名	long WmtConfSigModCharTestPack
機能	変調特性試験時に使用するパケットを設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngPack // パケット・タイプの設定 0x00000001 : DH1 0x00000002 : DH3 0x00000004 : DH5
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	変調特性試験時に使用するパケットを設定します。初期値は 0x00000004 (DH5) になります。

5.7.6.92 QryConfSigModCharTestPack

関数名	long QryConfSigModCharTestPack
機能	変調特性試験時に使用するパケットを読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子（接続確定時に得られた ID を使用） [OUT] long * lngPack
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている変調特性試験時に使用するパケットを読み出し、 <i>lngPack</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.6.93 WmtConfSigFreqToleTestPack

関数名	long WmtConfSigFreqToleTestPack
機能	初期搬送波周波数試験時に使用するパケットを設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子（接続確定時に得られた ID を使用） long lngPack // パケット・タイプの設定 0x00000001 : DH1 0x00000002 : DH3 0x00000004 : DH5
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	初期搬送波周波数試験時に使用するパケットを設定します。初期値は 0x00000001 (DH1) になります。

5.7.6.94 QryConfSigFreqToleTestPack

関数名	long QryConfSigFreqToleTestPack
機能	初期搬送波周波数試験時に使用するパケットを読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子（接続確定時に得られた ID を使用） [OUT] long * lngPack
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている初期搬送波周波数試験時に使用するパケットを読み出し、 <i>lngPack</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.6.95 WmtConfSigFreqDrifTestPack

関数名	long WmtConfSigFreqDrifTestPack
機能	搬送波周波数ドリフト試験時に使用するパケットを設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngPack // パケット・タイプの設定 0x00000001 : DH1 0x00000002 : DH3 0x00000004 : DH5
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	搬送波周波数ドリフト試験時に使用するパケットを設定します。初期値は 0x00000007 (DH1/3/5) になります。

5.7.6.96 QryConfSigFreqDrifTestPack

関数名	long QryConfSigFreqDrifTestPack
機能	搬送波周波数ドリフト試験時に使用するパケットを読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] long * lngPack
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている搬送波周波数ドリフト試験時に使用するパケットを読み出し、 <i>lngPack</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.6.97 WmtConfSigSensSingTestPack

関数名	long WmtConfSigSensSingTestPack
機能	感度 (シングル・スロット・パケット) 試験時に使用するパケットを設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngPack // パケット・タイプの設定 0x00000001 : DH1
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	感度 (シングル・スロット・パケット) 試験時に使用するパケットを設定します。初期値は 0x00000001 (DH1) になります。

5.7.6.98 QryConfSigSensSingTestPack

関数名	long QryConfSigSensSingTestPack
機能	感度（シングル・スロット・パケット）試験時に使用するパケットを読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子（接続確定時に得られた ID を使用） [OUT] long * lngPack
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている感度（シングル・スロット・パケット）試験時に使用するパケットを読み出し、 <i>lngPack</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.6.99 WmtConfSigSensMultTestPack

関数名	long WmtConfSigSensMultTestPack
機能	感度（マルチ・スロット・パケット）試験時に使用するパケットを設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子（接続確定時に得られた ID を使用） long lngPack // パケット・タイプの設定 0x00000002 : DH3 0x00000004 : DH5
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	感度（マルチ・スロット・パケット）試験時に使用するパケットを設定します。初期値は 0x00000004 (DH5) になります。

5.7.6.100 QryConfSigSensMultTestPack

関数名	long QryConfSigSensMultTestPack
機能	感度（マルチ・スロット・パケット）試験時に使用するパケットを読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子（接続確定時に得られた ID を使用） [OUT] long * lngPack
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている感度（マルチ・スロット・パケット）試験時に使用するパケットを読み出し、 <i>lngPack</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.6.101 WmtConfSigMaxInpTestPack

関数名	long WmtConfSigMaxInpTestPack
機能	最大入力レベル試験時に使用するパケットを設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngPack // パケット・タイプの設定 0x00000001 : DH1 0x00000002 : DH3 0x00000004 : DH5
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	最大入力レベル試験時に使用するパケットを設定します。初期値は 0x00000001 (DH1) になります。

5.7.6.102 QryConfSigMaxInpTestPack

関数名	long QryConfSigMaxInpTestPack
機能	最大入力レベル試験時に使用するパケットを読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] long * lngPack
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている最大入力レベル試験時に使用するパケットを読み出し、lngPack で指定された変数にその値を格納します。

5.7.6.103 WmtConfInteDevF1Gain

関数名	long WmtConfInteDevF1Gain
機能	変調特性試験の Δf_1 の Integration Average 演算に用いるゲインを設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) double dblGain // Gain
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	変調特性試験時に演算方法を Integration Average に指定した場合の Δf_1 に対するゲインを設定します。初期値は 1.0 になります。

5.7.6.104 QryConfInteDevF1Gain

関数名	long QryConfInteDevF1Gain
機能	変調特性試験の $\Delta f1$ の Integration Average 演算に用いるゲインを読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] double * dblGain // Gain
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている変調特性試験時に、演算方法を Integration Average に指定した場合の $\Delta f1$ に対するゲインを読み出し、 <i>dblGain</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.6.105 WmtConfInteDevF2Gain

関数名	long WmtConfInteDevF2Gain
機能	変調特性試験の $\Delta f2$ の Integration Average 演算に用いるゲインを設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) double dblGain // Gain
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	変調特性試験時に演算方法を Integration Average に指定した場合の $\Delta f2$ に対するゲインを設定します。初期値は 1.0 になります。

5.7.6.106 QryConfInteDevF2Gain

関数名	long QryConfInteDevF2Gain
機能	変調特性試験の $\Delta f2$ の Integration Average 演算に用いるゲインを読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] double * dblGain // Gain
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている変調特性試験時に、演算方法を Integration Average に指定した場合の $\Delta f2$ に対するゲインを読み出し、 <i>dblGain</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.6.107 WmtConfPeakDevF1Gain

関数名	long WmtConfPeakDevF1Gain
機能	変調特性試験の Δf_1 の Peak Average 演算に用いるゲインを設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) double dblGain // Gain
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	変調特性試験時に演算方法を Peak Average に指定した場合の Δf_1 に対するゲインを設定します。初期値は 1.0 になります。

5.7.6.108 QryConfPeakDevF1Gain

関数名	long QryConfPeakDevF1Gain
機能	変調特性試験の Δf_1 の Peak Average 演算に用いるゲインを読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] double * dblGain // Gain
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている変調特性試験時に、演算方法を Peak Average に指定した場合の Δf_1 に対するゲインを読み出し、 <i>dblGain</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.6.109 WmtConfPeakDevF2Gain

関数名	long WmtConfPeakDevF2Gain
機能	変調特性試験の Δf_2 の Peak Average 演算に用いるゲインを設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) double dblGain // Gain
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	変調特性試験時に演算方法を Peak Average に指定した場合の Δf_2 に対するゲインを設定します。初期値は 1.0 になります。

5.7.6.110 QryConfPeakDevF2Gain

関数名	long QryConfPeakDevF2Gain
機能	変調特性試験の Δf_2 の Peak Average 演算に用いるゲインを読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] double * dblGain // Gain
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている変調特性試験時に、演算方法を Peak Average に指定した場合の、 Δf_2 に対するゲインを読み出し、 <i>dblGain</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.6.111 WmtConfSigModCharF1

関数名	long WmtConfSigModCharF1
機能	変調特性試験の Δf_1 での測定の On/Off を設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngOnOff
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	変調特性試験の Δf_1 での測定の On/Off を指定します。 値の範囲は 1(WMT_ON)/0(WMT_OFF)、初期値は 1 です。

5.7.6.112 QryConfSigModCharF1

関数名	long QryConfSigModCharF1
機能	変調特性試験の Δf_1 での測定の On/Off を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] long * lngOnOff
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている変調特性試験の Δf_1 での測定の On/Off を設定を読み出し、 <i>lngOnOff</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.6.113 WmtConfSigModCharF2

関数名	long WmtConfSigModCharF2
機能	変調特性試験の Δf_2 での測定の On/Off を設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngOnOff
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	変調特性試験の Δf_2 での測定の On/Off を指定します。 値の範囲は 1(WMT_ON)/0(WMT_OFF)、初期値は 1 です。

5.7.6.114 QryConfSigModCharF2

関数名	long QryConfSigModCharF2
機能	変調特性試験の Δf_2 での測定の On/Off を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] long * lngOnOff
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている変調特性試験の Δf_2 での測定の On/Off を設定を読み出し、 <i>lngOnOff</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.6.115 WmtConfSigPollPeri

関数名	long WmtConfSigPollPeri
機能	SIG RF 試験時に使用する Poll 周期を設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngPoll // 0 ~ 255
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	SIG RF 試験時に使用する Poll 周期を設定します。初期値は 1 です。

5.7.6.116 QryConfSigPollPeri

関数名	long QryConfSigPollPeri
機能	SIG RF 試験時に使用する Poll 周期を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] long * lngPoll
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている SIG RF 試験時に使用する Poll 周期を読み出し、 <i>lngPoll</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.7 CONFigure サブシステム - Communication Test

5.7.7.1 WmtConfButcInq

関数名	long WmtConfButcInq
機能	Inquiry 試験 - 試験 ON/OFF の設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngOnoff // 0: OFF // 1: ON
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	Inquiry 試験の ON/OFF を設定します。初期値は 1(ON) となります。

5.7.7.2 QryConfButcInq

関数名	long QryConfButcInq
機能	Inquiry 試験 - 試験 ON/OFF の設定状況を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] long * lngOnoff
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている Inquiry 試験の ON/OFF 設定状況を読み出し、lngOnoff で指定された変数にその値を格納します。

5.7.7.3 WmtConfButcInqInqLeng

関数名	long WmtConfButcInqInqLeng
機能	Inquiry 試験 - Inquiry が停止するまで存続できる最大時間の設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngLen // 0x01 ~ 0x30 (時間 = lngLen × 1.28 秒)
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	Inquiry が停止するまで存続できる最大時間を設定します。初期値は 0x15 (26.88 秒) となります。

5.7.7.4 QryConfButcInqInqLeng

関数名	long QryConfButcInqInqLeng
機能	Inquiry 試験 - Inquiry が停止するまで存続できる最大時間を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) OUT long * lngLen
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている Inquiry が停止するまで存続できる最大時間を読み出し、lngLen で指定された変数にその値を格納します。格納される値は 0x01 ~ 0x30 (時間 = lngLen × 1.28 秒) です。

5.7.7.5 WmtConfButcSinq

関数名	long WmtConfButcSinq
機能	Inquiry Scan 試験 - 試験 ON/OFF の設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngOnoff // 0: OFF // 1: ON
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	Inquiry Scan 試験の ON/OFF を設定します。初期値は 1(ON) となります。

5.7.7.6 QryConfButcSinq

関数名	long QryConfButcSinq
機能	Inquiry Scan 試験 - 試験 ON/OFF の設定状況を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) OUT long * lngOnoff
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている Inquiry Scan 試験の ON/OFF 設定状況を読み出し、lngOnoff で指定された変数にその値を格納します。

5.7.7.7 WmtConfButcSinqInqLeng

関数名	long WmtConfButcSinqInqLeng
機能	Inquiry Scan 試験 - Inquiry が停止するまで存続できる最大時間を設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngLen // 0x01 ~ 0x30 (時間 =lngLen × 1.28 秒)
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	Inquiry が停止するまで存続できる最大時間を設定します。初期値は 0x15 (26.88 秒) となります。

5.7.7.8 QryConfButcSinqInqLeng

関数名	long QryConfButcSinqInqLeng
機能	Inquiry Scan 試験 - Inquiry が停止するまで存続できる最大時間を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] long * lngLen
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている Inquiry が停止するまで存続できる最大時間を読み出し、lngLen で指定された変数にその値を格納します。格納される値は 0x01 ~ 0x30 (時間 =lngLen × 1.28 秒) です。

5.7.7.9 WmtConfButcMpag

関数名	long WmtConfButcMpag
機能	Paging - IUT as Master 試験 - 試験 ON/OFF の設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngOnoff // 0: OFF // 1: ON
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	Paging - IUT as Master 試験の ON/OFF を設定します。初期値は 1(ON) となります。

5.7.7.10 QryConfButcMpag

関数名	long QryConfButcMpag
機能	Paging - IUT as Master 試験 - 試験 ON/OFF の設定状況を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] long * lngOnoff
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている Paging - IUT as Master 試験の ON/OFF 設定状況を読み出し、 <i>lngOnoff</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.7.11 WmtConfButcMpagPageScanRepMode

関数名	long WmtConfButcMpagPageScanRepMode
機能	Paging - IUT as Master 試験 - 相手デバイスの Page Scan 周期種別を設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngMode // 0x00: R0 (連続) // 0x01: R1 (1.28 秒) // 0x02: R2 (2.56 秒)
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	相手デバイスの Page Scan 周期種別を設定します。初期値は 0x01(R1) となります。

5.7.7.12 QryConfButcMpagPageScanRepMode

関数名	long QryConfButcMpagPageScanRepMode
機能	Paging - IUT as Master 試験 - 相手デバイスの Page Scan 周期種別を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] long * lngMode
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている相手デバイスの Page Scan 周期種別を読み出し、 <i>lngMode</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.7.13 WmtConfButcSpag

関数名	long WmtConfButcSpag
機能	Paging - IUT as Slave 試験 - 試験 ON/OFF の設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngOnoff // 0: OFF // 1: ON
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	Paging - IUT as Slave 試験の ON/OFF を設定します。初期値は 1(ON) となります。

5.7.7.14 QryConfButcSpag

関数名	long QryConfButcSpag
機能	Paging - IUT as Slave 試験 - 試験 ON/OFF の設定状況を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] long * lngOnoff
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている Paging - IUT as Slave 試験の ON/OFF 設定状況を読み出し、 <i>lngOnoff</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.7.15 WmtConfButcSpagPageScanRepMode

関数名	long WmtConfButcSpagPageScanRepMode
機能	Paging - IUT as Slave 試験 - 相手デバイスの Page Scan 周期種別を設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngMode // 0x00: R0 (連続) // 0x01: R1 (1.28 秒) // 0x02: R2 (2.56 秒)
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	相手デバイスの Page Scan 周期種別を設定します。初期値は 0x01(R1) となります。

5.7.7.16 QryConfButcSpagPageScanRepMode

関数名	long QryConfButcSpagPageScanRepMode
機能	Paging - IUT as Slave 試験 - 相手デバイスの Page Scan 周期種別を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) OUT long * lngMode
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている相手デバイスの Page Scan 周期種別を読み出し、 <i>lngMode</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.7.17 WmtConfButcAcl

関数名	long WmtConfButcAcl
機能	ACL Data 試験 - 試験 ON/OFF の設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngOnoff // 0: OFF // 1: ON
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	ACL Data 試験の ON/OFF を設定します。初期値は 1(ON) となります。

5.7.7.18 QryConfButcAcl

関数名	long QryConfButcAcl
機能	ACL Data 試験 - 試験 ON/OFF の設定状況を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] long * lngOnoff
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている ACL Data 試験の ON/OFF 設定状況を読み出し、 <i>lngOnoff</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.7.19 WmtConfButcAclPackTypeIUTSupp

関数名	long WmtConfButcAclPackTypeIUTSupp
機能	ACL Data 試験 - IUT がサポートするパケット・タイプを設定 (ACL データ転送用)
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngType // 0x0008: DM1 // 0x0010: DH1 // 0x0400: DM3 // 0x0800: DH3 // 0x4000: DM5 // 0x8000: DH5
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	IUT がサポートするパケット・タイプを論理和で設定します。初期値は 0xCC18 (すべてのパケット) となります。

5.7.7.20 QryConfButcAclPackTypeIUTSupp

関数名	long QryConfButcAclPackTypeIUTSupp
機能	ACL Data 試験 - IUT がサポートするパケット・タイプを読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] long * lngType
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている IUT がサポートするパケット・タイプを読み出し、lngType で指定された変数にその値を格納します。

5.7.7.21 WmtConfButcAclPaylBody

関数名	long WmtConfButcAclPaylBody
機能	ACL Data 試験 - ACL Data Payload Body Type の設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngType // Payload Body Type // 0: Ericsson Type / 1: Nokia Type
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	ACL Data Payload Body タイプを設定します。初期値は 0(Ericsson) となります。

5.7.7.22 QryConfButcAclPaylBody

関数名	long QryConfButcAclPaylBody
機能	ACL Data 試験 - ACL Data Payload Body Type を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] long * lngType
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている ACL Data Payload Body タイプを読み出し、 <i>lngType</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.7.23 WmtConfButcSlin

関数名	long WmtConfButcSlin
機能	Link Supervision Timeout - IUT as Slave 試験 - 試験 ON/OFF の設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngOnoff // 0: OFF // 1: ON
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	Link Supervision Timeout - IUT as Slave 試験の ON/OFF を設定します。初期値は 1(ON) となります。

5.7.7.24 QryConfButcSlin

関数名	long QryConfButcSlin
機能	Link Supervision Timeout - IUT as Slave 試験 - 試験 ON/OFF の設定状況を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] long * lngOnoff
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている Link Supervision Timeout - IUT as Slave 試験の ON/OFF 設定状況を読み出し、 <i>lngOnoff</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.7.25 WmtConfButcSlinLinkSupeTout

関数名	long WmtConfButcSlinLinkSupeTout
機能	Link Supervision Timeout - IUT as Slave 試験 - Link 損失の監視時間の設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngTime // 監視時間 (0x0001 ~ 0xFFFF)
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	Link 損失の監視時間を設定します。初期値は 0x7D00 (20 秒) となります。

5.7.7.26 QryConfButcSlinLinkSupeTout

関数名	long QryConfButcSlinLinkSupeTout
機能	Link Supervision Timeout - IUT as Slave 試験 - Link 損失の監視時間を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] long * lngTime
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている Link 損失の監視時間を読み出し、lngTime で指定された変数にその値を格納します。

5.7.7.27 WmtConfButcMlin

関数名	long WmtConfButcMlin
機能	Link Supervision Timeout - IUT as Master 試験 - 試験 ON/OFF の設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngOnoff // 0: OFF // 1: ON
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	Link Supervision Timeout - IUT as Master 試験の ON/OFF を設定します。初期値は 1(ON) となります。

5.7.7.28 QryConfButcMlin

関数名	long QryConfButcMlin
機能	Link Supervision Timeout - IUT as Master 試験 - 試験 ON/OFF の設定状況を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] long * lngOnoff
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている Link Supervision Timeout - IUT as Master 試験の ON/OFF 設定状況を読み出し、 <i>lngOnoff</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.7.29 WmtConfButcMlinLinkSupeTout

関数名	long WmtConfButcMlinLinkSupeTout
機能	Link Supervision Timeout- IUT as Master 試験 - Link 損失の監視時間の設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngTime // 監視時間 (0x0001 ~ 0xFFFF)
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	Link 損失の監視時間を設定します。初期値は 0x7D00 (20 秒) となります。

5.7.7.30 QryConfButcMlinLinkSupeTout

関数名	long QryConfButcMlinLinkSupeTout
機能	Link Supervision Timeout- IUT as Master 試験 - Link 損失の監視時間を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] long * lngTime
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている Link 損失の監視時間を読み出し、 <i>lngTime</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.7.31 WmtConfButcSaut

関数名	long WmtConfButcSaut
機能	Authentication - IUT as Slave 試験 - 試験 ON/OFF の設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngOnoff // 0: OFF // 1: ON
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	Authentication - IUT as Slave 試験の ON/OFF を設定します。初期値は 1(ON) となります。

5.7.7.32 QryConfButcSaut

関数名	long QryConfButcSaut
機能	Authentication - IUT as Slave 試験 - 試験 ON/OFF の設定状況を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] long * lngOnoff
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている Authentication - IUT as Slave 試験の ON/OFF 設定状況を読み出し、 <i>lngOnoff</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.7.33 WmtConfButcSautPageScanRepMode

関数名	long WmtConfButcSautPageScanRepMode
機能	Authentication - IUT as Slave 試験 - 相手デバイスの Page Scan 周期種別を設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngMode // 0x00: R0 (連続) // 0x01: R1 (1.28 秒) // 0x02: R2 (2.56 秒)
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	相手デバイスの Page Scan 周期種別を設定します。初期値は 0x01(R1) となります。

5.7.7.34 QryConfButcSautPageScanRepMode

関数名	long QryConfButcSautPageScanRepMode
機能	Authentication - IUT as Slave 試験 - 相手デバイスの Page Scan 周期種別を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] long * lngMode
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている相手デバイスの Page Scan 周期種別を読み出し、 <i>lngMode</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.7.35 WmtConfButcMaut

関数名	long WmtConfButcMaut
機能	Authentication - IUT as Master 試験 - 試験 ON/OFF の設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngOnoff // 0: OFF // 1: ON
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	Authentication - IUT as Master 試験の ON/OFF を設定します。初期値は 1(ON) となります。

5.7.7.36 QryConfButcMaut

関数名	long QryConfButcMaut
機能	Authentication - IUT as Master 試験 - 試験 ON/OFF の設定状況を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] long * lngOnoff
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている Authentication - IUT as Master 試験の ON/OFF 設定状況を読み出し、 <i>lngOnoff</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.7.37 WmtConfButcMautPageScanRepMode

関数名	long WmtConfButcMautPageScanRepMode
機能	Authentication - IUT as Master 試験 - 相手デバイスの Page Scan 周期種別を設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngMode // 0x00: R0 (連続) // 0x01: R1 (1.28 秒) // 0x02: R2 (2.56 秒)
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	相手デバイスの Page Scan 周期種別を設定します。初期値は 0x01(R1) となります。

5.7.7.38 QryConfButcMautPageScanRepMode

関数名	long QryConfButcMautPageScanRepMode
機能	Authentication - IUT as Master 試験 - 相手デバイスの Page Scan 周期種別を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) OUT long * lngMode
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている相手デバイスの Page Scan 周期種別を読み出し、lngMode で指定された変数にその値を格納します。

5.7.7.39 WmtConfButcPair

関数名	long WmtConfButcPair
機能	Pairing 試験 - 試験 ON/OFF の設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngOnoff // 0: OFF // 1: ON
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	Pairing 試験の ON/OFF を設定します。初期値は 1(ON) となります。

5.7.7.40 QryConfButcPair

関数名	long QryConfButcPair
機能	Pairing 試験 - 試験 ON/OFF の設定状況を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] long * lngOnoff
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている Pairing 試験の ON/OFF 設定状況を読み出し、 <i>lngOnoff</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.7.41 WmtConfButcPairPageScanRepMode

関数名	long WmtConfButcPairPageScanRepMode
機能	Pairing 試験 - 相手デバイスの Page Scan 周期種別を設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngMode // 0x00: R0 (連続) // 0x01: R1 (1.28 秒) // 0x02: R2 (2.56 秒)
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	相手デバイスの Page Scan 周期種別を設定します。初期値は 0x01(R1) となります。

5.7.7.42 QryConfButcPairPageScanRepMode

関数名	long QryConfButcPairPageScanRepMode
機能	Pairing 試験 - 相手デバイスの Page Scan 周期種別を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] long * lngMode
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている相手デバイスの Page Scan 周期種別を読み出し、 <i>lngMode</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.7.43 WmtConfButcPairPinCode

関数名	long WmtConfButcPairPinCode
機能	Pairing 試験 - PIN Code の設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngLen // PIN Code 長 unsigned char * bytCode // PIN Code (最大 16 バイト) long lngNum // bytCode[] で送信される総バイト数 (=lngLen)
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	PIN Code を設定します。
注意	PIN Code は、配列 <i>bytCode</i> に格納されており、その総バイト数を最後の引数に渡す必要があります。これがないと正常に動作しませんので、注意して下さい。

5.7.7.44 QryConfButcPairPinCode

関数名	long QryConfButcPairPinCode
機能	Pairing 試験 - PIN Code を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] long * lngLen // PIN Code 長 unsigned char * bytCode // PIN Code (最大 16 バイト)
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	PIN Code を読み出し、 <i>bytCode</i> で指定された配列にその値を格納します。また読み出されたデータ長は、 <i>lngLen</i> で指定された変数に読み出されます。
注意	配列 <i>bytCode</i> は必要十分な領域を確保して下さい。この関数は配列 <i>bytCode</i> の容量をチェックしませんので、書き込むべきデータ数より少ない容量ですと、メモリを破壊することがありますので、十分注意して下さい。

5.7.7.45 WmtConfButcSsco

関数名	long WmtConfButcSsco
機能	SCO data - IUT as Slave 試験 - 試験 ON/OFF の設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngOnoff // 0: OFF // 1: ON
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	SCO data - IUT as Slave 試験の ON/OFF を設定します。初期値は 1(ON) となります。

5.7.7.46 QryConfButcSsco

関数名	long QryConfButcSsco
機能	SCO data - IUT as Slave 試験 - 試験 ON/OFF の設定状況を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] long * lngOnoff
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている SCO data - IUT as Slave 試験の ON/OFF 設定状況を読み出し、 <i>lngOnoff</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.7.47 WmtConfButcSscoPackTypeSco

関数名	long WmtConfButcSscoPackTypeSco
機能	SCO data - IUT as Slave 試験 - SCO 接続用に使用するパケットのタイプを設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngType // 0x0020: HV1 // 0x0040: HV2 // 0x0080: HV3
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	SCO 接続川に使用するパケットのタイプを論理和で設定します。初期値は 0x0020(HV1) となります。

5.7.7.48 QryConfButcSscoPackTypeSco

関数名	long QryConfButcSscoPackTypeSco
機能	SCO data - IUT as Slave 試験 - SCO 接続用に使用するパケットのタイプを読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] long * lngType
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている SCO 接続川に使用するパケットのタイプを読み出し、 <i>lngType</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.7.49 WmtConfButcMsco

関数名	long WmtConfButcMsco
機能	SCO data - IUT as Master 試験 - 試験 ON/OFF の設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngOnoff // 0: OFF // 1: ON
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	SCO data - IUT as Master 試験の ON/OFF を設定します。初期値は 1(ON) となります。

5.7.7.50 QryConfButcMsco

関数名	long QryConfButcMsco
機能	SCO data - IUT as Master 試験 - 試験 ON/OFF の設定状況を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] long * lngOnoff
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている SCO data - IUT as Master 試験の ON/OFF 設定状況を読み出し、 <i>lngOnoff</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.7.51 WmtConfButcMscoPackTypeSco

関数名	long WmtConfButcMscoPackTypeSco
機能	SCO data - IUT as Master 試験 - SCO 接続用を使用するパケットのタイプを設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngType // 0x0020: HV1 // 0x0040: HV2 // 0x0080: HV3
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	SCO 接続用を使用するパケットのタイプを論理和で設定します。初期値は 0x0020(HV1) となります。

5.7.7.52 QryConfButcMscoPackTypeSco

関数名	long QryConfButcMscoPackTypeSco
機能	SCO data - IUT as Master 試験 - SCO 接続川に使用するパケットのタイプを読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) OUT long * lngType
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている SCO 接続川に使用するパケットのタイプを読み出し、 <i>lngType</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.8 CONFigure サブシステム - Remote Loopback

5.7.8.1 WmtConfLoopSsco

関数名	long WmtConfLoopSsco
機能	SCO Loopback - IUT as Slave シーケンスの ON/OFF 設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngOnoff // WMT_OFF(0): OFF / WMT_ON(1): ON
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	SCO Loopback - IUT as Slave シーケンスの ON/OFF を設定します。初期値は 1(ON) となります。

5.7.8.2 QryConfLoopSsco

関数名	long QryConfLoopSsco
機能	SCO Loopback - IUT as Slave シーケンスの ON/OFF を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] long * lngOnoff
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている SCO Loopback - IUT as Slave シーケンスの ON/OFF を読み出し、 <i>lngOnoff</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.8.3 WmtConfLoopMsco

関数名	long WmtConfLoopMsco
機能	SCO Loopback - IUT as Master シーケンスの ON/OFF 設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngOnoff // WMT_OFF(0): OFF / WMT_ON(1): ON
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	SCO Loopback - IUT as Master シーケンスの ON/OFF を設定します。初期値は 1(ON) となります。

5.7.8 CONFigure サブシステム - Remote Loopback

5.7.8.4 QryConfLoopMsc

関数名	long QryConfLoopMsc
機能	SCO Loopback - IUT as Master シーケンスの ON/OFF を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] long * lngOnoff
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている SCO Loopback - IUT as Master シーケンスの ON/OFF を読み出し、 <i>lngOnoff</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.8.5 WmtConfLoopScoVoicSett

関数名	long WmtConfLoopScoVoicSett
機能	SCO 接続時の音声データ・パラメータの設定 (SCO Loopback - IUT as Slave/Master)
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngSet // XXXXXXXXXXXX: 10 ビット有効 // XX : 入力符号化 (0: リニア 1: μ 則 2: A 則 3: 予約) // XX : 入力 Data 形式 (0: 1 の補数 1: 2 の補数 2: 符号絶対値 3: 未使用) // X : 入力サンプルのサイズ (0: 8bit 1: 16bit) // XXX : Linear_PCM_Bit_Pos (MSB からのビット位置 .. リニア PCM) // XX: 無線符号化形式 (0: CVSD 1: μ 則 2: A 則 3: 予約)
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	SCO 接続時の音声データ・パラメータの設定 (SCO Loopback - IUT as Slave/Master) をします。初期値は 0x0060 になります。

5.7.8.6 QryConfLoopScoVoicSett

関数名	long QryConfLoopScoVoicSett
機能	SCO 接続時の音声データ・パラメータの設定 (SCO Loopback - IUT as Slave/Master) を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] long * lngSet
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている SCO 接続時の音声データ・パラメータの設定 (SCO Loopback - IUT as Slave/Master) を読み出し、 <i>lngSet</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.8.7 WmtConfLoopScoPackTypeSco

関数名	long WmtConfLoopScoPackTypeSco
機能	SCO 接続用を使用するパケットのタイプの設定 (SCO Loopback - IUT as Slave/Master)
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngType // 0x0020:HV1 0x0040:HV2 0x0080:HV3
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	SCO 接続用を使用するパケットのタイプを論理和で設定 (SCO Loopback - IUT as Slave/Master) します。初期値は 0x0020(HV1) になります。

5.7.8.8 QryConfLoopScoPackTypeSco

関数名	long QryConfLoopScoPackTypeSco
機能	SCO 接続用を使用するパケットのタイプの設定 (SCO Loopback - IUT as Slave/Master) を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] long * lngType
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている SCO 接続用を使用するパケットのタイプの設定 (SCO Loopback - IUT as Slave/Master) を読み出し、lngType で指定された変数にその値を格納します。

5.7.8.9 WmtConfLoopScoPinCode

関数名	long WmtConfLoopScoPinCode
機能	PIN Code の設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngLen // PIN Code 長 unsigned char * bytCode // PIN Code (最大 16 バイト) long lngNum // bytCode[] で送信される総バイト数 (=lngLen)
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	PIN Code を設定します。
注意	PIN Code は、配列 bytCode に格納されており、その総バイト数を最後の引数に渡す必要があります。これがないと正常に動作しませんので、注意して下さい。

5.7.8 CONFigure サブシステム - Remote Loopback

5.7.8.10 QryConfLoopScoPinCode

関数名	long QryConfLoopScoPinCode
機能	PIN Code を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] long * lngLen // PIN Code 長 unsigned char * bytCode // PIN Code (最大 16 バイト)
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている PIN Code を読み出し、 <i>bytCode</i> で指定された配列にその値を格納します。また読み出されたデータ長は、 <i>lngLen</i> で指定された変数に読み出されます。
注意	配列 <i>bytCode</i> は必要十分な領域を確保して下さい。この関数は配列 <i>bytCode</i> の容量をチェックしませんので、書き込むべきデータ数より少ない容量ですと、メモリ・リークを起こすことがありますので、十分注意して下さい。

5.7.8.11 WmtConfLoopSscoLoopOnOff

関数名	long WmtConfLoopSscoLoopOnOff
機能	SCO Loopback - IUT as Slave シーケンスの Remote Loopback の ON/OFF 設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngOnoff // WMT_OFF(0): OFF // WMT_ON(1): ON
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	SCO Loopback - IUT as Slave シーケンスの Remote Loopback の ON/OFF を設定します。初期値は 1(ON) となります。

5.7.8.12 QryConfLoopSscoLoopOnOff

関数名	long QryConfLoopSscoLoopOnOff
機能	SCO Loopback - IUT as Slave シーケンスの Remote Loopback の ON/OFF を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] long * lngOnoff
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている SCO Loopback - IUT as Slave シーケンスの Remote Loopback の ON/OFF を読み出し、 <i>lngOnoff</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.8.13 WmtConfLoopMscLoopOnOff

関数名	long WmtConfLoopMscLoopOnOff
機能	SCO Loopback - IUT as Master シーケンスの Remote Loopback の ON/OFF 設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngOnoff // WMT_OFF(0): OFF // WMT_ON(1): ON
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	SCO Loopback - IUT as Master シーケンスの Remote Loopback の ON/OFF を設定します。初期値は 1(ON) となります。

5.7.8.14 QryConfLoopMscLoopOnOff

関数名	long QryConfLoopMscLoopOnOff
機能	SCO Loopback - IUT as Master シーケンスの Remote Loopback の ON/OFF を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] long * lngOnoff
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている SCO Loopback - IUT as Master シーケンスの Remote Loopback の ON/OFF を読み出し、lngOnoff で指定された変数にその値を格納します。

5.7.9 CONFigure サブシステム - RF Measurement

5.7.9.1 WmtConfRfFmDevPowAvgUp

関数名	long WmtConfRfFmDevPowAvgUp
機能	出力パワーの平均パワーの判定に使用する上限値を設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) double dblLimit
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	出力パワーの平均パワーの判定に使用する上限値を設定します。初期値は 4.00 dBm となります。

5.7.9.2 QryConfRfFmDevPowAvgUp

関数名	long QryConfRfFmDevPowAvgUp
機能	出力パワーの平均パワーの判定に使用する上限値を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] double * dblLimit
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている出力パワーの平均パワーの判定に使用する上限値を読み出し、 <i>dblLimit</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.9.3 WmtConfRfFmDevPowAvgLo

関数名	long WmtConfRfFmDevPowAvgLo
機能	出力パワーの平均パワーの判定に使用する下限値を設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) double dblLimit //
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	出力パワーの平均パワーの判定に使用する下限値を設定します。初期値は -6.00 dBm となります。

5.7.9.4 QryConfRfFmDevPowAvgLo

関数名	long QryConfRfFmDevPowAvgLo
機能	出力パワーの平均パワーの判定に使用する下限値を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子（接続確定時に得られた ID を使用） [OUT] double * dblLimit
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている出力パワーの平均パワーの判定に使用する下限値を読み出し、 <i>dblLimit</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.9.5 WmtConfRfFmDevPowPeakUp

関数名	long WmtConfRfFmDevPowPeakUp
機能	出力パワーのピーク・パワーの判定に使用する上限値を設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子（接続確定時に得られた ID を使用） double dblLimit //
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	出力パワーのピーク・パワーの判定に使用する上限値を設定します。初期値は 23.00 dBm となります。

5.7.9.6 QryConfRfFmDevPowPeakUp

関数名	long QryConfRfFmDevPowPeakUp
機能	出力パワーのピーク・パワーの判定に使用する上限値を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子（接続確定時に得られた ID を使用） [OUT] double * dblLimit
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている出力パワーのピーク・パワーの判定に使用する上限値を読み出し、 <i>dblLimit</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.9.7 WmtConfRfFmDevF1avgUp

関数名	long WmtConfRfFmDevF1avgUp
機能	Δf_{1avg} の判定に使用する上限値を設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子（接続確定時に得られた ID を使用） double dblLimit // 0 ~ 300000 (Hz) ただし、下限値未満は設定不可
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	Δf_{1avg} の判定に使用する上限値を設定します。初期値は 175000 (Hz) となります。

5.7.9 CONFigure サブシステム - RF Measurement

5.7.9.8 QryConfRfFmDevF1avgUp

関数名	long QryConfRfFmDevF1avgUp
機能	Δf_{1avg} の判定に使用する上限値を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] double * dblLimit
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている Δf_{1avg} の判定に使用する上限値を読み出し、 <i>dblLimit</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.9.9 WmtConfRfFmDevF1avgLo

関数名	long WmtConfRfFmDevF1avgLo
機能	Δf_{1avg} の判定に使用する下限値を設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) double dblLimit // 0 ~ 300000 (Hz) ただし、上限値を超える値は設定不可
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	Δf_{1avg} の判定に使用する下限値を設定します。初期値は 140000 (Hz) となります。

5.7.9.10 QryConfRfFmDevF1avgLo

関数名	long QryConfRfFmDevF1avgLo
機能	Δf_{1avg} の判定に使用する下限値を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] double * dblLimit
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている Δf_{1avg} の判定に使用する下限値を読み出し、 <i>dblLimit</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.9.11 WmtConfRfFmDevF2maxUp

関数名	long WmtConfRfFmDevF2maxUp
機能	Δf_{2max} の判定に使用する下限値を設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) double dblLimit // 0 ~ 300000 (Hz)
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	Δf_{2max} の判定に使用する下限値を設定します。初期値は 115000 (Hz) となります。

5.7.9.12 QryConfRfFmDevF2maxUp

関数名	long QryConfRfFmDevF2maxUp
機能	Δf_{2max} の判定に使用する下限値を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] double * dblLimit
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている Δf_{2max} の判定に使用する下限値を読み出し、 <i>dblLimit</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.9.13 WmtConfRfFmDevF2F1Up

関数名	long WmtConfRfFmDevF2F1Up
機能	Δf_{2avg} / Δf_{1avg} の判定に使用する下限値を設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) double dblLimit // 0.01 ~ 1.00
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	Δf_{2avg} / Δf_{1avg} の判定に使用する下限値を設定します。初期値は 0.80 となります。

5.7.9.14 QryConfRfFmDevF2F1Up

関数名	long QryConfRfFmDevF2F1Up
機能	Δf_{2avg} / Δf_{1avg} の判定に使用する下限値を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] double * dblLimit
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている Δf_{2avg} / Δf_{1avg} の判定に使用する下限値を読み出し、 <i>dblLimit</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.9.15 WmtConfRfFmDevF2PassLo

関数名	long WmtConfRfFmDevF2PassLo
機能	Δf_{2max} の PASS の割合の判定に使用する下限値の設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) double dblLimit // 0.001 ~ 100.000 [%]
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	Δf_{2max} の PASS の割合の判定に使用する下限値を設定します。初期値は 99.9 となります。

5.7.9.16 QryConfRfFmDevF2PassLo

関数名	long QryConfRfFmDevF2PassLo
機能	Δf_{2max} の PASS の割合の判定に使用する下限値を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) OUT double * dblLimit
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている Δf_{2max} の PASS の割合の判定に使用する下限値を読み出し、 <i>dblLimit</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.9.17 WmtConfRfFmDevFreqToleUp

関数名	long WmtConfRfFmDevFreqToleUp
機能	初期搬送波周波数の許容範囲の判定値を設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) double dblLimit // 0 ~ 300000 (Hz)
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	初期搬送波周波数の許容範囲の判定値を設定します。初期値は 75000 (Hz) となります。

5.7.9.18 QryConfRfFmDevFreqToleUp

関数名	long QryConfRfFmDevFreqToleUp
機能	初期搬送波周波数の許容範囲の判定値を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) OUT double * dblLimit
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている初期搬送波周波数の許容範囲の判定値を読み出し、 <i>dblLimit</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.9.19 WmtConfRfFmDevFreqDrifUp

関数名	long WmtConfRfFmDevFreqDrifUp
機能	搬送波周波数ドリフトの許容範囲の判定値を設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) double dblLimit // 0 ~ 300000 (Hz)
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	搬送波周波数ドリフト試験の 1slot の場合での許容範囲の判定値を設定します。初期値は 40000 (Hz) となります。

5.7.9.20 QryConfRfFmDevFreqDrifUp

関数名	long QryConfRfFmDevFreqDrifUp
機能	搬送波周波数ドリフトの許容範囲の判定値を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子（接続確定時に得られた ID を使用） [OUT] double * dblLimit
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている搬送波周波数ドリフト試験の 1slot の場合での許容範囲の判定値を読み出し、 <i>dblLimit</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.9.21 WmtConfRfFmDevDrifRateUp

関数名	long WmtConfRfFmDevDrifRateUp
機能	搬送波周波数ドリフト・レートの許容範囲の判定値を設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子（接続確定時に得られた ID を使用） double dblLimit // 0 ~ 300000 (Hz)
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	搬送波周波数ドリフト・レートの許容範囲の判定値を設定します。初期値は 20000 (Hz) となります。

5.7.9.22 QryConfRfFmDevDrifRateUp

関数名	long QryConfRfFmDevDrifRateUp
機能	搬送波周波数ドリフト・レートの許容範囲の判定値を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子（接続確定時に得られた ID を使用） [OUT] double * dblLimit
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている搬送波周波数ドリフト・レートの許容範囲の判定値を読み出し、 <i>dblLimit</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.9.23 WmtConfRfFmDevTestFreq

関数名	long WmtConfRfFmDevTestFreq
機能	FM Deviation 試験の測定する動作周波数を設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) double dblFreq // 2402E+6 ~ 2480E+6 (2454E+6 ~ 2476E+6) Hz
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	FM Deviation 試験の測定する動作周波数を設定します。初期値は 2402E+6 (2454E+6) Hz となります。

5.7.9.24 QryConfRfFmDevTestFreq

関数名	long QryConfRfFmDevTestFreq
機能	FM Deviation 試験の測定する動作周波数の設定値を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] double * dblFreq
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている、FM Deviation 試験の測定する動作周波数を読み出し、 <i>dblFreq</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.9.25 WmtConfRfFmDevConfFreq

関数名	long WmtConfRfFmDevConfFreq
機能	FM Deviation 試験の測定時に使用する対向周波数を設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) double dblFreq // 2402E+6 ~ 2480E+6 (2454E+6 ~ 2476E+6) Hz
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	FM Deviation 試験の測定時に使用する対向周波数を設定します。初期値は 2480E+6 (2476E+6) Hz となります。

5.7.9.26 QryConfRfFmDevConfFreq

関数名	long QryConfRfFmDevConfFreq
機能	FM Deviation 試験の測定時に使用する対向周波数の設定値を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] double * dblFreq
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている、FM Deviation 試験の測定時に使用する対向周波数を読み出し、 <i>dblFreq</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.9.27 WmtConfRfFmDevTestCH

関数名	long WmtConfRfFmDevTestCH
機能	FM Deviation 試験の測定する動作チャンネルを設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngCH // 0 ~ 78 (0 ~ 22)
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	FM Deviation 試験の測定する動作チャンネルを設定します。初期値は 0 となります。

5.7.9.28 QryConfRfFmDevTestCH

関数名	long QryConfRfFmDevTestCH
機能	FM Deviation 試験の測定する動作チャンネルの設定を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] long * lngCH
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている FM Deviation 試験の測定する動作チャンネルを読み出し、 <i>lngCH</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.9.29 WmtConfRfFmDevConfCH

関数名	long WmtConfRfFmDevConfCH
機能	FM Deviation 試験の測定時に使用する対向チャンネルを設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngCH // 0 ~ 78 (0 ~ 22)
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	FM Deviation 試験の測定時に使用する対向チャンネルを設定します。初期値は 78 となります。

5.7.9.30 QryConfRfFmDevConfCH

関数名	long QryConfRfFmDevConfCH
機能	FM Deviation 試験の測定時に使用する対向チャンネルの設定を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] long * lngCH
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている、FM Deviation 試験の測定時に使用する対向チャンネルを読み出し、 <i>lngCH</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.9.31 WmtConfRfFmDevTestPack

関数名	long WmtConfRfFmDevTestPack
機能	FM Deviation の測定パケットを設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngPack // 0x00000001 : DH1 // 0x00000002 : DH3 // 0x00000004 : DH5
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	FM Deviation の測定パケットを指定します。 パラメータは、0x00000001, 0x00000002, 0x00000004 のいずれかを指定します。初期値は 0x00000004 です。

5.7.9.32 QryConfRfFmDevTestPack

関数名	long QryConfRfFmDevTestPack
機能	FM Deviation の測定パケットを読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] long * lngPack // 0x00000001 : DH1 // 0x00000002 : DH3 // 0x00000004 : DH5
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている FM Deviation の測定パケットを読み出し、 <i>lngPack</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.9.33 WmtConfRfFmDevSampPack

関数名	long WmtConfRfFmDevSampPack
機能	FM Deviation 測定のサンプル・パケット数を設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngNum // 1 ~ 200 (パケット)
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	FM Deviation 測定のサンプル・パケット数を設定します。初期値は 10 となります。

5.7.9.34 QryConfRfFmDevSampPack

関数名	long QryConfRfFmDevSampPack
機能	FM Deviation 測定のサンプル・パケット数を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] long * lngNum
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている FM Deviation 測定のサンプル・パケット数を読み出し、lngNum で指定された変数にその値を格納します。

5.7.9.35 WmtConfRfFmDevAvgFreqCalc

関数名	long WmtConfRfFmDevAvgFreqCalc
機能	変調周波数の演算方法の選択を設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngSelect // 変調周波数演算方法 0: Integration // 1: Peak Average
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	変調周波数の演算方法の選択を設定します。 初期値は 0 (Integration) になります。

5.7.9.36 QryConfRfFmDevAvgFreqCalc

関数名	long QryConfRfFmDevAvgFreqCalc
機能	変調周波数の演算方法の選択を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] long * lngSelect
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている変調周波数の演算方法の選択を読み出し、 <i>lngSelect</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.9.37 WmtConfRfFmDevInteF1Gain

関数名	long WmtConfRfFmDevInteF1Gain
機能	$\Delta f1$ の Integration Average 演算に用いるゲインを設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) double dblGain // Gain
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	変調周波数の測定時に演算方法を Integration Average に指定した場合の、 $\Delta f1$ に対するゲインを設定します。初期値は 1.0 になります。

5.7.9.38 QryConfRfFmDevInteF1Gain

関数名	long QryConfRfFmDevInteF1Gain
機能	$\Delta f1$ の Integration Average 演算に用いるゲインを読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] double * dblGain // Gain
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている変調周波数の測定時に、演算方法を Integration Average に指定した場合の、 $\Delta f1$ に対するゲインを読み出し、 <i>dblGain</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.9.39 WmtConfRfFmDevInteF2Gain

関数名	long WmtConfRfFmDevInteF2Gain
機能	$\Delta f2$ の Integration Average 演算に用いるゲインを設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) double dblGain // Gain
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	変調周波数の測定時に演算方法を Integration Average に指定した場合の、 $\Delta f2$ に対するゲインを設定します。初期値は 1.0 になります。

5.7.9.40 QryConfRfFmDevInteF2Gain

関数名	long QryConfRfFmDevInteF2Gain
機能	$\Delta f2$ の Integration Average 演算に用いるゲインを読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] double * dblGain // Gain
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている変調周波数の測定時に、演算方法を Integration Average に指定した場合の、 $\Delta f2$ に対するゲインを読み出し、 <i>dblGain</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.9.41 WmtConfRfFmDevPeakF1Gain

関数名	long WmtConfRfFmDevPeakF1Gain
機能	$\Delta f1$ の Peak Average 演算に用いるゲインを設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) double dblGain // Gain
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	変調周波数の測定時に演算方法を Peak Average に指定した場合の、 $\Delta f1$ に対するゲインを設定します。初期値は 1.0 になります。

5.7.9.42 QryConfRfFmDevPeakF1Gain

関数名	long QryConfRfFmDevPeakF1Gain
機能	$\Delta f1$ の Peak Average 演算に用いるゲインを読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] double * dblGain // Gain
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている変調周波数の測定時に、演算方法を Peak Average に指定した場合の、 $\Delta f1$ に対するゲインを読み出し、 <i>dblGain</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.9.43 WmtConfRfFmDevPeakF2Gain

関数名	long WmtConfRfFmDevPeakF2Gain
機能	$\Delta f2$ の Peak Average 演算に用いるゲインを設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) double dblGain // Gain
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	変調周波数の測定時に演算方法を Peak Average に指定した場合の、 $\Delta f2$ に対するゲインを設定します。初期値は 1.0 になります。

5.7.9.44 QryConfRfFmDevPeakF2Gain

関数名	long QryConfRfFmDevPeakF2Gain
機能	$\Delta f2$ の Peak Average 演算に用いるゲインを読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] double * dblGain // Gain
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている変調周波数の測定時に、演算方法を Peak Average に指定した場合の、 $\Delta f2$ に対するゲインを読み出し、 <i>dblGain</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.9.45 WmtConfRfBerBerUp

関数名	long WmtConfRfBerBerUp
機能	BER 試験の BER(Bit Error Rate) の許容範囲の上限値を設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) double dblLimit // 0 ~ 100[%]
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	BER 試験の BER(Bit Error Rate) の許容範囲の上限値を設定します。初期値は 0.1000 となります。

5.7.9.46 QryConfRfBerBerUp

関数名	long QryConfRfBerBerUp
機能	BER 試験の BER(Bit Error Rate) の許容範囲の上限値を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] double * dblLimit
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている BER 試験の BER(Bit Error Rate) の許容範囲の上限値を読み出し、 <i>dblLimit</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.9.47 WmtConfRfBerTestFreq

関数名	long WmtConfRfBerTestFreq
機能	BER 試験の測定する動作周波数を設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) double dblFreq // 2402E+6 ~ 2480E+6 (2454E+6 ~ 2476E+6) Hz
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	BER 試験の測定する動作周波数を設定します。初期値は 2402E+6(2454E+6) Hz となります。

5.7.9.48 QryConfRfBerTestFreq

関数名	long QryConfRfBerTestFreq
機能	BER 試験の測定する動作周波数の設定値を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) OUT double * dblFreq
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている、BER 試験の測定する動作周波数を読み出し、 <i>dblFreq</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.9.49 WmtConfRfBerConfFreq

関数名	long WmtConfRfBerConfFreq
機能	BER 試験の測定時に使用する対向周波数を設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) double dblFreq // 2402E+6 ~ 2480E+6 (2454E+6 ~ 2476E+6) Hz
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	BER 試験の測定時に使用する対向周波数を設定します。初期値は 2480E+6(2476E+6) Hz となります。

5.7.9.50 QryConfRfBerConfFreq

関数名	long QryConfRfBerConfFreq
機能	BER 試験の測定時に使用する対向周波数の設定値を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) OUT double * dblFreq
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている、BER 試験の測定時に使用する対向周波数を読み出し、 <i>dblFreq</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.9.51 WmtConfRfBerTestCH

関数名	long WmtConfRfBerTestCH
機能	BER 試験の測定する動作チャンネルを設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngCH // 0 ~ 78 (0 ~ 22)
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	BER 試験の測定する動作チャンネルを設定します。初期値は 0 となります。

5.7.9.52 QryConfRfBerTestCH

関数名	long QryConfRfBerTestCH
機能	BER 試験の測定する動作チャンネルの設定を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] long * lngCH
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている BER 試験の測定する動作チャンネルを読み出し、lngCH で指定された変数にその値を格納します。

5.7.9.53 WmtConfRfBerConfCH

関数名	long WmtConfRfBerConfCH
機能	BER 試験の測定時に使用する対向チャンネルを設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngCH // 0 ~ 78 (0 ~ 22)
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	BER 試験の測定時に使用する対向チャンネルを設定します。初期値は 78 となります。

5.7.9.54 QryConfRfBerConfCH

関数名	long QryConfRfBerConfCH
機能	BER 試験の測定時に使用する対向チャンネルの設定を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] long * lngCH
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている、BER 試験の測定時に使用する対向チャンネルを読み出し、lngCH で指定された変数にその値を格納します。

5.7.9 CONFigure サブシステム - RF Measurement

5.7.9.55 WmtConfRfBerTestPack

関数名	long WmtConfRfBerTestPack
機能	BER 試験の測定パケットを設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngPack // 0x00000001: DH1 // 0x00000002: DH3 // 0x00000004: DH5
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	BER 試験の測定パケットを設定します。 パラメータは、0x00000001, 0x00000002, 0x00000004 のいずれかを設定します。初期値は 0x00000004 です。

5.7.9.56 QryConfRfBerTestPack

関数名	long QryConfRfBerTestPack
機能	BER 試験の測定パケットを読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] long * lngPack // 0x00000001: DH1 // 0x00000002: DH3 // 0x00000004: DH5
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている、BER 試験の測定パケットを読み出し、lngPack で指定された変数 にその値を格納します。

5.7.9.57 WmtConfRfBerHop

関数名	long WmtConfRfBerHop
機能	BER 試験時の、周波数ホッピングの ON/OFF を設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngOnOff // WMT_OFF(0): OFF / WMT_ON(1): ON
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	BER 試験時の、周波数ホッピングの ON/OFF を設定します。初期値は OFF となります。

5.7.9.58 QryConfRfBerHop

関数名	long QryConfRfBerHop
機能	BER 試験時の、周波数ホッピングの ON/OFF を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] long * lngOnOff
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている BER 試験時の、周波数ホッピングの ON/OFF を読み出し、 <i>lngOnOff</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.9.59 WmtConfRfBerTestBits

関数名	long WmtConfRfBerTestBits
機能	BER 測定のサンプル・ビット数を設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngBits // サンプル・ビット数 1 ~ 9999999
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	BER 測定のサンプル・ビット数を設定します。初期値は 1600000 となります。

5.7.9.60 QryConfRfBerTestBits

関数名	long QryConfRfBerTestBits
機能	BER 測定のサンプル・ビット数を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] long * lngBits
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている BER 測定のサンプル・ビット数を読み出し、 <i>lngBits</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.9 CONFigure サブシステム - RF Measurement

5.7.9.61 WmtConfRfBerTxLev

関数名	long WmtConfRfBerTxLev
機能	BER 試験時の Tx Level(IUT Input Level) を設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) double dblLev // Tx Level (dBm)
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	BER 試験時の Tx Level(IUT Input Level) を設定します。 設定範囲は、-13 ~ -93 dBm を基本とし、Cable Loss の値を減算、および RF Port の設定で CH2 が指定されていた場合には 17 dB を加算した値となります。 Ex.) Cable Loss=5 dB、CH2 を選択時には、入力範囲は -1 ~ -81 dBm。

5.7.9.62 QryConfRfBerTxLev

関数名	long QryConfRfBerTxLev
機能	BER 試験時の Tx Level(IUT Input Level) を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] double * dblLev
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている BER 試験時の Tx Level(IUT Input Level) を読み出し、dblLev で指定された変数にその値を格納します。

5.7.9.63 WmtConfRfBerTxDirt

関数名	long WmtConfRfBerTxDirt
機能	BER 試験時の Dirty 機能の ON/OFF を設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngOnOff // WMT_OFF(0): OFF / WMT_ON(1): ON
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	BER 試験時の Dirty 機能の ON/OFF を設定します。初期値は ON となります。

5.7.9.64 QryConfRfBerTxDirt

関数名	long QryConfRfBerTxDirt
機能	BER 試験時の Dirty 機能の ON/OFF 状況を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) OUT long * lngOnOff
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている BER 試験時の Dirty 機能の ON/OFF 状況を読み出し、 <i>lngOnOff</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.9.65 WmtConfRfBerPerCalc

関数名	long WmtConfRfBerPerCalc
機能	PER の算出方法の選択を設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngSelect // PER Calculation 0: HEC and Access Code // 1: HEC, Access Code and include // Data payload error Packets
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	PER の算出方法の選択を設定します。 初期値は 0(HEC and Access Code) になります。

5.7.9.66 QryConfRfBerPerCalc

関数名	long QryConfRfBerPerCalc
機能	PER の算出方法の選択を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) OUT long * lngSelect
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている PER の算出方法の選択を読み出し、 <i>lngSelect</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.10 FETCh サブシステム - SIG RF

5.7.10.1 QryFetcSigOutPowAvg

関数名	long QryFetcSigOutPowAvg
機能	出力パワー試験時の測定結果（平均電力）を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子（接続確定時に得られた ID を使用） long lngPoint // 動作周波数 0x01: LOW（最低周波数） // 0x02: MID（中間周波数） // 0x03: HIGH（最高周波数） // なお、ALL は指定できません。 [OUT] double * dblPow
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	出力パワー試験時の測定結果（平均電力）を読み出し、 <i>dblPow</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.10.2 QryFetcSigOutPowPk

関数名	long QryFetcSigOutPowPk
機能	出力パワー試験時の測定結果（ピーク電力）を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子（接続確定時に得られた ID を使用） long lngPoint // 動作周波数指定 0x01: LOW（最低周波数） // 0x02: MID（中間周波数） // 0x03: HIGH（最高周波数） // なお、ALL は指定できません。 [OUT] double * dblPow
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	出力パワー試験時の測定結果（ピーク電力）を読み出し、 <i>dblPow</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.10.3 QryFetcSigModCharF2Id

関数名	long QryFetcSigModCharF2Id
機能	変調特性試験時の測定結果 (Δf_2 を計測した際の Pass/All Δf_{2max}) を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngPoint // 動作周波数指定 0x01: LOW (最低周波数) // 0x02: MID (中間周波数) // 0x03: HIGH (最高周波数) // なお、ALL は指定できません。 [OUT] double * dblPassF2
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	変調特性試験時の測定結果 (Δf_2 を計測した際の Pass/All Δf_{2max}) を読み出し、 <i>dblPassF2</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.10.4 QryFetcSigModCharF2max_min

関数名	long QryFetcSigModCharF2max_min
機能	変調特性試験時の測定結果 ($\Delta f_{2max-min}$) を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngPoint // 動作周波数指定 0x01: LOW (最低周波数) // 0x02: MID (中間周波数) // 0x03: HIGH (最高周波数) // なお、ALL は指定できません。 [OUT] double * dblFreq
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	変調特性試験時の測定結果 ($\Delta f_{2max-min}$) を読み出し、 <i>dblFreq</i> で指定された変数にその 値を格納します。

5.7.10.5 QryFetcSigModCharF2avg

関数名	long QryFetcSigModCharF2avg
機能	変調特性試験時の測定結果 (Δf_{2avg}) を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngPoint // 動作周波数指定 0x01: LOW (最低周波数) // 0x02: MID (中間周波数) // 0x03: HIGH (最高周波数) // なお、ALL は指定できません。 [OUT] double * dblFreq
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	変調特性試験時の測定結果 (Δf_{2avg}) を読み出し、 <i>dblFreq</i> で指定された変数にその値を格 納します。

5.7.10 FETCh サブシステム - SIG RF

5.7.10.6 QryFetcSigModCharF2max_max

関数名	long QryFetcSigModCharF2max_max
機能	変調特性試験時の Δf_2 max-max を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngPoint // 動作周波数指定 0x01: LOW (最低周波数) // 0x02: MID (中間周波数) // 0x03: HIGH (最高周波数) // なお、ALL は指定できません。 [OUT] double * dblFreq
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	変調特性試験時の Δf_2 max-max を読み出し、 <i>dblFreq</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.10.7 QryFetcSigModCharF2stddev

関数名	long QryFetcSigModCharF2stddev
機能	変調特性試験時の Δf_2 standard deviation を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngPoint // 動作周波数指定 0x01: LOW (最低周波数) // 0x02: MID (中間周波数) // 0x03: HIGH (最高周波数) // なお、ALL は指定できません。 [OUT] double * dblFreq
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	変調特性試験時の Δf_2 standard deviation を読み出し、 <i>dblFreq</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.10.8 QryFetcSigModCharF1max_max

関数名	long QryFetcSigModCharF1max_max
機能	変調特性試験時の測定結果 (Δf_1 max-max) を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngPoint // 動作周波数指定 0x01: LOW (最低周波数) // 0x02: MID (中間周波数) // 0x03: HIGH (最高周波数) // なお、ALL は指定できません。 [OUT] double * dblFreq
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	変調特性試験時の測定結果 (Δf_1 max-max) を読み出し、 <i>dblFreq</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.10.9 QryFetcSigModCharF1avg

関数名	long QryFetcSigModCharF1avg
機能	変調特性試験時の測定結果 (Δf_{1avg}) を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngPoint // 動作周波数指定 0x01: LOW (最低周波数) // 0x02: MID (中間周波数) // 0x03: HIGH (最高周波数) // なお、ALL は指定できません。 [OUT] double * dblFreq
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	変調特性試験時の測定結果 (Δf_{1avg}) を読み出し、 <i>dblFreq</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.10.10 QryFetcSigModCharF1max_min

関数名	long QryFetcSigModCharF1max_min
機能	変調特性試験時の $\Delta f_{1max-min}$ を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngPoint // 動作周波数指定 0x01: LOW (最低周波数) // 0x02: MID (中間周波数) // 0x03: HIGH (最高周波数) // なお、ALL は指定できません。 [OUT] double * dblFreq
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	変調特性試験時の $\Delta f_{1max-min}$ を読み出し、 <i>dblFreq</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.10.11 QryFetcSigModCharF1stddev

関数名	long QryFetcSigModCharF1stddev
機能	変調特性試験時の Δf_{1} standard deviation を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngPoint // 動作周波数指定 0x01: LOW (最低周波数) // 0x02: MID (中間周波数) // 0x03: HIGH (最高周波数) // なお、ALL は指定できません。 [OUT] double * dblFreq
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	変調特性試験時の Δf_{1} standard deviation を読み出し、 <i>dblFreq</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.10 FETCh サブシステム - SIG RF

5.7.10.12 QryFetcSigFreqTolHopOffMax

関数名	long QryFetcSigFreqTolHopOffMax
機能	初期搬送波周波数試験時の測定結果（ホッピング OFF 時の初期搬送波の最大値）を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子（接続確定時に得られた ID を使用） long lngPoint // 動作周波数指定 0x01: LOW（最低周波数） // 0x02: MID（中間周波数） // 0x03: HIGH（最高周波数） // なお、ALL は指定できません。 [OUT] double * dblFreq
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	初期搬送波周波数試験時の測定結果（ホッピング OFF 時の初期搬送波の最大値）を読み出し、 <i>dblFreq</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.10.13 QryFetcSigFreqTolHopOnMax

関数名	long QryFetcSigFreqTolHopOnMax
機能	初期搬送波周波数試験時の測定結果（ホッピング ON 時の初期搬送波の最大値）を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子（接続確定時に得られた ID を使用） long lngPoint // 動作周波数指定 0x01: LOW（最低周波数） // 0x02: MID（中間周波数） // 0x03: HIGH（最高周波数） // なお、ALL は指定できません。 [OUT] double * dblFreq
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	初期搬送波周波数試験時の測定結果（ホッピング ON 時の初期搬送波の最大値）を読み出し、 <i>dblFreq</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.10.14 QryFetcSigFreqTolHopOffAvg

関数名	long QryFetcSigFreqTolHopOffAvg
機能	初期搬送波周波数試験時のホッピング OFF 時の初期搬送波（平均値）を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子（接続確定時に得られた ID を使用） long lngPoint // 動作周波数指定 0x01: LOW（最低周波数） // 0x02: MID（中間周波数） // 0x03: HIGH（最高周波数） // なお、ALL は指定できません。 [OUT] double * dblFreq
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	初期搬送波周波数試験時のホッピング OFF 時の初期搬送波（平均値）を読み出し、 <i>dblFreq</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.10.15 QryFetcSigFreqToleHopOnAvg

関数名	long QryFetcSigFreqToleHopOnAvg
機能	初期搬送波周波数試験時のホッピング ON 時の初期搬送波（平均値）を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子（接続確定時に得られた ID を使用） long lngPoint // 動作周波数指定 0x01: LOW（最低周波数） // 0x02: MID（中間周波数） // 0x03: HIGH（最高周波数） // なお、ALL は指定できません。 [OUT] double * dblFreq
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	初期搬送波周波数試験時のホッピング ON 時の初期搬送波（平均値）を読み出し、 dblFreq で指定された変数にその値を格納します。

5.7.10.16 QryFetcSigFreqToleHopOffMin

関数名	long QryFetcSigFreqToleHopOffMin
機能	初期搬送波周波数試験時のホッピング OFF 時の初期搬送波（最小値）を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子（接続確定時に得られた ID を使用） long lngPoint // 動作周波数指定 0x01: LOW（最低周波数） // 0x02: MID（中間周波数） // 0x03: HIGH（最高周波数） // なお、ALL は指定できません。 [OUT] double * dblFreq
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	初期搬送波周波数試験時のホッピング OFF 時の初期搬送波（最小値）を読み出し、 dblFreq で指定された変数にその値を格納します。

5.7.10.17 QryFetcSigFreqToleHopOnMin

関数名	long QryFetcSigFreqToleHopOnMin
機能	初期搬送波周波数試験時のホッピング ON 時の初期搬送波（最小値）を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子（接続確定時に得られた ID を使用） long lngPoint // 動作周波数指定 0x01: LOW（最低周波数） // 0x02: MID（中間周波数） // 0x03: HIGH（最高周波数） // なお、ALL は指定できません。 [OUT] double * dblFreq
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	初期搬送波周波数試験時のホッピング ON 時の初期搬送波（最小値）を読み出し、 dblFreq で指定された変数にその値を格納します。

5.7.10.18 QryFetcSigFreqTolHopOffStddev

関数名	long QryFetcSigFreqTolHopOffStddev
機能	初期搬送波周波数試験時のホッピング OFF 時の初期搬送波 (Standard Deviation) を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngPoint // 動作周波数指定 0x01: LOW (最低周波数) // 0x02: MID (中間周波数) // 0x03: HIGH (最高周波数) // なお、ALL は指定できません。 [OUT] double * dblFreq
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	初期搬送波周波数試験時のホッピング OFF 時の初期搬送波 (Standard Deviation) を読み出し、dblFreq で指定された変数にその値を格納します。

5.7.10.19 QryFetcSigFreqTolHopOnStddev

関数名	long QryFetcSigFreqTolHopOnStddev
機能	初期搬送波周波数試験時のホッピング ON 時の初期搬送波 (Standard Deviation) を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngPoint // 動作周波数指定 0x01: LOW (最低周波数) // 0x02: MID (中間周波数) // 0x03: HIGH (最高周波数) // なお、ALL は指定できません。 [OUT] double * dblFreq
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	初期搬送波周波数試験時のホッピング ON 時の初期搬送波 (Standard Deviation) を読み出し、dblFreq で指定された変数にその値を格納します。

5.7.10.20 QryFetcSigFreqDrifHopOffDrifMax

関数名	long QryFetcSigFreqDrifHopOffDrifMax
機能	搬送波周波数ドリフト試験時の測定結果（ホッピング OFF 時の周波数ドリフトの最大値）を読み出す
引数	<pre> [IN] long lngID // 対象機器識別子（接続確定時に得られた ID を使用） long lngPoint // 動作周波数指定 0x01: LOW（最低周波数） // 0x02: MID（中間周波数） // 0x03: HIGH（最高周波数） // なお、ALL は指定できません。 long lngSlot // 測定パケット・タイプ 1: (DH1 packet) // 3: (DH3 packet) // 5: (DH5 packet) [OUT] double * dblFreq // 1 Hz 単位で格納 </pre>
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	搬送波周波数ドリフト試験時の測定結果（ホッピング OFF 時の周波数ドリフトの最大値）を読み出し、 <i>dblFreq</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.10.21 QryFetcSigFreqDrifHopOffDrifAvg

関数名	long QryFetcSigFreqDrifHopOffDrifAvg
機能	搬送波周波数ドリフト試験時のホッピング OFF 時の周波数ドリフトの平均値を読み出す
引数	<pre> [IN] long lngID // 対象機器識別子（接続確定時に得られた ID を使用） long lngPoint // 動作周波数指定 0x01: LOW（最低周波数） // 0x02: MID（中間周波数） // 0x03: HIGH（最高周波数） // なお、ALL は指定できません。 long lngSlot // 測定パケット・タイプ 1: (DH1 packet) // 3: (DH3 packet) // 5: (DH5 packet) [OUT] double * dblFreq // 1 Hz 単位で格納 </pre>
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	搬送波周波数ドリフト試験時のホッピング OFF 時の周波数ドリフトの平均値を読み出し、 <i>dblFreq</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.10.22 QryFetcSigFreqDrifHopOffDrifStddev

関数名	long QryFetcSigFreqDrifHopOffDrifStddev
機能	搬送波周波数ドリフト試験時のホッピング OFF 時の周波数ドリフトの Standard Deviation を読み出す
引数	<pre> [IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngPoint // 動作周波数指定 0x01: LOW (最低周波数) // 0x02: MID (中間周波数) // 0x03: HIGH (最高周波数) // なお、ALL は指定できません。 long lngSlot // 測定パケット・タイプ 1: (DH1 packet) // 3: (DH3 packet) // 5: (DH5 packet) [OUT] double * dblFreq // 1 Hz 単位で格納 </pre>
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	搬送波周波数ドリフト試験時のホッピング OFF 時の周波数ドリフトの Standard Deviation を読み出し、 <i>dblFreq</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.10.23 QryFetcSigFreqDrifHopOffRateMax

関数名	long QryFetcSigFreqDrifHopOffRateMax
機能	搬送波周波数ドリフト試験時の測定結果 (ホッピング OFF 時の周波数ドリフト・レート の最大値) を読み出す
引数	<pre> [IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngPoint // 動作周波数指定 0x01: LOW (最低周波数) // 0x02: MID (中間周波数) // 0x03: HIGH (最高周波数) // なお、ALL は指定できません。 long lngSlot // 測定パケット・タイプ 1: (DH1 packet) // 3: (DH3 packet) // 5: (DH5 packet) [OUT] double * dblFreq // 1 Hz/50 μs 単位で格納 </pre>
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	搬送波周波数ドリフト試験時の測定結果 (ホッピング OFF 時の周波数ドリフト・レート の最大値) を読み出し、 <i>dblFreq</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.10.24 QryFetcSigFreqDrifHopOffRateAvg

関数名	long QryFetcSigFreqDrifHopOffRateAvg
機能	搬送波周波数ドリフト試験時のホッピング OFF 時の周波数ドリフト・レートの平均値を読み出す
引数	<pre> IN long lngID // 対象機器識別子（接続確定時に得られた ID を使用） long lngPoint // 動作周波数指定 0x01: LOW（最低周波数） // 0x02: MID（中間周波数） // 0x03: HIGH（最高周波数） // なお、ALL は指定できません。 long lngSlot // 測定パケット・タイプ 1: (DH1 packet) // 3: (DH3 packet) // 5: (DH5 packet) OUT double * dblFreq </pre>
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	搬送波周波数ドリフト試験時のホッピング OFF 時の周波数ドリフト・レートの平均値を読み出し、 <i>dblFreq</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.10.25 QryFetcSigFreqDrifHopOffRateStddev

関数名	long QryFetcSigFreqDrifHopOffRateStddev
機能	搬送波周波数ドリフト試験時のホッピング OFF 時の周波数ドリフト・レートの Standard Deviation を読み出す
引数	<pre> IN long lngID // 対象機器識別子（接続確定時に得られた ID を使用） long lngPoint // 動作周波数指定 0x01: LOW（最低周波数） // 0x02: MID（中間周波数） // 0x03: HIGH（最高周波数） // なお、ALL は指定できません。 long lngSlot // 測定パケット・タイプ 1: (DH1 packet) // 3: (DH3 packet) // 5: (DH5 packet) OUT double * dblFreq </pre>
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	搬送波周波数ドリフト試験時のホッピング OFF 時の周波数ドリフト・レートの Standard Deviation を読み出し、 <i>dblFreq</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.10.26 QryFetcSigFreqDrifHopOnDrifMax

関数名	long QryFetcSigFreqDrifHopOnDrifMax
機能	搬送波周波数ドリフト試験時の測定結果（ホッピング ON 時の周波数ドリフトの最大値）を読み出す
引数	<pre> IN long lngID // 対象機器識別子（接続確定時に得られた ID を使用） long lngPoint // 動作周波数指定 0x01: LOW（最低周波数） // 0x02: MID（中間周波数） // 0x03: HIGH（最高周波数） // なお、ALL は指定できません。 long lngSlot // 測定パケット・タイプ 1: (DH1 packet) // 3: (DH3 packet) // 5: (DH5 packet) OUT double * dblFreq </pre>
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	搬送波周波数ドリフト試験時の測定結果（ホッピング ON 時の周波数ドリフトの最大値）を読み出し、 <i>dblFreq</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.10.27 QryFetcSigFreqDrifHopOnDrifAvg

関数名	long QryFetcSigFreqDrifHopOnDrifAvg
機能	搬送波周波数ドリフト試験時のホッピング ON 時の周波数ドリフトの平均値を読み出す
引数	<pre> IN long lngID // 対象機器識別子（接続確定時に得られた ID を使用） long lngPoint // 動作周波数指定 0x01: LOW（最低周波数） // 0x02: MID（中間周波数） // 0x03: HIGH（最高周波数） // なお、ALL は指定できません。 long lngSlot // 測定パケット・タイプ 1: (DH1 packet) // 3: (DH3 packet) // 5: (DH5 packet) OUT double * dblFreq </pre>
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	搬送波周波数ドリフト試験時のホッピング ON 時の周波数ドリフトの平均値を読み出し、 <i>dblFreq</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.10.28 QryFetcSigFreqDrifHopOnDrifStddev

関数名	long QryFetcSigFreqDrifHopOnDrifStddev
機能	搬送波周波数ドリフト試験時のホッピング ON 時の周波数ドリフトの Standard Deviation を読み出す
引数	<pre> [IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngPoint // 動作周波数指定 0x01: LOW (最低周波数) // 0x02: MID (中間周波数) // 0x03: HIGH (最高周波数) // なお、ALL は指定できません。 long lngSlot // 測定パケット・タイプ 1: (DH1 packet) // 3: (DH3 packet) // 5: (DH5 packet) [OUT] double * dblFreq </pre>
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	搬送波周波数ドリフト試験時のホッピング ON 時の周波数ドリフトの Standard Deviation を読み出し、 <i>dblFreq</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.10.29 QryFetcSigFreqDrifHopOnRateMax

関数名	long QryFetcSigFreqDrifHopOnRateMax
機能	搬送波周波数ドリフト試験時の測定結果 (ホッピング ON 時の周波数ドリフト・レート の最大値) を読み出す
引数	<pre> [IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngPoint // 動作周波数指定 0x01: LOW (最低周波数) // 0x02: MID (中間周波数) // 0x03: HIGH (最高周波数) // なお、ALL は指定できません。 long lngSlot // 測定パケット・タイプ 1: (DH1 packet) // 3: (DH3 packet) // 5: (DH5 packet) [OUT] double * dblFreq // 1 Hz/50 μs 単位で格納 </pre>
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	搬送波周波数ドリフト試験時の測定結果 (ホッピング ON 時の周波数ドリフト・レート の最大値) を読み出し、 <i>dblFreq</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.10.30 QryFetcSigFreqDrifHopOnRateAvg

関数名	long QryFetcSigFreqDrifHopOnRateAvg
機能	搬送波周波数ドリフト試験時のホッピング ON 時の周波数ドリフト・レートの平均値を読み出す
引数	<pre> IN long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngPoint // 動作周波数指定 0x01: LOW (最低周波数) // 0x02: MID (中間周波数) // 0x03: HIGH (最高周波数) // なお、ALL は指定できません。 long lngSlot // 測定パケット・タイプ 1: (DH1 packet) // 3: (DH3 packet) // 5: (DH5 packet) OUT double * dblFreq </pre>
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	搬送波周波数ドリフト試験時のホッピング ON 時の周波数ドリフト・レートの平均値を読み出し、 <i>dblFreq</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.10.31 QryFetcSigFreqDrifHopOnRateStddev

関数名	long QryFetcSigFreqDrifHopOnRateStddev
機能	搬送波周波数ドリフト試験時のホッピング ON 時の周波数ドリフト・レートの Standard Deviation を読み出す
引数	<pre> IN long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngPoint // 動作周波数指定 0x01: LOW (最低周波数) // 0x02: MID (中間周波数) // 0x03: HIGH (最高周波数) // なお、ALL は指定できません。 long lngSlot // 測定パケット・タイプ 1: (DH1 packet) // 3: (DH3 packet) // 5: (DH5 packet) OUT double * dblFreq </pre>
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	搬送波周波数ドリフト試験時のホッピング ON 時の周波数ドリフト・レートの Standard Deviation を読み出し、 <i>dblFreq</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.10.32 QryFetcSigSensSingBer

関数名	long QryFetcSigSensSingBer
機能	感度（シングル・スロット・パケット）試験時の測定結果 (BER) を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子（接続確定時に得られた ID を使用） long lngPoint // 動作周波数指定 0x01: LOW（最低周波数） // 0x02: MID（中間周波数） // 0x03: HIGH（最高周波数） // なお、ALL は指定できません。 [OUT] double * dblBer
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	感度（シングル・スロット・パケット）試験時の測定結果 (BER) を読み出し、 <i>dblBer</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.10.33 QryFetcSigSensSingPer

関数名	long QryFetcSigSensSingPer
機能	感度（シングル・スロット・パケット）試験時の測定結果 (PER) を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子（接続確定時に得られた ID を使用） long lngPoint // 動作周波数指定 0x01: LOW（最低周波数） // 0x02: MID（中間周波数） // 0x03: HIGH（最高周波数） // なお、ALL は指定できません。 [OUT] double * dblPer
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	感度（シングル・スロット・パケット）試験時の測定結果 (PER) を読み出し、 <i>dblPer</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.10.34 QryFetcSigSensMultBer

関数名	long QryFetcSigSensMultBer
機能	感度（マルチ・スロット・パケット）試験時の測定結果 (BER) を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子（接続確定時に得られた ID を使用） long lngPoint // 動作周波数指定 0x01: LOW（最低周波数） // 0x02: MID（中間周波数） // 0x03: HIGH（最高周波数） // なお、ALL は指定できません。 [OUT] double * dblBer
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	感度（マルチ・スロット・パケット）試験時の測定結果 (BER) を読み出し、 <i>dblBer</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.10.35 QryFetcSigSensMultPer

関数名	long QryFetcSigSensMultPer
機能	感度（マルチ・スロット・パケット）試験時の測定結果 (PER) を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子（接続確定時に得られた ID を使用） long lngPoint // 動作周波数指定 0x01: LOW（最低周波数） // 0x02: MID（中間周波数） // 0x03: HIGH（最高周波数） // なお、ALL は指定できません。 [OUT] double * dblPer
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	感度（マルチ・スロット・パケット）試験時の測定結果 (PER) を読み出し、 <i>dblPer</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.10.36 QryFetcSigMaxInpBer

関数名	long QryFetcSigMaxInpBer
機能	最大入力レベル試験時の測定結果 (BER) を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子（接続確定時に得られた ID を使用） long lngPoint // 動作周波数指定 0x01: LOW（最低周波数） // 0x02: MID（中間周波数） // 0x03: HIGH（最高周波数） // なお、ALL は指定できません。 [OUT] double * dblBer
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	最大入力レベル試験時の測定結果 (BER) を読み出し、 <i>dblBer</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.10.37 QryFetcSigMaxInpPer

関数名	long QryFetcSigMaxInpPer
機能	最大入力レベル試験時の測定結果 (PER) を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子（接続確定時に得られた ID を使用） long lngPoint // 動作周波数指定 0x01: LOW（最低周波数） // 0x02: MID（中間周波数） // 0x03: HIGH（最高周波数） // なお、ALL は指定できません。 [OUT] double * dblPer
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	最大入力レベル試験時の測定結果 (PER) を読み出し、 <i>dblPer</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.10.38 QryFetcSigOutPowPack

関数名	long QryFetcSigOutPowPack
機能	出力パワー試験時の試験パケットを読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] long * lngPack
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	出力パワー試験時の試験パケットを読み出し、lngPack で指定された変数にその値を格納します。

5.7.10.39 QryFetcSigModCharPack

関数名	long QryFetcSigModCharPack
機能	変調特性試験時の試験パケットを読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] long * lngPack
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	変調特性試験時の試験パケットを読み出し、lngPack で指定された変数にその値を格納します。

5.7.10.40 QryFetcSigFreqTolePack

関数名	long QryFetcSigFreqTolePack
機能	初期搬送波周波数試験時の試験パケットを読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] long * lngPack
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	初期搬送波周波数試験時の試験パケットを読み出し、lngPack で指定された変数にその値を格納します。

5.7.10.41 QryFetcSigFreqDrifPack

関数名	long QryFetcSigFreqDrifPack
機能	搬送波周波数ドリフト試験時の試験パケットを読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] long * lngPack
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	搬送波周波数ドリフト試験時の試験パケットを読み出し、lngPack で指定された変数にその値を格納します。

5.7.10.42 QryFetcSigSensSingPack

関数名	long QryFetcSigSensSingPack
機能	感度（シングル・スロット・パケット）試験時の試験パケットを読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子（接続確定時に得られた ID を使用） [OUT] long * lngPack
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	感度（シングル・スロット・パケット）試験時の試験パケットを読み出し、 <i>lngPack</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.10.43 QryFetcSigSensMultiPack

関数名	long QryFetcSigSensMultiPack
機能	感度（マルチ・スロット・パケット）試験時の試験パケットを読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子（接続確定時に得られた ID を使用） [OUT] long * lngPack
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	感度（マルチ・スロット・パケット）試験時の試験パケットを読み出し、 <i>lngPack</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.10.44 QryFetcSigMaxInpPack

関数名	long QryFetcSigMaxInpPack
機能	最大入力レベル試験時の試験パケットを読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子（接続確定時に得られた ID を使用） [OUT] long * lngPack
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	最大入力レベル試験時の試験パケットを読み出し、 <i>lngPack</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.11 FETCh サブシステム - Communication Test

5.7.11.1 QryFetcButcInqErrStat

関数名	long QryFetcButcInqErrStat
機能	Inquiry 試験 - Error Status を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long * lngStat
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	Inquiry シーケンス実行後の Error Status を読み出し、 <i>lngStat</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.11.2 QryFetcButcSinqErrStat

関数名	long QryFetcButcSinqErrStat
機能	Inquiry Scan 試験 - Error Status を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] long * lngStat
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	Inquiry Scan シーケンス実行後の Error Status を読み出し、 <i>lngStat</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.11.3 QryFetcButcMpagErrStat

関数名	long QryFetcButcMpagErrStat
機能	Paging - IUT as Master 試験 - Error Status を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] long * lngStat
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	Paging - IUT as Master シーケンス実行後の Error Status を読み出し、 <i>lngStat</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.11.4 QryFetcButcSpagErrStat

関数名	long QryFetcButcSpagErrStat
機能	Paging - IUT as Slave 試験 - Error Status を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] long * lngStat
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	Paging - IUT as Slave シーケンス実行後の Error Status を読み出し、 <i>lngStat</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.11.5 QryFetcButcAclErrStat

関数名	long QryFetcButcAclErrStat
機能	ACL Data 試験 - Error Status を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] long * lngStat
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	ACL Data シーケンス実行後の Error Status を読み出し、 <i>lngStat</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.11.6 QryFetcButcSlinErrStat

関数名	long QryFetcButcSlinErrStat
機能	Link Supervision Timeout - IUT as Slave 試験 - Error Status を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] long * lngStat
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	Link Supervision Timeout - IUT as Slave シーケンス実行後の Error Status を読み出し、 <i>lngStat</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.11.7 QryFetcButcMlinErrStat

関数名	long QryFetcButcMlinErrStat
機能	Link Supervision Timeout - IUT as Master 試験 - Error Status を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] long * lngStat
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	Link Supervision Timeout - IUT as Master シーケンス実行後の Error Status を読み出し、 <i>lngStat</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.11.8 QryFetcButcSautErrStat

関数名	long QryFetcButcSautErrStat
機能	Authentication - IUT as Slave 試験 - Error Status を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] long * lngStat
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	Authentication - IUT as Slave シーケンス実行後の Error Status を読み出し、 <i>lngStat</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.11.9 QryFetcButcMautErrStat

関数名	long QryFetcButcMautErrStat
機能	Authentication - IUT as Master 試験 - Error Status を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] long * lngStat
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	Authentication - IUT as Master シーケンス実行後の Error Status を読み出し、 <i>lngStat</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.11.10 QryFetcButcPairErrStat

関数名	long QryFetcButcPairErrStat
機能	Pairing 試験 - Error Status を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] long * lngStat
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	Pairing シーケンス実行後の Error Status を読み出し、 <i>lngStat</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.11.11 QryFetcButcSscoErrStat

関数名	long QryFetcButcSscoErrStat
機能	SCO Data - IUT as Slave 試験 - Error Status を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] long * lngStat
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	SCO Data - IUT as Slave シーケンス実行後の Error Status を読み出し、 <i>lngStat</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.11.12 QryFetcButcMscoErrStat

関数名	long QryFetcButcMscoErrStat
機能	SCO Data - IUT as Master 試験 - Error Status を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] long * lngStat
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	SCO Data - IUT as Master シーケンス実行後の Error Status を読み出し、 <i>lngStat</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.12 FETCh サブシステム - Remote Loopback

5.7.12.1 QryFetcLoopSscoErrStat

関数名	long QryFetcLoopSscoErrStat
機能	SCO Loopback - IUT as Slave シーケンス - Error Status を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] long * lngStat
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	SCO Loopback - IUT as Slave シーケンス実行後の Error Status を読み出し、 <i>lngStat</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.12.2 QryFetcLoopMscoErrStat

関数名	long QryFetcLoopMscoErrStat
機能	SCO Loopback - IUT as Master シーケンス - Error Status を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] long * lngStat
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	SCO Loopback - IUT as Master シーケンス実行後の Error Status を読み出し、 <i>lngStat</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.13 FETCh サブシステム - RF Measurement

5.7.13 FETCh サブシステム - RF Measurement

5.7.13.1 QryFetcRfFmDevPowAvg

関数名	long QryFetcRfFmDevPowAvg
機能	FM Deviation 試験時の測定結果（平均電力）を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子（接続確定時に得られた ID を使用） [OUT] double * dblPow
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	FM Deviation 試験時の測定結果（平均電力）を読み出し、 <i>dblPow</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.13.2 QryFetcRfFmDevPowPk

関数名	long QryFetcRfFmDevPowPk
機能	FM Deviation 試験時の測定結果（ピーク電力）を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子（接続確定時に得られた ID を使用） [OUT] double * dblPow
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	FM Deviation 試験時の測定結果（ピーク電力）を読み出し、 <i>dblPow</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.13.3 QryFetcRfFmDevF2Id

関数名	long QryFetcRfFmDevF2Id
機能	FM Deviation 試験時の測定結果 (Pass/All Δf_{2max}) を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子（接続確定時に得られた ID を使用） [OUT] double * dblPassF2
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	FM Deviation 試験時の測定結果 (Pass/All Δf_{2max}) を読み出し、 <i>dblPassF2</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.13.4 QryFetcRfFmDevF2max_min

関数名	long QryFetcRfFmDevF2max_min
機能	FM Deviation 試験時の測定結果 ($\Delta f_{2max-min}$) を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] double * dblFreq
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	FM Deviation 試験時の測定結果 ($\Delta f_{2max-min}$) を読み出し、 <i>dblFreq</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.13.5 QryFetcRfFmDevF2avg

関数名	long QryFetcRfFmDevF2avg
機能	FM Deviation 試験時の測定結果 (Δf_{2avg}) を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] double * dblFreq
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	FM Deviation 試験時の測定結果 (Δf_{2avg}) を読み出し、 <i>dblFreq</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.13.6 QryFetcRfFmDevF2max_max

関数名	long QryFetcRfFmDevF2max_max
機能	FM Deviation 試験時の $\Delta f_{2max-max}$ を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] double * dblFreq
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	FM Deviation 試験時の $\Delta f_{2max-max}$ を読み出し、 <i>dblFreq</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.13.7 QryFetcRfFmDevF2stddev

関数名	long QryFetcRfFmDevF2stddev
機能	FM Deviation 試験時の Δf_2 standard deviation を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] double * dblFreq
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	FM Deviation 試験時の Δf_2 standard deviation を読み出し、 <i>dblFreq</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.13.8 QryFetcRfFmDevF1max_max

関数名	long QryFetcRfFmDevF1max_max
機能	FM Deviation 試験時の測定結果 ($\Delta f_{1max-max}$) を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] double * dblFreq
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	FM Deviation 試験時の測定結果 ($\Delta f_{1max-max}$) を読み出し、 <i>dblFreq</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.13.9 QryFetcRfFmDevF1avg

関数名	long QryFetcRfFmDevF1avg
機能	FM Deviation 試験時の測定結果 (Δf_{1avg}) を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] double * dblFreq
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	FM Deviation 試験時の測定結果 (Δf_{1avg}) を読み出し、 <i>dblFreq</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.13.10 QryFetcRfFmDevF1max_min

関数名	long QryFetcRfFmDevF1max_min
機能	FM Deviation 試験時の $\Delta f_{1\max\text{-min}}$ を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] double * dblFreq
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	FM Deviation 試験時の $\Delta f_{1\max\text{-min}}$ を読み出し、 <i>dblFreq</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.13.11 QryFetcRfFmDevF1stddev

関数名	long QryFetcRfFmDevF1stddev
機能	FM Deviation 試験時の Δf_1 standard deviation を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] double * dblFreq
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	FM Deviation 試験時の Δf_1 standard deviation を読み出し、 <i>dblFreq</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.13.12 QryFetcRfFmDevFreqToleMax

関数名	long QryFetcRfFmDevFreqToleMax
機能	FM Deviation 試験時の測定結果 (初期搬送波の最大値) を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] double * dblFreq
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	FM Deviation 試験時の測定結果 (初期搬送波の最大値) を読み出し、 <i>dblFreq</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.13.13 QryFetcRfFmDevFreqToleAvg

関数名	long QryFetcRfFmDevFreqToleAvg
機能	FM Deviation 試験時の初期搬送波（平均値）を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子（接続確定時に得られた ID を使用） [OUT] double * dblFreq
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	FM Deviation 試験時の初期搬送波（平均値）を読み出し、 <i>dblFreq</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.13.14 QryFetcRfFmDevFreqToleMin

関数名	long QryFetcRfFmDevFreqToleMin
機能	FM Deviation 試験時の初期搬送波（最小値）を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子（接続確定時に得られた ID を使用） [OUT] double * dblFreq
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	FM Deviation 試験時の初期搬送波（最小値）を読み出し、 <i>dblFreq</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.13.15 QryFetcRfFmDevFreqToleStddev

関数名	long QryFetcRfFmDevFreqToleStddev
機能	FM Deviation 試験時の初期搬送波 (Standard Deviation) を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子（接続確定時に得られた ID を使用） [OUT] double * dblFreq
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	FM Deviation 試験時の初期搬送波 (Standard Deviation) を読み出し、 <i>dblFreq</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.13.16 QryFetcRfFmDevFreqDrifMax

関数名	long QryFetcRfFmDevFreqDrifMax
機能	FM Deviation 試験時の測定結果（周波数ドリフトの最大値）を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子（接続確定時に得られた ID を使用） [OUT] double * dblFreq // 1 Hz 単位で格納
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	FM Deviation 試験時の測定結果（周波数ドリフトの最大値）を読み出し、 <i>dblFreq</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.13.17 QryFetcRfFmDevFreqDrifAvg

関数名	long QryFetcRfFmDevFreqDrifAvg
機能	FM Deviation 試験時の周波数ドリフト（平均値）を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子（接続確定時に得られた ID を使用） [OUT] double * dblFreq
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	FM Deviation 試験時の周波数ドリフト（平均値）を読み出し、 <i>dblFreq</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.13.18 QryFetcRfFmDevFreqDrifStddev

関数名	long QryFetcRfFmDevFreqDrifStddev
機能	FM Deviation 試験時の周波数ドリフト (Standard Deviation) を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子（接続確定時に得られた ID を使用） [OUT] double * dblFreq
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	FM Deviation 試験時の周波数ドリフト (Standard Deviation) を読み出し、 <i>dblFreq</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.13.19 QryFetcRfFmDevDrifRateMax

関数名	long QryFetcRfFmDevDrifRateMax
機能	FM Deviation 試験時の測定結果（周波数ドリフト・レートの最大値）を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子（接続確定時に得られた ID を使用） [OUT] double * dblFreq // 1 Hz/50 μ s 単位で格納
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	FM Deviation 試験時の測定結果（周波数ドリフト・レートの最大値）を読み出し、 <i>dblFreq</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.13.20 QryFetcRfFmDevDrifRateAvg

関数名	long QryFetcRfFmDevDrifRateAvg
機能	FM Deviation 試験時の周波数ドリフト・レート（平均値）を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子（接続確定時に得られた ID を使用） [OUT] double * dblFreq
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	FM Deviation 試験時の周波数ドリフト・レート（平均値）を読み出し、 <i>dblFreq</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.13.21 QryFetcRfFmDevDrifRateStddev

関数名	long QryFetcRfFmDevDrifRateStddev
機能	FM Deviation 試験時の周波数ドリフト・レート (Standard Deviation) を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子（接続確定時に得られた ID を使用） [OUT] double * dblFreq
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	FM Deviation 試験時の周波数ドリフト・レート (Standard Deviation) を読み出し、 <i>dblFreq</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.13.22 QryFetcRfBerBer

関数名	long QryFetcRfBerBer
機能	BER 試験時の測定結果 (BER) を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] double * dblBer
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	BER 試験時の測定結果 (BER) を読み出し、 <i>dblBer</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.13.23 QryFetcRfBerPer

関数名	long QryFetcRfBerPer
機能	BER 試験時の測定結果 (PER) を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] double * dblFreq
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	BER 試験時の測定結果 (PER) を読み出し、 <i>dblPer</i> で指定された変数にその値を格納します。

5.7.14 FETCh サブシステム - Waveform

5.7.14 FETCh サブシステム - Waveform

5.7.14.1 QryFetcWaveFormCoun

関数名	long QryFetcWaveFormCoun
機能	波形数を読み出す
引数	IN long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) OUT long * lngWaveformcount // 波形数
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	測定で取得した波形数を読み出します。 該当する測定は、変調特性試験、初期搬送波周波数試験、搬送波周波数ドリフト試験、および FM Deviation 試験です。

5.7.14.2 QryFetcWaveFormInfo

関数名	long QryFetcWaveFormInfo
機能	指定した Index Number の波形情報を取得する
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long wavenum // Index Number (0, 1, 2,.....) OUT long * p0index // p0 を指すデータの Index double * init_freq // Frequency Tolerance (kHz) long * waveform_size // 波形データ数
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	測定で取得したデータから、指定した Index Number の波形情報を取得します。 該当する測定は、変調特性試験、初期搬送波周波数試験、搬送波周波数ドリフト試験、および FM Deviation 試験です。

5.7.14.3 QryFetcWaveFormData

関数名	long QryFetcWaveFormData
機能	指定した Index Number の波形データを取得する
引数	<p>[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用)</p> <p>long wavenum // Index Number (0, 1, 2.....)</p> <p>long dataindex // データの読み出し開始位置</p> <p>long maxpoint // 読み出しを行う最大数</p> <p>[OUT] float * wavedata // 波形データ (kHz)</p> <p>long * ret_point // 波形データ取得数</p>
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	測定で取得したデータから、指定した Index Number の波形データを取得します。該当する測定は、変調特性試験、初期搬送波周波数試験、搬送波周波数ドリフト試験、および FM Deviation 試験です。

5.7.15 PROCedure サブシステム - SYSTEM**5.7.15.1 WmtProcStar**

関数名	long WmtProcStar
機能	START キーが押されたイベントを通知
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用)
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	START キーが押されたイベントを通知します。

5.7.15.2 WmtProcSing

関数名	long WmtProcSing
機能	SINGLE キーが押されたイベントを通知
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用)
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	SINGLE キーが押されたイベントを通知します。

5.7.15.3 WmtProcAbor

関数名	long WmtProcAbor
機能	STOP キーが押されたイベントを通知
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用)
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	STOP キーが押されたイベントを通知し、測定が中断されたことを通知します。

5.7.15.4 WmtCalSUAuto

関数名	long WmtCalSUAuto
機能	R4870 組込通信ユニット (Signaling Unit) の Calibration を行う
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用)
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	R4870 組込通信ユニット (Signaling Unit) の Calibration を行います。

5.7.16 PROCEDURE サブシステム - SIG RF

5.7.16.1 WmtProcSigOutPow

関数名	long WmtProcSigOutPow
機能	出力パワー試験の実行
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngPoint // 動作周波数設定 0x00: ALL (LOW/MID/HIGH 3 点全部) // 0x01: LOW (最低周波数) // 0x02: MID (中間周波数) // 0x03: HIGH (最高周波数)
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	出力パワー試験を実行します。ただし、ALL の場合はユーザによって試験の実行を OFF にされている動作周波数を除きます。

5.7.16.2 WmtProcSigModChar

関数名	long WmtProcSigModChar
機能	変調特性試験の実行
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngPoint // 動作周波数設定 0x00: ALL (LOW/MID/HIGH 3 点全部) // 0x01: LOW (最低周波数) // 0x02: MID (中間周波数) // 0x03: HIGH (最高周波数)
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	変調特性試験を実行します。ただし、ALL の場合はユーザによって試験の実行を OFF にされている動作周波数を除きます。

5.7.16.3 WmtProcSigFreqTole

関数名	long WmtProcSigFreqTole
機能	初期搬送波周波数の許容値試験の実行
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngPoint // 動作周波数設定 0x00: ALL (LOW/MID/HIGH 3 点全部) // 0x01: LOW (最低周波数) // 0x02: MID (中間周波数) // 0x03: HIGH (最高周波数)
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	初期搬送波周波数の許容値試験を実行します。ただし、ALL の場合はユーザによって試験の実行を OFF にされている動作周波数を除きます。

5.7.16.4 WmtProcSigFreqDrif

関数名	long WmtProcSigFreqDrif
機能	搬送波周波数ドリフト試験の実行
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngPoint // 動作周波数設定 0x00: ALL (LOW/MID/HIGH 3 点全部) // 0x01: LOW (最低周波数) // 0x02: MID (中間周波数) // 0x03: HIGH (最高周波数)
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	搬送波周波数ドリフト試験を実行します。ただし、ALL の場合はユーザによって試験の実行を OFF にされている動作周波数を除きます。

5.7.16.5 WmtProcSigSensSing

関数名	long WmtProcSigSensSing
機能	感度 (シングル・スロット・パケット) 試験の実行
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngPoint // 動作周波数設定 0x00: ALL (LOW/MID/HIGH 3 点全部) // 0x01: LOW (最低周波数) // 0x02: MID (中間周波数) // 0x03: HIGH (最高周波数)
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	感度 (シングル・スロット・パケット) 試験を実行します。ただし、ALL の場合はユーザによって試験の実行を OFF にされている動作周波数を除きます。

5.7.16.6 WmtProcSigSensMult

関数名	long WmtProcSigSensMult
機能	感度（マルチ・スロット・パケット）試験の実行
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子（接続確定時に得られた ID を使用） long lngPoint // 動作周波数設定 0x00: ALL（LOW/MID/HIGH 3 点全部） // 0x01: LOW（最低周波数） // 0x02: MID（中間周波数） // 0x03: HIGH（最高周波数）
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	感度（マルチ・スロット・パケット）試験を実行します。ただし、ALL の場合はユーザによって試験の実行を OFF にされている動作周波数を除きます。

5.7.16.7 WmtProcSigMaxInp

関数名	long WmtProcSigMaxInp
機能	最大入力レベル試験の実行
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子（接続確定時に得られた ID を使用） long lngPoint // 動作周波数設定 0x00: ALL（LOW/MID/HIGH 3 点全部） // 0x01: LOW（最低周波数） // 0x02: MID（中間周波数） // 0x03: HIGH（最高周波数）
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	最大入力レベル試験を実行します。ただし、ALL の場合はユーザによって試験の実行を OFF にされている動作周波数を除きます。

5.7.16.8 WmtProcSigAll

関数名	long WmtProcSigAll
機能	SIG RF 試験の全項目を実行
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子（接続確定時に得られた ID を使用）
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	SIG RF 試験の全測定項目を実行します。ただし、ユーザによって試験の実行を OFF にされている項目および動作周波数を除きます。

5.7.17 PROCEDURE サブシステム - Communication Test**5.7.17.1 WmtProcButcInq**

関数名	long WmtProcButcInq
機能	Inquiry 試験を実行
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用)
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	Inquiry 試験を実行します。

5.7.17.2 WmtProcButcSinq

関数名	long WmtProcButcSinq
機能	Inquiry Scan 試験を実行
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用)
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	Inquiry Scan 試験を実行します。

5.7.17.3 WmtProcButcMpag

関数名	long WmtProcButcMpag
機能	Paging - IUT as Master 試験を実行
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用)
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	Paging - IUT as Master 試験を実行します。

5.7.17.4 WmtProcButcSpag

関数名	long WmtProcButcSpag
機能	Paging - IUT as Slave 試験を実行
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用)
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	Paging - IUT as Slave 試験を実行します。

5.7.17.5 WmtProcButcAcl

関数名	long WmtProcButcAcl
機能	ACL Data 試験を実行
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子（接続確定時に得られた ID を使用）
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	ACL Data 試験を実行します。

5.7.17.6 WmtProcButcSlin

関数名	long WmtProcButcSlin
機能	Link Supervision Timeout - IUT as Slave 試験を実行
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子（接続確定時に得られた ID を使用）
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	Link Supervision Timeout - IUT as Slave 試験を実行します。

5.7.17.7 WmtProcButcMlin

関数名	long WmtProcButcMlin
機能	Link Supervision Timeout - IUT as Master 試験を実行
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子（接続確定時に得られた ID を使用）
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	Link Supervision Timeout - IUT as Master 試験を実行します。

5.7.17.8 WmtProcButcSaut

関数名	long WmtProcButcSaut
機能	Authentication - IUT as Slave 試験を実行
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子（接続確定時に得られた ID を使用）
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	Authentication - IUT as Slave 試験を実行します。

5.7.17.9 WmtProcButcMaut

関数名	long WmtProcButcMaut
機能	Authentication - IUT as Master 試験を実行
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用)
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	Authentication - IUT as Master 試験を実行します。

5.7.17.10 WmtProcButcPair

関数名	long WmtProcButcPair
機能	Pairing 試験を実行
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用)
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	Pairing 試験を実行します。

5.7.17.11 WmtProcButcSsco

関数名	long WmtProcButcSsco
機能	SCO data - IUT as Slave 試験を実行
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用)
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	SCO data - IUT as Slave 試験を実行します。

5.7.17.12 WmtProcButcMsco

関数名	long WmtProcButcMsco
機能	SCO data - IUT as Master 試験を実行
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用)
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	SCO data - IUT as Master 試験を実行します。

5.7.18 PROCEDURE サブシステム - Remote Loopback

5.7.18.1 WmtProcLoopSsco

関数名	long WmtProcLoopSsco
機能	SCO Loopback - IUT as Slave シーケンスの Link 確立の実行
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用)
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	SCO Loopback - IUT as Slave シーケンスの Link 確立の実行をします。 Link 切断は WmtProcLoopSscoDisc を実行して下さい。

5.7.18.2 WmtProcLoopMsco

関数名	long WmtProcLoopMsco
機能	SCO Loopback - IUT as Master シーケンスの Link 確立の実行
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用)
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	SCO Loopback - IUT as Master シーケンスの Link 確立の実行をします。 Link 切断は WmtProcLoopMscoDisc を実行して下さい。

5.7.18.3 WmtProcLoopSscoDisc

関数名	long WmtProcLoopSscoDisc
機能	SCO Loopback - IUT as Slave シーケンスの Link 切断の実行
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用)
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	SCO Loopback - IUT as Slave シーケンスの Link 切断の実行をします。

5.7.18.4 WmtProcLoopMscoDisc

関数名	long WmtProcLoopMscoDisc
機能	SCO Loopback - IUT as Master シーケンスの Link 切断の実行
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用)
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	SCO Loopback - IUT as Master シーケンスの Link 切断の実行をします。

5.7.19 PROCEDURE サブシステム - RF Measurement

5.7.19.1 WmtProcRfFmDev

関数名	long WmtProcRfFmDev
機能	FM Deviation 試験の実行
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用)
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	FM Deviation 試験を実行します。

5.7.19.2 WmtProcRfBer

関数名	long WmtProcRfBer
機能	BER 試験の実行
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用)
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	BER 試験を実行します。

5.7.19.3 WmtProcRfConn

関数名	long WmtProcRfConn
機能	RF Measurement の Connection の実行
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用)
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	RF Measurement の Connection を実行し、R4870 と IUT との通信を確立したあと、Test Mode 状態にします。

5.7.19.4 WmtProcRfDisc

関数名	long WmtProcRfDisc
機能	RF Measurement の Disconnection の実行
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用)
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	RF Measurement の Disconnection を実行し、R4870 と IUT との通信を切断します。

5.8 サンプル・プログラム

R4870 と通信経路を確立し、感度試験 (multi slot packets) を Low/Mid/High 3 チャンネル行い、測定データを取得して通信経路を開放します。

```

' Windows API
Public Declare Sub Sleep Lib "kernel32" (ByVal dwMilliseconds As Long)

' R4870 用の定数宣言
Global Const WMT_TRUE As Long = 0
Global Const WMT_FALSE As Long = 1

Global Const FREQ_ALL As Long = 0
Global Const FREQ_LOW As Long = 1
Global Const FREQ_MID As Long = 2
Global Const FREQ_HIGH As Long = 3

Global Const WMT_ON As Long = 1
Global Const WMT_OFF As Long = 0

Global Const WMT_EOK As Long = 0
Global Const WMT_ERROR As Long = -1

.....
' 測定の実行ルーチン
'
' 1.R4870 との通信を開き、リモート制御可能な状態にします
' 2.R4870 と IUT との通信を接続し、SIG の測定が可能な状態にします
' 3. サブルーチン (MeasSensMult) を呼び出し、Sensitivity-multi slot packets の
'   測定を行います
' 4.R4870 と IUT との通信を切断します
' 5.R4870 との通信を閉じ、ポートを開放します
'
Sub Measurement()
    Dim lngID As Long
    Dim strIP As String
    Dim strPort As String
    Dim dblBer(0 To 3) As Double
    Dim dblPer(0 To 3) As Double

    strIP = "192.168.0.1" ' R4870 の IP Address
    strPort = "" ' R4870 との接続に使用するポート No. (1 ~ 3 が指定可能)

    If (WmtOpenPacket(strIP, strPort, lngID) = WMT_TRUE) Then ' R4870 との通信を開きます
        Call WmtProcSigConn(lngID) ' R4870 と IUT との通信を接続します

        Call MeasSensMult(lngID, dblBer, dblPer) ' Sensitivity-multi slot packets の測定

        Call WmtProcSigDisc(lngID) ' R4870 と IUT との通信を切断します
        Call WmtClosePacket(lngID) ' R4870 との通信を閉じます
    End If
End Sub

.....
' Sensitivity-multi slot packets 測定の実行
'
Function MeasSensMult(ByVal lngR4870 As Long, ByRef dblBer() As Double, ByRef dblPer() As Double) As Long
    Dim lngStat As Long

    Dim lngErrNo As Long
    Dim strErrMsg As String * 256

```

5.8 サンプル・プログラム

```

' Sensitivity-multi slot packets の試験項目の実行を ON に設定
Call WmtConfSigSensMulti (LngR4870, FREQ_ALL, WMT_ON)

' Low/Mid/High それぞれの測定ポイントでの試験の実行を ON に設定
Call WmtConfSigSensMulti (LngR4870, FREQ_LOW, WMT_ON)
Call WmtConfSigSensMulti (LngR4870, FREQ_MID, WMT_ON)
Call WmtConfSigSensMulti (LngR4870, FREQ_HIGH, WMT_ON)

' Sensitivity-single/multi slot packets 測定時の Tx Level を -70.0 dBm に設定
Call WmtConfSigSensTxLev (LngR4870, -70#)

' 測定の実行
' (WmtProcSigSensMulti (LngR4870, FREQ_ALL) = WMT_OK) Then

' 測定の終了のモニタ
Do
  If (QryStatMeas (LngR4870, LngStat) = WMT_TRUE) Then
    If (LngStat = 0) Then
      Exit Do
    End If
  End If

  DoEvents

  Call Sleep (100)
Loop

GoSub ErrCheck

If (LngErrNo = WMT_TRUE) Then
  ' データの取得
  Call QryFetcSigSensMultiBer (LngR4870, FREQ_LOW, dblBer (FREQ_LOW))
  Call QryFetcSigSensMultiPer (LngR4870, FREQ_LOW, dblPer (FREQ_LOW))

  Call QryFetcSigSensMultiBer (LngR4870, FREQ_MID, dblBer (FREQ_MID))
  Call QryFetcSigSensMultiPer (LngR4870, FREQ_MID, dblPer (FREQ_MID))

  Call QryFetcSigSensMultiBer (LngR4870, FREQ_HIGH, dblBer (FREQ_HIGH))
  Call QryFetcSigSensMultiPer (LngR4870, FREQ_HIGH, dblPer (FREQ_HIGH))
End If

else
  MeasSensMulti = WMT_INVALID
  ' 試験の実行時にエラーが生じたため、関数の戻り値にエラーを返します
  For If

  Exit Function

ErrCheck:
'-----
If (QrySysErr (LngR4870, LngErrNo, strErrMsg) = WMT_TRUE) Then
  ' 測定時に発生したエラーを取得
  If (LngErrNo <> WMT_TRUE) Then

    MeasSensMulti = LngErrNo
  End If
End If

Return

End Function

```

6. 性能諸元

この章では、以下の項目について説明します。

- 送信機テスト
- 受信機テスト
- Reference OSC
- 表示
- 外部機器との接続
- 一般仕様

6.1 送信機テスト

- CH1 ポート

項目	仕様
周波数、変調解析テスト	
入力周波数範囲	2402 MHz ~ 2480 MHz
入力レベル範囲	+23 dBm ~ -15 dBm/0V DC
分解能	1 kHz
確度	5 kHz: 解析レンジ ^{*1} ±200 kHz 7 kHz: 解析レンジ ^{*1} ±300 kHz
出力電力テスト	
入力周波数範囲	2402 MHz ~ 2480 MHz
入力レベル範囲	+23 dBm ~ -15 dBm/0V DC
確度	± 1.2 dB (+23 dBm ~ -10 dBm)
分解能	0.01 dB

*1: 周波数エラー + 周波数偏移 = ± 300 kHz 以内

6.1 送信機テスト

- CH2 ポート

項目	仕様
周波数、変調解析テスト	
入力周波数範囲	2402 MHz ~ 2480 MHz
入力レベル範囲	+5 dBm ~ -30 dBm/0V DC
分解能	1 kHz
確度	5 kHz: 解析レンジ ^{*2} ±200 kHz 7 kHz: 解析レンジ ^{*2} ±300 kHz
出力電力テスト	
入力周波数範囲	2402 MHz ~ 2480 MHz
入力レベル範囲	+5 dBm ~ -30 dBm/0V DC
確度	± 2.2 dB (+5 dBm ~ -20 dBm)
分解能	0.01 dB

*2: 周波数エラー + 周波数偏移 = ± 300 kHz 以内

6.2 受信機テスト

- SG 部 CH1 ポート

項目	仕様
周波数	
出力周波数	2402 MHz ~ 2480 MHz
分解能	1 MHz ^{*1}
搬送波周波数	
確度	5 kHz 以内 (規定の Channel 周波数に対して)
レベル	
出力レベル範囲	-15 dBm ~ -85 dBm
分解能	1 dB
確度	± 1.2 dB (-15 dBm ~ -75 dBm)
変調	
変調指数レンジ	0.20 ~ 0.40 ^{*1}
分解能	0.01
確度	4 kHz: 0.28 ~ 0.34
BT 積	0.5 (20 dB Band 幅 1 MHz 以内)
伝送レート	1 Mbps ^{*1}
信号純度	
± 2MHz 漏洩電力	-30 dB 以下
± 3MHz 漏洩電力	-35 dB 以下
BER 試験	
テスト・ビット長 Standard	1600000 ~ 9999999 bits ^{*2}
High Speed	1 ~ 1600000 bits ^{*2}
エラー・レート	0% ~ 100%
分解能	0.0001%

*1: Dirty Transmitter 試験時は、表 6-1 を参照して下さい。

*2: ビット数を満足する整数パケット数

6.2 受信機テスト

- SG 部 CH2 ポート

項目	仕様
周波数	
出力周波数	2402 MHz ~ 2480 MHz
分解能	1 MHz ^{*1}
搬送波周波数	
確度	5 kHz 以内 (規定の Channel 周波数に対して)
レベル	
出力レベル範囲	0 dBm ~ -65 dBm
分解能	1 dB
確度	± 2.5 dB (0 dBm ~ -55 dBm)
変調	
変調指数レンジ	0.20 ~ 0.40 ^{*1}
分解能	0.01
確度	4 kHz: 0.28 ~ 0.34
BT 積	0.5 (20 dB Band 幅 1 MHz 以内)
伝送レート	1 Mbps ^{*1}
信号純度	
± 2MHz 漏洩電力	-30 dB 以下
± 3MHz 漏洩電力	-35 dB 以下
BER 試験	
テスト・ビット長 Standard	1600000 ~ 9999999 bits ^{*2}
High Speed	1 ~ 1600000 bits ^{*2}
エラー・レート	0% ~ 100%
分解能	0.0001%

^{*1}: Dirty Transmitter 試験時は、表 6-1 を参照して下さい。

^{*2}: ビット数を満足する整数パケット数

- Dirty Transmitter の信号
表 6-1 のように SIG の規格に対応した信号を出力します。

表 6-1 Dirty Transmitter slot packets

巡回順序	キャリア周波数 ドリフト	変調指数	シンボル・タイミング・ エラー
1	+75 kHz	0.28	-20 ppm
2	+14 kHz	0.30	-20 ppm
3	-2 kHz	0.29	+20 ppm
4	1 kHz	0.32	+20 ppm
5	39 kHz	0.33	+20 ppm
6	0 kHz	0.34	-20 ppm
7	-42 kHz	0.29	-20 ppm
8	+74 kHz	0.31	-20 ppm
9	-19 kHz	0.28	-20 ppm
10	-75 kHz	0.35	+20 ppm

上記の信号に加えて、下記の条件がテスト Packet 状態において規定されます。

- DH1 packet の場合
変調周波数が 1.6 kHz 正弦波 (Packet スタートが 0 度)、周波数偏差が ± 25 kHz のキャリア周波数ドリフトを変調します。
- DH3 packet の場合
変調周波数が 500 Hz 正弦波 (Packet スタートが 0 度)、周波数偏差が ± 40 kHz のキャリア周波数ドリフトを変調します。
- DH5 packet の場合
変調周波数が 300 Hz 正弦波 (Packet スタートが 0 度)、周波数偏差が ± 40 kHz のキャリア周波数ドリフトを変調します。
- 各巡回は 20 msec ごとに行い、1-2-.....10-1-2..... と巡回します。

6.3 Reference OSC

項目	仕様
周波数	10 MHz
経時変化	3×10^{-8} / 日 1×10^{-7} / 年
温度安定度	2×10^{-7} (+5°C ~ +40°C)

6.4 表示

6.4 表示

項目	仕様
タッチ・スクリーン	12 インチ TFT (バックライト付き)

6.5 外部機器との接続

項目	仕様
Front Panel	
Interfere Port1	
周波数	30 MHz ~ 12.75 GHz
基本信号 (テスタ SG) への合成比	約 15 dB
Interfere Port2	
周波数	2.4 GHz ~ 2.5 GHz
基本信号 (テスタ SG) への合成比	約 18 dB
Monitor Port1	
周波数	2 ~ 3 GHz
基本信号 (IUT 出力信号) からの分電力比	約 17 dB
Monitor Port2	
周波数	2.4 GHz ~ 2.5 GHz
基本信号 (IUT 出力信号) からの分電力比	約 6 dB
Audio 出力	
キーボード	P/S2 101/106 キーボード
マウス	PS/2 マウス

項目	仕様
Rear Panel	
外部表示器信号	15 ピン D-SUB コネクタ (VGA)
LAN ポート	10 Base-T
HCI (Host Control Interface)	115.200 kbps
伝送レート	57.6 kbps, 38.4 kbps, 19.2 kbps, 14.4 kbps, 9.6 kbps, 4.8 kbps, 2.4 kbps, 1.2 kbps
データ・ビット	8 ビット固定
パリティ・ビット	0, 1, 無
ストップ・ビット	1, 1.5, 2
10 MHz リファレンス入力	
入力インピーダンス	公称 50Ω
入力レベル	0 dBm 以上
10 MHz リファレンス出力	
出力インピーダンス	公称 50Ω
出力レベル	0 dBm 以上
外部トリガ出力	
出力レベル	TTL

6.6 一般仕様

項目	仕様
使用環境範囲	温度 : +5°C ~ +40°C 相対湿度 : 80% 以下 (結露しないこと)
保存環境範囲	温度 : -20°C ~ +60°C 相対湿度 : 80% 以下 (結露しないこと)
AC 電源入力	AC100V 系、200V 系に自動切り替え AC100V 系動作時 ; 100 V-120 V, 50Hz / 60 Hz AC200V 系動作時 ; 220 V-240 V, 50Hz / 60 Hz
消費電力	200 VA 以下
外形寸法	424(W) × 266(H) × 270(D) mm
質量	15 kg 以下

付録

この章では、以下の項目について説明します。

- 困ったときに
- エラー・メッセージ
- R4870 システム・リカバリ手順
- ネットワークの設定
- 用語解説

A.1 困ったときに

本器に万一不具合が生じた場合は、修理を依頼する前に下記の点検事項を確認して下さい。以下の処置で異常が解消しない場合には、当社または代理店まで連絡して下さい。所在地および電話番号は巻末に記載してあります。下記の確認事項の修理内容の場合でも有料となります。

表 A-1 困ったときに

症状	原因	処置
電源が入らない。	電源ケーブルがコネクタに確実に入っていない。	電源を OFF にして、本器の AC 電源用コネクタに接続ケーブルを接続します。次に接続ケーブルをコンセントに接続して下さい。
	電源ヒューズが熔断している。	電源ケーブルを外し、1.3.3 項を参照してヒューズを交換して下さい。ただし、再度熔断した場合は当社または代理店に修理を依頼して下さい。
テスト画面が表示されない。	故障している可能性がある。	ただちに電源を OFF にして、当社または代理店に修理を依頼して下さい。
ボタンが効かない。	KEY LOCK ボタンが ON になっている。	KEY LOCK ボタンを OFF にして下さい。
テストをスタートしても、データがとれない。	IUT（被試験デバイス）の電源が入っていない。	IUT（被試験デバイス）の電源を確認して下さい。
	IUT（被試験デバイス）への RF ケーブルが正しく接続されていない。	IUT（被試験デバイス）への RF ケーブルを正しく接続して下さい。

A.2 エラー・メッセージ

表 A-2 エラー・メッセージ (1/6)

エラー・メッセージ	説明
Bad file name.	ファイル名が正しくありません。 対処：ファイル名を変更して下さい。
Cannot detect signaling board. Please contact a service engineer.	シグナリング・ボードを検出できません。 対処：当社または代理店に連絡して下さい。
Communication Error.	IUTまたはSUとの通信でエラーが発生しました。 対処：接続を確認して再試行して下さい。
Connection Error.	IUTとの接続が正常に行われませんでした。 対処：接続を確認して再試行して下さい。
Device is not ready.	アクセスするディスクが正しくありません。 対処：ディスクを確認して下さい。
Event Code Error.	期待されないHCI Eventが受信されました。 対処：接続を確認して再試行して下さい。
Event Parameter Error.	受信HCI Eventのパラメータが期待値と異なります。 対処：接続を確認して再試行して下さい。
Event Reception Timeout.	HCI Event受信時にTime Outが発生しました。 対処：接続を確認して再試行して下さい。
Event Source Error.	期待されない装置からのHCI Eventが受信されました。 対処：接続を確認して再試行して下さい。
Event Status Error. (0x01) Unknown HCI Command.	規格で規定されている左記エラー・ステータスのHCI Eventが受信されました。 対処：接続を確認して再試行して下さい。
Event Status Error. (0x02) No Connection.	規格で規定されている左記エラー・ステータスのHCI Eventが受信されました。 対処：接続を確認して再試行して下さい。
Event Status Error. (0x03) Hardware Failure.	規格で規定されている左記エラー・ステータスのHCI Eventが受信されました。 対処：接続を確認して再試行して下さい。
Event Status Error. (0x04) Page Timeout.	規格で規定されている左記エラー・ステータスのHCI Eventが受信されました。 対処：接続を確認して再試行して下さい。
Event Status Error (0x05) Authentication Failure.	規格で規定されている左記エラー・ステータスのHCI Eventが受信されました。 対処：接続を確認して再試行して下さい。

表 A-2 エラー・メッセージ (2/6)

エラー・メッセージ	説明
Event Status Error. (0x06) Key Missing.	規格で規定されている左記エラー・ステータスの HCI Event が受信されました。 対処: 接続を確認して再試行して下さい。
Event Status Error. (0x07) Memory Full.	規格で規定されている左記エラー・ステータスの HCI Event が受信されました。 対処: 接続を確認して再試行して下さい。
Event Status Error. (0x08) Connection Timeout.	規格で規定されている左記エラー・ステータスの HCI Event が受信されました。 対処: 接続を確認して再試行して下さい。
Event Status Error. (0x09) Max Number Of Connection.	規格で規定されている左記エラー・ステータスの HCI Event が受信されました。 対処: 接続を確認して再試行して下さい。
Event Status Error. (0x0A) Max Number Of SCO Connection To A Device.	規格で規定されている左記エラー・ステータスの HCI Event が受信されました。 対処: 接続を確認して再試行して下さい。
Event Status Error. (0x0B) ACL connection already exists.	規格で規定されている左記エラー・ステータスの HCI Event が受信されました。 対処: 接続を確認して再試行して下さい。
Event Status Error. (0x0C) Command Disallowed.	規格で規定されている左記エラー・ステータスの HCI Event が受信されました。 対処: 接続を確認して再試行して下さい。
Event Status Error. (0x0D) Host Rejected due to limited resources.	規格で規定されている左記エラー・ステータスの HCI Event が受信されました。 対処: 接続を確認して再試行して下さい。
Event Status Error. (0x0E) Host Rejected due to security reasons.	規格で規定されている左記エラー・ステータスの HCI Event が受信されました。 対処: 接続を確認して再試行して下さい。
Event Status Error. (0x0F) Host Rejected due to remote device is only a personal device.	規格で規定されている左記エラー・ステータスの HCI Event が受信されました。 対処: 接続を確認して再試行して下さい。
Event Status Error. (0x10) Host Timeout.	規格で規定されている左記エラー・ステータスの HCI Event が受信されました。 対処: 接続を確認して再試行して下さい。
Event Status Error. (0x11) Unsupported Feature or Parameter Value.	規格で規定されている左記エラー・ステータスの HCI Event が受信されました。 対処: 接続を確認して再試行して下さい。

表 A-2 エラー・メッセージ (3/6)

エラー・メッセージ	説明
Event Status Error. (0x12) Invalid HCI Command Parameters.	規格で規定されている左記エラー・ステータスの HCI Event が受信されました。 対処：接続を確認して再試行して下さい。
Event Status Error. (0x13) Other End Terminated Connection: User Ended Connection.	規格で規定されている左記エラー・ステータスの HCI Event が受信されました。 対処：接続を確認して再試行して下さい。
Event Status Error. (0x14) Other End Terminated Connection: Low Resources.	規格で規定されている左記エラー・ステータスの HCI Event が受信されました。 対処：接続を確認して再試行して下さい。
Event Status Error. (0x15) Other End Terminated Connection: About to Power Off.	規格で規定されている左記エラー・ステータスの HCI Event が受信されました。 対処：接続を確認して再試行して下さい。
Event Status Error. (0x16) Connection Terminated by Local Host.	規格で規定されている左記エラー・ステータスの HCI Event が受信されました。 対処：接続を確認して再試行して下さい。
Event Status Error. (0x17) Repeated Attempts.	規格で規定されている左記エラー・ステータスの HCI Event が受信されました。 対処：接続を確認して再試行して下さい。
Event Status Error. (0x18) Pairing Not Allowed.	規格で規定されている左記エラー・ステータスの HCI Event が受信されました。 対処：接続を確認して再試行して下さい。
Event Status Error. (0x19) Unknown LMP PDU.	規格で規定されている左記エラー・ステータスの HCI Event が受信されました。 対処：接続を確認して再試行して下さい。
Event Status Error. (0x1A) Unsupported Remote Feature.	規格で規定されている左記エラー・ステータスの HCI Event が受信されました。 対処：接続を確認して再試行して下さい。
Event Status Error. (0x1B) SCO Offset Rejected.	規格で規定されている左記エラー・ステータスの HCI Event が受信されました。 対処：接続を確認して再試行して下さい。
Event Status Error. (0x1C) SCO Interval Rejected.	規格で規定されている左記エラー・ステータスの HCI Event が受信されました。 対処：接続を確認して再試行して下さい。
Event Status Error. (0x1D) SCO Air Mode Rejected.	規格で規定されている左記エラー・ステータスの HCI Event が受信されました。 対処：接続を確認して再試行して下さい。

表 A-2 エラー・メッセージ (4/6)

エラー・メッセージ	説明
Event Status Error. (0x1E) Invalid LMP Parameters.	規格で規定されている左記エラー・ステータスの HCI Event が受信されました。 対処: 接続を確認して再試行して下さい。
Event Status Error. (0x1F) Unspecified Error.	規格で規定されている左記エラー・ステータスの HCI Event が受信されました。 対処: 接続を確認して再試行して下さい。
Event Status Error. (0x20) Unsupported LMP Parameter Value.	規格で規定されている左記エラー・ステータスの HCI Event が受信されました。 対処: 接続を確認して再試行して下さい。
Event Status Error. (0x21) Role Change Not Allowed.	規格で規定されている左記エラー・ステータスの HCI Event が受信されました。 対処: 接続を確認して再試行して下さい。
Event Status Error. (0x22) LMP Response Timeout.	規格で規定されている左記エラー・ステータスの HCI Event が受信されました。 対処: 接続を確認して再試行して下さい。
Event Status Error. (0x23) LMP Error Transaction Collision.	規格で規定されている左記エラー・ステータスの HCI Event が受信されました。 対処: 接続を確認して再試行して下さい。
Event Status Error. (0x24) LMP PDU Not Allowed.	規格で規定されている左記エラー・ステータスの HCI Event が受信されました。 対処: 接続を確認して再試行して下さい。
Event Status Error. (0x25) Encryption Mode Not Acceptable.	規格で規定されている左記エラー・ステータスの HCI Event が受信されました。 対処: 接続を確認して再試行して下さい。
Event Status Error. (0x26) Unit Key Used.	規格で規定されている左記エラー・ステータスの HCI Event が受信されました。 対処: 接続を確認して再試行して下さい。
Event Status Error. (0x27) QoS is Not Supported.	規格で規定されている左記エラー・ステータスの HCI Event が受信されました。 対処: 接続を確認して再試行して下さい。
Event Status Error. (0x28) Instant Passed.	規格で規定されている左記エラー・ステータスの HCI Event が受信されました。 対処: 接続を確認して再試行して下さい。
Event Status Error. (0x29) Pairing with Unit Key Not Supported.	規格で規定されている左記エラー・ステータスの HCI Event が受信されました。 対処: 接続を確認して再試行して下さい。

表 A-2 エラー・メッセージ (5/6)

エラー・メッセージ	説明
File read/write error.	ファイル入出力でエラーが発生しました。 対処：ディスクがフォーマットされているか、ファイルが破損していないか確認して下さい。
Invalid correction data.	補正データがないまたは、破損している。 対処：当社または代理店に連絡して下さい。
Invalid data format.	ファイル形式が正しくありません。 対処：ファイルの保存形式あるいは拡張子を確認して下さい。
Invalid parameter is in a remote command. [****]	LAN 関数のパラメータ指定に誤りがあります。 対処：お使いになった関数の説明をご覧になり、パラメータの指定に誤りがないかをご確認下さい。ご確認のうえ、使用方法に誤りがない場合は、当社または代理店に連絡して下さい。
Invalid remote command. [****]	LAN 関数の使用が正しくありません。 対処：お使いになった関数の説明をご覧になり、お客様の機器構成で使用できるかをご確認下さい。ご確認のうえ、使用方法に誤りがない場合は、当社または代理店に連絡して下さい。
Invalid system information data.	システム・データがないまたは、破損している。 対処：当社または代理店に連絡して下さい。
No collected data.	テスト・データを取得できませんでした。 対処：接続を確認して再試行して下さい。
No such file or directory.	ファイルやディレクトリが存在していません。 対処：ファイル名またはディレクトリ名を確認して下さい。
Not enough space on the disk.	空き容量がありません。 対処：不必要なファイルを削除して下さい。
Other Factor Errors.	その他の要因のエラーが発生しました。 対処：接続を確認して再試行して下さい。
Permission denied.	ファイル操作が禁止されています。 対処：ファイル属性が Read-only になっていないか、またはディスクがライト・プロテクトされていないか確認して下さい。
Sequence Abort.	STOP キーが押されたためシーケンスが中断されました。 対処：再試行して下さい。

表 A-2 エラー・メッセージ (6/6)

エラー・メッセージ	説明
Signaling board initialization failure.	<p>シグナリング・ボードの初期化でエラーが発生しました。対処：当社または代理店に連絡して下さい。</p> <p>ただし、R4870 立ち上げ時に以下のようなエラーが発生した場合でも、30分のウォームアップ後に正常に復帰することがあります。したがって、30分のウォームアップ後に以下に示すエラーの発生（表示）がなければ、問題なくご使用になれます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Signaling Board Initialization Failure. [1,0x00002000] • Signaling Board Initialization Failure. [1,0x00004000] • Signaling Board Initialization Failure. [1,0x00006000] • Signaling Board Initialization Failure. [1,0x00008000] • Signaling Board Initialization Failure. [1,0x0000a000] • Signaling Board Initialization Failure. [1,0x0000c000] • Signaling Board Initialization Failure. [1,0x0000e000] • Signaling Board Initialization Failure. [1,0x00010000] • Signaling Board Initialization Failure. [1,0x00012000] • Signaling Board Initialization Failure. [1,0x00014000] • Signaling Board Initialization Failure. [1,0x00016000] • Signaling Board Initialization Failure. [1,0x00018000] • Signaling Board Initialization Failure. [1,0x0001a000] • Signaling Board Initialization Failure. [1,0x0001c000] • Signaling Board Initialization Failure. [1,0x0001e000]

A.3 R4870 システム・リカバリ手順

本器は Microsoft Windows NT Embedded を採用し、Windows アプリケーションによってテスト機能を実現しています。

本器の動作に必要なシステム・ファイルは、C ドライブに保存されています。

本器を使用中に何らかの原因によりシステム・ファイルが破損した場合、本器は正常に動作しなくなる可能性があります。

このような場合、本器に添付の“R4870 System Recovery Disk”を使用し、C ドライブの内容を工場出荷状態に復元できます。

注意 リカバリを実行すると、C ドライブの内容はすべて削除されます。したがって、購入後に行ったネットワークの設定は、失われます。
ディスク・パーティション情報の損傷およびディスク装置の故障時は、本器をリカバリすることはできません。当社または代理店に修理を依頼して下さい。

リカバリ手順

1. 本器の電源が OFF になっていることを確認します。

動作中のときは、タッチ・スクリーン上の **Power Off** ボタンを使用し、本器を終了します。

2. “R4870 System Recovery Disk” と書かれたフロッピー・ディスクを、フロッピー・ディスク・ドライブに挿入します。
3. 正面パネルにある **POWER** スイッチを ON にします。

フロッピー・ディスクからリカバリ・ソフトウェアが読み込まれて動作します。

注意 フロッピー・ディスク・ドライブのアクセス・ランプが点灯しているときは、イジェクト・ボタンを押さないで下さい。

4. リカバリを実行するには、データ・ノブを操作して Continue を選択し、**ENT** を押します。
システム・リカバリが開始します。
5. リカバリ完了後、Reboot ダイアログ・ボックスが表示されます。
6. フロッピー・ディスク・ドライブからフロッピー・ディスクを取り出します。
7. データ・ノブを操作して Reboot を選択し、**ENT** を押します。
再起動したあと、本器の Firmware が動作します。

A.4 ネットワークの設定

本器をネットワークに接続すると、ネットワーク上のコンピュータとファイルやフォルダを共有できます。

ネットワークをセットアップする方法について説明します。

セットアップ手順

1. メイン・メニューの **System** → **Network Config** をクリックします。
ネットワーク・ダイアログ・ボックスが表示されます。
2. **Identification** タブをクリックし、**Change...** をクリックします。
Identification Changes ダイアログ・ボックスが表示されます。

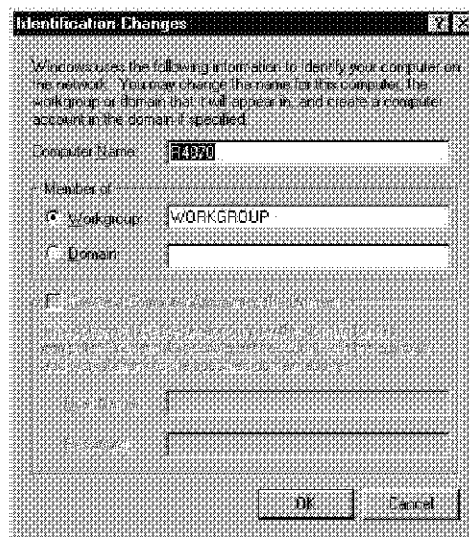


図 A-1 Identification Changes ダイアログ・ボックス

3. Computer Name および Workgroup を入力します。

注意 Domain は使用できません。

4. **OK** をクリックします。
5. **Protocols** タブをクリックします。
6. TCP/IP Protocols を選択して **Properties** をクリックします。
TCP/IP Properties ダイアログ・ボックスが表示されます。

A.4 ネットワークの設定

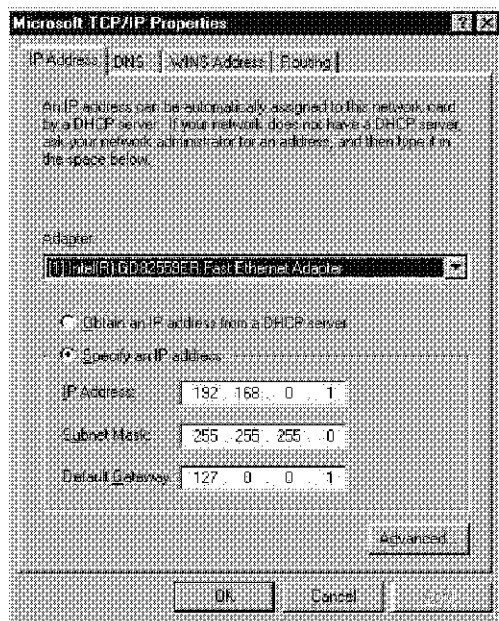


図 A-2 TCP/IP Properties ダイアログ・ボックス

IP アドレスを指定する場合

7. IP Address を選択します。
8. IP Address、Subnet Mask、Default Gateway を入力します。

DHCP サーバを使用する場合

注意

1. DHCP サーバがネットワーク上にない場合、Obtain an IP Address from a DHCP server を選択すると、正常に動作しません。
 2. Services、Protocols、Adapters の各タブで項目を Remove しないで下さい。削除された項目を復元することはできません。
 3. Services、Protocols、Adapters の各タブで、Add.. を行わないで下さい。本器が正常に動作しなくなる場合があります。
 4. 以下の設定を行う場合には、貴社のシステム管理者にご連絡下さい。
9. Obtain an IP Address from a DHCP server を選択します。
 10. **OK** をクリックします。
ダイアログ・ボックスが閉じます。
 11. **Adapter** タブをクリックします。

12. ...Ethernet adapter を選択して **Properties** をクリックします。
...Ethernet Adapter Settings ダイアログ・ボックスが表示されます。

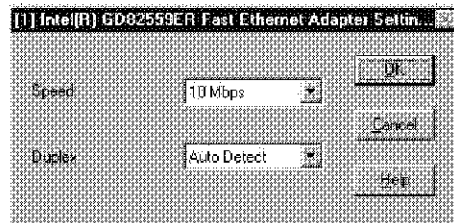


図 A-3 ...Ethernet Adapter Settings ダイアログ・ボックス

13. 必要に応じて Speed および Duplex を適宜設定します。
14. **OK** をクリックします。
ダイアログ・ボックスが閉じます。
再起動を促すダイアログ・ボックスが表示されます。
15. **Yes** をクリックします。

A.5 用語解説

Bluetooth

移動体端末や固定の情報端末、家電製品機器間での音声、Data 伝送を目的とした近距離通信のためのシステムです。

通信は、各機器が Master と Slave 機能をもち通信エリア（ピコネット）を形成します。

このエリア内には暫定的に 1 つの Master と最大 7 つの Slave が存在することが可能です。

通信は、2.400 GHz ~ 2.4835 GHz の ISM Band を 1 MHz チャンネル・スペース、1 Mbps の伝送レート、TDD、Hopping シーケンスで行われます。

最大通信ボー・レートは上り 723 kbps（非対称：下り 57.6 kbps）です。

ISM Band: Industry Scientific and Medical で免許不用な Band

TDD: Time Division Duplex
上りと下りの通信を時分割で伝送する方式

Carrier frequency Drift

通信するパケット信号の Payload 部分の周波数ドリフトとなります。

ドリフトは、Initial carrier Frequency Tolerance を基準としています。

テストは、Payload 部分を 10 ビット間隔でテストします。

Initial carrier Frequency Tolerance

バーストで送信される信号の、プリアンブル 1 ビット目センタからプリアンブルビット後の 1 ビット目のセンタまでを積分して得られた周波数と規定周波数との誤差となります。

規定周波数: 規格で割当てられた周波数

Maximum Input Level

受信機が動作可能な最大入力信号です。

電力は、-20 dBm です。

Modulation Characteristics

データ送信時の変調特性になります。

この変調特性は、送信データが 01010101 のパターンと 00001111 のパターンが基本となります。

Output Power

出力を最大に設定した時の送信電力。

送信電力は、Average Power と Peak Power の 2 つで表現されます。

Average Power: 送信区間の 20% から 80% の平均電力

Peak Power: TDD で送信される信号の Peak 電力

Sensitivity (multi-slot packets)

受信感度です。(Bluetooth SIG では、感度レベルは -70 dBm です。)

この試験は、loopback で行われます。

対象の Packet は、Device がサポートする最も長い Packet (DH3 / 5) です。

試験のための信号は、Dirty Transmitter と呼ばれる信号にて行います。

Dirty Transmitter: 受信機試験のために、4 つの信号パラメータを時間軸上で変化させた信号です。
4 つのパラメータは、下記のとおりです。

搬送波の周波数
変調指数
Symbol Timing
変調の偏り

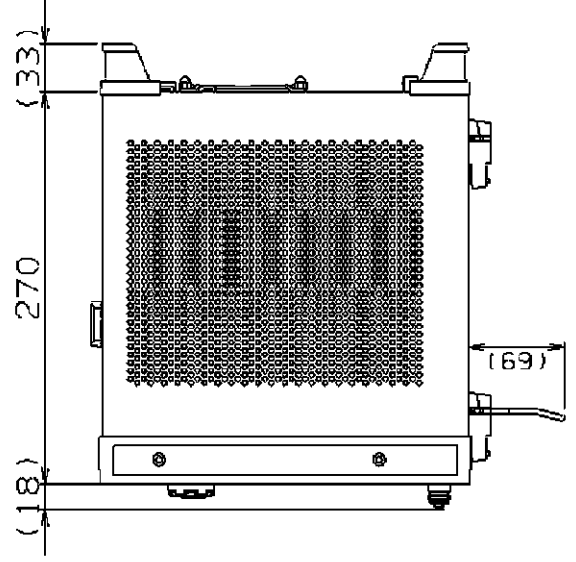
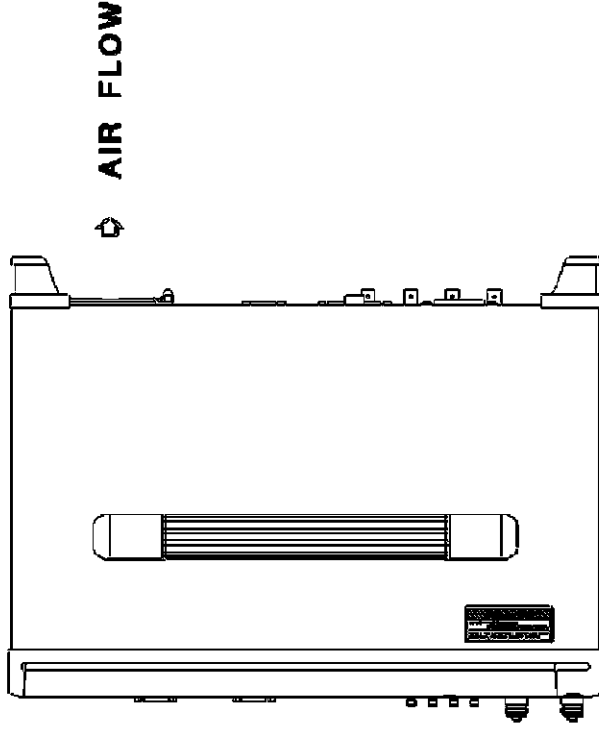
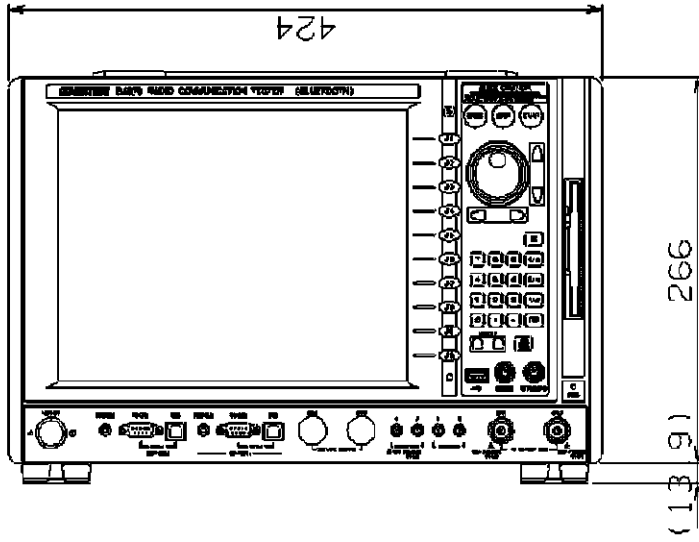
Sensitivity (single slot packets)

受信感度です。(Bluetooth では、感度レベルは -70 dBm です。)

この試験は、loopback で行われます。

対象の Packet は、DH1 です。

試験のための信号は、Dirty Transmitter と呼ばれる信号にて行います。



Unit: mm

注意

この図は、本器の外形寸法を示しています。
製品シリーズおよびオプションの有無などで、
外観の一部が異なることがあります。

外形寸法図

索引

- [シンボル]**
- < Connection Item 3-7, 3-21
 - < More 3-6, 3-20
 - < More (TRM) 3-5, 3-13, 3-14, 3-19
- [数字]**
- 20dB Bandwidth 3-5, 3-12, 3-13, 3-14, 3-16, 3-19, 3-22, 3-23
- [A]**
- About... 3-4, 3-19
 - ACL data 3-6, 3-20
 - ACL Packet Types 3-9
 - Adjacent Channel Power 3-22, 3-23
 - Adjacent channel power 3-5, 3-12, 3-13, 3-14, 3-16, 3-19
 - Air Cording Format 3-10
 - Authentication-IUT as Master 3-6, 3-9, 3-20
 - Authentication-IUT as Slave 3-6, 3-9, 3-20
- [B]**
- BER 3-7, 3-10, 3-17, 3-21, 3-25, 4-8
 - Blocking Performance 3-5, 3-13, 3-14, 3-15, 3-19
 - Blocking performance 3-12, 3-16, 3-23
 - Bluetooth SIG RF test 項目と判定値の範囲 3-27
- [C]**
- C/I Performance 3-5, 3-13, 3-14, 3-15, 3-19
 - C/I performance 3-12, 3-16, 3-23
 - Calibration 3-4, 3-18
 - Carrier Freq. Drift 3-12, 3-16
 - Carrier Frequency Drift 4-3
 - Comment Edit 3-7, 3-10, 3-21, 3-26
 - Comment Edit 設定 2-35
 - Communication Test 3-4, 3-6, 3-9, 3-18, 3-19, 3-24
 - CONFigure サブシステム
 - Communication Test 5-83
 - CONFigure サブシステム
 - Remote Loopback 5-101, 5-106
 - CONFigure サブシステム
 - SIG RF 5-43
 - CONFigure サブシステム
 - SYSTEM 5-26
 - Connection 3-7, 3-20
 - Current Measure 3-4, 3-18
- [D]**
- Delete... 3-4, 3-18
 - Disconnection 3-7, 3-20
- [E]**
- Explorer 3-4, 3-18
 - Explorer の表示 2-27
- [F]**
- FETCh サブシステム
 - Communication Test 5-143
 - FETCh サブシステム
 - Remote Loopback 5-147
 - FETCh サブシステム
 - RF Measurement 5-148
 - FETCh サブシステム - SIG RF 5-126
 - FETCh サブシステム - Waveform 5-156
 - File 3-4, 3-18
 - FM Deviation 3-7, 3-10, 3-17, 3-20, 3-25, 4-7
 - Frequency Drift 3-5, 3-13, 3-14, 3-15, 3-19, 3-23
 - Frequency Range 3-14, 3-22, 3-23
 - Frequency range 3-5, 3-12, 3-13, 3-16, 3-19
 - Frequency Tolerance 3-5, 3-13, 3-14, 3-19, 3-23
 - Function Select 3-4, 3-5, 3-6, 3-7,

3-8, 3-9,
3-10, 3-11,
3-12, 3-13,
3-14, 3-16,
3-17, 3-18

[H]

Help 3-4, 3-19
High Ch. ALL OFF 3-8, 3-12,
3-22
High Ch. ALL ON 3-8, 3-12,
3-22

[I]

I/F コネクタ・ブロック 2-5
Initial Carrier Freq. Tolerance 3-12, 3-16
Initial Carrier frequency Tolerance 4-3
Initial Carrier Frequency Tolerance/
Carrier Frequency Drift 2-38
Input Cording 3-10
Input Data Format 3-10
Input Sample Size 3-10
Inquiry 3-6, 3-9,
3-19
Inquiry Scan 3-6, 3-9,
3-20
Intermodulation Performance 3-5, 3-12,
3-13, 3-14,
3-15, 3-16,
3-19
Intermodulation performance 3-23, 3-24
Item ALL OFF 3-9, 3-24
Item ALL ON 3-9, 3-24
Item Select 3-11, 3-12,
3-22
IUT Information 3-7, 3-10,
3-21, 3-25
IUT Information 設定 2-30
IUT Voice Setting 3-10

[L]

Liner_PCM_Bit_Pos 3-10
Link Supervision Timeout-IUT as Master 3-6, 3-9,
3-20
Link Supervision Timeout-IUT as Slave 3-6, 3-9,
3-20
LMP_test_control 2-42, 3-11,
3-16, 3-24
Load... 3-4, 3-18
Low Ch. ALL OFF 3-8, 3-12,
3-22
Low Ch. ALL ON 3-8, 3-12,

3-22

[M]

Maximum Input Level 2-41, 3-5,
3-12, 3-13,
3-14, 3-15,
3-16, 3-19,
3-23, 3-24,
4-6
Measure 3-4, 3-18
Measure Item > 3-7, 3-20
Measurement Item ALL OFF 3-8, 3-12,
3-22
Measurement Item ALL ON 3-8, 3-12,
3-22
Mid Ch. ALL OFF 3-8, 3-12,
3-22
Mid Ch. ALL ON 3-8, 3-12,
3-22
MMEMOry サブシステム 5-25
Mode 3-4, 3-5,
3-6, 3-7,
3-8, 3-9,
3-10, 3-11,
3-12, 3-13,
3-14, 3-16,
3-17, 3-18
Modulation Characteristics 2-37, 3-5,
3-12, 3-13,
3-14, 3-16,
3-19, 3-23,
4-2
More > 3-6, 3-20
More >(TRC/RCV) 3-5, 3-13,
3-14, 3-19

[N]

Network Config... 3-4, 3-18

[O]

Option 3-4, 3-18
Out-of-Band Spurious Emissions 3-5, 3-13,
3-19
Out-of-band Spurious Emissions 3-23
Output Power 3-5, 3-12,
3-13, 3-14,
3-16, 3-19,
3-22, 3-23,
4-1

[P]

Paging-IUT as Master	3-6, 3-9, 3-20
Paging-IUT as Slave	3-6, 3-9, 3-20
Pairing	3-6, 3-9, 3-20
Panel Lock OFF	3-4, 3-19
Panel Lock ON	3-4, 3-19
PASS/FAIL Limit	3-11, 3-13, 3-17, 3-22, 3-25
PIN Code	3-10
Power Control	3-5, 3-12, 3-13, 3-14, 3-16, 3-19, 3-22, 3-23
Power Density	3-5, 3-12, 3-13, 3-14, 3-16, 3-19, 3-22, 3-23
Power Off	3-4, 3-18
PROCedure サブシステム - Communication Test	5-162
PROCedure サブシステム - SIG RF	5-159
PROCedure サブシステム - SYSTEM .	5-158

[R]

R4870 システム・リカバリ手順	A-8
Radio Law	3-4, 3-18
RCV/CA/01/C	3-27, 3-28
RCV/CA/02/C	3-27, 3-28
RCV/CA/06/C	3-27, 3-28
Receiver Test (BER, PER)	2-39, 3-15
Receiver Test (BER/PER)	3-14, 3-23
Reference OSC	6-5
Remote Loopback	3-4, 3-6, 3-10, 3-18, 3-20, 3-24
Remote Loopback (Loopback ON) 評価 の設定	2-43
Remote Loopback(SCO) 評価	2-43
Remote Loopback 評価実行例	2-47
RF Measurement	2-48, 3-4, 3-7, 3-10, 3-17, 3-18, 3-20, 3-24
RF Measurement 設定	2-48
RF Measurement の特長	2-48
RF Measurement の評価実行例	2-54
RS-232 Port	3-7, 3-10, 3-21, 3-25

[S]

Save...	3-4, 3-18
SCO data-IUT as Master	3-6, 3-9, 3-20
SCO data-IUT as Slave	3-6, 3-9, 3-20
SCO Loopback-IUT as Master	3-6, 3-10, 3-20
SCO Loopback-IUT as Slave	3-6, 3-10, 3-20
SCO Packet Type	3-10
Sensitivity - single/multi	2-40
Sensitivity (multi-slot packets)	4-5
Sensitivity (single slot packets)	4-4
Sensitivity single/multi	3-15
Sensitivity-multi-slot packets	3-5, 3-12, 3-13, 3-16, 3-19, 3-23
Sensitivity-single slot packets	3-5, 3-12, 3-13, 3-16, 3-19, 3-23
Sensitivity-single/multi	3-14, 3-23
Set Default	3-8, 3-9, 3-10, 3-12, 3-22, 3-24
Set Default All	3-16, 3-24
Set Default Packets	3-16, 3-24
Set Default Poll Period	3-16, 3-24
Set Default Test scenario	3-16, 3-24
Setup	3-4, 3-18
SIG RF	3-4, 3-5, 3-8, 3-11, 3-12, 3-13, 3-14, 3-16, 3-18, 3-19, 3-22
SIG RF テスト	2-57
SIGNaling サブシステム	5-24
Special	3-4, 3-19
Spurious Emissions	3-12, 3-16
Spurious Emissions (ETS)	3-14, 3-15, 3-23
Spurious Emissions (FCC)	3-14, 3-15, 3-23
STATus サブシステム	5-23
System	3-4, 3-18
System Configuration	3-7, 3-10, 3-21, 3-25
System Setup	3-4, 3-7, 3-10, 3-18, 3-21, 3-25
SYSTEM サブシステム	5-21

[T]	
Test Parameter	3-11, 3-14, 3-17, 3-23, 3-25
Test Parameter の変更	2-36
Time Adjust...	3-4, 3-18
TRM/CA/01/C	3-27, 3-28
TRM/CA/07/C	3-27, 3-28
TRM/CA/08/C	3-27, 3-28
TRM/CA/09/C	3-27, 3-28
[U]	
Utility	3-4, 3-6, 3-7, 3-10, 3-17, 3-18, 3-20, 3-24
[W]	
WmtClosePacket	5-5
WmtGetIpStr	5-5
WmtOpenPacket	5-4
[あ]	
一般仕様	6-7
ウォームアップについて	1-14
エラー・コード一覧	5-3
エラー・メッセージ	A-2
エントリ・キーとキーボードの対応	2-4
エントリ・キー・ブロック	2-3
オプション・ボタンの設定	2-17
[か]	
外部機器との接続	6-6
各機能の使い方	3-1
画面の説明	2-8
環境条件	1-4
関数仕様	5-12
機能説明	3-18
基本操作例	2-10
校正について	1-14
困ったときに	A-1
コミュニケーション・テスト	2-68
[さ]	
サイド・メニュー	3-5
サイド・メニューの設定	2-12
サイド・メニューの説明	3-19
サンプル・プログラム	5-167
システム・クロック設定	2-26
受信機テスト	6-3
寿命部品について	1-14
使用環境	1-4
使用上の注意	1-8
正面パネル	2-1
清掃	1-13
性能諸元	6-1
製品概要	1-1
操作	2-1
操作メニュー	2-8
送信機テスト	6-1
測定アプリケーションの プログラミング方法	5-6
[た]	
タブ	3-11
タブによる画面の切り替え	2-13
チェック・ボックスの設定	2-15
通信制御基本関数	5-4
通信制御基本関数一覧	5-4
データのセーブ	2-18
データのセーブ、ロード、デリート	2-18
データのデリート	2-22
データのロード	2-20
テスト方法	4-1
テストポート・ブロック	2-6
テスト例	2-57
電源ケーブル	1-7
電源仕様	1-5
電源の投入	2-10
電源ヒューズ	1-5
動作チェック	1-11
[な]	
ネットワークの設定	A-9
[は]	
背面パネル	2-7
はじめに	1-1
パネル面の説明	2-1
表示	6-6
付属品	1-2
プリセット	2-24
プログラミング例	5-7
保管	1-13
本器の終了	2-25
本器の清掃、保管および輸送方法	1-13
[ま]	
マクロ定義	5-3
メイン・メニューと ドロップダウン・メニューの設定	2-11

メイン・メニューの説明	3-18
メイン・メニューとド ロップダウン・メニュー	3-4
メニュー・インデックス	3-1, 5-12
メニュー・マップ	3-4

【や】

輸送	1-13
用語解説	A-12

【ら】

リモート制御	5-1
--------------	-----

コンピュータウイルス免責特約

本製品内に使用されたソフトウェアは、以下のプログラム等が含まれたネットワーク内またはコンピュータシステム上では適切に稼動しないことがあります。

- ・ コンピュータウイルス
- ・ ワーム
- ・ 他の第三者が作成した、ソフトウェア・ハードウェア・ネットワークの機能を妨害・破壊・制限するように設計された暗号、ファイルまたはプログラム

お客様は、コンピュータシステム、ソフトウェア、ハードウェアおよびネットワークを悪意のある第三者の上記コンピューターウイルスなどから保護するための唯一の責任を負うものとし、弊社は、悪意ある第三者が作成した上記コンピューターウイルスなどによってもたらされたあらゆる障害、異常、システムまたはデータの損傷、その他一切の損害にかかる賠償責任を負わないものとし、

本ソフトウェアは、直接的にまたは間接的にも、インターネットまたは社内外にあるウイルス源を経由して他のコンピュータまたはネットワークにアクセスできない環境で使用するために設計・開発されたものとし、

お客様は、本ソフトウェアを以上のような環境にて使用するものとし、お客様が以上のような環境とは異なる環境で使用を希望する場合には、お客様のリスクにて使用するものとし、上記コンピューターウイルスなどからソフトウェア、ハードウェア、ネットワークを保護するためのあらゆる利用しうる処置をとるものとし、なお、その際には、コンピュータセキュリティの専門家と弊社へ相談するものとし、

本製品に含まれるソフトウェアのご使用について

本製品に含まれるソフトウェア（以下本ソフトウェア）のご使用について以下のことにご注意下さい。

ここでいうソフトウェアには、本製品に含まれる又は共に使用されるコンピュータ・プログラム、将来弊社よりお客様に提供されることのある追加、変更、修正プログラムおよびアップデート版のコンピュータ・プログラム、ならびに本製品に関する取扱説明書等の付随資料を含みます。

使用許諾

本ソフトウェアの著作権を含む一切の権利は弊社に帰属いたします。

弊社は、本ソフトウェアを本製品上または本製品とともに使用する限りにおいて、お客様に使用を許諾するものといたします。

禁止事項

お客様は、本ソフトウェアのご使用に際し以下の事項は行わないで下さい。

- 本製品使用目的以外で使用する事
- 許可なく複製、修正、改変を行う事
- リバース・エンジニアリング、逆コンパイル、逆アセンブルなどを行う事

免 責

お客様が、本製品を通常の用法以外の用法で使用したことにより本製品に不具合が発生した場合、およびお客様と第三者との間で著作権等に関する紛争が発生した場合、弊社は一切の責任を負いかねますのでご了承下さい。

保証について

製品の保証期間は、お客様と別段の取り決めがある場合または当社が特に指定した場合を除き、製品の納入日(システム機器については検取日)から1年間といたします。保証期間中に、当社の責めに帰する製造上の欠陥により製品が故障した場合、無償で修理いたします。ただし、下記に該当する場合は、保証期間中であっても保証の対象から除外させていただきます。

- 当社が認めていない改造または修理を行った場合
- 支給品等当社指定品以外の部品を使用した場合
- 取扱説明書に記載する使用条件を超えて製品を使用した場合(定められた許容範囲を超える物理的ストレスまたは電流電圧がかかった場合など)
- 通常想定される使用環境以外で製品を使用した場合(腐食性の強いガス、塵埃の多い環境等による電気回路の腐食、部品の劣化が早められた場合など)
- 取扱説明書または各種製品マニュアルの指示事項に従わずに使用された場合
- 不注意または不当な取扱により不具合が生じた場合
- お客様のご指示に起因する場合
- 消耗品や消耗材料に基づく場合
- 火災、天変地異等の不可抗力による場合
- 日本国外に持出された場合
- 製品を使用できなかったことによる損失および逸失利益

当社の製品の保証は、本取扱説明書に記載する内容に限られるものとします。

保守に関するお問い合わせについて

長期間にわたる信頼性の保証、国家標準とのトレーサビリティを実現するためにアドバンテストでは、工場から出荷された製品の保守に対し、カスタム・エンジニアを配置しています。

カスタム・エンジニアは、故障などの不慮の事故は元より、製品の長期間にわたる性能の保証活動にフィールド・エンジニアとしても活動しています。

万一、動作不良などの故障が発生した場合には、当社のMS(計測器)コールセンターにご連絡下さい。

製品修理サービス

- 製品修理期間
製品の修理サービス期間は、製品の納入後10年間とさせていただきます。
- 製品修理活動
当社の製品に故障が発生した場合、当社に送っていただく引取り修理、または当社技術員が現地に出張しての出張修理にて対応いたします。

製品校正サービス

- 校正サービス
ご使用中の製品に対し、品質および信頼性の維持を図ることを目的に行うもので、校正後の製品には校正ラベルを貼付けし、品質を保証いたします。
- 校正サービス活動
校正サービス活動は、株式会社アドバンテスト カスタマサポートに送っていただく引取り校正、または当社技術員が現地に出張しての出張校正にて対応いたします。

予防保守のおすすめ

製品にはエレクトロニクス部品およびメカニカル部品の一部に寿命を考慮すべき部品を使用しているため、定期的な交換を必要とします。適正な交換期間を過ぎて使用し発生した障害に対しては、修理および性能の保証ができません場合があります。

アドバンテストでは、このようなトラブルを未然に防ぐため、予防保守が有効な手段と考え、予防保守作業を実施する体制を整えています。

各種の予防保守を定期的実施することで、製品の安定稼働を図り、不意の費用発生を防ぐため、年間保守契約による予防保守の実施をお勧めいたします。

なお、年間保守契約は、製品、使用状況および使用環境により内容が変わりますので、最寄りの弊社営業支店にお問い合わせ下さい。

ADVANTEST

<http://www.advantest.co.jp>

株式会社アドバンテスト

本社事務所
〒100-0005 千代田区丸の内1-6-2 新丸の内センタービルディング
TEL: 03-3214-7500 (代)

第4アカウント販売部(東日本)
〒100-0005 千代田区丸の内1-6-2 新丸の内センタービルディング
TEL: 0120-988-971
FAX: 0120-988-973

第4アカウント販売部(西日本)
〒564-0062 吹田市垂水町3-34-1
TEL: 0120-638-557
FAX: 0120-638-568

★計測器に関するお問い合わせ先

(製品の仕様、取扱い、修理・校正等計測器関連全般)

MS(計測器)コールセンタ ☎ TEL 0120-919-570
FAX 0120-057-508
E-mail: icc@acs.advantest.co.jp